

2025

学 生 便 覧

- 工 学 部
- 経 営 学 部
- 情 報 科 学 部



建学の精神

自由 愛 正義

自由は必ず責任を伴うが、自由なくして創造はあり得ない。

自由の存するところに無限の発展が約束される。

愛は太陽の如く、万物を育成する。
人類は明るく平和な社会の建設をめざして努力する。

正義は倫理的真理の結晶である。
百事貫徹、安心立命の基礎をなす。

教育のモットー

「創造と人間性」

科学技術の発展のみに邁進するエンジニアではなく、
人と地球に優しい血の通ったエンジニアを育てるための
教育モットー「創造と人間性」です。



学 長 後 藤 泰 之

入学おめでとうございます。皆さんの入学を、心からお祝します。

科学技術は目覚ましい発展を遂げており、私たちは便利な生活を手に入れ、世界中の人たちと容易につながることができるようになりました。その一方で、今後は、自然環境を守り他の生物と共生できる、持続可能な世界の実現が大きな課題となっています。

本学を運営する学校法人名古屋電気学園は、1912年に創立しました。“電気”が珍しかった当時、将来はエネルギーの中心になることを予見した後藤喬三郎先生によって設立された「名古屋電気学講習所」から始まり、1959年には愛知工業大学を設立しました。法人は110年以上の深い歴史を有し、大学は本年度で創立66年を迎えます。工科系単科大学から始まり、現在は工学部、経営学部、情報科学部の工科系総合大学となっています。常に時代を先取りし、様々な「ものづくり」の最先端を目指す姿勢は、社会でも高い評価をいただき、その結果が全国屈指の就職率として表れています。

少子化や気象変動など、今の社会は様々な難しい問題に直面しています。本学では、教育機関として社会的使命を果たすよう、学生のウェルビーイングを高めていきます。そのためには学生が何事にも積極的に取り組み、好奇心やチャレンジ精神を持ち続ける環境を実現し、充実することが大事だと考えています。本学では皆さんに、社会に役立つ実践的な教育を提供します。失敗を恐れず、友人や教職員と一緒に、様々なことに挑戦してください。

皆さんが本学で貴重な経験を積み、かけがえのない大学生活を送ることができるよう、応援しています。

愛知工業大学人材養成及び教育研究上の目的

(1) 大学

学術の理論と応用を教授研究し、知的・道徳的に円満な教養を有する高級技術者を育成することを目的とする。

(2) 工学部

工学倫理を身につけた広く社会に貢献できる技術者を育成するため、人間性の向上と創造力の涵養の下に、「ものづくり」に携わる技術者として工学全般に関わる豊かな学識を修め、かつ実践的な技術力及び応用能力を養うことを目的とする。

① 電気学科

ものづくりに携わる電気・電子情報技術者として必要な基礎及び専門知識の獲得と、健全な倫理観・豊かな人間性を基盤とする科学的な思考に基づいた応用力と実践力の養成を目的とする。

② 応用化学科

環境に配慮した材料開発、ものづくりに携わる化学技術者として必要な工学全般と基礎学力の養成に加えて実践的な技術力の向上を目的とする。

③ 機械学科

現代社会における「ものづくり」を支える機械技術者として必要な知識と技術を有し、かつ「創造と人間性」に富んだ人材を育成することを目的とする。

④ 社会基盤学科

社会の基盤となる施設の企画・設計・施工・維持管理に関わる各種実務の遂行において、中心的役割を果たす土木技術者を育成することを目的とする。

⑤ 建築学科

ものづくりに携わる建築技術者として必要な工学全般と基礎学力の養成に加えて実践的な技術力の向上、ものの考え方やまとめ方の習得、コミュニケーション力の養成などを目的とする。

(3) 経営学部

科学的な経営能力と正しい経営倫理観を持ち社会変化に柔軟に対応できるビジネス・リーダーを育成するため、ビジネス経営全般に関する基礎的学識を養うものとする。

① 経営学科

ビジネス経営における専門的な学識育成を目的とし、経営情報システム、スポーツマネジメントに適する職業的ビジネス分野におけるリーダーを育成する。

(4) 情報科学部

実践的な情報技術を習得し社会の発展に寄与できる人材を育成するため、情報科学全般に関わる基礎となる豊かな学識を養うものとする。

① 情報科学科

情報システム及びデジタル・コンテンツ作成に関する知識・技術・技能を有し、コンピュータシステム、メディア情報に適する広範囲の学術的教養を備えた情報技術者を育成する。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大学全体

建学の精神「自由、愛、正義」の下、豊かな人間性を備え、現代的課題への対応能力、問題解決能力を有する者に次の学位を授与する。

1. 専門分野における学術の理論と応用を修得し、知的道徳的に円満な教養を有する者に対し学士の学位を授与する。
2. 専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の能力を有する者に対し修士の学位を授与する。
3. 専攻分野における研究者・技術者・高度専門職業人として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力、柔軟な応用能力及びその基礎となる豊かな学識を有する者に対し博士の学位を授与する。

工学部（学士（工学））

学士（工学）には、教育のモットー「創造と人間性」の下に培われた幅広い教養と応用能力を礎とし、「ものづくり」に必要とされる基礎知識と応用技術を各専門分野で確実に修得し、変革の激しい国内外の技術革新にも十分適応できる、高度な専門技術者としての資質を求める。

1. 幅広い教養を有し、豊かな人間性を備え、かつ国際的にも通じる技術者であるためには、人文・社会科学や語学等を通じて基礎知識を吸収し、それ等を自ら発展して、問題を探求・解決する姿勢を身につける必要がある。
2. 「ものづくり」の原点は、何事にも深い興味を示し、問題に対し自ら挑戦し、実践することであり、実験・実習等を含む各専門教育の中で、その理論と応用技術を広く深く習得し、高い技能と堅実な実践力を身につける必要がある。
3. 専門的職業人として活躍するためには、強い使命感と責任感、更に正しい倫理観を持ち、自己を表現しつつ他との協働を尊重するなど、社会の一員として自らの確に打ち出す姿勢を身につける必要がある。

（学科の記載は、Ⅲ教育課程の各学科を参照）

経営学部（学士（経営学））

経営学科

建学の精神「自由、愛、正義」の下、教育のモットー「創造と人間性」を発揮する幅広い教養を持ち、グローバル対応を迫られる地域産業や国際社会に貢献する人材を育成することを目指し、以下に示した基準を満たす学生に学位を授与する。

1. 社会に対して豊かな幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
2. 日本人だけでなく外国人にも表現力とコミュニケーション力を発揮し、協働できる。
3. 論理的に状況を分析し、問題解決へ向けて主体的に対応することができる。
4. 経営者育成、ものづくり、経理・会計、企画・営業サービス、IT、スポーツビジネスのいずれかを得意分野とし、企業をはじめとする組織を経営する専門知識を備えている。

情報科学部（学士（情報科学））

情報科学科

現代社会は、情報を扱うシステムを不可欠なものとする「情報化社会」となっている。そうした社会を持続可能な形で構築・維持するために、情報・コンピュータ・メディアに関する基礎知識を備え、システム設計や安全性確保のための技術・技能を持ち、さらには、エンタテインメント分野を含むさまざまな適用先に情報技術を応用できる技術者がもたれられる。学士（情報科学）には、教育のモットー「創造と人間性」の下に培われた幅広い教養を礎に情報科学の基礎知識・技術・技能を修得し、社会に役立てることのできる高度な専門技術者として、以下の能力・資質を求める。

1. 人間科学・社会科学・語学に関する深い知識を持ち、それらの知識を関連づけることで、日常に潜む課題を明らかにできる能力
2. 自然科学の知識を修得し、課題に対する論理的・科学的な思考や分析ができる能力
3. 情報技術の基礎的および専門的な知識を持ち、その知識をどのように適用すれば課題が解決できるかを考え提案できる能力
4. コンピュータシステム分野の技術（システム開発手法など）やメディア情報分野の技術（コンテンツ制作手法など）を、課題解決に実践的に応用できる能力
5. 情報システムの研究経験やメディア・コンテンツの制作経験を活かして、産業および社会が求めるより高度な課題に対しても、解決策を見いだせる能力
6. 身につけた専門知識・技術・経験を健全な情報化社会の発展に役立てるための、深い教養と高い倫理性

（研究科の記載は省略）



八草キャンパス

〒470-0392

豊田市八草町八千草1247

TEL 0565-48-8121(代)

工 学 部 電気学科(電気工学専攻、電子情報工学専攻)
 応用化学科(応用化学専攻、バイオ環境化学専攻)
 機械学科(機械工学専攻、機械創造工学専攻)
 社会基盤学科(土木工学専攻、都市デザイン専攻)
 建築学科(建築学専攻、住居デザイン専攻)
 経営学部 経営学科(スポーツマネジメント専攻)
 情報科学部 情報科学科(コンピュータシステム専攻、メディア情報専攻)
 工学研究科 博士前期課程(電気電子工学専攻、材料化学専攻、機械工学専攻、建設システム工学専攻)
 博士後期課程(電気・材料工学専攻、生産・建設工学専攻)



自由ヶ丘キャンパス

〒464-0044

名古屋市千種区自由ヶ丘2-49-2

TEL 052-757-0810(代)

経営学部 経営学科(経営情報システム専攻)
 経営情報科学研究科 博士前期課程(経営情報科学専攻)
 博士後期課程(経営情報科学専攻)



本山キャンパス

〒464-0807

名古屋市千種区東山通1-38-1

TEL 052-789-1381(代)

大学公式ホームページ <https://www.ait.ac.jp>

学 生 便 覧 目 次

学 生 便 覧 目 次

建学の精神

教育のモットー

学長挨拶

愛知工業大学人材養成及び教育研究上の目的

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

キャンパス案内

I 学生生活を始めるにあたって

ページ番号

1. こんな時は？	2
2. 災害時等の授業及び試験	4
3. 学生証	5
4. 学籍番号	5
5. 専攻記号	5
6. 大学からのお知らせ	5

II 修学

1. 教育課程表の見方	8
2. シラバス（授業計画書）・オフィスアワー	8
3. 履修フローチャート	9
4. 授業	10
5. 履修登録	11
6. 試験	14
7. 単位認定とGPA	16
8. 成績発表	18
9. 進級・卒業・留年	19

III 教育課程

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	22
工学部	24
経営学部	99
情報科学部	112
基礎教育センター	126
中期留学コース	130
副専攻制	132

IV 教職課程（教員免許）

	134
--	-----

V 学生生活

1. 学籍	158
（1）修業年限・在学年限・休学年限 （2）休学・復学・退学等 （3）転学部・転学科・転専攻	
（4）他大学への転学 （5）入学前既修得単位の認定	
2. 学費	159
（1）内訳 （2）納入期限 （3）納入方法 （4）猶予措置	
3. 奨学金・貸費金・助成制度等	161
（1）愛知工業大学独自の給付奨学金 （2）独立行政法人日本学生支援機構奨学金 貸与型奨学金	
（3）独立行政法人日本学生支援機構奨学金 給付型奨学金 （4）文部科学省 授業料等減免制度	
（5）民間奨学財団・地方公共団体等の奨学金 （6）国の教育ローン （7）大学提携教育ローン	
（8）助成制度 （9）ティーチング・アシスタント、スチューデント・アシスタント	

4. 学生生活上の各手続	165
(1) 住所変更等があった場合	
(2) 拾得物・遺失物	
(3) 学内で盗難にあった場合	
(4) 自動車・バイク・自転車通学	
(5) 通学定期券	
(6) 学校学生生徒旅客運賃割引証(学割証)	
(7) 学生の団体旅行割引	
(8) 下宿・アパートの紹介	
(9) 国民年金保険料学生納付特例制度	
5. キャンパスルール・マナー、日常生活上の諸注意	167
[キャンパスルール・マナー]	
(1) 喫煙	
(2) 授業中のマナー	
(3) ゴミの分別	
(4) 迷惑行為などの禁止	
(5) 通学時のマナー	
[日常生活上の諸注意]	
(1) 薬物	
(2) 詐欺・悪徳商法	
(3) インターネットの利用	
(4) イッキ飲み・無理な飲酒	
6. クラブ活動	169
(1) クラブの入部・退部	
(2) 新しく団体を結成し、本学公認クラブとして認定してもらいたい場合	
(3) 部員募集、クラブ説明会等を案内する場合の学内掲示などの手続き	
7. ボランティア活動	169
8. 地域連携・社会貢献活動	170
9. 留学・国際交流活動	171
10. 各種保険等	172
(1) 公益財団法人日本国際教育支援協会が取扱う保険	
(2) 公益財団法人スポーツ安全協会が取扱う保険	
11. 健康管理・学生相談等	173
(1) 保健室	
(2) 学生相談室	
(3) ハラスメント	
(4) 障がいのある学生の修学支援	
12. 施設・設備	
(1) 附属図書館	176
(2) 計算センター／情報教育センター	178
(3) みらい工房	179
(4) キャリアセンター	180
(5) 学習支援センター	183
(6) 厚生施設等	184
(7) 鉀徳館(体育館)	185
(8) その他の体育施設	186
(9) 教室使用	186
13. 証明書、届出書、願い書	187

VI 学則、諸規則

愛知工業大学学則	190
愛知工業大学学位規程	194
愛知工業大学における授業料その他の費用に関する規則	195
履修細則	196
愛知工業大学における副専攻に関する規程	197
愛知工業大学における副専攻の実施に関する細則	198
転学部・転学科に関する細則	198
学科内の転専攻取扱要領	199
愛知工業大学大学院工学研究科入学前履修に係る申合せ	199
愛知工業大学再入学に関する規程	199
愛知工業大学学生懲戒規程	200
愛知工業大学クラブ活動に関する規程	201
愛知工業大学研究倫理指針	201

付録

建物平面図	206
沿革	238
学歌	240
行事予定	241

学生生活を 始めるにあたって I

1. こんな時は？
2. 災害時等の臨時休講及び試験延期
3. 学生証
4. 学籍番号
5. 専攻記号
6. 大学からのお知らせ

1. こんな時は？

〈学生証・証明書に関すること〉

内容	窓口	提出書類・必要なもの等	場所	受付時間	頁
学生証を紛失した	教務グループ	—	第2本部棟2階	9:00～17:00(月～金)	5
仮学生証を発行したい		手数料300円			—
学生証を再発行したい		手数料1,000円			5
学生証のパスワードを忘れた	教務グループ 学生サービスグループ	学生証			—
各種証明書を発行したい	証明書自動発行機 または教務グループ	学生証、手数料 P187参照			187

〈学籍に関すること〉

内容	窓口	提出書類・必要なもの等	場所	受付時間	頁
氏名・住所・電話番号・携帯電話番号・保証人が変わった	学生サービスグループ	氏名・住所等変更届 保証人変更届	第2本部棟2階	9:00～17:00(月～金)	165
休学したい		休学願、在籍料			158
復学したい		復学願			
退学したい		退学願、学生証			
転学部・転学科・転専攻を考えている	教務グループ	願書・理由書			

〈授業や試験に関すること〉

内容	窓口	提出書類・必要なもの等	場所	受付時間	頁
教科書の買い方がわからない	学内紀伊屋書店	—	AITプラザ2階	9:30～17:00(月～金)	—
履修について相談したい	教務グループ	—	第2本部棟2階	9:00～17:00(月～金)	11
授業を欠席する、した	教務グループ 学生サービスグループ	P.10～11参照			10
定期試験を欠席する、した	教務グループ	P.14参照			14
進級や卒業に必要な単位について相談したい	教務グループ	—			19
学習面で相談したい	(基礎教育科目) 学習支援センター	—	10号館1階	9:00～17:00(月～金)	183
	(基礎教育科目以外) 各科目担当教員	シラバスのオフィス アワー参照	各教員研究室 等	—	—
授業料を口座引き落としにしたい	経理会計課	P.160参照	本部棟2階	9:00～17:00(月～金)	160
授業料の納入猶予について		授業料等徴収猶 予願			

〈学生生活に関すること〉

内容	窓口	提出書類・必要なもの等	場所	受付時間	頁
在籍確認兼通学証明書シールがほしい	学生サービスグループ	学生証	第2本部棟2階	9:00～17:00(月～金)	165
奨学金について相談したい		—			161
忘れ物をした 落とし物を拾った		—			165
被害、盗難にあった		被害届			
自動車やバイクで通学したい		—			
構内に車を乗り入れたい (荷物の搬入・怪我等)		車両入構許可願			
保険を請求したい (教育研究活動中の事故・怪我等)		—		—	172

内容	窓口	提出書類・必要なもの等	場所	受付時間	頁
クラブについて相談したい	学生サービスグループ	—	第2本部棟2階	9:00～17:00(月～金)	169
クラブを結成したい		クラブ認定願 クラブ規約			
学内に掲示物を貼りたい		掲示許可願			
学内でピラを配りたい		ピラ配布許可願			
物品を借りたい		物品借用申請書			—
運動用具を借りたい		学生証			—
みらい工房利用講習受付		—			179
学内の施設を利用したい	教室:教務グループ (1、9、10、12、14号館のみ) ※上記以外は各棟の事務室	教室使用許可願			186
	教室以外:学生サービスグループ	施設等使用申請書			
鉦徳館1階トレーニング室を利用したい	鉦徳館事務室	学生証 室内シューズ	鉦徳館	9:30～16:00 (月・水・木) 9:30～12:45(金)	185
鉦徳館で運動用具を借りたい (卓球、バドミントン、バスケットボール等)					
留学・語学研修について	教務グループ	—	第2本部棟2階	9:00～17:00(月～金)	171
留学生との交流について	学生サービスグループ				
怪我をした、体調が悪い	保健室	—	第2本部棟3階	9:00～17:00(月～金) 8:50～13:00(土)	173
健康診断に関して聞きたい		—			
身体的な悩みについて相談したい		—			
大学生生活の悩みや心のケア・支援について相談したい	学生相談室	—	第2本部棟4階	9:00～16:30(月～金)	174
ハラスメントの相談をしたい		—			
下宿先を探したい	メディアショップ Com・Com	—	AITプラザ2階	9:00～17:00(月～金)	166
配付パソコンの故障・不具合について(経営・情報科学部生のみ)	サポートデスク	パソコン	旧1号館2階 209 (男子トイレ前廊下突き当たり)	9:30～16:30(火・金) 最終受付16:00	—
愛工大IDのパスワードを忘れた	情報システム室	学生証	計算センター 1階	9:00～17:00(月～金)	—

〈就職・資格に関すること〉

内容	窓口	提出書類・必要なもの等	場所	受付時間	頁
就職活動について相談したい	キャリアセンター	—	1号館2階	9:00～17:00(月～金)	180
インターンシップについて相談したい		—			181
アルバイトを探したい		—			
資格を取得したい		—			182
高校の教員免許を取得したい	教務グループ	—	第2本部棟2階	9:00～17:00(月～金)	134

※上記は八草キャンパスに通う学生の場合です。自由ヶ丘キャンパスの学生は事務室に相談してください。

【自由ヶ丘キャンパス事務室】本館1階 受付時間 9:00～17:00(月～金)

※上記受付時間は変更する場合があります。

I 2. 災害時等の授業及び試験

災害時等の対応は、次のとおりです。

措置により延期になった試験期間中の試験は、その試験期間最終日の翌日に実施します。振替日が土曜日・日曜日・休日の場合はその次の平日に実施します。

災害時等の対応については、ホームページ及びL-Camで通知します。

(1) 暴風警報・特別警報・警戒レベル4以上が発令されている場合

- ・午前7時現在、愛知県下（東三河南部を除く）に暴風警報・特別警報・警戒レベル4以上のいずれかが発令されている場合、午前（1時限目・2時限目）に開始する面接授業は中止
- ・午前10時現在、愛知県下（東三河南部を除く）に暴風警報・特別警報・警戒レベル4以上のいずれかが発令されている場合、午後（3時限目～5時限目）に開始する面接授業は中止
- ・午後3時現在、愛知県下（東三河南部を除く）に暴風警報・特別警報・警戒レベル4以上のいずれかが発令されている場合、午後6時以降（6時限目以降）に開始する面接授業は中止

※東三河南部は豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原市

(2) 自然災害又はストライキにより公共交通機関が運休になった場合

- ・午前7時現在、運休が解除されていない場合、午前（1時限目・2時限目）に開始する面接授業は中止
- ・午前10時現在、運休が解除されていない場合、午後（3時限目～5時限目）に開始する面接授業は中止
- ・午後3時現在、運休が解除されていない場合、午後6時以降（6時限目以降）に開始する面接授業は中止
- ・自然災害とは、大雨、大雪、地震などを指す。
- ・公共交通機関とは次のものを指し、いずれか1つが該当した場合に適用する。

名古屋市営地下鉄東山線、名古屋市営バスの全線、名鉄電車名古屋本線

愛知環状鉄道、愛知高速交通（リニモ）

これ以外の路線については、窓口に相談して下さい。

(3) その他休講措置

- ・その他、状況によって授業を休講とします。

3. 学生証

学生証は本学の学生として身分を証明するものですので、以下の点に注意して取り扱ってください。

1. 学生証は常時携帯し、本学教職員から要求があった場合はいつでも提示できるようにしてください。
2. 学生証は悪用されることがありますので、紛失、盗難などのないよう取扱いには十分注意してください。
3. 学生証を他人に貸与又は譲渡することを禁じます。
4. 学生証の携帯がない場合は試験を受けることができません。
5. 学生証を紛失、破損、汚損した場合は再発行手続きをしてください。(再発行手数料1,000円)
6. 学生証の記載事項に変更が生じた場合は大学に申し出てください。
7. 学生証の有効期限が過ぎた場合又は学籍を離れた場合は、直ちに大学へ返還してください。

学生証取扱い窓口 八草キャンパス 第2本部棟2階 教務グループ
自由ヶ丘キャンパス 事務室

4. 学籍番号

学籍番号は6桁の英数字です。様々な機会で使用しますので覚えて下さい。

例: E 2 5 0 0 1
 | | | | |
 専攻略記号 入学年(西暦下2桁) 番号

5. 専攻記号

専攻は以下の記号で表します。

学 部	学 科	専 攻	専攻記号	学籍番号
工 学 部	電気学科	電気工学専攻	EE	E25001～
		電子情報工学専攻	EV	V25001～
	応用化学科	応用化学専攻	CC	C25001～
		バイオ環境化学専攻	CB	B25001～
	機械学科	機械工学専攻	MM	M25001～
		機械創造工学専攻	MP	P25001～
	社会基盤学科	土木工学専攻	DD	D25001～
		都市デザイン専攻	DS	S25001～
	建築学科	建築学専攻	FA	A25001～
		住居デザイン専攻	FL	L25001～
経 営 学 部	経営学科	経営情報システム専攻	HT	T25001～
		スポーツマネジメント専攻	HH	H25001～
情 報 科 学 部	情報科学科	コンピュータシステム専攻	KK	K25001～
		メディア情報専攻	KX	X25001～

6. 大学からのお知らせ

大学からのお知らせは、学生ポータルサイトL-Cam（えるきゃん）及び専門棟の各学科掲示板で行います。これらを必ず毎日確認するよう習慣づけて下さい。

主な内容としては、授業関係(休講・補講・教室変更・時間割変更など)、履修関係(履修登録期間・履修条件など)、試験関係(試験期間・試験時間割など)、教員からの連絡事項や学生呼び出しです。

L-Cam及び掲示板で連絡した事項は、周知したものとみなしますので、不利益を被ることがないように十分注意して下さい。

(注)学外からの電話などでの学生への伝言、電話口への呼び出し、授業出席の確認には原則として応じられません。

修 学

II

1. 教育課程表の見方
2. シラバス（授業計画書）・オフィスアワー
3. 履修フローチャート
4. 授業
5. 履修登録
6. 試験
7. 単位認定と GPA
8. 成績発表
9. 進級・卒業・留年

1. 教育課程表の見方

(1) 単位制と教育課程表

各専攻の授業科目の種類、単位数、開講期及び卒業・進級要件は、『教育課程表』（カリキュラムとも呼ぶ）に記載されています。すべての授業科目には所定の単位が配当されており、授業を履修し、試験などに合格することによって、その科目の単位を修得することができます。

各年次に1年以上、通算4年以上在学し、卒業要件に定められた単位を修得した者は、卒業となります。

また、各専攻の「科目系統図」には卒業までに身につけるべき知識と、これを得るための授業関連性が記載されています。

(2) 目的による科目の分類

授業科目は、その目的により以下のように分類されます。それぞれ教育課程表で定められた単位を修得しなければなりません。

専門教育科目	専門的な知識・技能を身につけるための科目
総合教育科目	一般教養を身につけるための科目
教職課程科目	教員養成のための科目

(3) 卒業の要件による科目の分類

授業科目は、卒業の要件により以下のように分類されます。それぞれ教育課程表で定められた単位を修得しなければなりません。

必修科目	必ず修得しなければならない科目
選択科目	適宜選択して所定の単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	特定の科目グループ内で必ず修得しなければならない科目

(4) 科目コードの表示

すべての科目に科目コードがついており、本冊子の教育課程表には5桁で記載されていますが、L-Camには8桁で表示されます。（例 本冊子：E0103→L-Cam：E0103000）

2. シラバス（授業計画書）・オフィスアワー

(1) シラバス（授業計画書）

シラバスには、各年度開講される授業科目について、授業概要、授業計画、学習到達目標、方法、評価基準、教科書・参考書等が記載されています。内容を確認してから履修登録するようにして下さい。

シラバスは大学ホームページの「学生生活＞授業・試験時間」ページから閲覧できます。

(2) オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が研究室等に在室して学生の質問等を受け付ける時間です。オフィスアワーはシラバスに記載されていますので、講義内容などの質問や学生から専任教員へ相談したい場合に利用して下さい。

3.履修フローチャート



4. 授業

(1) 学修時間と単位

大学の授業は、講義、演習、実験、実習の教授方法に大別されます。それぞれの授業は、**45時間の学修＝1単位**として計算します。

学修時間は教室内での授業時間の他に、教室外（図書館、自宅、下宿等）で行う予習復習等の時間も含んで計算されています。

本学では、授業時間外に必要な学修を考え、以下のとおり単位数を計算しています。

	単位数	教室内	教室外	回数	学修時間
講義	2単位	2時間	4時間	15週間	90時間
演習・実験・実習	1単位	2時間	1時間	15週間	45時間
外国語	1単位	2時間	1時間	15週間	45時間

※ 90分授業は1時限2時間として計算しています。

(2) 授業期間

1年は前期と後期の2学期に分かれており、それぞれ授業期間と試験期間があります。

また、授業は週5日（月曜日～金曜日）、1時限90分で行います。授業日、定期試験期間など、詳しくは行事予定表を参照して下さい。

(3) 祝日授業

授業回数不足を補うために、祝日に授業を行うことがあります。

授業実施日は行事予定表を参照して下さい。

(4) 授業時間

I時限目	9：00－10：30
II時限目	10：40－12：10
III時限目	13：00－14：30
IV時限目	14：40－16：10
V時限目	16：20－17：50
VI時限目	18：00－19：30

(5) 授業の欠席

①公認欠席

以下の理由で授業を欠席した場合は、「欠席届」に書類を添付の上、担当窓口（自由ヶ丘キャンパスは事務室）へ届け出て承認を得た後、当該授業の担当教員に提出して下さい。

※「欠席届」は、L-Cam(PC版)の「キャンパスライフ>学内共有ファイル」ページから取得できます。

事 由		取 扱 期 間	担 当	添 付 書 類
忌引き	父、母、配偶者、子	連続した7日以内	教務グループ	「会葬通知」、「会葬御礼」など、日付が記載されたもの（コピー可）。
	曾祖父母、祖父母、兄弟姉妹、おじ、おば、甥、姪	連続した3日以内		
教育実習		実習先が指定した期間	教務グループ	(不要)
自然災害等（風水害）		罹災内容による	学生サービスグループ	地方公共団体が交付する「罹災証明書」等
学校保健安全法施行規則第18条に定められた学校感染症にかかった場合		出席停止期間	学生サービスグループ	医療機関が発行する診断書 ※治療期間や安静期間、入院期間等が明記されていること

②公認欠席以外の配慮

以下の理由で授業を欠席した場合は、提示書類を準備し、当該授業の担当教員に提示して下さい。
ただし、配慮を申し出るものであり、出欠の取り扱いについては授業担当教員に一任されています。

事 由	提 示 書 類
病気・怪我	医療機関が発行する診断書 ※治療期間や安静期間、入院期間等が明記されていること
交通事故	自動車安全運転センターが交付する「交通事故証明書」
公共交通機関の運行休止 または遅延	公共交通機関発行の「遅延証明書」
対外試合などのクラブ活動	学生サービスクラブへ届出し承認を得た「クラブ活動届」のコピー
就職試験（最終試験のみ）	受験を証明できる書類（案内文書等）または試験担当者作成の証明書
インターンシップ（本学が単位認定するものに限る）	インターンシップを証明できる書類
学会における発表等	卒研指導教員作成の証明書
居住地または通学経路で避難指示が発令された場合	避難指示内容が確認できる書類のコピー
裁判員候補に選出された場合	選任手続き期日のお知らせ（呼出状）のコピー

③その他

- ・上記以外の事由で授業を欠席した場合は、チューターまたは指導教員へ相談すること。
- ・2週間以上授業を欠席する場合は、チューターまたは指導教員へ相談すること。

5. 履修登録（別冊子「履修の手引き」を併せて確認して下さい）

（1）履修登録

授業を受けるには、履修登録期間中にその学期中に履修する全科目を登録しなくてはなりません。履修登録が完了しない場合、授業に出席し、定期試験を受験しても単位の修得は認められませんので、必ず期間中に登録するようにして下さい。

また、履修登録の際は、以下の事項に注意して下さい。

- 自分の学年・専攻の授業時間割、教育課程表、シラバス等を確認の上、登録して下さい。
- 履修登録期間中であれば、何度でも登録のやり直しが可能です。
- 科目には、学年・専攻ごとに開講されている科目と、全学生に開講されている科目があります。
- 全学生に開講されている科目のうち、抽選科目（抽選により受講者を決める科目）については、以下のように取り扱います。

抽選科目の注意事項

- ・抽選日程はL-Camでお知らせします。
- ・同一時限に第2希望まで受講科目を登録することができます。
- ・同一科目を第1希望枠で複数登録することはできません。第2希望枠でも同様です。
- ・受講定員を超えた場合は、コンピュータで抽選を行います。
- ・当選した科目について、登録期間内に他の科目に変更することはできますが、変更した場合は、当選の権利を放棄したものとみなし、抽選をやり直しますので注意して下さい。
- ・一般科目を登録した同じ曜日時限に抽選科目を登録することはできません。抽選科目を登録した同じ曜日時限に一般科目を登録した場合は、抽選は強制的に「落選」となります。
- ・希望する抽選科目に未当選の状態、当該科目の1週目の授業が実施される場合は、第1希望に登録している授業を受講してください。

- 定員の超過、または受講者数が極端に少ない等、授業の実施が困難となった際は、人数調整や授業科目の閉講により履修を断る可能性があります。

(2) 履修登録方法

①web登録

履修登録は各学期の始めにある登録期間内にL-Camから行って下さい。ほとんどの科目はこのシステムから登録することができます。履修登録期間は行事予定表で確認して下さい。

②窓口登録

以下の科目はL-Camから登録することができません。期間内に窓口で登録して下さい。

必修の再履修優先	必修科目を再履修したい時、所属する学年の必修科目と曜日・時限が重なっていた場合は、再履修の必修科目を優先することができます。 ※優先して履修登録した科目の取り消しはできません。 ※選択科目の再履修優先は認めません。
再チャレンジ履修	再チャレンジ履修を希望する科目(P.17参照)

③その他の特別な登録方法

以下の科目は「web登録」、「窓口登録」の登録方法とは異なります。

ものづくり文化実習 日本語コミュニケーション	「履修の手引き」を確認して下さい。
他大学開設科目	専用の出願票を八草キャンパス教務グループ又は自由ヶ丘キャンパス事務室へ提出して下さい。詳しい出願方法はL-Camで案内します。

この他に特別な登録方法を行う科目があります。詳しくはL-Camで確認して下さい。

(3) 履修制限

履修登録をするにあたって、以下の制限事項があります。

同一科目	同一学期内では、同一科目(科目名又は講義内容が同一の科目)は、1科目しか履修できません。								
同一時限重複	同一曜日時限内では、1科目しか履修できません。 *隔週授業、その他特別な授業を除く。								
上級年次開講科目	自分の専攻の上級年次開講科目は履修できません。								
クラスコード(授業区分)	授業科目によっては、教室定員の都合により少人数のクラスに分かれて授業を行います。履修するクラスコード(授業区分)が指定されている場合、それを変更することはできません。								
履修上限単位	適切に授業科目を履修するため、学期ごと、年間ごとに、以下のように履修登録できる単位数に上限を設けています。 <table><tr><th>学 部</th><th>学 期</th><th>年 間</th></tr><tr><td>工学部 情報科学部</td><td>30単位まで</td><td rowspan="2">48単位まで</td></tr><tr><td>経営学部</td><td>28単位まで</td></tr></table> ※進級・卒業判定時点で通算GPAが3.0以上の学生は、翌年度の年間上限が52単位となります。 ※履修上限単位数には、履修し修得(合格)した単位だけでなく、不合格となった科目の単位も含まれますので注意して下さい。 ※インターンシップ、HT開講の「健康・スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ」、教職に関する科目、他大学開設科目、その他の進級・卒業要件に含まない科目は上限単位数に含まれません。	学 部	学 期	年 間	工学部 情報科学部	30単位まで	48単位まで	経営学部	28単位まで
学 部	学 期	年 間							
工学部 情報科学部	30単位まで	48単位まで							
経営学部	28単位まで								
専攻、科目によって指定された制限・条件	教育環境を充実させるため、専攻、科目によっては、個別に履修の制限・条件が設けられている場合があります。各専攻の注意事項および「履修の手引き」を確認して下さい。								

(4) 再履修

以下の場合を「再履修」と呼びます。

- ・単位を修得できなかった科目(不合格科目)を次学期以降に履修し直す場合
- ・選択科目などの正規開講学年で履修登録をしなかった科目を次学期以降に初めて履修する場合

なお、数学、物理学、英語など、自分の専攻の単位として認められている科目は、他専攻でも再履修することができます。

(5) 他学科・他専攻履修

自らの専門分野を超え、幅広く柔軟な視野と知識を修得するために、自分の専攻にない他学科・他専攻の科目を履修することができます。

他学科に開放している科目は、L-Camおよび授業時間割表を確認して下さい。他専攻に開放している科目は、自分の学科の教育課程表を確認して下さい。

なお、卒業及び進級に必要な単位として認める単位数の上限は、学年・専攻で異なりますので、自分の専攻の教育課程表を確認して下さい。

(6) 他大学開設科目

愛知県内すべての4年制大学・短期大学が加盟する愛知学長懇話会では、これに加盟する他の大学で開講される科目を履修し、自分の大学の単位として認める「単位互換履修生」の制度があります。

- ・開講科目、履修登録方法など、詳しくは教務グループへ問い合わせて下さい。
- ・授業内容によって、専門教育科目(選択)または総合教育科目(選択)の単位として認定します。
- ・卒業及び進級に必要な単位として認める単位数の上限は、自分の教育課程表で確認して下さい。

※インターネットで「愛知学長懇話会」と検索すると、概要等を閲覧することができます。

(7) 履修取消

履修登録した科目を履修登録期間終了後に取り消したい場合は、履修取消期間内にL-Camから、取り消して下さい。履修取消を行う際は、以下に注意して下さい。

- ・自分の学年で正規開講されている必修科目は取消できません。
- ・取り消した科目の代わりに他の科目を登録し直すことはできません。
- ・履修取消した科目は、学期および年間履修上限単位に数えられません。
- ・履修取消した科目は、GPA算出式の「履修登録したすべての科目の総単位数」には含まれません。

(8) 履修の確認

履修登録終了前及び履修取消期間終了後には、L-Camにて自分が登録した科目または取消した科目が反映されているかどうかを必ず確認して下さい。表示されていない科目は授業に出席し定期試験を受験しても単位の修得は認められません。

6. 試験

(1) 定期試験

定期試験は、15週目までに実施する試験と15週終了後の翌週の期末試験期間に実施する試験があります。

どちらの期間で実施するのかは、個々の授業によって異なり授業中またはL-Camで案内があります。

15週目までに実施する試験は、授業と同じ時間割で実施します。

期末試験期間に実施する試験は、授業とは違う曜日・時限・教室で実施し、試験時間は原則60分です。60分を超える場合(最大80分)は最終時限で実施します。

なお、履修登録が完了していない場合、授業に出席し定期試験を受験しても単位の修得は認められませんので注意してください。

【期末試験期間時間割】

試験時限	試験時間
I 時 限 目	9:00 - 10:00
II 時 限 目	10:20 - 11:20
III 時 限 目	11:40 - 12:40
IV 時 限 目	13:20 - 14:20
V 時 限 目	14:40 - 15:40
VI 時 限 目	16:00 - 17:00

(2) 追試験

定期試験を病気、その他止むを得ない事由のために欠席した場合は追試験を願い出ることができます。

追試験の実施可否は科目担当教員に一任されており、実施を許可された場合のみ受験することができます。

追試験は例外的な取扱いですので、定期試験を受験するように心がけ、試験に際しては健康管理に十分注意してください。

・追試験の願い出

定期試験を欠席した日から、その日を含め5日以内(土日、祝日も含む)に追試験願に以下の書類を添付の上、教務グループまたは、自由ヶ丘キャンパス事務室窓口へ願い出て下さい。(家族、友人など、代理人でも可。)入院などで欠席が前もって明らかな場合は、事前に教務グループまたは、自由ヶ丘キャンパス事務室窓口へ願い出て下さい。

事 由	添付書類
病気・怪我	治療を受けた医療機関発行の診断書。領収証・検査報告書は不可。欠席した日を証明できるもの。
親族の死亡	「会葬通知」、「会葬御礼」など、日付が記載されたもの(コピー可)。親族の対象は、父、母、配偶者、子、曾祖父母、祖父母、兄弟姉妹、おじ、おば、甥、姪とする。
公共交通機関の遅延	公共交通機関発行の「遅延証明書」
交通事故	自動車安全運転センターが交付する「交通事故証明書」
就職活動	日時・場所が記載された案内文書および「就職活動に伴う欠席証明書」

(3) 受験の際の注意事項

- ・受験の際は「学生証」を必ず持参して下さい。持参しない者は受験できません。忘れた場合は、受験前に教務グループまたは自由ヶ丘キャンパス事務室で仮学生証発行手続きをして下さい。

仮学生証(当日限り有効) 300円

- ・指定された座席又は試験監督者から指示された座席に着席して下さい。
- ・遅刻は各試験開始後30分までは認められます。
- ・退室は各試験開始後30分までは認められません。
- ・試験中は携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチなどの情報通信機器は、電源を切ってカバンの中に入れておいて下さい。時計としての使用も認めません。
- ・試験中、態度不良又は試験監督者の指示に従わない者には、退室を命ずることがあります。

(4) 不正行為

履修細則第9条にあるように、試験中(定期試験、追試験、中間試験、小テストなど)において、不正行為(履修細則第8条に違反する行為)を行ったと認められた学生に対しては、その学期中の全ての科目の試験の成績を零点とします。

また、それ以後、その学期中の試験は受験できません。

このほか、場合によっては学則第39条による懲戒(退学、停学、訓告)の対象となることがあります。

7. 単位認定とGPA

(1) 成績評価基準

履修した科目の成績評価は、各科目で指定された成績評価の方法を基準に以下のように評価され、秀・優・良・可の場合、所定の単位が与えられます。

成績	得点	GP	評価内容	単位の認定
秀(S)	90点以上	4	到達目標を極めて優秀な水準で達成している。	単位を認定する
優(A)	80点以上	3	到達目標を優秀な水準で達成している。	
良(B)	70点以上	2	到達目標を概ね達成している。	
可(C)	60点以上	1	到達目標の必要最低限は達成している。	
F(F)	59点以下	0	到達目標の必要最低限を達成していない。	単位を認定しない
失(Q)	評価対象外	0	出席日数不足、試験欠席などで評価の対象とならない。	

(2) GPA

GPA (Grade Point Average) とは、学習の質を評価する成績評価の国際基準になりつつあるもので、合格した科目だけでなく、不合格となった科目も算出の対象となります。学生には自らの成績状況を把握して、学習意欲の向上と適切な履修計画の策定に役立たせることが求められます。この制度は平成22年度から導入され、学期毎のGPAと入学時からの累積GPAが学期末に送付される成績通知書に記載されます。

(3) GPA算出式

$$\text{GPA} = \frac{(\text{各科目の単位数} \times \text{当該科目で得たGP}) \text{の合計}}{\text{履修登録したすべての科目の総単位数}}$$

ただし、再履修をした科目は、過去の履修登録を算出対象外とする。

例：A君のGPA

授業科目名	単位数	成績	GP	単位数×GP
微分積分I及び演習	3	秀	4	12
電気工学セミナー	1	優	対象外※1	—
線形代数I	2	F	0	0
線形代数I(再履修)※2	2	良	2	4
化学	2	秀	4	8
プログラミングI及び演習	3	優	3	9
コミュニケーション英語A	1	F	0	0
コミュニケーション英語A(再履修)※2	1	可	1	1
中国語A	1	優	3	3
人間性の探究	2	失	0	0
教育原論(教職科目)	2	秀	対象外※1	—
制御工学(履修取消)※1	2	—	—	—
計	17			37

※1 GPA対象外科目及び履修取消した科目はGPA算出式の「履修登録したすべての科目の総単位数」には含まれません。

※2 再履修した科目は、最後に履修した評価時のGPが対象となります。

$$\text{GPA} = \frac{12 + 4 + 8 + 9 + 1 + 3 + 0}{3 + 2 + 2 + 3 + 1 + 1 + 2} = 2.642\cdots$$

小数点第3位を四捨五入する。よって、A君のGPAは2.64となります。

(4) GPA算出対象外科目

ゼミナール形式の科目など特定の学生のみ履修する科目や卒業研究は、GPA算出対象外の科目です。算出対象外科目は各専攻の教育課程表で確認して下さい。

(5) 再チャレンジ履修

一度修得した科目について、GPAスコアを改善するため同科目を再度履修することを「再チャレンジ履修」と呼びます。再チャレンジ履修を行うには以下の条件があるので注意して下さい。

- ・再チャレンジ履修は、前年度の進級の判定に影響を与えないことを条件として認められる。

例えば・・・

電気工学専攻2年生のA君が、1年時に成績“優”で修得した線形代数Ⅰ（必修・2単位）を2年次で再チャレンジ履修を希望する場合、A君の1年終了時の全必修科目の修得単位数が、1年から2年への進級要件に対し、2単位以上余裕がないと再チャレンジ履修できない。

- ・再チャレンジ履修登録を行った科目は、履修取消期限を過ぎた時点で過去の履修履歴と成績が抹消され、成績の如何に関わらず新しい成績が上書きされる。

例えば・・・

科目名	すでに 修得した評価		再チャレンジ履修での 評価	最終評価
線形代数Ⅰ	優	⇒	秀	秀
線形代数Ⅱ	良	⇒	F	F

- ・再チャレンジ履修登録は履修登録期間に窓口で行って下さい。

8.成績発表

(1) 成績通知

成績は毎学期末にL-Cam上で発表し、保証人宛へ郵送します。発表日は行事予定表で確認して下さい。

成績や進級・卒業に関わる内容について、原則電話での問い合わせには対応できません。

(2) 成績説明申請制度

成績評価に疑問がある場合は、担当教員から指示がある場合を除き、研究室などを訪問し個別に教員から説明を受けるのではなく、成績説明申請願を提出して下さい。

なお、この制度は、成績評価に対する透明性を高めるためのもので、成績について教員と交渉する機会ではないので注意して下さい。

・成績説明申請の流れ

①成績評価に疑問がある場合は、成績説明申請願を提出して下さい。

申請願には、具体的にどのようなことが疑問なのかを詳細かつ明確に書いて下さい。その疑問に関する資料があれば添付してもかまいません。必要事項の記入漏れや成績説明申請制度の目的に合わない内容の申請願は棄却されます。

例えば「卒業のためにFを合格にしてほしい」「奨学金受給の関係でせめて優評価にしてほしい」といった内容は受け付けません。

②教務グループにて申請内容を審査し不備がない場合、担当教員に連絡をします。

③担当教員からの回答を教務グループから学生に伝えます。

・成績説明申請期間

期間は行事予定表で確認して下さい。

なお、申請期間を過ぎてからの申請は一切認められませんので、注意して下さい。

・再申請

説明結果に疑問がある場合は、再申請することができます。詳しくは教務グループに問い合わせして下さい。

9.進級・卒業・留年

(1) 進級

進級するためには、下記進級要件を満たす必要があります。判定結果は3月中旬の成績通知書によりお知らせします。

《進級要件》

- ・各年次に1年以上の在学(在学期間に休学は含みません)
- ・各専攻で定められている進級要件(進級所要単位、その他要件等)の充足

※詳細は「Ⅲ教育課程」の各専攻「卒業進級要件」を参照

(2) 卒業

卒業するためには、下記卒業要件を満たす必要があります。判定結果は3月上旬の成績通知書によりお知らせします。

《卒業要件》

- ・通算4年以上の在学(在学期間に休学は含みません)
- ・4年次に1年以上の在学(在学期間に休学は含みません)
- ・各専攻で定められている卒業要件(卒業所要単位、その他要件等)の充足

※詳細は「Ⅲ教育課程」の各専攻「卒業進級要件」を参照

(3) 留年

(1)に定める進級要件を満たしていない場合は留年となります。判定結果は3月中旬の成績通知書によりお知らせします。

《学年の進級について》

- ・進級要件を満たした場合でも、年度途中(後期)に進級することはできません。

(4) 卒業延期

(2)に定める卒業要件を満たしていない場合は卒業延期となります。判定結果は3月上旬の成績通知書によりお知らせします。

【秋季卒業】

卒業延期者に限り、前期終了時に(2)の卒業要件を満たした場合は、秋季卒業(9月卒業)となります。秋季卒業を認められた学生へは9月上旬に案内を送付します。

(5) 4年次卒業延期者への学費減免措置

所定の単位を修得できず卒業延期となった者のうち、未修得単位数が年度初めに10単位未満の者は一部学費が減免されます。

教 育 課 程

Ⅲ

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

工学部

経営学部

情報科学部

基礎教育センター

中期留学コース

副専攻制

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

大学全体

教育のモットー「創造と人間性」の下、「ものづくり教育」を通しての人間形成を目的とし、更に学際化、国際化に対応するため、コミュニケーション能力を有し、社会の変化に適応できる高度な専門知識を持った人材を養成するために次の教育課程を編成する。

1. 学部教育においては、社会的要求に応えるカリキュラムの編成と基礎学力向上、総合的教養教育及び各学科各専攻の特徴と専門性に基づき、社会や技術の発展に貢献し、創造と人間性を加味した技術者の養成を目的とした教育課程を編成する。
2. 大学院教育においては、知識基盤社会への対応のため、博士前期課程及び博士後期課程では、各専攻の特徴と専門性に基づき、分析能力や問題解決能力を有し、自立して研究の発展に取組む高度な技術者、研究者の養成を目的とした教育課程を編成する。

工学部

教育のモットー「創造と人間性」の下、人間性の向上と創造力の涵養を礎に、「ものづくり」に携わる技術者として必要な工学全般の知識と基礎学力、更に実践的な技術力の育成を目的として、実験、実習、セミナーを重視した教育課程を配する。

(学科の記載は、Ⅲ教育課程の各学科を参照)

経営学部

〈経営学科〉

ビジネス分野における知識・技術・技能の育成、学術的教養を基盤とする知識を育成、さらに何事にも前向きに取り組み、自発的に問題を解決できる人格形成を目的とし、学生個人が自己の関心や得意分野、目的にあわせて選択履修できる教育課程を配する。先ず初年次教育では、経営学の基礎、語学、情報学に加え、社会人基礎力を身につける基礎的な科目をカリキュラムに含める。

専門科目では、経営情報システム、スポーツマネジメントの両分野における知識・技術・技能を育成する授業科目と広範囲の学術的教養を基盤とする知識の育成を目的とした、以下の多様な教育課程を設定する。

1. 企業のマネジメントに関する専門知識を踏まえ、国際ビジネスでも通用する語学力と国際感覚のある経営能力を身につける教育課程
2. 卓越したコミュニケーション能力を持ち、経営企画、商品企画、マーケティングに加え、営業サービスにおけるビジネスでも活躍できる広範な知識を身につける教育課程
3. 短い時間で効率的に良いものを作るための知識、さらに技術を事業に結びつけて価値創出するために戦略を立案し実行する能力を身につける教育課程
4. 簿記や企業会計について学び、財務・経理部門で活躍できる専門能力に加え、企業実務における開発・生産・販売・情報システムなどの部門と連携できる実践的会計知識を身につける教育課程
5. ICT(情報通信技術)を駆使しながら、高度なビジネスマネジメントを実践できる能力を身につける教育課程
6. スポーツイベントを実施する際に使用される、商品やサービスの企画、生産、販売に至るビジネスモデルを構築できる能力と、それらを適切に運営管理するマネジメント能力を身に付ける教育課程

成績評価については、透明性と公平性を保証するためにGPA制度を採用し、単位の実質化をはかるため履修登録単位数の上限設定制度を導入している。さらに高い教育の質を保証するため、教員の教育資質を高める教員研修、学修や進路相談等の学生支援を実施している。

情報科学部

〈情報科学科〉

学位授与の方針に掲げた能力・資質を持った人材を育成するため、情報科学科では、コンピュータシステムや情報コンテンツの開発能力を養う教育課程を配する。

具体的には、情報技術者を養成するための様々なコンピュータシステムの開発能力の育成を目的とした教育課程（コンピュータシステム専攻）と、メディア・クリエイターを養成するための様々な情報コンテンツの開発能力の育成を目的とした教育課程（メディア情報専攻）を配する。

それぞれの教育課程において、以下の方針に沿ったカリキュラムを編成する。

1. 日常に潜む課題を自ら見つけられる発想力を身につけるべく、人間・社会・言語に関する知識を学ぶための授業科目を配する。
2. 見つけた課題に対する論理的・科学的な思考力や分析力を身につけるべく、自然科学の知識を修得するための授業科目を配する。
3. 課題の解決法提案に必要な情報技術の知識を身につけるべく、コンピュータシステムの知識や、種々のメディアを用いたコンテンツの知識を修得するための授業科目を配する。
4. 課題解決のための実践的な技術を身につけるべく、種々のシステムの開発手法やコンテンツの開発手法を学ぶための演習系の授業科目を配する。
5. 社会が求めるより高度な課題に対しても解決策を見いだせる十分な能力を身につけるべく、情報システムの研究経験やメディア・コンテンツの制作経験を得るための卒業研究・卒業制作の科目を配する。
6. 深い教養と高い倫理性を備えた社会人となるべく、キャリア形成に必要な知識や体験を得るための授業科目を配する。

（研究科の記載は省略）

電 気 学 科

◎電気学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

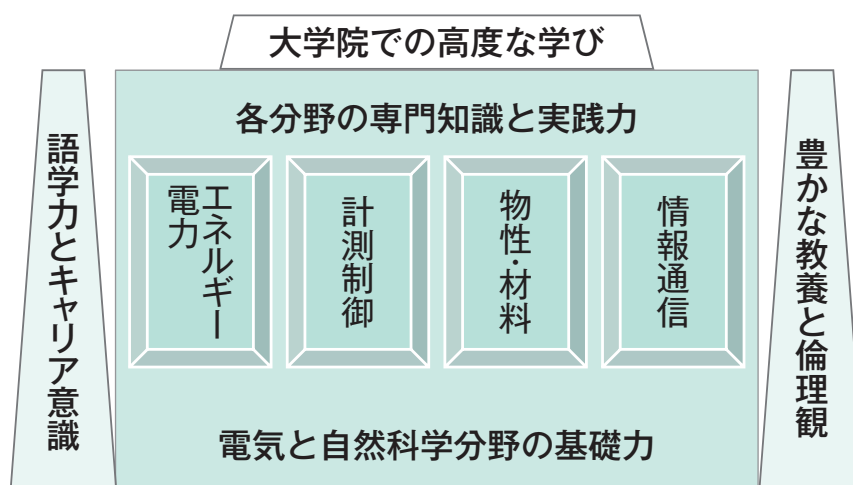
電気・電子情報工学は、様々な産業分野の発展を支えている現代社会に不可欠の技術である。電気学科では、学部のディプロマ・ポリシーに基づき、専門分野の知識と技能を習得し、それらを活かすことができる以下の資質・能力を身につけた者に学位を授与する。

- 1 電気・電子情報技術者に必要な基礎学力
- 2 電気・電子情報工学の専門基礎知識
- 3 エネルギー・電力、情報通信、計測制御、物性・材料の何れかの分野の専門的な知識
- 4 外国語によるコミュニケーション基礎力
- 5 豊かな人間性を育む倫理観と教養
- 6 グローバル社会におけるキャリア意識

◎電気学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げた技術者の育成を実現するために、電気学科では、次の方針に基づいてカリキュラムを編成し、教育を行う。

- 1 数学や物理・化学および電気・電子情報工学の基礎科目を、講義や演習・実験を通してしっかり身に付けることで、工学に必要な基礎学力と専門分野の基礎知識を養成する。
- 2 エネルギー・電力、情報通信、計測制御、物性・材料の各分野の専門科目を、系統的に履修することで、専門知識を無理なく深められるようにする。
- 3 3年次に重点的に行う工学実験と4年次の卒業研究により、技術者として社会で活躍するための技能を身につけ、電気・電子情報工学の専門性を高めて、実践力や創造力を養成する。
- 4 語学や教養科目、キャリア意識を高める科目を通して、豊かな人生を前向きに歩んで行ける力を養成する。



●●●●● 電気学科教育課程表 ●●●●●

授 業 科 目	単位数	必選の別	
		EE 専攻	EV 専攻
プログラミングⅠ及び演習	3	必	必
電気工学セミナー	1	必	
電子情報工学セミナー	1		必
技術者倫理	2	選	選
キャリア意識形成	2	選	選
キャリアデザイン	2	選	選
インターンシップ	2	選	選
データサイエンス基礎数理	2	必	必
線形代数Ⅰ	2	必	必
線形代数Ⅱ	2	必	必
微分積分Ⅰ及び演習	3	必	必
微分積分Ⅱ及び演習	3	選	選
微分方程式	2	選	選
フーリエ解析	2	選	選
確率・統計	2	選	選
物理学（力学）	2	必	必
物理学（波動）	2	選	選
量子物理	2	選	選
物理実験	2	必	必
化学	2	選	選
電子情報工学概論	2		選
プログラミングⅡ及び演習	3	必	必
プログラミングⅢ	2		選
電気電子工学基礎	2	選	選
電気磁気学Ⅰ及び演習	3	必	必
電気磁気学Ⅱ及び演習	3	必	必
電気磁気学Ⅲ及び演習	3	選	
電磁界理論	2		選
電気回路Ⅰ及び演習	3	必	必
電気回路Ⅱ及び演習	3	必	必
電気回路Ⅲ	2	選	選
アナログ回路Ⅰ	2	必	必
アナログ回路Ⅱ	2	選	選
ディジタル回路Ⅰ	2	必	必
ディジタル回路Ⅱ	2	選	選
電気電子計測	2	選	選
電子デバイス工学	2	選	選
電気工学実験ⅠA	2	必	
電気工学実験ⅡA	2	必	
電気工学実験ⅢA	2	必	
電気工学実験ⅠB	2	必	
電気工学実験ⅡB	2	必	
電気工学実験ⅢB	2	必	
電気機器工学	2	選	
メカトロニクス	2	選	
パワーエレクトロニクス	2	選	
電気電子材料学Ⅰ	2	選	選
電気電子材料学Ⅱ	2	選	選
電気エネルギー工学	2	選	☆
電気電子応用工学	2	選	
制御工学	2	選	選
電気機器設計・製図	2	選	
電気機器設計	2		選
高電圧工学	2	選	
電気技術英語	2	選	選
電気実用英語	2	選	選
電力システム工学	2	選	
電機システム工学	2	選	☆
電気法規	2	選	☆

専門教育科目

授 業 科 目	単位数	必選の別	
		EE 専攻	EV 専攻
機械工学概論	2	選	
真空気体電子工学	2		選
オプトエレクトロニクス	2		選
計算機工学	2		選
組込システム	2		選
ロボティクス	2	☆	選
情報伝送工学	2		選
画像音響工学	2		選
電磁波工学	2	☆	選
通信システムⅠ	2		選
通信システムⅡ	2		選
通信ネットワーク	2		選
電波・通信法規	2	☆	選
電子情報工学実験1	2		必
電子情報工学実験2	2		必
電子情報工学実験3	2		必
電子情報工学実験4	2		必
電子情報工学実験5	2		必
電子情報工学実験6	2		必
職業指導（工業）	2	選	選
卒業研究	4	必	必
高大連携特別講義A	2	選	選
高大連携特別講義B	2	選	選
高大連携特別講義C	1	選	選

☆印は専門教育科目（選択）の単位として認定される他専攻の科目
人数制限をする場合がある。

電気工学専攻 科日系統図

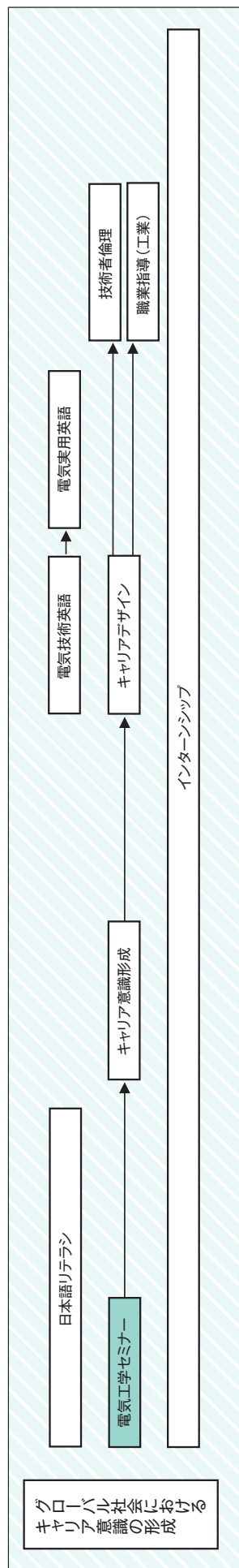
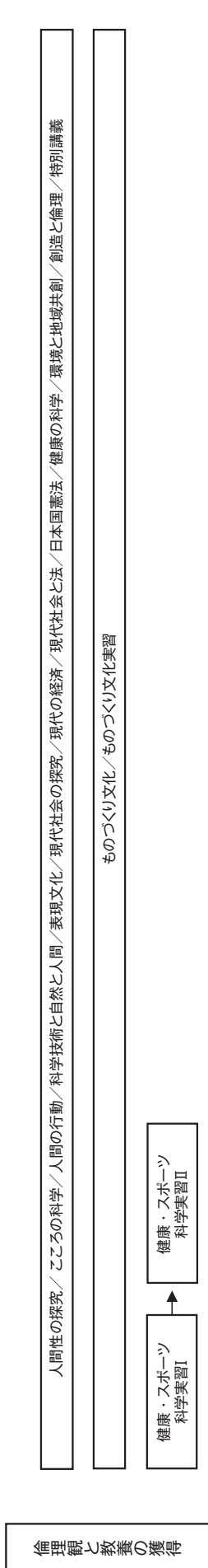
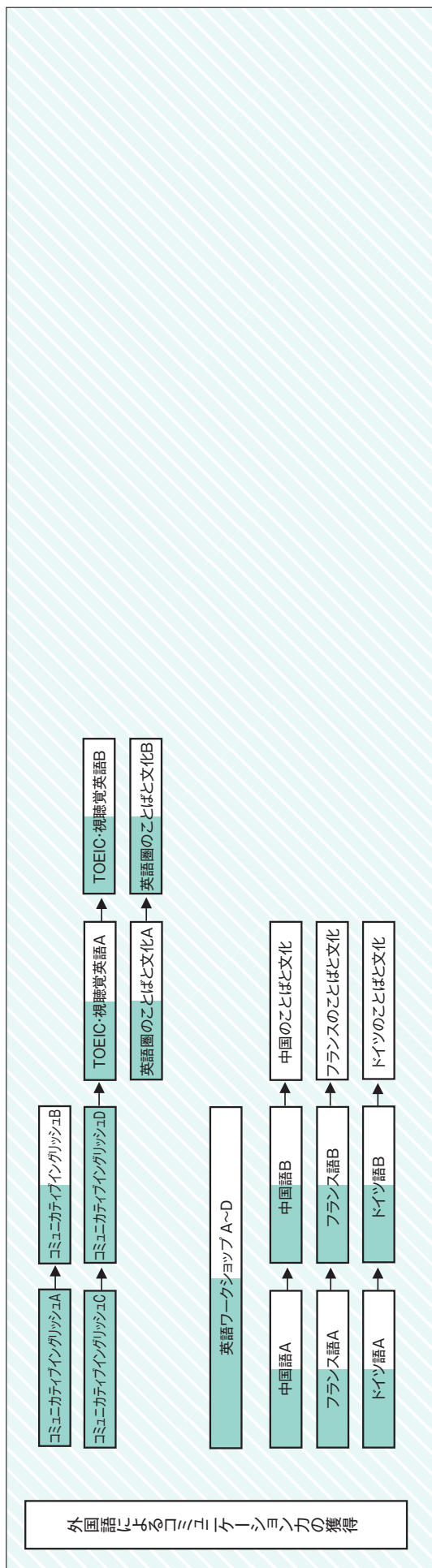
必修科目 選択必修科目

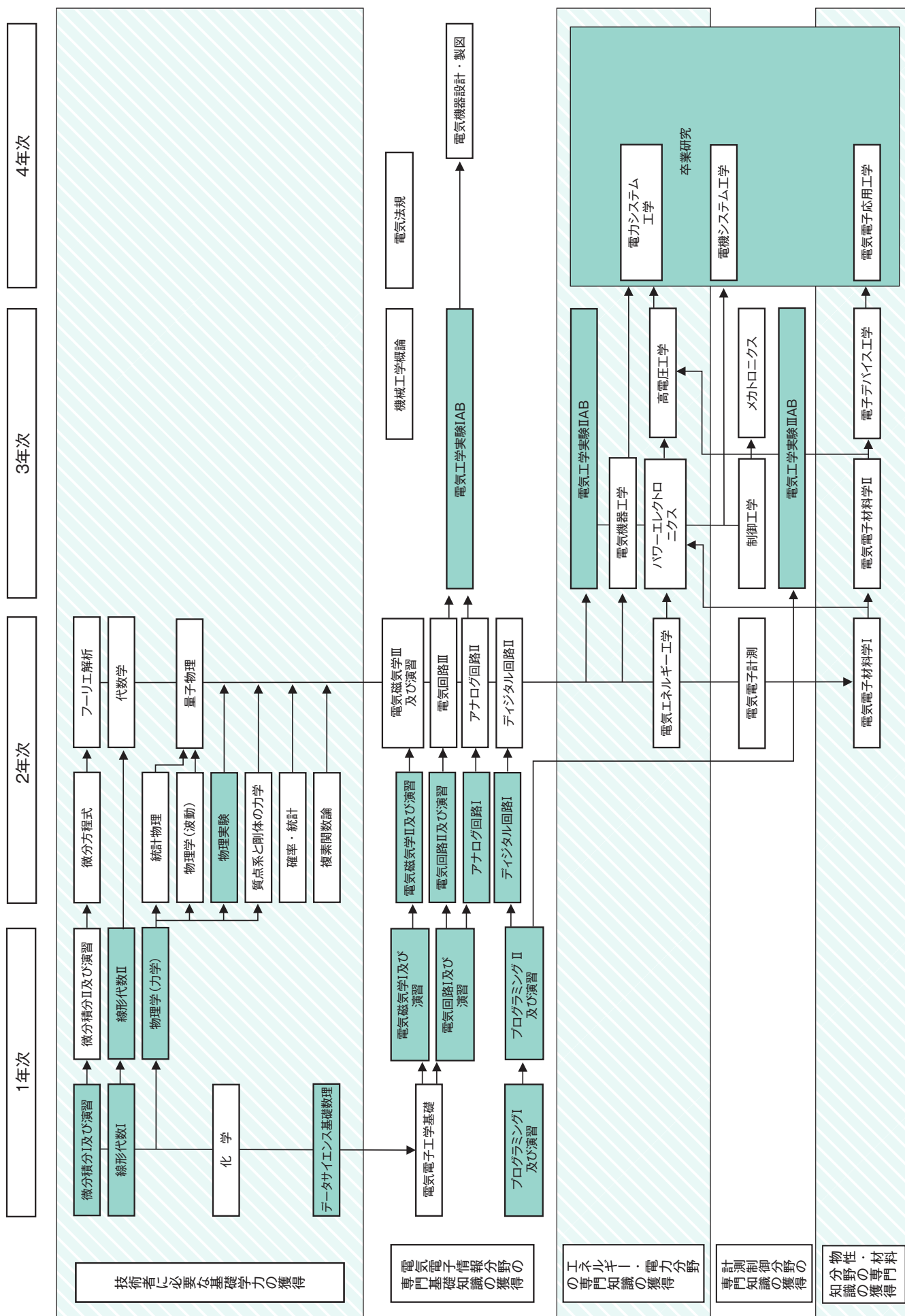
4年次

3年次

2年次

1年次





電気工学専攻教育課程表

EE

電気工学専攻

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 出 発 点	副 専 攻	備 考
		必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
専門 教育 科目	E1100 プログラミングⅠ及び演習	3		2								2	○		
	E1111 電気工学セミナー	1		1								6			
	E2178 技術者倫理		2							1		6	○		
	E2179 キャリア意識形成		2			1						6	○		開講学期変更の可能性あり
	E2180 キャリアデザイン		2					1				6	○		
	E2151 インターンシップ		2	※ 1								6			卒業要件単位数にのみ加算
	E1110 データサイエンス基礎数理	2		1								1	○		
	E1027 線形代数Ⅰ	2		1								1	○		
	E1028 線形代数Ⅱ	2			1							1	○		
	E1090 微分積分Ⅰ及び演習	3		2								1	○		
	E2172 微分積分Ⅱ及び演習		3		2							1	○		△
	E2135 微分方程式		2			1						1	○		△
	E2011 フーリエ解析		2				1					1	○		△
	E2020 確率・統計		2				1					1	○		
	E1098 物理学（力学）	2				1						1	○		
	E2173 物理学（波動）		2				1					1	○		△
	E2152 量子物理		2					1				1	○		△
	E1096 物理実験	2					2					1	○		
	E2015 化学		2	1								1	○		
	E1101 プログラミングⅡ及び演習	3				2						2	○		
	E2177 電気電子工学基礎		2	1								2	○		
	E1066 電気磁気学Ⅰ及び演習	3				2						2	○		
	E1070 電気磁気学Ⅱ及び演習	3					2					2	○		
	E2100 電気磁気学Ⅲ及び演習		3					2				2	○		◎△
	E1037 電気回路Ⅰ及び演習	3				2						2	○		
	E1040 電気回路Ⅱ及び演習	3					2					2	○		
	E2078 電気回路Ⅲ		2					1				2	○		◎△
	E1102 アナログ回路Ⅰ	2					1					2	○		
	E2154 アナログ回路Ⅱ		2					1				2	○		△
	E1103 デジタル回路Ⅰ	2					1					2	○		
	E2155 デジタル回路Ⅱ		2					1				2	○		△
	E2174 電気電子計測		2					1				3	○		◎△
	E2158 電子デバイス工学		2							1		3	○		△
	E1104 電気工学実験ⅠA	2							2			2	○		
	E1105 電気工学実験ⅡA	2							2			3	○		
	E1106 電気工学実験ⅢA	2							2			3	○		
	E1107 電気工学実験ⅠB	2								2		2	○		
	E1108 電気工学実験ⅡB	2								2		3	○		
	E1109 電気工学実験ⅢB	2								2		3	○		
	E2159 電気機器工学		2						1			3	○		◎
	E2012 メカトロニクス		2							1		3	○		
	E2010 パワーエレクトロニクス		2						1			3	○		◎
	E2160 電気電子材料学Ⅰ		2					1				3	○		○
	E2161 電気電子材料学Ⅱ		2						1			3	○		○
	E2162 電気エネルギー工学		2					1				3	○		◎
	E2164 電気電子応用工学		2								1	3	○		
E2165 制御工学		2						1			3	○		◎	
E2091 電気機器設計・製図		2								2	2	○		◎	
E2035 高電圧工学		2							1		3	○		○	
E2176 電気技術英語		2						1			6	○			
E2175 電気実用英語		2							1		6	○			
E2125 電力システム工学		2								1	3	○		◎	
E2167 電機システム工学		2								1	3	○			
E2103 電気法規		2								1	2	○		◎	
E2147 機械工学概論		2							1		2	○			
E2182 職業指導（工業）		2								1	6	○			
E1031 卒業研究		4									※1	3			
E2168 高大連携特別講義A			2											卒業要件単位数にのみ加算	
E2169 高大連携特別講義B			2											卒業要件単位数にのみ加算	
E2170 高大連携特別講義C			1											卒業要件単位数にのみ加算	

専門教育科目

	科目コード	授 業 科 目	単位数		毎 週 授 業 時 間 数 (コ マ 数)								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考	
			必 修	選 択	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次						
					前	後	前	後	前	後	前	後					
総合教育科目	G1829	コミュニケーション英語A	1		1								4	○			
	G1830	コミュニケーション英語C	1		1								4	○			
	G1831	コミュニケーション英語D	1			1							4	○			
	G3834	コミュニケーション英語B	1			1							4	○			
	G3832	TOEIC・視聴覚英語 A	1				1						4	○			
	G3833	TOEIC・視聴覚英語 B	1					1					4	○			
	G3835	英語ワークショップA:スピーキング&プレゼンテーション	1			1							4	○		前期にも開講する場合あり	
	G3836	英語ワークショップB:上級リーディング	1			1							4	○		前期にも開講する場合あり	
	G3837	英語ワークショップC:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習	1			1							4	○		前期にも開講する場合あり	
	G3838	英語ワークショップD:海外留学英語	1			1							4	○		前期にも開講する場合あり	
	G3845	英語圏のことばと文化 A	2				1						4	○	○		
	G3846	英語圏のことばと文化 B	2					1					4	○	○		
	G3843	中国語 A	1		1								4	○			
	G3844	中国語 B	1			1							4	○			
	G3841	フランス語 A	1		1								4	○			
	G3842	フランス語 B	1			1							4	○			
	G3839	ドイツ語 A	1		1								4	○			
	G3840	ドイツ語 B	1			1							4	○			
	G2834	複素関数論		2				1					1	○	○		
	G2835	代数学		2					1				1	○	○		
	G2836	統計物理		2				1					1	○	○		
	G2837	質点系と剛体の力学		2				1					1	○	○		
	G2036	人間性の探究		2									5	○	○		
	G2001	こころの科学		2									5	○	○		
	G2026	人間の行動		2									5	○	○		
	G2064	科学技術と自然と人間		2									5	○	○		
	G2065	表現文化		2									5	○	○		
	G2014	現代社会の探究		2									5	○			
	G2013	現代の経済		2									5	○	○		
	G2066	現代社会と法		2									5	○			
	G2048	日本国憲法		2									5	○			
	G2010	健康の科学		2									5	○	○		
	G2067	ものづくり文化		2									5	○	○		
	G2821	環境と地域共創		2									5	○	○		
	G2069	創造と倫理		2									5	○	○		
	G2841	日本語リテラシ		2	1								6	○			
	G2822	ものづくり文化実習		1	1								5	○	○	開講学期変更の可能性あり	
	G2008	健康・スポーツ科学実習Ⅰ		1	1								5	○	○		
	G2009	健康・スポーツ科学実習Ⅱ		1		1							5	○	○		
	G2838	中国のことばと文化		2				1					4	○	○	後期にも開講する場合あり	
	G2839	フランスのことばと文化		2				1					4	○	○	後期にも開講する場合あり	
	G2840	ドイツのことばと文化		2				1					4	○	○	後期にも開講する場合あり	
	G2070	特別講義		2									5			年度によって開講しない場合がある	
	G2823	日本語コミュニケーション		2	1～4年次の前期に開講										6		卒業・進級要件単位には含めない
	G2824	海外研修英語		1	※1										4	○	
	G2833	海外留学英語		4	2年後期または3年後期に開講										4	○	

- 履修期は基本的な開講学年学期とし変更する場合がある。
- ※1印の授業科目は毎週の授業時間数を定めない。
- 副専攻の詳細は132ページ
- DPIはディプロマ・ポリシーの該当番号に対応
- 備考の記号(◎, ○, △印)の詳細は30ページ

■ 注意

1. 卒業および進級要件に含めない科目

- ・ インターンシップ、高大連携特別講義は進級判定時の単位数には含めず、卒業要件単位数にのみ加算します。
※インターンシップの詳細は「V学生生活>キャリアセンター」を参照して下さい。
- ・ 日本語コミュニケーションで修得した単位は、卒業・進級要件に含めません。

2. 履修上の注意

- (1) 他専攻に同一名称の科目がある場合は、電気工学専攻で開講している科目を履修して下さい。
- (2) 総合教育科目の履修については「Ⅲ教育課程>基礎教育センター」を参照して下さい。

3. 他専攻・他学科・他大学履修の注意

自らの専門分野を超え、幅広く柔軟な視野と知識を修得するために、自分の専攻にない他専攻・他学科・他大学の科目を履修することができます。

なお、安易な履修登録など、この目的に合わないと思われる場合は、履修を認めない場合があります。

また、他専攻・他学科・他大学の科目を修得した場合は、卒業および進級に必要な単位として以下の表のとおり認定されます。

履 修 科 目		卒業・進級に必要な単位 として認定される科目区分		卒業・進級に必要な単位 として認定される上限
所属学科 他専攻 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		20単位まで
他学科 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		6単位まで
単位互換制度による 他大学開設科目		科目区分は履修登録 後、審査して決定され ます。	専門教育科目(選択) の単位として認定	4単位まで
			総合教育科目(選択) の単位として認定	

4. 資格試験に関する授業の履修上の注意

- (1) 卒業後、電気主任技術者免許状の取得申請をしようとする者は、選択科目のうち◎印の授業科目の全部の単位を修得し、○印の授業科目から2科目を修得して下さい。
- (2) 卒業後、第一級陸上無線技術士国家試験において試験科目「無線工学の基礎」の免除を受けようとする者は、選択科目のうち△印の授業科目全部の単位を修得して下さい。なお、有効期限は卒業後3年です。

■ 卒業進級要件

1. 上級年次への進級要件

以下の表に定める単位を修得したものは、上級年次へ進級することができます。

1年次から2年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	28単位以上		28単位以上
選択科目			

※GPAが0.5以上であること。

2年次から3年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	30単位以上		60単位以上
選択科目	必修科目と合わせて60単位以上		

3年次から4年次

	専門教育科目	総合教育科目※	計
必修科目	46単位以上 うち { 電気工学実験ⅠA、ⅠB 電気工学実験ⅡA、ⅡB 電気工学実験ⅢA、ⅢB } を全て修得していること		95単位以上
選択科目	必修科目と合わせて95単位以上		

※進級要件単位数としては24単位まで認める。

2. 卒業要件

以下の表に定める単位を修得したものは、卒業することができます。

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	52単位	8単位※	60単位
選択科目	48単位以上	16単位以上	64単位以上
計	100単位以上	24単位以上	124単位以上

※必修科目3単位と選択必修科目5単位の合計とする。ただし、このうち英語系科目を6単位以上修得していること。

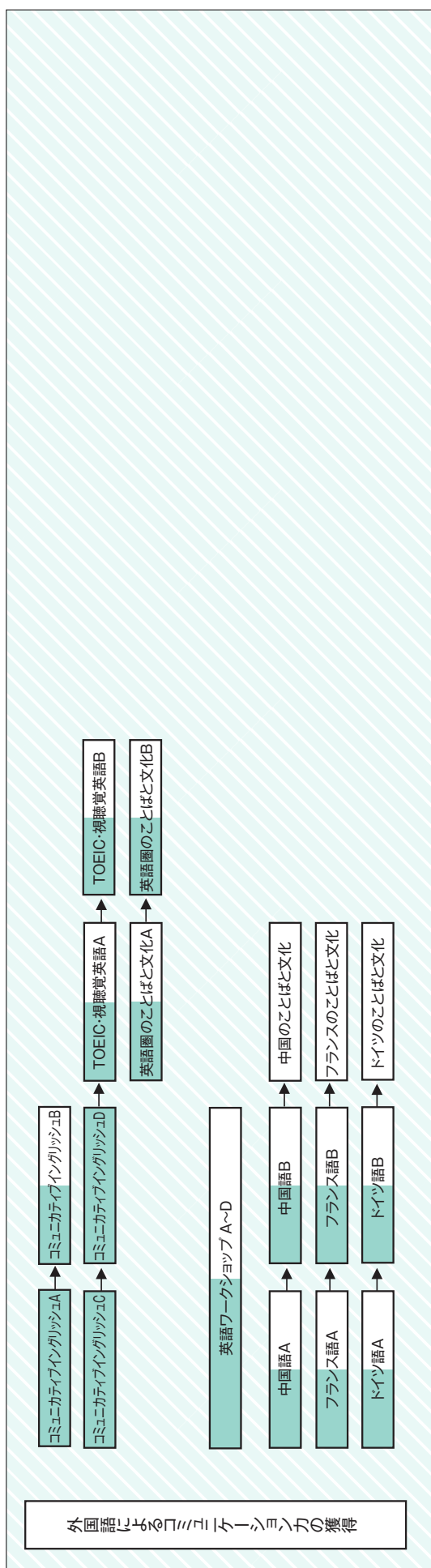
電子情報工学専攻 科目系統図

必修科目 選択必修科目 4年次

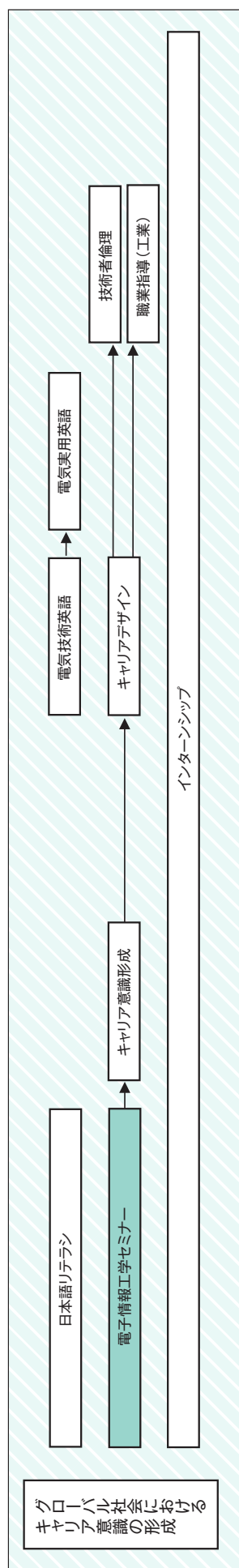
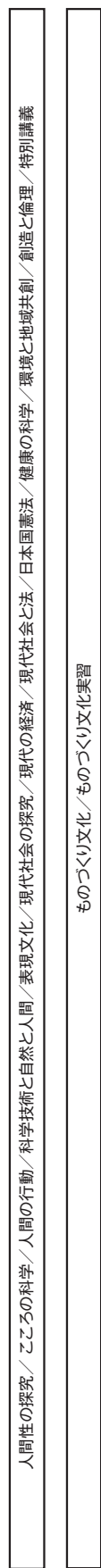
3年次

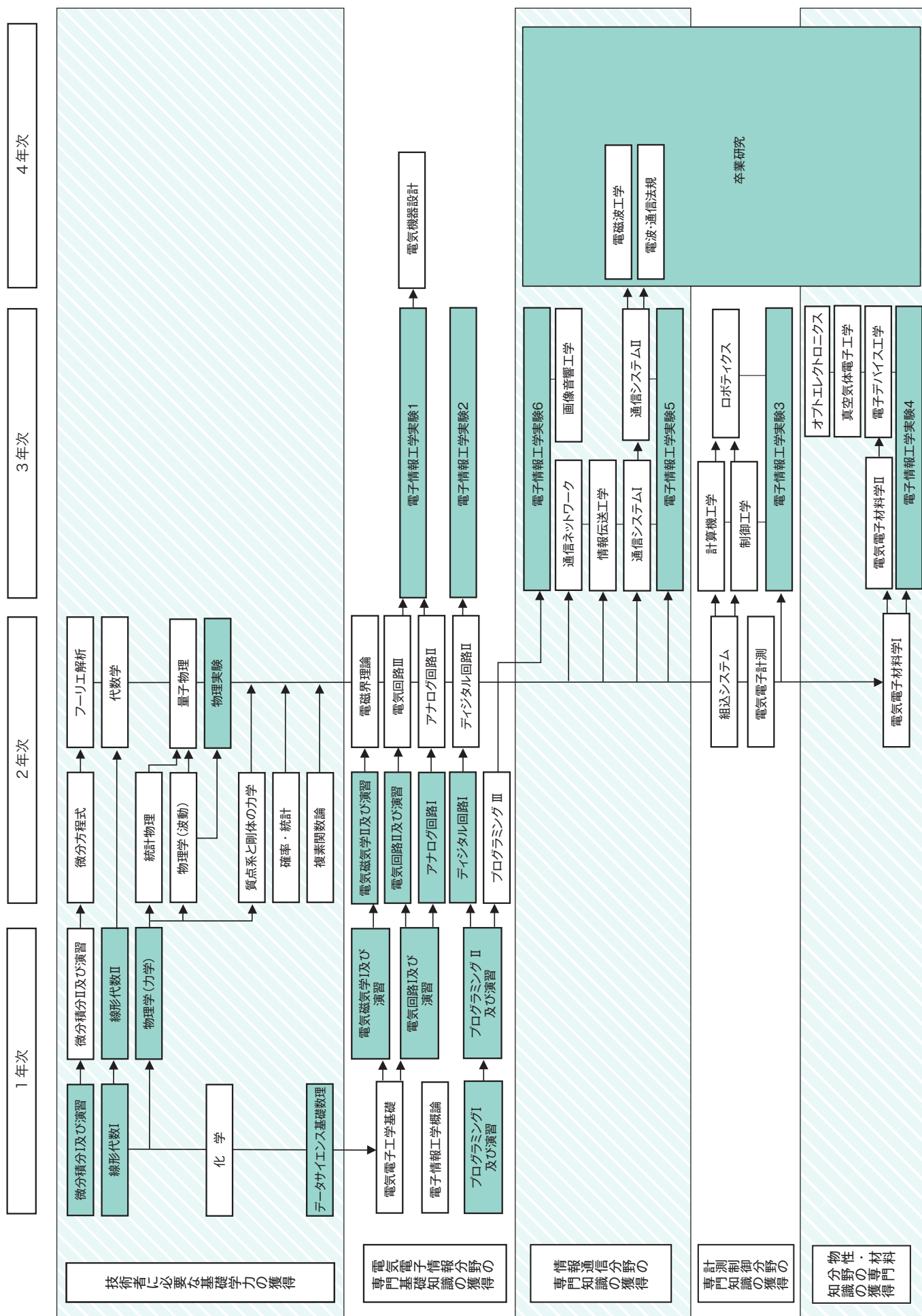
2年次

1年次



倫理観と教養の獲得





電子情報工学専攻教育課程表

EV

電子情報工学専攻

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考
		必 修	選 択	1 年次 前 後	2 年次 前 後	3 年次 前 後	4 年次 前 後	1 年次 前 後	2 年次 前 後	3 年次 前 後	4 年次 前 後				
V1010	プログラミングⅠ及び演習	3		2								2	○		
V1026	電子情報工学セミナー	1		1								6			通年隔週開講
V2059	技術者倫理		2					1				6	○		
V2060	キャリア意識形成		2		1							6	○		開講学期変更の可能性あり
V2061	キャリアデザイン		2				1					6	○		
V2062	インターンシップ		2			※ 1						6			卒業要件単位数にのみ加算
V1025	データサイエンス基礎数理	2		1								1	○		
V1001	線形代数Ⅰ	2		1								1	○		
V1002	線形代数Ⅱ	2			1							1	○		
V1003	微分積分Ⅰ及び演習	3		2								1	○		
V2039	微分積分Ⅱ及び演習		3		2							1	○		○
V2040	微分方程式		2		1							1	○		○
V2001	確率・統計		2		1							1	○		
V2041	フーリエ解析		2			1						1	○		○
V1007	物理学（力学）	2			1							1	○		
V2042	物理学（波動）		2		1							1	○		○
V2003	量子物理		2			1						1	○		○
V2043	電子情報工学概論		2	1								2	○		
V1009	物理実験	2				2						1	○		
V2005	化学		2	1								1	○		
V1011	プログラミングⅡ及び演習	3			2							2	○		
V2006	プログラミングⅢ		2		1							2	○		
V2058	電気電子工学基礎		2	1								2	○		
V1012	電気磁気学Ⅰ及び演習	3			2							2	○		
V1013	電気磁気学Ⅱ及び演習	3				2						2	○		
V2044	電磁界理論		2			1						2	○		○
V1014	電気回路Ⅰ及び演習	3			2							2	○		
V1015	電気回路Ⅱ及び演習	3				2						2	○		
V2008	電気回路Ⅲ		2			1						2	○		○
V1016	アナログ回路Ⅰ	2				1						2	○		
V2009	アナログ回路Ⅱ		2			1						2	○		○
V1017	デジタル回路Ⅰ	2				1						2	○		
V2010	デジタル回路Ⅱ		2			1						2	○		○
V2045	電気電子計測		2			1						3	○		○
V2046	電気電子材料学Ⅰ		2			1						3	○		
V2047	電気電子材料学Ⅱ		2				1					3	○		
V2013	電子デバイス工学		2				1					3	○		○
V2049	真空気体電子工学		2				1					3	○		
V2050	オプトエレクトロニクス		2				1					3	○		
V2051	計算機工学		2				1					3	○		
V2052	組込システム		2			1						3	○		
V2021	制御工学		2				1					3	○		
V2053	ロボティクス		2					1				3	○		
V2055	情報伝送工学		2				1					3	○		
V2054	画像音響工学		2					1				3	○		
V2026	電磁波工学		2						1			3	○		
V2028	通信システムⅠ		2				1					3	○		
V2029	通信システムⅡ		2					1				3	○		
V2030	通信ネットワーク		2				1					3	○		
V2057	電気技術英語		2				1					6	○		
V2056	電気実用英語		2					1				6	○		
V2031	電波・通信法規		2						1			3	○		
V1018	電子情報工学実験Ⅰ	2					2					2	○		開講学期変更の可能性あり
V1019	電子情報工学実験Ⅱ	2					2					2	○		開講学期変更の可能性あり
V1020	電子情報工学実験Ⅲ	2					2					3	○		開講学期変更の可能性あり
V1021	電子情報工学実験Ⅳ	2						2				3	○		開講学期変更の可能性あり
V1022	電子情報工学実験Ⅴ	2						2				3	○		開講学期変更の可能性あり
V1023	電子情報工学実験Ⅵ	2						2				3	○		開講学期変更の可能性あり
V2063	電気機器設計		2						1			2	○		
V2064	職業指導（工業）		2							1		6	○		
V1024	卒業研究	4									※ 1	3			
V2034	高大連携特別講義 A		2												卒業要件単位数にのみ加算
V2035	高大連携特別講義 B		2												卒業要件単位数にのみ加算
V2036	高大連携特別講義 C		1												卒業要件単位数にのみ加算

専門教育科目

	科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考
			必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
総合教育科目	G1829	コミュニケーション英語A	1		1								4	○		
	G1830	コミュニケーション英語C	1		1								4	○		
	G1831	コミュニケーション英語D	1			1							4	○		
	G3834	コミュニケーション英語B	1			1							4	○		
	G3832	TOEIC・視聴覚英語 A	1				1						4	○		
	G3833	TOEIC・視聴覚英語 B	1				1		ここから6単位以上			4	○			
	G3835	英語ワークショップA:スピーキング&プレゼンテーション	1			1							4	○		前期にも開講する場合あり
	G3836	英語ワークショップB:上級リーディング	1			1							4	○		前期にも開講する場合あり
	G3837	英語ワークショップC:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習	1			1							4	○		前期にも開講する場合あり
	G3838	英語ワークショップD:海外留学英語	1			1			ここから8単位以上			4	○		前期にも開講する場合あり	
	G3845	英語圏のことばと文化 A	2				1						4	○	○	
	G3846	英語圏のことばと文化 B	2				1						4	○	○	
	G3843	中国語 A	1		1								4	○		
	G3844	中国語 B	1			1							4	○		
	G3841	フランス語 A	1		1								4	○		
	G3842	フランス語 B	1			1							4	○		
	G3839	ドイツ語 A	1		1								4	○		
	G3840	ドイツ語 B	1			1							4	○		
	G2834	複素関数論		2			1						1	○	○	
	G2835	代数学		2				1					1	○	○	
	G2836	統計物理		2			1						1	○	○	
	G2837	質点系と剛体の力学		2			1						1	○	○	
	G2036	人間性の探究		2		ここから24単位以上						5	○	○		
	G2001	こころの科学		2								5	○	○		
	G2026	人間の行動		2								5	○	○		
	G2064	科学技術と自然と人間		2								5	○	○		
	G2065	表現文化		2								5	○	○		
	G2014	現代社会の探究		2								5	○			
	G2013	現代の経済		2		履修する学年・学期を定めない。 毎週授業時間数1コマ。						5	○	○		
	G2066	現代社会と法		2								5	○			
	G2048	日本国憲法		2								5	○			
	G2010	健康の科学		2								5	○	○		
	G2067	ものづくり文化		2								5	○	○		
	G2821	環境と地域共創		2								5	○	○		
	G2069	創造と倫理		2								5	○	○		
	G2841	日本語リテラシ		2	1								6	○		開講学期変更の可能性あり
	G2822	ものづくり文化実習		1	1								5	○	○	開講学期変更の可能性あり
	G2008	健康・スポーツ科学実習Ⅰ		1	1								5	○	○	
	G2009	健康・スポーツ科学実習Ⅱ		1		1							5	○	○	
	G2838	中国のことばと文化		2			1						4	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2839	フランスのことばと文化		2			1						4	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2840	ドイツのことばと文化		2			1						4	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2070	特別講義		2									5			年度によって開講しない場合がある
	G2823	日本語コミュニケーション		2	1～4年次の前期に開講								6			卒業・進級要件単位には含めない
	G2824	海外研修英語		1	※1								4		○	
	G2833	海外留学英語		4	2年後期または3年後期に開講								4		○	

- 履修期は基本的な開講学年学期とし変更する場合がある。
- ※1印の授業科目は毎週の授業時間数を定めない。
- 副専攻の詳細は132ページ
- DPはディプロマ・ポリシーの該当番号に対応
- 備考の記号(○印)の詳細は36ページ

■ 注意

1. 卒業および進級要件に含めない科目

- ・ インターンシップ、高大連携特別講義は進級判定時の単位数には含めず、卒業要件単位数にのみ加算します。
※インターンシップの詳細は「V学生生活>キャリアセンター」を参照して下さい。
- ・ 日本語コミュニケーションで修得した単位は、卒業・進級要件に含めません。

2. 履修上の注意

- (1) 他専攻に同一名称の科目がある場合は、電子情報工学専攻で開講している科目を履修して下さい。
- (2) 電気電子工学基礎(1年前期)は選択科目で、内容は基本的、初歩的なものですが、その後に続く電気系科目を履修するための基礎となるので全員必ず履修するようにして下さい。
- (3) 総合教育科目の履修については「Ⅲ教育課程>基礎教育センター」を参照して下さい。

3. 他専攻・他学科・他大学履修の注意

自らの専門分野を超え、幅広く柔軟な視野と知識を修得するために、自分の専攻にない他専攻・他学科・他大学の科目を履修することができます。

なお、安易な履修登録など、この目的に合わないと判断した場合は、履修を認めない場合があります。

また、他専攻・他学科・他大学の科目を修得した場合は、卒業および進級に必要な単位として以下の表のとおり認定されます。

履 修 科 目		卒業・進級に必要な単位 として認定される科目区分		卒業・進級に必要な単位 として認定される上限
所属学科 他専攻 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		20単位まで
他学科 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		6単位まで
単位互換制度による 他大学開設科目		科目区分は履修登録 後、審査して決定され ます。	専門教育科目(選択) の単位として認定	6単位まで
			総合教育科目(選択) の単位として認定	4単位まで

4. 資格試験に関する授業の履修上の注意

- (1) 卒業後、第一級陸上無線技術士国家試験において試験科目「無線工学の基礎」の免除を受けようとする者は、選択科目のうち○印の授業科目全部の単位を修得して下さい。なお、有効期限は卒業後3年です。
- (2) 卒業後、第一級陸上特殊無線技士資格又は第二級海上特殊無線技士資格の免許を申請しようとする者は、選択科目のうち「電気電子計測」、「通信システムⅠ」、「通信システムⅡ」、「電磁波工学」及び「電波・通信法規」の5科目の単位を修得して下さい。
- (3) 卒業後、電気通信主任技術者試験において試験科目の免除を受けようとする者は、選択科目のうち、「微分積分Ⅱ及び演習」、「物理学(波動)」、「アナログ回路Ⅱ」、「電気電子計測」、「通信システムⅠ」、「通信システムⅡ」、「通信ネットワーク」、「電磁波工学」及び「オプトエレクトロニクス」の9科目の単位を修得して下さい。

■ 卒業進級要件

1. 上級年次への進級要件

以下の表に定める単位を修得したものは、上級年次へ進級することができます。

1年次から2年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	28単位以上		28単位以上
選択科目			

※GPAが0.5以上であること。

2年次から3年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	30単位以上		60単位以上
選択科目	必修科目と合わせて60単位以上		

3年次から4年次

	専門教育科目	総合教育科目※	計
必修科目	46単位以上　うち { 電子情報工学実験 1・2・3・4・5・6 } を全て修得していること		95単位以上
選択科目	必修科目と合わせて95単位以上		

※進級要件単位数としては24単位まで認める。

2. 卒業要件

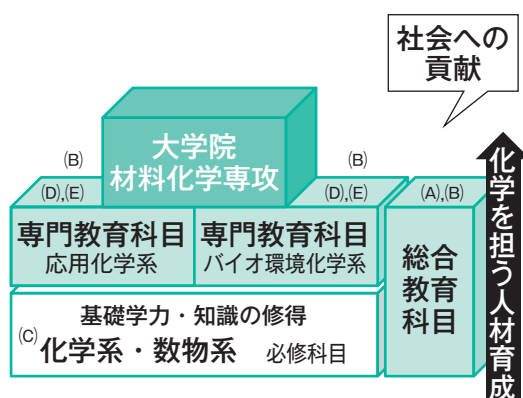
以下の表に定める単位を修得したものは、卒業することができます。

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	52単位	8単位※	60単位
選択科目	48単位以上	16単位以上	64単位以上
計	100単位以上	24単位以上	124単位以上

※必修科目3単位と選択必修科目5単位の合計とする。ただし、このうち英語系科目を6単位以上修得していること。

応 用 化 学 科

日本の得意とする「ものづくり」を極める、すなわち車や各種工業製品、建物、家電、生活用品、医薬品、食品、飲料などの特性を向上させ、産業界における新しい素材や先端技術を開発するために、材料化学を担う応用化学の進歩は不可欠だ。この応用化学を担う人材を育成するため、応用化学科には、応用化学専攻とバイオ環境化学専攻の2専攻が設置されている。応用化学専攻では社会生活に関する材料化学を、バイオ環境化学専攻では生命や環境に関する材料化学を柱として、研究教育を実施している。両専攻は密接な協力のもと、主に材料化学に関する教育と研究を行っており、車の両輪として機能している。また更に高度な化学技術の修得のために大学院材料化学専攻も用意されている。



◎応用化学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

応用化学は、新しい物質を作り出すことで産業を支え、環境・エネルギー・資源問題や安全で安心な生活にも貢献している。応用化学科では、学部のディプロマ・ポリシーに基づき、以下の資質・能力を身につけた者に学位を授与する。

1. 応用化学の専門知識を理解する際に必要な自然科学系基礎学力・知識
2. 応用化学の幅広い専門基礎知識
3. 材料物質や生命現象を原子分子レベルで理解し、応用化学の理論や技術を学ぶための専門的な知識
4. 化学技術者として活躍するために不可欠なリーダーシップと協調性、提案する力と解決する力の修得
5. 幅広い教養と豊かな人間性および正しい倫理観に基づくキャリア意識
6. グローバル化した社会に臨む化学技術者に必要な基礎的語学力

◎応用化学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げた化学技術者の育成を実現するために、応用化学科では、次の方針に基づいてカリキュラムを編成し、教育を行う。

1. 教育課程は総合教育科目および学科独自の専門教育科目で構成する。
2. 両専攻とも、1年次では（A）人間性を培う幅広い知識と素養の育成と（C）自然科学系の基礎学力・知識の修得と（D）応用化学系専門基礎学力を養成する。
3. 2年次は、専門必修科目である座学の講義と学生実験を通して、学科共通の専門基礎を学び、3年次では、講義と学生実験を通じて各専攻の（D）専門基礎の修得、（E）専門技術・知識を修得する。系統的に科目を履修することが望ましい。学科内・他専攻履修により、幅広い興味と知的好奇心を育成する。
4. 4年次の卒業研究により（B）人間性・専門性の教育の統合（キャリア教育）と（E）専門技術・知識の習得を深め、社会で活躍できる実践力や創造力と倫理観を養成する。

●●●●● 応用化学科教育課程表 ●●●●●

授 業 科 目	単 位 数	必 選 の 別	
		CC 専 攻	CB 専 攻
データサイエンス基礎数理	2	必	必
応用化学セミナー	1	必	必
現代社会と倫理	2	選	選
キャリア意識形成	2	選	選
キャリアデザイン	2	選	選
ソフトウェア	2	必	必
確率・統計	2	選	選
インターンシップ	2	選	選
線形代数Ⅰ	2	必	必
線形代数Ⅱ	2	選	選
微分積分Ⅰ及び演習	3	選	選
微分積分Ⅱ及び演習	3	選	選
物理学（力学）	2	必	必
物理学（電磁気学）	2	選	選
物理学（波動）	2	選	選
物理実験	2	必	必
基礎化学Ⅰ	2	必	必
基礎化学Ⅱ	2	必	必
無機化学Ⅰ	2	必	必
無機化学Ⅱ	2	必	必
固体構造化学	2	選	選
有機化学Ⅰ	2	必	必
有機化学Ⅱ	2	必	必
有機化学Ⅲ	2	選	選
有機構造解析	2	選	選
物理化学Ⅰ	2	必	必
物理化学Ⅱ	2	必	必
物理化学演習	1	選	選
分析化学Ⅰ	2	必	必
分析化学Ⅱ	2	選	選
化学計測学	2	必	必
環境化学	2	選	選
環境分析化学	2	選	選
高分子化学Ⅰ	2	必	選
高分子化学Ⅱ	2	選	選
超分子化学概論	2	選	選
基礎錯体化学	2	選	選
生物無機化学	2		選
生物有機化学	2	選	選
生物学	2	選	選
基礎化学実験	2	必	必
環境・分析化学実験	2	必	必
化学工学	2	選	選
機械工学概論	2	選	選
化学英語	2	選	選
知的財産権	2	選	選
CAD	2	選	選
応用物理化学	2	選	☆
生物化学概論	2	選	
応用材料化学実験Ⅰ	2	必	

専
門
教
育
科
目

授 業 科 目	単 位 数	必 選 の 別	
		CC 専 攻	CB 専 攻
応用材料化学実験Ⅱ	2	必	
応用化学演習	1	必	必
機能性セラミックス化学	2	選	☆
無機材料化学	2	選	☆
エネルギー材料化学	2	選	☆
機能性高分子化学	2	選	☆
高分子系複合材料化学	2	選	☆
電気工学概論	2	選	☆
金属材料化学概論	2	選	☆
固体反応化学	2	選	☆
電気化学	2	選	☆
高分子材料物性	2	選	☆
分子生物学	2	☆	必
生物化学Ⅰ	2		必
生物化学Ⅱ	2		選
バイオ環境化学実験Ⅰ	2		必
バイオ環境化学実験Ⅱ	2		必
生体高分子化学	2	☆	選
医薬品化学	2	☆	選
食品化学	2	☆	選
微生物学	2	☆	選
生体情報化学	2	☆	選
卒業研究	4	必	必
高大連携特別講義A	2	選	選
高大連携特別講義B	2	選	選
高大連携特別講義C	1	選	選
地学概論	2	選	選

専
門
教
育
科
目

☆印は専門教育科目（選択）の単位として認定される他専攻の科目

応用化学専攻 科目系統図

必修科目
選択必修科目

		1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合教育科目	学習教育目標	(A) 人間性を培う幅広い知識と素養の育成							
	・言語およびコミュニケーション活動に関心を持ち、正確な言語理解と適切な表現のできる国際人を目指す。	コミュニケーションA 英語・文化・国際関係入門	コミュニケーションB 英語・文化・国際関係入門	TOEIC・聴覚英語A TOEIC・聴覚英語B	TOEIC・聴覚英語A TOEIC・聴覚英語B				
	・人間・社会・言語に関する知識を深め、それらの知識(の関連づけ)と論理的な思考によって、日常のさまざまな現象を明らかにする力を養う。	中国語A フランス語A	中国語B フランス語B						
	・多様な領域の講義を通して、よき市民としての広い視野と素養を身につける。	ドイツ語A	ドイツ語B	英語圏のことばと文化A 英語圏のことばと文化B 中国のことばと文化 フランスのことばと文化 ドイツのことばと文化					
		日本語リテラシー							
専門教育科目	学習教育目標	(B) 人間性の教育・専門性の教育の統合 (E) 専門知識の修得・フレゼン能力・コミュニケーション能力の習熟・化学技術者としての自主性と継続学習能力の育成							
	・自然科学、化学の基礎的知識の育成 ・論理的に考える力、議論する力の育成	データサイエンス基礎数理 微分積分Ⅰ及び演習 線形代数Ⅰ	微分積分Ⅱ及び演習 線形代数Ⅱ 物理学(力学) 物理学(電磁気学) 物理実験		物理学(波動)				
	・応用化学専攻専門知識と技術の育成 ・専門基礎と専門の連携による系統的履修で理解度の向上	基礎化学Ⅰ 生物学	基礎化学Ⅱ 無機化学Ⅰ 有機化学Ⅰ	無機化学Ⅱ 有機化学Ⅱ 物理化学Ⅰ 物理化学Ⅱ 高分子化学Ⅰ 高分子化学Ⅱ 分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 超分子化学概論	無機化学Ⅱ 有機化学Ⅱ 物理化学Ⅰ 物理化学Ⅱ 高分子化学Ⅰ 高分子化学Ⅱ 分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 基礎錯体化学 生物化学概論 生物有機化学	機能性セラミクス化学 固体反応化学 応用物理化学 電気化学 高分子材料物性 高分子系複合材料化学 化学計測学 環境分析化学 環境化学	無機材料化学 有機構造解析 エネルギー材料化学 機能性高分子化学 高分子系複合材料化学 環境分析化学 環境化学		
	・情報技術の習得 ・工学専門知識と技術の習得(キャリア教育)	ソフトウェア						CAD	
	・座学と演習・実験科目の連携による理解度の向上 ・チームワーク、リーダーシップ育成 ・社会的・職業的に自立した学生を育成(キャリア教育倫理教育)	応用化学セミナー				基礎化学実験 環境・分析化学実験 応用材料化学実験Ⅰ 応用材料化学実験Ⅱ 応用化学演習	化学英語 金属材料化学概論 知的財産権		現代社会と倫理

●●●●● 応用化学専攻教育課程表 ●●●●●

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 出 発 点	副 専 攻	備 考	
		必修	選択	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次						
				前	後	前	後	前	後	前	後					
専門 教育 科目	C1094 データサイエンス基礎数理	2		1								1	○			
	C1002 応用化学セミナー	1		1								4				
	C2206 現代社会と倫理		2								1	5	○		開講学期変更の可能性あり	
	C2207 キャリア意識形成		2			1						5	○		開講学期変更の可能性あり	
	C2208 キャリアデザイン		2						1				5	○		
	C1095 ソフトウェア	2		1									1	○		
	C2210 確率・統計		2							1			3	○		
	C2183 インターンシップ		2	※ 1								5			卒業要件単位数にのみ加算	
	C1044 線形代数Ⅰ	2		1									1	○		
	C2080 線形代数Ⅱ		2		1								1	○		
	C2184 微分積分Ⅰ 及び演習		3	2									1	○		
	C2102 微分積分Ⅱ 及び演習		3		2								1	○		
	C1084 物理学（力学）	2			1								1	○		
	C2185 物理学（電磁気学）		2			1							1	○		
	C2162 物理学（波動）		2				1						1	○		
	C1060 物理実験	2				2							1	○		
	C1024 基礎化学Ⅰ	2		1									1	○		
	C1025 基礎化学Ⅱ	2			1								1	○		
	C1067 無機化学Ⅰ	2			1								2	○		
	C1068 無機化学Ⅱ	2				1							2	○		
	C1076 有機化学Ⅰ	2			1								2	○		
	C1078 有機化学Ⅱ	2				1							2	○		
	C2131 有機化学Ⅲ		2				1						2	○		
	C1055 物理化学Ⅰ	2				1							2	○		
	C1056 物理化学Ⅱ	2					1						1・2	○		
	C2105 物理化学演習		1				1						2	○		
	C2196 応用物理化学		2					1					3	○		
	C1062 分析化学Ⅰ	2				1							2	○		
	C2115 分析化学Ⅱ		2				1						2	○		
	C1083 化学計測学	2						1					3	○		
	C1036 高分子化学Ⅰ	2				1							2	○		
	C2164 高分子化学Ⅱ		2				1						2	○		
	C2202 生物学		2	1									1	○		
	C2203 化学工学		2					1					3	○		
	C1092 基礎化学実験	2					2						2・4	○		
	C1088 環境・分析化学実験	2						2					2・4	○		
	C1089 応用材料化学実験Ⅰ	2							2				3・4	○		
	C1090 応用材料化学実験Ⅱ	2								2			3・4	○		
	C1096 応用化学演習	1								1			3・4			
	C2186 超分子化学概論		2				1						2	○		
	C2204 基礎錯体化学		2					1					2	○		
	C2188 生物有機化学		2					1					2	○		
	C2073 生物化学概論		2					1					2	○		
	C2167 固体構造化学		2					1					2	○		
	C2168 固体反応化学		2						1				3	○		
	C2174 機能性セラミックス化学		2						1				3	○		
	C2125 無機材料化学		2							1			3	○		
C2166 電気化学		2						1				2・3	○			
C2172 エネルギー材料化学		2							1			3	○			
C2169 高分子材料物性		2							1			3	○			
C2175 機能性高分子化学		2							1			3	○			
C2205 高分子系複合材料化学		2							1			3	○			
C2189 有機構造解析		2							1			2	○			
C2026 環境化学		2							1			3	○			
C2030 環境分析化学		2							1			3	○			
C2201 金属材料化学概論		2							1			3	○			
C2179 化学英語		2						1				3	○			
C2200 CAD		2									1	3	○			
C2199 知的財産権		2								1		3	○			
C2032 機械工学概論		2							1			3	○			
C2090 電気工学概論		2							1			3	○			

専門教育科目

CC

応用化学専攻

	科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 出 発 対 象	副 専 攻	備 考
			必修	選択	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
専門 教育 科目	C1047	卒業研究	4									※1	3・4			
	C2191	高大連携特別講義 A		2									2			卒業要件単位数にのみ加算
	C2192	高大連携特別講義 B		2									2			卒業要件単位数にのみ加算
	C2193	高大連携特別講義 C		1									2			卒業要件単位数にのみ加算
	C2178	地学概論											1			教職課程科目 卒業・進級要件単位には含めない
総合 教育 科目	G1829	コミュニケーション英語A	1		1								6	○		
	G1830	コミュニケーション英語C	1		1								6	○		
	G1831	コミュニケーション英語D	1			1							6	○		
	G3834	コミュニケーション英語B	1			1							6	○		
	G3832	TOEIC・視聴覚英語 A	1				1						6	○		
	G3833	TOEIC・視聴覚英語 B	1					1					6	○		
	G3835	英語ワークショップA:スピーキング&プレゼンテーション	1			1							6	○		前期にも開講する場合あり
	G3836	英語ワークショップB:リスニング	1			1							6	○		前期にも開講する場合あり
	G3837	英語ワークショップC:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習	1			1							6	○		前期にも開講する場合あり
	G3838	英語ワークショップD:海外留学英語	1			1							6	○		前期にも開講する場合あり
	G3845	英語圏のことばと文化A	2				1						6	○	○	
	G3846	英語圏のことばと文化B	2				1						6	○	○	
	G3843	中国語 A	1		1								6	○		
	G3844	中国語 B	1			1							6	○		
	G3841	フランス語 A	1		1								6	○		
	G3842	フランス語 B	1			1							6	○		
	G3839	ドイツ語 A	1		1								6	○		
	G3840	ドイツ語 B	1			1							6	○		
	G2834	複素関数論		2				1					2	○	○	
	G2835	代数学		2					1				2	○	○	
	G2836	統計物理		2				1					2	○	○	
	G2837	質点系と剛体の力学		2				1					2	○	○	
	G2036	人間性の探究		2									5	○	○	
	G2001	こころの科学		2									5	○	○	
	G2026	人間の行動		2									5	○	○	
	G2064	科学技術と自然と人間		2									5	○	○	
	G2065	表現文化		2									5	○	○	
	G2014	現代社会の探究		2									5	○		
	G2013	現代の経済		2									5	○	○	
	G2066	現代社会と法		2									5	○		
	G2048	日本国憲法		2									5	○		
	G2010	健康の科学		2									5	○	○	
	G2067	ものづくり文化		2									5	○	○	
	G2821	環境と地域共創		2									5	○	○	
	G2069	創造と倫理		2									5	○	○	
	G2841	日本語リテラシ		2	1								1	○		開講学期変更の可能性あり
	G2822	ものづくり文化実習		1	1								5	○	○	開講学期変更の可能性あり
	G2008	健康・スポーツ科学実習Ⅰ		1	1								5	○	○	
	G2009	健康・スポーツ科学実習Ⅱ		1		1							5	○	○	
	G2838	中国のことばと文化		2				1					5	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2839	フランスのことばと文化		2				1					5	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2840	ドイツのことばと文化		2				1					5	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2070	特別講義		2									5			年度によって開講しない場合がある
	G2823	日本語コミュニケーション		2									5			卒業・進級要件単位には含めない
	G2824	海外研修英語		1						※1			6		○	
	G2833	海外留学英語		4									6		○	

- 履修期は基本的な開講学年学期とし変更する場合がある。
- ※1印の授業科目は毎週の授業時間数を定めない。
- 副専攻の詳細は132ページ
- DPはディプロマ・ポリシーの該当番号に対応

CC

応用化学専攻

■ 注意

1. 卒業および進級要件に含めない科目

- ・ インターンシップ、高大連携特別講義は進級判定時の単位数には含めず、卒業要件単位数にのみ加算します。
※インターンシップの詳細は「V 学生生活>キャリアセンター」を参照して下さい。
- ・ 日本語コミュニケーションで修得した単位は、卒業・進級要件に含めません。
- ・ 地学概論は教職課程履修者(「理科」の免許取得者)の履修科目であり、卒業および進級要件には含みません。

2. 履修上の注意

- (1) 応用化学科では、化学の知識を生かして社会に貢献できる人材を育成するために、専門の化学を基礎から応用へと系統的に学習できるようなカリキュラムを提供しています。そのため、履修の際には、大学の化学への導入を講義する基礎化学I、Ⅱと、必修の化学系専門教育科目に加え、引き続き様々な選択の化学系専門教育科目の履修が不可欠です。授業の無い時間は予習復習に使いましょう。
- (2) 卒研を行うために必要な選択科目があります。3年前期は指導教員に相談し、将来どのような選択科目が必要になるかを考えて履修科目を選びましょう。3年後期はセミナー研究室の教員に選択科目を相談するとよいでしょう。
- (3) 3年前後期には化学系各分野における高度な化学系選択科目が開講されており、系統的に履修することで、理解がより深まるでしょう。学部卒あるいは大学院修了後に化学技術者を目指す人は、卒業に必要な専門教育科目の単位数を化学系選択科目でそろえることを勧めます。
- (4) 3年次には応用化学専攻、バイオ環境化学専攻ともに専攻独自の専門教育科目を開講しています。☆印の他専攻履修を活用し、自分の進路に必要な科目を履修して下さい。
- (5) 3年前期までに卒業研究を除いた卒業に必要な単位を修得した人は、3年後期に工学部系の概論科目を複数開講しているので履修するとよいでしょう。
- (6) 応用化学科では、専門の講義科目による知識の体系化と実験・演習科目による知識の集積化を進めています。膨大な情報量がある化学の知識は、理解を積み重ねることで、身に付きます。講義と実験・演習を組み合わせることにより、応用可能な知識・知恵となります。修得したことを忘れずに、次の学期の履修に生かしましょう。
- (7) 必修科目を再履修となった場合において、1年次開講の必修科目と2年次開講の必修科目、もしくは2年次開講の必修科目と3年次開講の必修科目の開講曜日時限が重なっている場合は、科目担当教員に相談し低学年開講の必修科目を優先して履修すること。
- (8) 他学科が開講する化学の講義を履修しても、応用化学科の進級・卒業に必要な単位とは認められません。
- (9) 総合教育科目の履修については「III 教育課程>基礎教育センター」を参照して下さい。

3. 他専攻・他学科・他大学履修の注意

自らの専門分野を超え、幅広く柔軟な視野と知識を修得するために、自分の専攻にない他専攻・他学科・他大学の科目を履修することが出来ます。

なお、安易な履修登録など、この目的に合わない判断した場合は、履修を認めない場合があります。

また、他専攻・他学科・他大学の科目を修得した場合は、卒業および進級に必要な単位として以下の表のとおり認定されます。

履 修 科 目		卒業・進級に必要な単位として認定される科目区分		卒業・進級に必要な単位として認定される上限
所属学科 他専攻 開設科目	専門教育科目	バイオ環境化学専攻の☆印のみ専門教育科目(選択)の単位として認定		10単位まで
他学科 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		6単位まで
単位互換制度による 他大学開設科目		科目区分は履修登録後、 審査して決定されます。	専門教育科目(選択)の単位として認定 総合教育科目(選択)の単位として認定	4単位まで

■ 卒業進級要件

1. 上級年次への進級要件

以下の表に定める単位を修得したものは、上級年次へ進級することができます。

1年次から2年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	10単位以上 うち応用化学セミナーを修得していること		10単位以上
選択科目			

※GPAが0.5以上であること。

2年次から3年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	51単位以上 うち { 基礎化学実験、 環境・分析化学実験 } を全て修得していること		51単位以上
選択科目			

※総合教育科目の算定は10単位まで

3年次から4年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	99単位以上 うち { 応用材料化学実験Ⅰ・Ⅱ、 応用化学演習 } を全て修得していること		99単位以上
選択科目			

※総合教育科目の算定は18単位まで

2. 卒業要件

以下の表に定める単位を修得したものは、卒業することができます。

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	46単位	8単位※	54単位
選択科目	54単位以上	16単位以上	70単位以上
計	100単位以上	24単位以上	124単位以上

※必修科目3単位と選択必修科目5単位の合計とする。ただし、このうち英語系科目を6単位以上修得していること。

選 択 必 修 科 目

47 • • •

●●●●● バイオ環境化学専攻教育課程表 ●●●●●

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考
		必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
専門 教育 科目	B1026 データサイエンス基礎数理	2		1								1	○		
	B1027 応用化学セミナー	1		1								4			
	B2064 現代社会と倫理		2								1	5	○		開講学期変更の可能性あり
	B2065 キャリア意識形成		2			1						5	○		開講学期変更の可能性あり
	B2066 キャリアデザイン		2					1				5	○		
	B1030 ソフトウェア	2		1								1	○		
	B2073 確率・統計		2						1			3	○		
	B2069 インターンシップ		2	※ 1								5			卒業要件単位数にのみ加算
	B1001 線形代数Ⅰ	2		1								1	○		
	B2001 線形代数Ⅱ		2		1							1	○		
	B2002 微分積分Ⅰ及び演習		3	2								1	○		
	B2003 微分積分Ⅱ及び演習		3		2							1	○		
	B1002 物理学（力学）	2			1							1	○		
	B2004 物理学（電磁気学）		2			1						1	○		
	B2005 物理学（波動）		2				1					1	○		
	B1003 物理実験	2					2					1	○		
	B1004 基礎化学Ⅰ	2		1								1	○		
	B1005 基礎化学Ⅱ	2			1							1	○		
	B1006 無機化学Ⅰ	2			1							2	○		
	B1007 無機化学Ⅱ	2				1						2	○		
	B1008 有機化学Ⅰ	2			1							2	○		
	B1009 有機化学Ⅱ	2				1						2	○		
	B2045 有機化学Ⅲ		2				1					2	○		
	B1010 物理化学Ⅰ	2				1						2	○		
	B1011 物理化学Ⅱ	2					1					1・2	○		
	B2052 物理化学演習		1				1					2	○		
	B1012 分析化学Ⅰ	2				1						2	○		
	B2009 分析化学Ⅱ	2		2			1					2	○		
	B1013 化学計測学	2						1				3	○		
	B2043 高分子化学Ⅰ		2			1						2	○		
	B2010 高分子化学Ⅱ		2				1					2	○		
	B1028 生物化学Ⅰ	2		1								1	○		
	B2070 生物化学Ⅱ		2		1							1	○		
	B2058 生物学		2	1								1	○		
	B2060 化学工学		2					1				3	○		
	B1022 基礎化学実験	2				2						2・4	○		
	B1017 環境・分析化学実験	2					2					2・4	○		
	B2071 超分子化学概論		2			1						2	○		
	B2061 基礎錯体化学	2					1					2	○		
	B2021 生物無機化学	2						1				2	○		
	B2022 生物有機化学		2				1					2	○		
	B1029 分子生物学	2				1						2	○		
	B2015 固体構造化学		2				1					2	○		
	B2018 有機構造解析	2							1			2	○		
	B2023 環境化学	2							1			3	○		
	B2024 環境分析化学	2							1			3	○		
	B2053 化学英語	2						1				3	○		
	B2057 CAD	2									1	3	○		
	B2056 知的財産権	2								1		3	○		
	B2036 機械工学概論		2						1			3	○		
B1018 バイオ環境化学実験Ⅰ	2						2				3・4	○			
B1019 バイオ環境化学実験Ⅱ	2							2			3・4	○			
B1031 応用化学演習	1							1			3・4				
B2026 微生物学		2						1			3	○			
B2062 生体高分子化学		2						1			3	○			
B2063 医薬品化学		2							1		3	○			
B2031 生体情報化学		2					1				3	○			
B2025 食品化学		2						1			3	○			
B1021 卒業研究	4									※1	3・4				
B2039 高大連携特別講義A		2									2			卒業要件単位数にのみ加算	
B2040 高大連携特別講義B		2									2			卒業要件単位数にのみ加算	
B2041 高大連携特別講義C		1									2			卒業要件単位数にのみ加算	
B2042 地学概論		2									1			教職課程科目 卒業・進級要件単位には含まない	

CB

バイオ環境化学専攻

専門教育科目

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考
		必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
総合教育科目	G1829 コミュニカティブイングリッシュA	1		1								6	○		
	G1830 コミュニカティブイングリッシュC	1		1								6	○		
	G1831 コミュニカティブイングリッシュD	1			1							6	○		
	G3834 コミュニカティブイングリッシュB	1			1							6	○		
	G3832 TOEIC・視聴覚英語A	1				1						6	○		
	G3833 TOEIC・視聴覚英語B	1					1					6	○		
	G3835 英語7-ジョブA:スピーキング&リスニング	1			1							6	○		前期にも開講する場合あり
	G3836 英語7-ジョブB:上級リスニング	1			1							6	○		前期にも開講する場合あり
	G3837 英語7-ジョブC:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習	1			1							6	○		前期にも開講する場合あり
	G3838 英語7-ジョブD:海外留学英語	1			1							6	○		前期にも開講する場合あり
	G3845 英語圏のことばと文化A	2				1						6	○	○	
	G3846 英語圏のことばと文化B	2				1						6	○	○	
	G3843 中国語A	1		1								6	○		
	G3844 中国語B	1			1							6	○		
	G3841 フランス語A	1		1								6	○		
	G3842 フランス語B	1			1							6	○		
	G3839 ドイツ語A	1		1								6	○		
	G3840 ドイツ語B	1			1							6	○		
	G2834 複素関数論		2				1					2	○	○	
	G2835 代数学		2					1				2	○	○	
	G2836 統計物理		2				1					2	○	○	
	G2837 質点系と剛体の力学		2				1					2	○	○	
	G2036 人間性の探究		2									5	○	○	
	G2001 こころの科学		2									5	○	○	
	G2026 人間の行動		2									5	○	○	
	G2064 科学技術と自然と人間		2									5	○	○	
	G2065 表現文化		2									5	○	○	
	G2014 現代社会の探究		2									5	○		
	G2013 現代の経済		2									5	○	○	
	G2066 現代社会と法		2									5	○		
	G2048 日本国憲法		2									5	○		
	G2010 健康の科学		2									5	○	○	
	G2067 ものづくり文化		2									5	○	○	
	G2821 環境と地域共創		2									5	○	○	
	G2069 創造と倫理		2									5	○	○	
	G2841 日本語リテラシ		2	1								1	○		開講学期変更の可能性あり
	G2822 ものづくり文化実習		1	1								5	○	○	開講学期変更の可能性あり
	G2008 健康・スポーツ科学実習Ⅰ		1	1								5	○	○	
	G2009 健康・スポーツ科学実習Ⅱ		1		1							5	○	○	
	G2838 中国のことばと文化		2				1					5	○	○	後期にも開講する場合あり
G2839 フランスのことばと文化		2				1					5	○	○	後期にも開講する場合あり	
G2840 ドイツのことばと文化		2				1					5	○	○	後期にも開講する場合あり	
G2070 特別講義		2									5			年度によって開講しない場合がある	
G2823 日本語コミュニケーション		2		1～4年次の前期に開講								5			卒業・進級要件単位には含めない
G2824 海外研修英語		1		※ 1						6		○			
G2833 海外留学英語		4		2年後期または3年後期に開講								6		○	

- 履修期は基本的な開講学年学期とし変更する場合がある。
- ※ 1 印の授業科目は毎週の授業時間数を定めない。
- 副専攻の詳細は132ページ
- DPはディプロマ・ポリシーの該当番号に対応

CB

バイオ環境化学専攻

■ 注意

1. 卒業および進級要件に含めない科目

- ・ インターンシップ、高大連携特別講義は進級判定時の単位数には含めず、卒業要件単位数にのみ加算します。
※インターンシップの詳細は「V 学生生活>キャリアセンター」を参照して下さい。
- ・ 日本語コミュニケーションで修得した単位は、卒業・進級要件に含めません。
- ・ 地学概論は教職課程履修者(「理科」の免許取得者)の履修科目であり、卒業および進級要件には含みません。

2. 履修上の注意

- (1) 応用化学科では、化学の知識を生かして社会に貢献できる人材を育成するために、専門の化学を基礎から応用へと系統的に学習できるようなカリキュラムを提供しています。そのため、履修の際には、大学の化学への導入を講義する基礎化学I、IIと、必修の化学系専門教育科目に加え、引き続き様々な選択の化学系専門教育科目の履修が不可欠です。生物化学I、IIはバイオ環境化学専攻独自の科目であり、CB専攻の柱の1つであるバイオ系専門教育科目の基礎となる科目です。授業の無い時間は予習復習に使いましょう。
- (2) 卒研を行うために必要な選択科目があります。3年前期は指導教員に相談し、将来どのような選択科目が必要になるかを考えて履修科目を選びましょう。3年後期はセミナー研究室の教員に選択科目を相談するとよいでしょう。
- (3) バイオ環境化学専攻では、3年前後期に化学系・バイオ系各分野における高度な化学系・バイオ系各選択科目が開講されており、系統的に履修することで、理解がより深まるでしょう。学部卒あるいは大学院修了後にバイオ系化学技術者を目指す人は、卒業に必要な専門教育科目の単位数を化学系・バイオ系各選択科目でそろえることを勧めます。
- (4) 3年次には応用化学専攻、バイオ環境化学専攻ともに専攻独自の専門教育科目を開講しています。☆印の他専攻履修を活用し、自分の進路に必要な科目を履修して下さい。
- (5) 3年前期までに卒業研究を除いた卒業に必要な単位を修得した人は、3年後期に工学部系の概論科目を複数開講しているので履修するとよいでしょう。
- (6) 応用化学科では、専門の講義科目による知識の体系化と実験・演習科目による知識の集積化を進めています。膨大な情報量がある化学・バイオの知識は、理解を積み重ねることで、身に付きます。講義と実験・演習を組み合わせることにより、応用可能な知識・知恵となります。修得したことを忘れずに、次の学期の履修に生かしましょう。
- (7) 必修科目を再履修となった場合において、1年次開講の必修科目と2年次開講の必修科目、もしくは2年次開講の必修科目と3年次開講の必修科目の開講曜日時限が重なっている場合は、科目担当教員に相談し低学年開講の必修科目を優先して履修すること。
- (8) 他学科が開講する化学の講義を履修しても、応用化学科の進級・卒業に必要な単位とは認められません。
- (9) 総合教育科目の履修については「Ⅲ教育課程>基礎教育センター」を参照して下さい。

3. 他専攻・他学科・他大学履修の注意

自らの専門分野を超え、幅広く柔軟な視野と知識を修得するために、自分の専攻にない他専攻・他学科・他大学の科目を履修することが出来ます。

なお、安易な履修登録など、この目的に合わない判断した場合は、履修を認めない場合があります。

また、他専攻・他学科・他大学の科目を修得した場合は、卒業および進級に必要な単位として以下の表のとおり認定されます。

履 修 科 目		卒業・進級に必要な単位として認定される科目区分		卒業・進級に必要な単位として認定される上限
所属学科 他専攻 開設科目	専門教育科目	応用化学専攻の☆印のみ専門教育科目(選択)の単位として認定		10単位まで
他学科 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		6単位まで
単位互換制度による 他大学開設科目		科目区分は履修登録後、 審査して決定されます。	専門教育科目(選択)の単位として認定 総合教育科目(選択)の単位として認定	4単位まで

■ 卒業進級要件

1. 上級年次への進級要件

以下の表に定める単位を修得したものは、上級年次へ進級することができます。

1年次から2年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	10単位以上 うち応用化学セミナーを修得していること		10単位以上
選択科目			

※GPAが0.5以上であること。

2年次から3年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	51単位以上 うち { 基礎化学実験、 環境・分析化学実験 } を全て修得していること		51単位以上
選択科目			

※総合教育科目の算定は10単位まで

3年次から4年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	99単位以上 うち { バイオ環境化学実験I・II、 応用化学演習 } を全て修得していること		99単位以上
選択科目			

※総合教育科目の算定は18単位まで

2. 卒業要件

以下の表に定める単位を修得したものは、卒業することができます。

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	48単位	8単位※	56単位
選択科目	52単位以上	16単位以上	68単位以上
計	100単位以上	24単位以上	124単位以上

※必修科目3単位と選択必修科目5単位の合計とする。ただし、このうち英語系科目を6単位以上修得していること。

機 械 学 科

◎機械学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

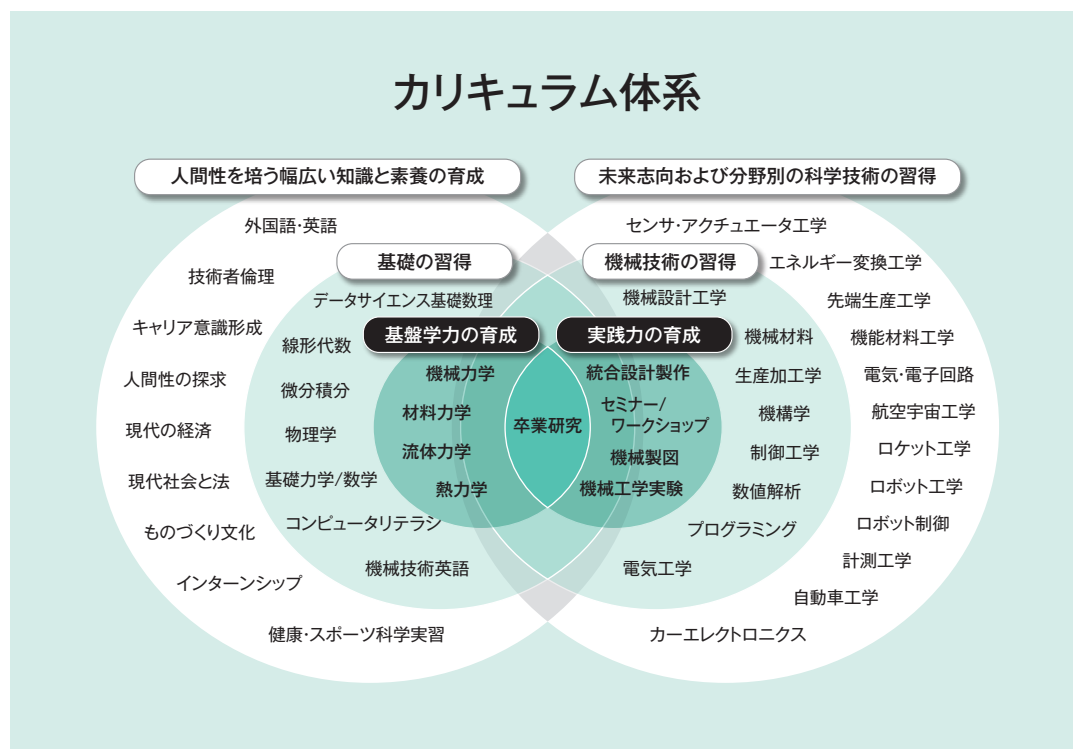
機械工学は、現代社会を支える幅広い技術にかかわる工学の基礎分野である。特に本学が位置する中部圏は自動車・航空機・工作機械分野をはじめとする、わが国の「ものづくり」の中核をなしている。機械学科では、学部のディプロマ・ポリシーに基づき、以下の知識や素養、能力等を身につけた者に学位を授与する。

1. 機械工学に関する幅広い専門基礎知識と素養
2. 機械技術に関する高度な専門知識と素養
3. 機械工学分野における実践的な技術力および応用力
4. 未来志向の先端分野に関する科学・技術の知識と素養
5. 社会に貢献する機械技術者としてのキャリア意識、倫理観
6. 機械工学に必要な自然科学の知識と素養
7. 国際的に活躍できる幅広い教養と豊かな人間性

◎機械学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げた技術者の育成を実現するため、次の方針に基づいてカリキュラムを編成し、教育を行い、学修成果を評価する。

1. 教育課程は専門教育科目、総合教育科目で構成する。
2. 講義・演習に加え、特に製図・実験・実習などの実学教育に重点を置くとともに、学生が自ら主体的な学びを实践できるよう、初年次教育・キャリア教育に関する科目を配する。また、技術者としての国際的素養を育成するための実践創造エンジニアプログラムを配する。
3. 理解度・習熟度、応用力、問題発見・設定・解決能力などを試験や課題に対する成果などで評価する。



● ● ● ● ● 機械学科教育課程表 ● ● ● ● ●

授 業 科 目	単 位 数	必選の別	
		MM 専 攻	MP 専 攻
専 門 教 育 科 目	データサイエンス基礎数理	2 必	必
	線形代数Ⅰ	2 必	必
	線形代数Ⅱ	2 選	選
	微分積分Ⅰ及び演習	3 必	必
	微分積分Ⅱ及び演習	3 選	選
	微分方程式	2 選	選
	確率・統計	2 選	選
	物理学（力学）	2 必	必
	物理学（電磁気学）	2 選	選
	物理実験	2 必	必
	機械基礎数学	2 必	必
	機械基礎力学	2 必	必
	材料力学Ⅰ	2 必	必
	材料力学Ⅱ	2 必	必
	機械力学	2 必	必
	機械力学応用	2 必	必
	流体力学Ⅰ	2 必	必
	流体力学Ⅱ	2 必	必
	熱力学Ⅰ	2 必	必
	熱力学Ⅱ	2 必	必
	機械材料	2 必	必
	プログラミング	2 必	必
	機械設計工学	2 必	必
	機構学	2 必	必
	制御工学	2 必	必
	生産加工学	2 必	必
	機械製図Ⅰ	2 必	必
	機械製図Ⅱ	2 必	必
	機械設計製図	2 必	必
	統合設計製作Ⅰ※	2 必	必
	統合設計製作Ⅱ※	2 必	必
	統合設計製作Ⅲ※	2 必	必
	機械工学実験Ⅰ	2 必	必
	機械工学実験Ⅱ	2 必	必
	卒業研究	4 必	必
	技術者倫理	2 選	選
	コンピュータリテラシ	2 選	選
	キャリア意識形成	2 必	必
	キャリアデザイン	2 選	選
	インターンシップ	2 選	選
	機械工学セミナー※	1 選	
	機械創造セミナー※	1	選
	機械デザインセミナー※	1 選	
	創造リサーチセミナー※	1	選
	創造デザインセミナー※	1	選
	材料工学	2 選	選
	応用材料力学	2 選	選
	機械要素設計	2 選	選
	電気・電子工学	2 選	選
	制御工学応用	2 選	選
	計測工学	2 選	選
	伝熱工学	2 選	選
	センサ・アクチュエータ工学	2 選	選
	表面工学	2 選	☆
	数値解析法	2 選	選
	先端生産工学	2 選	選
	生体工学	2 選	☆
	機械技術英語Ⅰ	2 選	選

授 業 科 目	単 位 数	必選の別	
		MM 専 攻	MP 専 攻
専 門 教 育 科 目	機械技術英語Ⅱ	2 選	選
	機械技術英語Ⅲ	2 選	選
	機械工学横断ワークショップⅠ※	1 選	選
	機械工学横断ワークショップⅡ※	1 選	選
	自動車工学概論	2 選	選
	航空宇宙工学概論	2 選	選
	ロボット工学概論	2 選	選
	エネルギー変換工学	2 選	☆
	機能材料工学	2 選	☆
	自動車構造力学	2 ☆	選
	カーエレクトロニクス	2 ☆	選
	先進自動車論	2 ☆	選
	航空構造力学	2 ☆	選
	空気力学	2 選	選
	ロケット工学	2 ☆	選
	ロボット制御	2 ☆	選
	ロボットスマートファクトリ	2 ☆	選
	ヒューマンロボットインタラクション	2 ☆	選
	マイコンプログラミング	2 ☆	選
	知的情報処理	2 選	選
	職業指導（工業）	2 選	選
	高大連携特別講義A	2 選	選
	高大連携特別講義B	2 選	選
	高大連携特別講義C	1 選	選

☆印は専門教育科目（選択）の単位として認定される他専攻の科目

※印は実践創造エンジニアプログラム対象科目

機械工学専攻 科目系統図

必修科目

選択必修科目

選択科目

		1年		2年		3年		4年		ディプロマ・ポリシー対応
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育	材料・強度・生産	材料力学Ⅰ	材料力学Ⅱ		応用材料力学					1 基礎専門 2 高度専門 3 実践的技術・応用力
		機械材料	材料工学		機械要素設計					
				機械設計工学		生産加工学				
	熱・流体			熱力学Ⅰ	熱力学Ⅱ		伝熱工学			
				流体力学Ⅰ	流体力学Ⅱ		エネルギー変換工学			
	運動・制御・計測	機械基礎力学	機械力学	機械力学応用			空気力学			
				機構学		制御工学応用				
	基礎				制御工学	計画工学	センサ・アクチュエータ工学			
		情報処理・電気			電気・電子工学		数値解析法	知能情報処理		
		製図・実験・実習	機械製図Ⅱ	★統合設計製作Ⅰ	★統合設計製作Ⅱ	機械設計製図	★統合設計製作Ⅲ			
教 育	数 学	★機械工学セミナー	★機械デザインセミナー			機械工学実験Ⅰ	機械工学実験Ⅱ			6 自然科学
		データサイエンス基礎数理	機械基礎数学			★機械工学断片ワークショップⅠ	★機械工学断片ワークショップⅡ			
		微分積分Ⅰ及び演習	微分積分Ⅱ及び演習			確率・統計				
	物理・化学	線形代数Ⅰ	線形代数Ⅱ		微分方程式					
		物理学（力学）	物理学（力学）							
	技術英語			物理学（電磁気学）	物理実験					
				機械技術英語Ⅰ	機械技術英語Ⅱ	機械技術英語Ⅲ				
						自動車工学概論				
	応 用					航空宇宙工学概論				
						ロボット工学概論				
						生体工学	生体工学	機能材料工学		
総 合 教 育	キャリア教育						先端生産工学			4 先端分野
		技術者倫理					表面工学			
				キャリア意識形成		キャリアデザイン				
	特別講義・教育					インターンシップ				5 キャリア意識・倫理観
								職業指導（工業）		
	数理科学									6 自然科学
				複素関数論	代数学					
				統計物理						
総 合 教 育	日本語	日本語コミュニケーション		質点系と剛体の力学						
		日本語リテラシ		日本語コミュニケーション		日本語コミュニケーション		日本語コミュニケーション		
		コミュニケーションA	コミュニケーションB	TOEIC・視聴覚英語A	TOEIC・視聴覚英語B					
	外国語	コミュニケーションA	コミュニケーションB	英語圏のことばと文化A/B	英語圏のことばと文化A/B					
		コミュニケーションC	コミュニケーションD	英語圏のことばと文化A/B	英語圏のことばと文化A/B					
		英語ワークショップA/B/C/D								
	スポーツ・人文・社会科学	中国語A	中国語B	中国のことばと文化	中国のことばと文化					7 教養・人間性
		フランス語A	フランス語B	フランスのことばと文化	フランスのことばと文化					
		ドイツ語A	ドイツ語B	ドイツのことばと文化	ドイツのことばと文化					
特別講義	特別講義	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	健康・スポーツ科学実習Ⅱ							
		ものづくり文化実習								

★：実践創造エンジニアプログラム対象科目

特別講義（不定期開講）

人間性の探究／こころの科学／人間の行動／科学技術と自然と人間／表現文化／現代社会の探究／現代の経済／現代社会と法／日本国憲法／健康の科学／ものづくり文化／環境と地域共創／創造と倫理

機械工学専攻教育課程表

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 出 発 点	副 専 攻	備 考
		必 修	選 択	1 年 次 前 後	2 年 次 前 後	3 年 次 前 後	4 年 次 前 後	1 年 次 前 後	2 年 次 前 後	3 年 次 前 後	4 年 次 前 後				
M1116	データサイエンス基礎数理	2		1								6	○		
M1063	線形代数Ⅰ	2		1								6	○		
M2168	線形代数Ⅱ		2	1								6	○		
M1078	微分積分Ⅰ及び演習	3		2								6	○		
M2132	微分積分Ⅱ及び演習		3	2								6	○		
M2093	微分方程式		2		1							6	○		
M2012	確率・統計		2			1						6	○		
M1096	物理学（力学）	2		1								6	○		
M2134	物理学（電磁気学）		2		1							6	○		
M1084	物理実験	2			2							6	○		
M1118	機械基礎数学	2		1								6	○		
M1119	機械基礎力学	2		1								1:2:3	○		
M1037	材料力学Ⅰ	2		1								1:2:3	○		
M1041	材料力学Ⅱ	2		1								1:2:3	○		
M1120	機械力学	2		1								1:2:3	○		
M1121	機械力学応用	2			1							1:2:3	○		
M1105	流体力学Ⅰ	2			1							1:2:3	○		
M1106	流体力学Ⅱ	2			1							1:2:3	○		
M1070	熱力学Ⅰ	2			1							1:2:3	○		
M1073	熱力学Ⅱ	2			1							1:2:3	○		
M1100	機械材料	2		1								1:2:3	○		
M1107	プログラミング	2		1								1:2:3	○		通年隔週開講
M1108	機械設計工学	2			1							1:2:3	○		
M1030	機構学	2			1							1:2:3	○		
M1109	制御工学	2			1							1:2:3	○		
M1110	生産加工学	2				1						1:2:3	○		
M1111	機械製図Ⅰ	2		2								1:2:3	○		
M1112	機械製図Ⅱ	2		2								1:2:3	○		
M1122	機械設計製図	2				2						1:2:3	○		
M1113	統合設計製作Ⅰ	2			2							1:2:3	○		
M1114	統合設計製作Ⅱ	2			2							1:2:3	○		
M1115	統合設計製作Ⅲ	2				2						1:2:3	○		
M1006	機械工学実験Ⅰ	2				2						1:2:3	○		
M1007	機械工学実験Ⅱ	2				2						1:2:3	○		
M1067	卒業研究	4					※ 1					1:2:3			
M2170	技術者倫理		2	1								5	○		
M2171	コンピュータリテラシ		2	1								1:2:3	○		
M1117	キャリア意識形成	2			1							5	○		開講学期変更の可能性あり
M2172	キャリアデザイン		2			1						5	○		
M2131	インターンシップ		2			※ 1						5			卒業要件単位数にのみ加算
M2167	機械工学セミナー		1	1								1:2:3			
M2135	機械デザインセミナー		1	1								1:2:3			
M2040	材料工学		2	1								1:2:3	○		
M2136	応用材料力学		2		1							1:2:3	○		
M2137	機械要素設計		2		1							1:2:3	○		
M2175	電気・電子工学		2		1							1:2:3	○		
M2139	制御工学応用		2			1						1:2:3	○		
M2032	計測工学		2			1						1:2:3	○		
M2072	伝熱工学		2				1					1:2:3	○		
M2140	センサ・アクチュエータ工学		2				1					1:2:3	○		
M2094	表面工学		2				1					4	○		
M2141	数値解析法		2				1					1:2:3	○		
M2176	先端生産工学		2				1					4	○		
M2166	生体工学		2				1					4	○		
M2177	機械技術英語Ⅰ		2		1							1:7	○		
M2178	機械技術英語Ⅱ		2		1							1:7	○		
M2179	機械技術英語Ⅲ		2			1						1:7	○		
M2180	機械工学横断ワークショップⅠ		1			1						1:2:3			
M2181	機械工学横断ワークショップⅡ		1				1					1:2:3			
M2146	自動車工学概論		2			1						4	○		
M2147	航空宇宙工学概論		2			1						4	○		
M2148	ロボット工学概論		2			1						4	○		
M2121	空気力学		2				1					1:2:3	○		
M2001	エネルギー変換工学		2				1					1:2:3	○		
M2183	知的情報処理		2					1				4	○		

MM

機械工学専攻

専門教育科目

	科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考
					1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次					
			必 修	選 択	前	後	前	後	前	後	前	後				
専門 教育 科目	M2182	機能材料工学		2						1			4	○		
	M2174	職業指導（工業）		2							1		5	○		
	M2152	高大連携特別講義 A		2									5			卒業要件単位数にのみ加算
	M2153	高大連携特別講義 B		2									5			卒業要件単位数にのみ加算
	M2154	高大連携特別講義 C		1									5			卒業要件単位数にのみ加算
総合 教育 科目	G1829	コミュニケーションイングリッシュA	1		1								7	○		
	G1830	コミュニケーションイングリッシュC	1		1								7	○		
	G1831	コミュニケーションイングリッシュD	1			1							7	○		
	G3834	コミュニケーションイングリッシュB	1			1							7	○		
	G3832	TOEIC・視聴覚英語 A	1				1						7	○		
	G3833	TOEIC・視聴覚英語 B	1					1					7	○		
	G3835	英語ワークショップA:スピーキング&プレゼンテーション	1			1							7	○		前期にも開講する場合あり
	G3836	英語ワークショップB:上級リスニング	1			1							7	○		前期にも開講する場合あり
	G3837	英語ワークショップC:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習	1			1							7	○		前期にも開講する場合あり
	G3838	英語ワークショップD:海外留学英語	1			1							7	○		前期にも開講する場合あり
	G3845	英語圏のことばと文化 A	2				1						7	○	○	
	G3846	英語圏のことばと文化 B	2				1						7	○	○	
	G3843	中国語 A	1		1								7	○		
	G3844	中国語 B	1			1							7	○		
	G3841	フランス語 A	1		1								7	○		
	G3842	フランス語 B	1			1							7	○		
	G3839	ドイツ語 A	1		1								7	○		
	G3840	ドイツ語 B	1			1							7	○		
	G2834	複素関数論		2				1					6	○	○	
	G2835	代数学		2					1				6	○	○	
	G2836	統計物理		2				1					6	○	○	
	G2837	質点系と剛体の力学		2				1					6	○	○	
	G2036	人間性の探究		2									7	○	○	
	G2001	こころの科学		2									7	○	○	
	G2026	人間の行動		2									7	○	○	
	G2064	科学技術と自然と人間		2									7	○	○	
	G2065	表現文化		2									7	○	○	
	G2014	現代社会の探究		2									7	○		
	G2013	現代の経済		2									7	○	○	
	G2066	現代社会と法		2									7	○		
	G2048	日本国憲法		2									7	○		
	G2010	健康の科学		2									7	○	○	
	G2067	ものづくり文化		2									7	○	○	
	G2821	環境と地域共創		2									7	○	○	
	G2069	創造と倫理		2									7	○	○	
	G2841	日本語リテラシ		2	1								7	○		開講学期変更の可能性あり
	G2822	ものづくり文化実習		1	1								7	○	○	開講学期変更の可能性あり
	G2008	健康・スポーツ科学実習Ⅰ		1	1								7	○	○	
	G2009	健康・スポーツ科学実習Ⅱ		1		1							7	○	○	
	G2838	中国のことばと文化		2				1					7	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2839	フランスのことばと文化		2				1					7	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2840	ドイツのことばと文化		2				1					7	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2070	特別講義		2									7			年度によって開講しない場合がある
	G2823	日本語コミュニケーション		2		1～4年次の前期に開講						7			卒業・進級要件単位には含めない	
	G2824	海外研修英語		1		※1						7		○		
	G2833	海外留学英語		4		2年後期または3年後期に開講						7		○		

1. 履修期は基本的な開講学年学期とし変更する場合がある。
2. ※1印の授業科目は毎週の授業時間数を定めない。
3. 副専攻の詳細は132ページ
4. DPはディプロマ・ポリシーの該当番号に対応

MM

機械工学専攻

■ 注意

1. 卒業および進級要件に含めない科目

- ・ インターンシップ、高大連携特別講義は進級判定時の単位数には含めず、卒業要件単位数にのみ加算します。
※インターンシップの詳細は「V学生生活>キャリアセンター」を参照して下さい。
- ・ 日本語コミュニケーションで修得した単位は、卒業・進級要件に含めません。

2. 履修上の注意

教育課程をよく理解し、計画的に履修することが必要です。機械学科で掲げている教育目標の達成を目指して、各科目を履修するように心がけて下さい。

履修に関して特に重要な項目を以下に示します。

- (1) 「機械工学セミナー」(1年前期)、「機械デザインセミナー」(1年後期)は選択科目ですが、機械工学専攻に入学した学生として知ってほしいことや身に付けてほしい力を少人数の実験やものづくり実習を通して学ぶので、必ず履修して下さい。
- (2) 「統合設計製作I」(2年前期)、「統合設計製作II」(2年後期)、「機械工学実験I」(3年前期)、「機械工学実験II」(3年後期)の4科目は、機械工学専攻において重要な科目のため、履修登録するだけでなく修得することが上級年次への進級要件の一つとなっています。履修にあたっては特に気をつけて下さい。
- (3) 実践創造エンジニアプログラムでは、演習や実験を通して、機械工学の様々な分野の知識の結びつきを理解し、主体性に富むエンジニアの育成を目指しています。履修登録の方法は他の科目と同様です。
- (4) 総合教育科目の履修については「Ⅲ教育課程>基礎教育センター」を参照して下さい。

3. 他専攻・他学科・他大学履修の注意

自らの専門分野を超え、幅広く柔軟な視野と知識を修得するために、自分の専攻にない他専攻・他学科・他大学の科目を履修することができます。

なお、安易な履修登録など、この目的に合わないとは判断した場合は、履修を認めない場合があります。また、授業運営上相応しくないと判断した場合には実施を見合わせる場合があります。

他専攻・他学科・他大学の科目を修得した場合は、卒業および進級に必要な単位として以下の表のとおり認定されます。

履 修 科 目		卒業・進級に必要な単位 として認定される科目区分	卒業・進級に必要な単位 として認定される上限
所属学科 他専攻 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定	30単位まで
他学科 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定	6単位まで
単位互換制度による 他大学開設科目		科目区分は履修登録後、審査して決定されます。	専門教育科目(選択)の単位として認定 総合教育科目(選択)の単位として認定
			4単位まで

■ 卒業進級要件

教育課程をよく理解し、計画的に履修することが必要です。

1. 上級年次への進級要件

以下の表に定める単位を修得したものは、上級年次へ進級することができます。但し、選択必修科目は5単位まで必修科目の単位として認め、6単位以上修得した場合は5単位を超える分を選択科目の単位として認めます。

1年次から2年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	7単位以上		20単位以上
選択科目	(必修科目と合わせて20単位以上)		

※GPAが0.5以上であること。

2年次から3年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	29単位以上　うち { 統合設計製作Ⅰ 統合設計製作Ⅱ } を全て修得していること		52単位以上
選択科目	(必修科目と合わせて52単位以上)		

3年次から4年次

	専門教育科目	総合教育科目※	計
必修科目	55単位以上　うち { 機械工学実験Ⅰ 機械工学実験Ⅱ } を全て修得していること		100単位以上
選択科目	(必修科目と合わせて100単位以上)		

※進級要件単位数としては24単位まで認める。

2. 卒業要件

以下の表に定める単位を修得したものは、卒業することができます。

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	65単位	8単位※	73単位
選択科目	35単位以上	16単位以上	51単位以上
計	100単位以上	24単位以上	124単位以上

※必修科目3単位と選択必修科目5単位の合計とする。ただし、このうち英語系科目を6単位以上修得していること。

機械創造工学専攻 科目系統図

☐ 必修科目
 ☐ 選択必修科目
 ☐ 選択科目

		1		2		3		4		ディプロマ・ ポリシー対応
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育	材料・強度・生産	材料力学Ⅰ	材料力学Ⅱ		応用材料力学					1 基礎専門 2 高度専門 3 実践的技術・応用力
		機械材料	材料工学		機械要素設計					
				機械設計工学		生産加工学				
	熱・流体		機械力学	熱力学Ⅰ	熱力学Ⅱ		伝熱工学			
				流体力学Ⅰ	流体力学Ⅱ		空気力学			
基礎	運動・制御・計測	機械基礎力学	機械力学	機械力学応用	流体力学Ⅱ					
				機構学						
	情報処理・電気			制御工学		制御工学応用	センサ・アクチュエータ工学	知的情報処理		
						計測工学				
							数値解析法			
数 学	製図・実験・実習	コンピュータリテラシ								
		機械製図Ⅰ	機械製図Ⅱ	★統合設計製作Ⅰ	★統合設計製作Ⅱ	★統合設計製作Ⅲ				
		★機械創造セミナー	★創造リサーチセミナー	★創造デザインセミナー		機械工学実験Ⅰ	機械工学実験Ⅱ			
		データサイエンス基礎数理	機械基礎数学			★機械工学概論ワークショップⅠ	★機械工学概論ワークショップⅡ	卒業研究		
		微分積分Ⅰ及び演習	微分積分Ⅱ及び演習							
物理・化学	数 学	線形代数Ⅰ	線形代数Ⅱ		微分方程式					
			物理学(力学)	物理学(電磁気学)						
				物理学実験						
	技術英語			機械技術英語Ⅰ	機械技術英語Ⅱ	機械技術英語Ⅲ				
応 用	自動車コース				自動車工学概論	自動車構造力学	カーエレクトロニクス	先進自動車論		
		航空宇宙コース			航空宇宙工学概論	ロケット工学	航空構造力学			
		ロボットコース			ロボット工学概論	ロボット制御	ロボットスマートファクトリ	ヒューマンロボットインタラクション		
	キャリア教育						先端生産工学			
		技術者倫理			キャリア意識形成	キャリアデザイン				
特別講義・教育	数理科学					インタナショナルシンシップ				
	日本語									
総合教育	外国語									
	スポーツ・人文・社会科学									
特別講義	特別講義・教育									
	特別講義									

●●●●● 機械創造工学専攻教育課程表 ●●●●●

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 出 発 点	副 専 攻	備 考
		必 修	選 択	1 年 次 前 後	2 年 次 前 後	3 年 次 前 後	4 年 次 前 後	1 年 次 前 後	2 年 次 前 後	3 年 次 前 後	4 年 次 前 後				
P1028	データサイエンス基礎数理	2		1								6	○		
P1001	線形代数Ⅰ	2		1								6	○		
P2061	線形代数Ⅱ		2		1							6	○		
P1003	微分積分Ⅰ及び演習	3		2								6	○		
P2001	微分積分Ⅱ及び演習		3		2							6	○		
P2002	微分方程式		2			1						6	○		
P2003	確率・統計		2			1						6	○		
P1004	物理学（力学）	2			1							6	○		
P2004	物理学（電磁気学）		2			1						6	○		
P1005	物理実験	2			2							6	○		
P1030	機械基礎数学	2			1							6	○		
P1031	機械基礎力学	2		1								1・2・3	○		
P1006	材料力学Ⅰ	2		1								1・2・3	○		
P1007	材料力学Ⅱ	2			1							1・2・3	○		
P1032	機械力学	2			1							1・2・3	○		
P1033	機械力学応用	2				1						1・2・3	○		
P1010	流体力学Ⅰ	2			1							1・2・3	○		
P1011	流体力学Ⅱ	2				1						1・2・3	○		
P1012	熱力学Ⅰ	2			1							1・2・3	○		
P1013	熱力学Ⅱ	2				1						1・2・3	○		
P1014	機械材料	2		1								1・2・3	○		
P1015	プログラミング	2		1								1・2・3	○		通年隔週開講
P1016	機械設計工学	2			1							1・2・3	○		
P1017	機構学	2			1							1・2・3	○		
P1018	制御工学	2				1						1・2・3	○		
P1019	生産加工学	2					1					1・2・3	○		
P1020	機械製図Ⅰ	2		2								1・2・3	○		
P1021	機械製図Ⅱ	2			2							1・2・3	○		
P1034	機械設計製図	2					2					1・2・3	○		
P1022	統合設計製作Ⅰ	2				2						1・2・3	○		
P1023	統合設計製作Ⅱ	2					2					1・2・3	○		
P1024	統合設計製作Ⅲ	2						2				1・2・3	○		
P1025	機械工学実験Ⅰ	2					2					1・2・3	○		
P1026	機械工学実験Ⅱ	2						2				1・2・3	○		
P1027	卒業研究	4								※1		1・2・3			
P2056	技術者倫理		2	1								5	○		
P2057	コンピュータリテラシ		2	1								1・2・3	○		
P1029	キャリア意識形成	2				1						5	○		開講学期変更の可能性あり
P2058	キャリアデザイン		2				1					5	○		
P2059	インターンシップ		2			※1						5			卒業要件単位数にのみ加算
P2055	機械創造セミナー		1	1								1・2・3			
P2005	創造リサーチセミナー		1		1							1・2・3			
P2006	創造デザインセミナー		1			1						1・2・3			
P2007	材料工学		2		1							1・2・3	○		
P2009	応用材料力学		2			1						1・2・3	○		
P2010	機械要素設計		2			1						1・2・3	○		
P2062	電気・電子工学		2				1					1・2・3	○		
P2012	制御工学応用		2				1					1・2・3	○		
P2013	計測工学		2				1					1・2・3	○		
P2014	伝熱工学		2					1				1・2・3	○		
P2015	センサ・アクチュエータ工学		2					1				1・2・3	○		
P2017	数値解析法		2					1				1・2・3	○		
P2063	先端生産工学		2					1				4	○		
P2064	機械技術英語Ⅰ		2			1						1・7	○		
P2065	機械技術英語Ⅱ		2				1					1・7	○		
P2066	機械技術英語Ⅲ		2					1				1・7	○		
P2067	機械工学横断ワークショップⅠ		1					1				1・2・3			
P2068	機械工学横断ワークショップⅡ		1						1			1・2・3			
P2022	自動車工学概論		2			1						4	○		
P2051	自動車構造力学		2				1					4	○		
P2026	カーエレクトロニクス		2					1				4	○		
P2052	先進自動車論		2							1		4	○		
P2023	航空宇宙工学概論		2			1						4	○		
P2025	航空構造力学		2				1					4	○		

専門教育科目

MP

機械創造工学専攻

	科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考	
			必修	選択	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次						
					前	後	前	後	前	後	前	後					
専門 教育 科目	P2027	空気力学		2						1			1:2:3	○			
	P2028	ロケット工学		2						1			4	○			
	P2029	ロボット工学概論		2				1					4	○			
	P2032	ロボット制御		2					1				4	○			
	P2096	ロボットスマートファクトリ		2						1			3	○			
	P2053	ヒューマンロボットインタラクション		2								1	4	○			
	P2033	マイコンプログラミング		2				1					1:2:3	○		通年隔週開講	
	P2070	知的情報処理		2								1	4	○			
	P2060	職業指導（工業）		2									1	5	○		
	P2037	高大連携特別講義 A		2										5			卒業要件単位数にのみ加算
	P2038	高大連携特別講義 B		2										5			卒業要件単位数にのみ加算
P2039	高大連携特別講義 C		1										5			卒業要件単位数にのみ加算	
総合 教育 科目	G1829	コミュニケーション英語A	1		1								7	○			
	G1830	コミュニケーション英語C	1		1								7	○			
	G1831	コミュニケーション英語D	1			1							7	○			
	G3834	コミュニケーション英語B	1			1							7	○			
	G3832	TOEIC・視聴覚英語 A	1				1						7	○			
	G3833	TOEIC・視聴覚英語 B	1					1					7	○			
	G3835	英語ワークショップA:スピーキング&プレゼンテーション	1			1							7	○		前期にも開講する場合あり	
	G3836	英語ワークショップB:上級リーディング	1			1							7	○		前期にも開講する場合あり	
	G3837	英語ワークショップC:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習	1			1							7	○		前期にも開講する場合あり	
	G3838	英語ワークショップD:海外留学英語	1			1							7	○		前期にも開講する場合あり	
	G3845	英語圏のことばと文化 A	2				1						7	○	○		
	G3846	英語圏のことばと文化 B	2				1						7	○	○		
	G3843	中国語 A	1	1									7	○			
	G3844	中国語 B	1			1							7	○			
	G3841	フランス語 A	1	1									7	○			
	G3842	フランス語 B	1			1							7	○			
	G3839	ドイツ語 A	1	1									7	○			
	G3840	ドイツ語 B	1			1							7	○			
	G2834	複素関数論		2				1					6	○	○		
	G2835	代数学		2					1				6	○	○		
	G2836	統計物理		2					1				6	○	○		
	G2837	質点系と剛体の力学		2				1					6	○	○		
	G2036	人間性の探究		2									7	○	○		
	G2001	こころの科学		2									7	○	○		
	G2026	人間の行動		2									7	○	○		
	G2064	科学技術と自然と人間		2									7	○	○		
	G2065	表現文化		2									7	○	○		
	G2014	現代社会の探究		2									7	○			
	G2013	現代の経済		2									7	○	○		
	G2066	現代社会と法		2									7	○			
	G2048	日本国憲法		2									7	○			
	G2010	健康の科学		2									7	○	○		
	G2067	ものづくり文化		2									7	○	○		
	G2821	環境と地域共創		2									7	○	○		
	G2069	創造と倫理		2									7	○	○		
	G2841	日本語リテラシ		2	1								7	○		開講学期変更の可能性あり	
	G2822	ものづくり文化実習		1	1								7	○	○	開講学期変更の可能性あり	
	G2008	健康・スポーツ科学実習Ⅰ		1	1								7	○	○		
	G2009	健康・スポーツ科学実習Ⅱ		1			1						7	○	○		
	G2838	中国のことばと文化		2				1					7	○	○	後期にも開講する場合あり	
	G2839	フランスのことばと文化		2				1					7	○	○	後期にも開講する場合あり	
	G2840	ドイツのことばと文化		2				1					7	○	○	後期にも開講する場合あり	
	G2070	特別講義		2									7			年度によって開講しない場合がある	
	G2823	日本語コミュニケーション		2									7			卒業・進級要件単位には含まない	
	G2824	海外研修英語		1							※1		7		○		
	G2833	海外留学英語		4									7		○		

1. 履修期は基本的な開講学年学期とし変更する場合がある。
2. ※1印の授業科目は毎週の授業時間数を定めない。
3. 副専攻の詳細は132ページ
4. DPはディプロマ・ポリシーの該当番号に対応

MP

機械
創造
工学
専攻

■ 注意

1. 卒業および進級要件に含めない科目

- ・ インターンシップ、高大連携特別講義は進級判定時の単位数には含めず、卒業要件単位数にのみ加算します。
※インターンシップの詳細は「V学生生活>キャリアセンター」を参照して下さい。
- ・ 日本語コミュニケーションで修得した単位は、卒業・進級要件に含めません。

2. 履修上の注意

教育課程をよく理解し、計画的に履修することが必要です。機械学科で掲げている教育目標の達成を目指して、各科目を履修するように心がけて下さい。

以下に履修に関して特に重要な項目を示します。

- (1) 「機械創造セミナー」(1年前期)、「創造リサーチセミナー」(1年後期)、「創造デザインセミナー」(2年前期)は選択科目ですが、機械創造工学専攻に入学した学生として知ってほしいことや身に付けてほしい力を少人数のプレゼンテーションやものづくり実習を通して学ぶので、必ず履修して下さい。
- (2) 「統合設計製作I」(2年前期)、「統合設計製作II」(2年後期)、「機械工学実験I」(3年前期)、「機械工学実験II」(3年後期)の4科目は、機械創造工学専攻において重要な科目のため、履修登録するだけでなく修得することが上級年次への進級要件の一つとなっています。履修にあたっては特に気をつけて下さい。
- (3) 実践創造エンジニアプログラムでは、演習や実験を通して、機械工学の様々な分野の知識の結びつきを理解し、主体性に富むエンジニアの育成を目指しています。履修登録の方法は他の科目と同様です。
- (4) 3年次からは、自動車コース、航空宇宙コース、ロボットコースが設置されています。2年後期に開講される「自動車工学概論」、「航空宇宙工学概論」、「ロボット工学概論」を履修し、コース選択に役立てましょう。また、それらを通して何に興味を持ち、何を将来仕事としていくのかなどを考え、自分の進む分野を見つけましょう。
- (5) 総合教育科目の履修については「Ⅲ教育課程>基礎教育センター」を参照して下さい。

3. 他専攻・他学科・他大学履修の注意

自らの専門分野を超え、幅広く柔軟な視野と知識を修得するために、自分の専攻にない他専攻・他学科・他大学の科目を履修することができます。

なお、安易な履修登録など、この目的に合わないとは判断した場合は、履修を認めない場合があります。また、授業運営上相応しくないと判断した場合には実施を見合わせる場合があります。

他専攻・他学科・他大学の科目を修得した場合は、卒業および進級に必要な単位として以下の表のとおり認定されます。

履 修 科 目		卒業・進級に必要な単位 として認定される科目区分	卒業・進級に必要な単位 として認定される上限
所属学科 他専攻 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定	30単位まで
他学科 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定	6単位まで
単位互換制度による 他大学開設科目		科目区分は履修登録 後、審査して決定され ます。	専門教育科目(選択) の単位として認定 総合教育科目(選択) の単位として認定
			4単位まで

■ 卒業進級要件

教育課程をよく理解し、計画的に履修することが必要です。

1. 上級年次への進級要件

以下の表に定める単位を修得したものは、上級年次へ進級することができます。但し、選択必修科目は5単位まで必修科目の単位として認め、6単位以上修得した場合は5単位を超える分を選択科目の単位として認めます。

1年次から2年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	7単位以上		20単位以上
選択科目	(必修科目と合わせて20単位以上)		

※GPAが0.5以上であること。

2年次から3年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	29単位以上　うち　{ 統合設計製作Ⅰ 統合設計製作Ⅱ } を全て修得していること		52単位以上
選択科目	(必修科目と合わせて52単位以上)		

3年次から4年次

	専門教育科目	総合教育科目※	計
必修科目	55単位以上　うち { 機械工学実験Ⅰ 機械工学実験Ⅱ } を全て修得していること		100単位以上
選択科目	(必修科目と合わせて100単位以上)		

※進級要件単位数としては24単位まで認める。

2. 卒業要件

以下の表に定める単位を修得したものは、卒業することができます。

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	65単位	8単位※	73単位
選択科目	35単位以上	16単位以上	51単位以上
計	100単位以上	24単位以上	124単位以上

※必修科目3単位と選択必修科目5単位の合計とする。ただし、このうち英語系科目を6単位以上修得していること。

MP

機械
創造
工学
専攻

社会基盤学科

○社会基盤学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

近年、我が国は社会基盤整備を目標とした時代から、人間と自然との調和、資源の有効利用、高度な情報技術の導入など持続可能な社会を構築する時代へと移行している。このような社会背景に柔軟に対応することができ、課題の発見及び解決の道筋をつけ、官公庁・民間を問わず、企画・設計・施工に関わる各種実務の遂行において中心的役割を果たす技術者の育成が必要である。

本学科では、社会のニーズを常に意識し、様々な視点から問題解決に立ち向かうことができる、自律の心を備えた中堅実務技術者の育成を教育目標とする。また、本学の建学の精神である「自由・愛・正義」を基調として、本学科の教育プログラムでは「人格の向上」「専門知識の養成」「応用能力の育成」の3本の柱を教育理念の中心に据える。

- 1 人類の幸福・福祉を日々追求し、技術と自然との関わりに深い関心を持ち、愛と正義の下に技術者としての社会的な貢献や責任を志向する能力
- 2 防災・環境・生態系、造形や情報技術等のソフト面の知識を含め、土木工学に関する幅広い専門知識を養成し、かつ実践的な応用能力
- 3 自由な発想と創造力の下で真理を探究し、論理的思考に基づいて自己の主張を提示し、他の技術者と連携を図りながら問題を解決する能力

以上の本学科の教育理念を踏まえ、以下の能力及び資質を身に付け、卒業要件を満たした者に学位を授与する。

- 1 公共施設の企画・設計・建設に携わる土木技術者として、ボランティア活動の精神や地域の風土・歴史を理解し、かつ国際的な視点に立って社会貢献を思考する資質
- 2 地球規模の環境・資源・防災問題を踏まえて、社会や自然に及ぼす技術の影響や効果を十分理解し、技術者としての社会的責任や倫理観
- 3 数学・自然科学等の基礎知識に基づいて、土木技術者に必要とされる幅広い専門領域を横断的に学習し、実験・実習でその応用能力
- 4 環境問題等に深い理解と知識を有し、かつ最新の情報技術に基づいて、情報を的確に収集・整理・活用する能力
- 5 豊かな創造力に基づいて専門知識を実務に応用し、多方面の技術者と連携を図りながら社会のニーズや技術の進歩に沿って問題を解決し、具体的な形に仕上げる能力
- 6 論文・報告書等を論理的に記述・発表し、自己と相手の主張の相反・合致点を見出しながら討議・調整し、まとめる能力
- 7 社会や時代の変化に対応できるよう、常に最新の技術・情報に目を向けて知識を吸収し、継続的・自主的に学習できる能力

○社会基盤学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げた技術者の育成を実現するため、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、教育のうえ学修成果を評価する。

- 1 初年次教育として、数学系および情報系科目およびセミナーを編成し、大学教育で必要な基礎学力を養う。
- 2 教養科目として、人文・社会科学系科目、健康・スポーツ系科目、外国語科目および数学系、自然科学系（物理・化学）科目を編成し、土木技術者としての地域・社会への関わり方、工学に必要な自然科学の基礎知識、土木工学の専門知識・技術を取得するための基礎能力を養う。
- 3 専門教育として、土木分野の基礎から応用を習得する科目を編成し、基礎理論から応用能力を養う。
特に土木主要分野である3力系科目には講義に付随して演習科目を配置し理解を深める。
また、都市デザイン系、生態・環境系、防災系科目を配置し、ソフト面の知識・理解を深める。
- 4 実習・演習、実験科目は、ソフト系実習・演習科目とハード系実験科目で編成し、実務に直結する専門知識と実習技術を体得し、結果を具体的な形に仕上げる能力を養う。
- 5 卒業研究では、自ら実施計画を立案し、計画的に結果を導くとともに、成果を取りまとめる能力を養う。

※本学科はJABEE（日本技術者教育認定機構）認定プログラムである

●●●●● 社会基盤学科教育課程表 ●●●●●

授 業 科 目	単位数	必選の別	
		DD 専攻	DS 専攻
線形代数Ⅰ	2	必	必
線形代数Ⅱ	2	必	必
微分積分Ⅰ及び演習	3	必	必
微分積分Ⅱ及び演習	3	選	選
微分方程式	2	選	選
確率・統計	2	選	選
データサイエンス基礎数理	2	必	必
建設基礎数学	2	必	必
物理学（力学）	2	必	必
物理学（波動）	2	必	必
物理学（電磁気学）	2	選	選
物理実験	2	必	必
化学Ⅰ	2	選	選
化学Ⅱ	2	選	選
情報リテラシ	2	選	選
情報数学	2	☆	選
情報処理演習	2	選	選
社会基盤セミナー1	1	必	必
社会基盤セミナー2	1	必	必
社会基盤セミナー3	1	必	必
測量学	2	必	必
測量実習	2	必	必
応用測量学及び演習	3	選	選
構造力学Ⅰ及び演習	3	必	必
構造力学Ⅱ及び演習	3	必	必
構造力学Ⅲ及び演習	3	必	必
耐震工学	2	選	☆
鋼構造学	2	選	☆
橋梁工学	2	選	☆
維持管理工学	2	選	☆
海岸・津波工学	2	選	☆
水理学Ⅰ及び演習	3	必	必
水理学Ⅱ及び演習	3	必	必
河川工学	2	選	選
水文学	2	選	選
土質力学Ⅰ及び演習	3	必	必
土質力学Ⅱ及び演習	3	必	必
土質力学Ⅲ及び演習	3	必	必
地盤工学	2	選	選
社会基盤計画学	2	必	必
交通計画	2	選	選
都市計画	2	☆	選
ランドスケープデザイン	2	☆	選
コンクリート工学Ⅰ	2	必	必
コンクリート工学Ⅱ	2	選	☆
鉄筋コンクリート構造Ⅰ及び演習	3	必	必
鉄筋コンクリート構造Ⅱ	2	選	選
生物学・生態学	2	必	必
生態工学	2	☆	選
環境アセスメント	2	☆	選
環境工学	2	選	選
上下水道	2	☆	選
材料力学	2	必	必

専門教育科目

授 業 科 目	単位数	必選の別	
		DD 専攻	DS 専攻
防災工学	2	必	必
防災地質学	2	選	選
防災計画論	2	選	選
土木施工	2	選	選
エネルギー工学	2	選	☆
建設マネジメント	2	☆	選
設計製図	2	必	必
地理空間情報演習	1	必	必
都市デザイン演習	1	必	必
環境実習	1	必	必
防災実習	1	必	必
構造実験	1	必	必
水理実験	1	必	必
土質実験	1	必	必
材料実験	1	必	必
卒業研究	4	必	必
職業指導（工業）	2	選	選
キャリア意識形成	2	選	選
キャリアデザイン	2	選	選
インターンシップ	2	選	選
現代社会と倫理	2	選	選
学外協働実習	1	選	選
高大連携特別講義A	2	選	選
高大連携特別講義B	2	選	選
高大連携特別講義C	1	選	選

☆印は専門教育科目（選択）の単位として認定される他専攻の科目

土木工学専攻 科目系統図

必修科目 選択必修科目

対応学年	1 年	2 年	3 年	4 年
対応学期	前期	後期	前期	後期
カリキュラム・ポリシー (P66 参照)	1			
	2			
	3			
	4			
	5			

学習・教育 到達目標		授業科目名								
		1 年		2 年		3 年		4 年		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1. 社会奉仕と国際 貢献を思考する 技術者の育成	* 人文・社会									
	○〔人間性の探究〕〔現代の経済〕〔現代社会と法〕〔日本国憲法〕など									
	* 語学						○現代社会と倫理			
	○コミュニケーション イングリッシュA	○コミュニケーション イングリッシュB	TOEIC・ 視聴覚英語A	TOEIC・ 視聴覚英語B						
	○コミュニケーション イングリッシュC	○コミュニケーション イングリッシュD	英語圏のことばと文化A							
			英語圏のことばと文化B							
	○中国語A	○中国語B	中国のことばと文化							
	○フランス語A	○フランス語B	フランスのことばと文化							
	○ドイツ語A	○ドイツ語B	ドイツのことばと文化							
			○英語ワーク ショップA～D							
	健康・スポーツ科 学実習Ⅰ	健康・スポーツ科 学実習Ⅱ								
	○測量学	○応用測量学 及び演習								
	* 構造系									
	○構造力学Ⅰ 及び演習		○構造力学Ⅱ 及び演習	○構造力学Ⅲ 及び演習						
			* 計画系							
			○社会基盤計画学	交通計画						
			* 防災系							
			○防災工学	○防災地質学	防災計画論					
	* 環境・生態系									
	○生物学・生態学									
	* 実験・実習						エネルギー工学			
○測量実習		環境実習・防災実習								
* キャリア系		地理空間情報演習								
		インターンシップ								
				キャリア意識形成	キャリアデザイン				職業指導（工業）	
* セミナー								* 卒研		
○社会基盤セミナー1		○社会基盤セミナー2		○社会基盤セミナー3		○卒業研究				

2. 技術者としての 責任・倫理観の 育成	◎材料力学				○現代社会と倫理	
	○測量学		○応用測量学 及び演習			
	*構造系					
	◎構造力学Ⅰ 及び演習		◎構造力学Ⅱ 及び演習		◎構造力学Ⅲ 及び演習	
					耐震工学	
					鋼構造学	
	*地盤系				*河川系	
					○河川工学	
	◎土質力学Ⅰ 及び演習		◎土質力学Ⅱ 及び演習		◎土質力学Ⅲ 及び演習	
					○地盤工学	
			*計画系			
			◎社会基盤計画学		交通計画	
			*防災系			
			○防災工学		○防災地質学	
					防災計画論	
	*環境・生態系					
	◎生物学・生態学					
	*実験・実習					
	◎測量実習		防災実習			
	*キャリア系		地理空間情報演習			
インターンシップ						
*セミナー		キャリア意識形成		キャリアデザイン		
◎社会基盤セミナー 1				◎社会基盤セミナー 3		
				*卒研		
				職業指導(工業)		
				◎卒業研究		

※学習・教育到達目標の達成に重要な位置づけにある科目には○、特に重要な位置づけにある科目には◎を付した

必修科目

選択必修科目

対応学年	1 年	2 年	3 年	4 年
対応学期	前期	後期	前期	後期
カリキュラム・ポリシー (P66 参照)	1			
	2			
	3			
	4			
	5			

学習・教育到達目標	授業科目名							
	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
3. 実践的応用能力 を目指した土木 専門知識と技術 の育成	*数学・自然科学 (物理・化学)		質点系と剛体の力学／複素関数論／代数学／統計物理					
	◎データサイエンス 基礎数理			確率・統計				
	○線形代数Ⅰ	○線形代数Ⅱ		微分方程式				
	○微分積分Ⅰ 及び演習	微分積分Ⅱ 及び演習						
		○物理学 (力学)	○物理学 (波動)	物理学 (電磁気学)				
	化学Ⅰ	化学Ⅱ	○物理実験					
	◎建設基礎数学				○情報処理演習			
	◎材料力学							
	○測量学	○応用測量学 及び演習						
		*構造系						
		◎構造力学Ⅰ 及び演習	◎構造力学Ⅱ 及び演習	◎構造力学Ⅲ 及び演習	耐震工学	橋梁工学		
		*河川系			鋼構造学	維持管理工学		
		○水理学Ⅰ 及び演習	○水理学Ⅱ 及び演習		○水文学	○河川工学		
		*地盤系			海岸・津波工学			
		◎土質力学Ⅰ 及び演習	◎土質力学Ⅱ 及び演習	◎土質力学Ⅲ 及び演習	○地盤工学			
		*材料系						
		◎コンクリート工学Ⅰ	◎コンクリート工学Ⅱ		◎鉄筋コンクリート 構造Ⅰ及び演習	○鉄筋コンクリート 構造Ⅱ		
		*計画系						
		◎社会基盤計画学	交通計画					
		*防災系						
		◎防災工学	○防災地質学		防災計画論			
			○環境工学					
	◎生物学・生態学							
						○設計製図 土木施工 エネルギー工学		
	*実験・実習							
	○測量実習							
	*キャリア系							
			防災実習		◎土質実験・構造実験 水理実験・材料実験			
			地理空間情報演習	都市デザイン演習				
			インターンシップ					
					*セミナー		*卒研	
					◎社会基盤セミナー 3		◎卒業研究	

※学習・教育到達目標の達成に重要な位置づけにある科目には○、特に重要な位置づけにある科目には◎を付した

DD

土木工学専攻

必修科目 選択必修科目

対応学年	1 年	2 年	3 年	4 年
対応学期	前期	後期	前期	後期
カリキュラム・ポリシー (P66 参照)	1			
	2			
	3			
	4			
	5			

学習・教育到達目標	授業科目名							
	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
4. 環境・生態系・情報技術等ソフト面の知識と技術の育成	* 数学・自然科学 (物理・化学) ◎データサイエンス基礎数理			確率・統計				
	○線形代数Ⅰ	○線形代数Ⅱ		微分方程式				
	○微分積分Ⅰ及び演習	○微分積分Ⅱ及び演習						
		○物理学 (力学)	○物理学 (波動)	物理学 (電磁気学)				
	化学Ⅰ	化学Ⅱ	○物理実験					
	◎建設基礎数学							
	◎材料力学							
	* 情報技術 ○情報リテラシ				◎情報処理演習			
	* 構造系 ◎構造力学Ⅰ及び演習		◎構造力学Ⅱ及び演習	◎構造力学Ⅲ及び演習				
			* 河川系 ◎水理学Ⅱ及び演習		○水文学			
		* 地盤系 ◎土質力学Ⅰ及び演習	◎土質力学Ⅱ及び演習	◎土質力学Ⅲ及び演習				
			* 材料系 ◎コンクリート工学Ⅰ	◎コンクリート工学Ⅱ				
					◎鉄筋コンクリート構造Ⅰ及び演習	◎鉄筋コンクリート構造Ⅱ		
			* 防災系 ○防災工学	○防災地質学	防災計画論			
				○環境工学				
	* 環境・生態系 ◎生物学・生態学						○設計製図 土木施工 エネルギー工学	
5. 柔軟な発想と創造力に基づく問題発見・解決能力の育成			* 実験・実習 環境実習・防災実習	◎土質実験 水理実験・材料実験				
	* キャリア系		都市デザイン演習					
			インターンシップ					* 卒研
			◎社会基盤セミナー2	◎社会基盤セミナー3	◎卒業研究			

5. 柔軟な発想と創造力に基づく問題発見・解決能力の育成	◎材料力学			○現代社会と倫理
				◎情報処理演習
	* 構造系 ◎構造力学Ⅰ及び演習	◎構造力学Ⅱ及び演習	◎構造力学Ⅲ及び演習	耐震工学 橋梁工学
		* 河川系 ◎水理学Ⅱ及び演習		鋼構造工学 維持管理工学
	* 地盤系 ◎土質力学Ⅰ及び演習	◎土質力学Ⅱ及び演習	◎土質力学Ⅲ及び演習	○地盤工学
		* 材料系 ◎コンクリート工学Ⅰ	◎コンクリート工学Ⅱ	
				◎鉄筋コンクリート構造Ⅰ及び演習
		* 計画系 ◎社会基盤計画学	交通計画	◎鉄筋コンクリート構造Ⅱ
		* 防災系 ○防災工学	○防災地質学	防災計画論
		* 環境・生態系 ○環境工学		
				○設計製図 土木施工 エネルギー工学
		* 実験・実習 環境実習・防災実習	◎土質実験・構造実験 水理実験・材料実験	
	* キャリア系		都市デザイン演習	
		インターンシップ		
	* セミナー ◎社会基盤セミナー1	◎社会基盤セミナー2	◎社会基盤セミナー3	* 卒研 職業指導 (工業)

※学習・教育到達目標の達成に重要な位置づけにある科目には○、特に重要な位置づけにある科目には◎を付した

必修科目

選択必修科目

対応学年	1 年	2 年	3 年	4 年
対応学期	前期	後期	前期	後期
カリキュラム・ポリシー (P66 参照)	1			
	2			
	3			
	4			
	5			

学習・教育到達目標	授業科目名							
	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
6. 論理的思考を礎とするコミュニケーション能力の育成	*人文・社会 ○〔人間性の探究〕〔現代の経済〕〔現代社会と法〕〔日本国憲法〕など							
	*語学 ○コミュニケーション英語A ○コミュニケーション英語B ○コミュニケーション英語C ○コミュニケーション英語D 英語圏のことばと文化A 英語圏のことばと文化B ○中国語A ○中国語B ○フランス語A ○フランス語B ○ドイツ語A ○ドイツ語B ○英語ワークショップA～D 健康・スポーツ科学実習Ⅰ 健康・スポーツ科学実習Ⅱ							
	*計画系 ◎社会基盤計画学 *実験・実習 環境実習・防災実習 ◎土質実験・構造実験 水理実験							
	◎情報処理演習							
	*キャリア系 都市デザイン演習 インターンシップ							
	*セミナー ◎社会基盤セミナー1 ◎社会基盤セミナー2 ◎社会基盤セミナー3							
	*卒研 職業指導(工業) ◎卒業研究							
	*環境・生態系 ◎生物学・生態学							
	*防災系 ◎防災地質学 ◎防災計画論							
	*実験・実習 エネルギー工学							
	*構造系 耐震工学 鋼構造学 *地盤系 ◎地盤工学							
	*環境・生態系 ◎生物学・生態学							
	*キャリア系 環境実習 インターンシップ							
	*セミナー ◎社会基盤セミナー1 ◎社会基盤セミナー2 ◎社会基盤セミナー3							
	*卒研 職業指導(工業) ◎卒業研究							

7. 技術者としての自主性と継続学習能力の育成	*環境・生態系 ◎生物学・生態学							
	*キャリア系 環境実習 インターンシップ							
	*セミナー ◎社会基盤セミナー1 ◎社会基盤セミナー2 ◎社会基盤セミナー3							
	*卒研 職業指導(工業) ◎卒業研究							
	*環境・生態系 ◎生物学・生態学							

※学習・教育到達目標の達成に重要な位置づけにある科目には○、特に重要な位置づけにある科目には◎を付した

○社会基盤学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

- 1 初年次教育として、数学系および情報系科目およびセミナーを編成し、大学教育で必要な基礎学力を養う。
- 2 教養科目として、人文・社会科学系科目、健康・スポーツ系科目、外国語科目および数学系、自然科学系（物理・化学）科目を編成し、土木技術者としての地域・社会への関わり方、工学に必要な自然科学の基礎知識、土木工学の専門知識・技術を取得するための基礎能力を養う。
- 3 専門教育として、土木分野の基礎から応用を習得する科目を編成し、基礎理論から応用能力を養う。
特に土木主要分野である3力系科目には講義に付随して演習科目を配置し理解を深める。
また、都市デザイン系、生態・環境系、防災系科目を配置し、ソフト面の知識・理解を深める。
- 4 実習・演習、実験科目は、ソフト系実習・演習科目とハード系実験科目で編成し、実務に直結する専門知識と実習技術を体得し、結果を具体的な形に仕上げる能力を養う。
- 5 卒業研究では、自ら実施計画を立案し、計画的に結果を導くとともに、成果を取りまとめる能力を養う。

DD

土木工学専攻

土木工学専攻教育課程表

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考
		必 修	選 択	1 年 次 前 後	2 年 次 前 後	3 年 次 前 後	4 年 次 前 後	前	後	前	後				
D1024	線形代数Ⅰ	2		1								3・4	○		
D1025	線形代数Ⅱ	2			1							3・4	○		
D1053	微分積分Ⅰ及び演習	3		2								3・4	○		
D2164	微分積分Ⅱ及び演習		3		2							3・4	○		
D2123	微分方程式		2			1						3・4	○		
D2013	確率・統計		2			1						3・4	○		
D1104	データサイエンス基礎数理	2		1								3・4	○		
D1106	建設基礎数学	2		1								3・4	○		
D1063	物理学（力学）	2			1							3・4	○		
D1064	物理学（波動）	2			1							3・4	○		
D2134	物理学（電磁気学）		2			1						3・4	○		
D1059	物理実験	2			2							3・4	○		
D2165	化学Ⅰ		2	1								3・4	○		
D2135	化学Ⅱ		2		1							3・4	○		
D2189	情報リテラシ		2	1								4	○		
D2198	情報処理演習		2			2						3～6	○		
D1109	社会基盤セミナー1	1		1								1・2・5・7	○		
D1110	社会基盤セミナー2	1			1							1・4・7	○		
D1111	社会基盤セミナー3	1				1						1～7	○		
D1079	測量学	2		1								1～3	○		
D1080	測量実習	2		2								1～3	○		
D2167	応用測量学及び演習		3		2							1～3	○		
D1071	構造力学Ⅰ及び演習	3			2							1～5	○		
D1072	構造力学Ⅱ及び演習	3				2						1～5	○		
D1073	構造力学Ⅲ及び演習	3				2						1～5	○		
D2188	耐震工学		2			1						2・3・5・7	○		
D2171	鋼構造学		2			1						2・3・5・7	○		
D2022	橋梁工学		2				1					3・5	○		
D2181	維持管理工学		2				1					3・5	○		
D2196	海岸・津波工学		2			1						3	○		
D1083	水理学Ⅰ及び演習	3			2							3	○		
D1098	水理学Ⅱ及び演習	3			2							3～5	○		
D2010	河川工学		2				1					2・3	○		
D2053	水文学		2				1					3・4	○		
D1097	土質力学Ⅰ及び演習	3			2							2～5	○		
D1099	土質力学Ⅱ及び演習	3				2						2～5	○		
D1100	土質力学Ⅲ及び演習	3					2					2～5	○		
D2187	地盤工学		2				1					2・3・5・7	○		
D1112	社会基盤計画学	2			1							1～3・5・6	○		
D2197	交通計画		2			1						1～3・5・6	○		
D1001	コンクリート工学Ⅰ	2			1							3～5	○		
D2001	コンクリート工学Ⅱ		2			1						3～5	○		
D1101	鉄筋コンクリート構造Ⅰ及び演習	3					2					3～5	○		
D2170	鉄筋コンクリート構造Ⅱ		2					1				3～5	○		
D1102	生物学・生態学	2		1								1・4・6・7	○		
D2180	環境工学		2			1						3～6	○		
D1096	材料力学	2		1								2～5	○		
D1060	防災工学	2			1							1～5	○		
D2186	防災地質学		2			1						1～5・7	○		
D2195	防災計画論		2				1					1～5・7	○		
D2111	土木施工		2				1					3～5	○		
D2183	エネルギー工学		2				1					1～5・7	○		
D1089	設計製図	2					2					3～5	○		
D1107	地理空間情報演習	1			1							1～3	○		
D1108	都市デザイン演習	1				1						3～6	○		
D1103	環境実習	1				1						4～7	○		隔週で開講する
D1113	防災実習	1				1						1～6	○		隔週で開講する
D1091	構造実験	1					1					3・5・6	○		隔週で開講する
D1092	水理実験	1					1					3～6	○		隔週で開講する
D1085	土質実験	1					1					3～6	○		隔週で開講する
D1093	材料実験	1					1					3～5	○		隔週で開講する
D1033	卒業研究	4									※1	1～7			
D2194	職業指導（工業）		2							1		1・2・5・7	○		
D2190	キャリア意識形成		2			1						1・2・5・7	○		開講学期変更の可能性あり
D2191	キャリアデザイン		2				1					1・2・5・7	○		
D2163	インターンシップ		2								※1	1～7			卒業要件単位数にのみ加算
D2192	現代社会と倫理		2					1				1・2・5	○		開講学期変更の可能性あり

DD

土木工学専攻

専門教育科目

	科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考
			必 修	選 択	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
専門 教育 科目	D2173	学外協働実習		1	※ 1								1・2・7			
	D2174	高大連携特別講義 A		2								1～7			卒業要件単位数にのみ加算	
	D2175	高大連携特別講義 B		2								1～7			卒業要件単位数にのみ加算	
	D2176	高大連携特別講義 C		1								1～7			卒業要件単位数にのみ加算	
総合 教育 科目	G1829	コミュニケーション英語 A	1		1							1・6	○			
	G1830	コミュニケーション英語 C	1		1							1・6	○			
	G1831	コミュニケーション英語 D	1			1						1・6	○			
	G3834	コミュニケーション英語 B	1			1						1・6	○			
	G3832	TOEIC・視聴覚英語 A	1				1					1・6	○			
	G3833	TOEIC・視聴覚英語 B	1				1					1・6	○			
	G3835	英語ワークショップ A:スピーキング&プレゼンテーション	1			1						1・6	○		前期にも開講する場合あり	
	G3836	英語ワークショップ B:上級リーディング	1			1						1・6	○		前期にも開講する場合あり	
	G3837	英語ワークショップ C:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習	1			1						1・6	○		前期にも開講する場合あり	
	G3838	英語ワークショップ D:海外留学英語	1			1						1・6	○		前期にも開講する場合あり	
	G3845	英語圏のことばと文化 A	2				1					1・6	○	○		
	G3846	英語圏のことばと文化 B	2				1					1・6	○	○		
	G3843	中国語 A	1	1								1・6	○			
	G3844	中国語 B	1			1						1・6	○			
	G3841	フランス語 A	1	1								1・6	○			
	G3842	フランス語 B	1			1						1・6	○			
	G3839	ドイツ語 A	1	1								1・6	○			
	G3840	ドイツ語 B	1			1						1・6	○			
	G2834	複素関数論		2				1					3	○	○	
	G2835	代数学		2					1				3	○	○	
	G2836	統計物理		2				1					3	○	○	
	G2837	質点系と剛体の力学		2				1					3	○	○	
	G2036	人間性の探究		2									1・6	○	○	
	G2001	こころの科学		2									1・6	○	○	
	G2026	人間の行動		2									1・6	○	○	
	G2064	科学技術と自然と人間		2									1・6	○	○	
	G2065	表現文化		2									1・6	○	○	
	G2014	現代社会の探究		2									1・6	○		
	G2013	現代の経済		2									1・6	○	○	
	G2066	現代社会と法		2									1・6	○		
	G2048	日本国憲法		2									1・6	○		
	G2010	健康の科学		2									1・6	○	○	
	G2067	ものづくり文化		2									1・6	○	○	
	G2821	環境と地域共創		2									1・6	○	○	
	G2069	創造と倫理		2									1・6	○	○	
	G2841	日本語リテラシ		2	1								1・6	○		開講学期変更の可能性あり
	G2822	ものづくり文化実習		1	1								1・6	○	○	開講学期変更の可能性あり
	G2008	健康・スポーツ科学実習Ⅰ		1	1								1・6	○	○	
	G2009	健康・スポーツ科学実習Ⅱ		1			1						1・6	○	○	
	G2838	中国のことばと文化		2				1					1・6	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2839	フランスのことばと文化		2				1					1・6	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2840	ドイツのことばと文化		2				1					1・6	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2070	特別講義		2									1・6			年度によって開講しない場合がある
	G2823	日本語コミュニケーション		2		1～4年次の前期に開講								1・6		卒業・進級要件単位には含めない
	G2824	海外研修英語		1		※ 1								1・6	○	
	G2833	海外留学英語		4		2年後期または3年後期に開講								1・6	○	

- 履修期は基本的な開講学年学期とし変更する場合がある。
- ※ 1 印の授業科目は毎週の授業時間数を定めない。
- 副専攻の詳細は132ページ
- DPはディプロマ・ポリシーの該当番号に対応

DD

土木工学専攻

■ 注意

1. 卒業および進級要件に含めない科目

- ・ インターンシップ、高大連携特別講義は進級判定時の単位数には含めず、卒業要件単位数にのみ加算します。
※インターンシップの詳細は「V学生生活>キャリアセンター」を参照して下さい。
- ・ 日本語コミュニケーションで修得した単位は、卒業・進級要件に含めません。

2. 履修上の注意

総合教育科目の履修については「Ⅲ教育課程>基礎教育センター」を参照して下さい。

3. 他専攻・他学科・他大学履修の注意

自らの専門分野を超え、幅広く柔軟な視野と知識を修得するために、自分の専攻にない他専攻・他学科・他大学の科目を履修することができます。

なお、安易な履修登録など、この目的に合わないとは判断した場合は、履修を認めない場合があります。

また、他専攻・他学科・他大学の科目を修得した場合は、卒業および進級に必要な単位として以下の表のとおり認定されます。

履 修 科 目		卒業・進級に必要な単位 として認定される科目区分	卒業・進級に必要な単位 として認定される上限
所属学科 他専攻 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定	10単位まで
他学科 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定	6単位まで (副専攻対象科目に限る)
単位互換制度による 他大学開設科目	科目区分は履修登録 後、審査して決定され ます。	専門教育科目(選択) の単位として認定	6単位まで
		総合教育科目(選択) の単位として認定	4単位まで

4. 資格試験に関する授業の履修上の注意

- (1) 卒業後、測量士補の資格取得申請をしようとするものは、選択科目のうち「応用測量学及び演習」を修得して下さい。

■ 卒業進級要件

1. 上級年次への進級要件

以下の表に定める単位を修得したものは、上級年次へ進級することができます。

1年次から2年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	12単位以上 うち 社会基盤セミナー1 建設基礎数学 材料力学 測量実習 } を全て修得していること		24単位以上
選択科目	(必修科目と合わせて24単位以上)		

※GPAが0.5以上であること。

2年次から3年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	40単位以上 うち （社会基盤セミナー2） 構造力学Ⅰ及び演習 土質力学Ⅰ及び演習 水理学Ⅰ及び演習	を全て修得していること	66単位以上
選択科目	（必修科目と合わせて66単位以上）		

3年次から4年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	65単位以上 うち 社会基盤セミナー3 構造力学Ⅱ及び演習 土質力学Ⅱ及び演習 水理学Ⅱ及び演習 }	を全て修得していること	108単位以上 うち専門実験実習科目6科目(構造実験・水理実験・土質実験・材料実験・環境実習・防災実習)中5科目以上修得していること
選択科目	(必修科目と合わせて108単位以上)		

2. 卒業要件

以下の表に定める単位を修得したものは、卒業することができます。

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	75単位	8単位※	83単位
選択科目	25単位以上	16単位以上	41単位以上
計	100単位以上	24単位以上	124単位以上

※必修科目3単位と選択必修科目5単位の合計とする。ただし、このうち英語系科目を6単位以上修得していること。

都市デザイン専攻 科目系統図

必修科目 選択必修科目

対応学年	1 年	2 年	3 年	4 年
対応学期	前期	後期	前期	後期
カリキュラム・ポリシー (P66 参照)	1			
	2			
	3			
	4			
	5			

学習・教育 到達目標		授業科目名									
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
1. 社会奉仕と国際 貢献を思考する 技術者の育成	* 人文・社会										
	○〔人間性の探究〕〔現代の経済〕〔現代社会と法〕〔日本国憲法〕など										
	* 語学						○現代社会と倫理				
	○コミュニケーション イングリッシュA	○コミュニケーション イングリッシュB	TOEIC・視聴覚 英語 A	TOEIC・視聴覚 英語 B							
	○コミュニケーション イングリッシュC	○コミュニケーション イングリッシュD	英語圏のことばと文化 A								
			英語圏のことばと文化 B								
	○中国語 A	○中国語 B	中国のことばと文化								
	○フランス語 A	○フランス語 B	フランスのことばと文化								
	○ドイツ語 A	○ドイツ語 B	ドイツのことばと文化								
			○英語ワーク ショップ A～D								
	健康・スポーツ 科学実習Ⅰ	健康・スポーツ 科学実習Ⅱ									
	○測量学	○応用測量学 及び演習									
	* 構造系										
	○構造力学Ⅰ 及び演習		○構造力学Ⅱ 及び演習	○構造力学Ⅲ 及び演習							
			* 計画系								
			○社会基盤計画学	交通計画	都市計画						
			○ランドスケープ デザイン								
			* 防災系								
			○防災工学	○防災地質学	防災計画論						
	* 環境・生態系										
	○生物学・生態学				○生態工学						
	* 実験・実習										
	○測量実習		防災実習								
	* キャリア系		地理空間情報演習								
			インターンシップ								
					キャリア意識形成	キャリアデザイン				職業指導（工業）	
* セミナー								* 卒研			
○社会基盤セミナー 1		○社会基盤セミナー 2		○社会基盤セミナー 3		○卒業研究					

2. 技術者としての 責任・倫理観の 育成	◎材料力学				○現代社会と倫理	
	○測量学		○応用測量学 及び演習			
	*構造系					
	◎構造力学Ⅰ 及び演習		◎構造力学Ⅱ 及び演習		◎構造力学Ⅲ 及び演習	
	*地盤系				*河川系	
	◎土質力学Ⅰ 及び演習		◎土質力学Ⅱ 及び演習		◎土質力学Ⅲ 及び演習	
					○地盤工学	
			*計画系			
			◎社会基盤計画学		交通計画	
			○ランドスケープ デザイン			
			*防災系			
			○防災工学		○防災地質学	
					防災計画論	
			○環境アセスメント		○生態工学	
					防災実習	
			地理空間情報演習			
			インターンシップ			
			キャリア意識形成		キャリアデザイン	
					職業指導(工業)	
	*セミナー				*卒研	
	◎社会基盤セミナー1				◎社会基盤セミナー3	
				◎卒業研究		

必修科目

選択必修科目

対応学年	1 年	2 年	3 年	4 年
対応学期	前期	後期	前期	後期
カリキュラム・ポリシー (P66 参照)	1			
	2			
	3			
	4			
	5			

学習・教育到達目標	授業科目名							
	1 年	2 年	3 年	4 年				
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
3. 実践的応用能力を目指した土木専門知識と技術の育成	質点系と剛体の力学／複素関数論／代数学／統計物理							
	*数学・自然科学（物理・化学）							
	◎データサイエンス基礎数理			確率・統計				
	○線形代数Ⅰ	○線形代数Ⅱ		微分方程式				
	○微分積分Ⅰ及び演習	微分積分Ⅱ及び演習						
		○物理学（力学）	○物理学（波動）	物理学（電磁気学）				
	化学Ⅰ	化学Ⅱ	○物理実験					
	◎建設基礎数学				○情報処理演習			
	◎材料力学							
	○測量学	○応用測量学及び演習						
	*構造系							
	◎構造力学Ⅰ及び演習	◎構造力学Ⅱ及び演習	◎構造力学Ⅲ及び演習					
	*河川系				○水文学	○河川工学		
	○水理学Ⅰ及び演習	○水理学Ⅱ及び演習						
	*地盤系				○地盤工学			
	◎土質力学Ⅰ及び演習	◎土質力学Ⅱ及び演習	◎土質力学Ⅲ及び演習					
	*材料系							
	◎コンクリート工学Ⅰ				◎鉄筋コンクリート構造Ⅰ及び演習	○鉄筋コンクリート構造Ⅱ		
	*計画系							
	◎社会基盤計画学	交通計画	都市計画	建設マネジメント				
	○ランドスケープデザイン							
	*防災系							
	○防災工学	○防災地質学	防災計画論					
		○生態工学						
		○環境工学						
	*環境・生態系							
	◎生物学・生態学							
	*実験・実習							
	○測量実習							
	*キャリア系							
		防災実習	◎土質実験・構造実験 水理実験・材料実験					
		地理空間情報演習	都市デザイン演習					
		インターンシップ						
					*セミナー		*卒研	
					◎社会基盤セミナー 3		◎卒業研究	

※学習・教育到達目標の達成に重要な位置づけにある科目には○、特に重要な位置づけにある科目には◎を付した

DS

都市デザイン専攻

 必修科目 選択必修科目

4.

※学習・教育到達目標の達成に重要な位置づけにある科目には○、特に重要な位置づけにある科目には◎を付した

必修科目

選択必修科目

対応学年	1 年	2 年	3 年	4 年
対応学期	前期	後期	前期	後期
カリキュラム・ポリシー (P66 参照)	1			
	2			
	3			
	4			
	5			

学習・教育到達目標	授業科目名							
	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
6. 論理的思考を礎とするコミュニケーション能力の育成	*人文・社会 ○〔人間性の探究〕〔現代の経済〕〔現代社会と法〕〔日本国憲法〕など							
	*語学 ○コミュニケーション英語A ○コミュニケーション英語B ○コミュニケーション英語C ○コミュニケーション英語D 英語圏の文化と文化A 英語圏の文化と文化B ○中国語A ○中国語B ○フランス語A ○フランス語B ○ドイツ語A ○ドイツ語B ○英語ワークショップA～D 健康・スポーツ科学実習Ⅰ 健康・スポーツ科学実習Ⅱ							
	*計画系 ◎社会基盤計画学 交通計画 都市計画 ◎生態工学 ◎環境工学 環境実習・防災実習 都市デザイン演習 インターンシップ キャリア意識形成 キャリアデザイン *卒研 ◎卒業研究							
	*環境・生態系 ◎生物学・生態学							
	*キャリア系 ◎土質実験・構造実験 水理実験							
	◎社会基盤セミナー1 ◎社会基盤セミナー2 ◎社会基盤セミナー3 ◎卒業研究							
	*地盤系 ◎地盤工学 ◎防災計画論							
	*防災系 ◎防災地質学 ◎生態工学							
	*環境アセスメント 環境実習 インターンシップ キャリア意識形成 キャリアデザイン *卒研 ◎卒業研究							
	◎社会基盤セミナー1 ◎社会基盤セミナー2 ◎社会基盤セミナー3 ◎卒業研究							
	*キャリア系 *実験・実習 環境実習 インターンシップ キャリア意識形成 キャリアデザイン *卒研 ◎卒業研究							
	◎社会基盤セミナー1 ◎社会基盤セミナー2 ◎社会基盤セミナー3 ◎卒業研究							
	◎社会基盤セミナー1 ◎社会基盤セミナー2 ◎社会基盤セミナー3 ◎卒業研究							
	◎社会基盤セミナー1 ◎社会基盤セミナー2 ◎社会基盤セミナー3 ◎卒業研究							
	◎社会基盤セミナー1 ◎社会基盤セミナー2 ◎社会基盤セミナー3 ◎卒業研究							

※学習・教育到達目標の達成に重要な位置づけにある科目には○、特に重要な位置づけにある科目には◎を付した

○社会基盤学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

- 1 初年次教育として、数学系および情報系科目およびセミナーを編成し、大学教育で必要な基礎学力を養う。
- 2 教養科目として、人文・社会科学系科目、健康・スポーツ系科目、外国語科目および数学系、自然科学系（物理・化学）科目を編成し、土木技術者としての地域・社会への関わり方、工学に必要な自然科学の基礎知識、土木工学の専門知識・技術を取得するための基礎能力を養う。
- 3 専門教育として、土木分野の基礎から応用を習得する科目を編成し、基礎理論から応用能力を養う。
特に土木主要分野である3力系科目には講義に付随して演習科目を配置し理解を深める。
また、都市デザイン系、生態・環境系、防災系科目を配置し、ソフト面の知識・理解を深める。
- 4 実習・演習、実験科目は、ソフト系実習・演習科目とハード系実験科目で編成し、実務に直結する専門知識と実習技術を体得し、結果を具体的な形に仕上げる能力を養う。
- 5 卒業研究では、自ら実施計画を立案し、計画的に結果を導くとともに、成果を取りまとめる能力を養う。

DS

都市デザイン専攻

都市デザイン専攻教育課程表

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考
		必修	選択	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
専門 教育 科目	S1001	線形代数Ⅰ	2		1							3・4	○		
	S1002	線形代数Ⅱ	2			1						3・4	○		
	S1003	微分積分Ⅰ及び演習	3		2							3・4	○		
	S2001	微分積分Ⅱ及び演習		3		2						3・4	○		
	S2002	微分方程式		2				1				3・4	○		
	S2003	確率・統計		2				1				3・4	○		
	S1038	データサイエンス基礎数理	2		1							3・4	○		
	S1040	建設基礎数学	2		1							3・4	○		
	S1004	物理学（力学）	2			1						3・4	○		
	S1005	物理学（波動）	2				1					3・4	○		
	S2004	物理学（電磁気学）		2				1				3・4	○		
	S1006	物理実験	2				2					3・4	○		
	S2005	化学Ⅰ		2	1							3・4	○		
	S2006	化学Ⅱ		2		1						3・4	○		
	S2046	情報リテラシ		2	1							4	○		
	S2008	情報数学		2				1				4	○		
	S2054	情報処理演習		2					2			3～6	○		
	S1053	社会基盤セミナー1	1			1						1・2・5・7	○		
	S1054	社会基盤セミナー2	1					1				1・4・7	○		
	S1055	社会基盤セミナー3	1						1			1～7	○		
	S1014	測量学	2		1							1～3	○		
	S1015	測量実習	2		2							1～3	○		
	S2013	応用測量学及び演習		3		2						1～3	○		
	S1019	構造力学Ⅰ及び演習	3			2						1～5	○		
	S1020	構造力学Ⅱ及び演習	3				2					1～5	○		
	S1021	構造力学Ⅲ及び演習	3					2				1～5	○		
	S1024	水理学Ⅰ及び演習	3			2						3	○		
	S1034	水理学Ⅱ及び演習	3				2					3～5	○		
	S2023	河川工学		2						1		2・3	○		
	S2055	水文学		2					1			3・4	○		
	S1033	土質力学Ⅰ及び演習	3			2						2～5	○		
	S1035	土質力学Ⅱ及び演習	3				2					2～5	○		
	S1036	土質力学Ⅲ及び演習	3					2				2～5	○		
	S2041	地盤工学		2					1			2・3・5・7	○		
	S1056	社会基盤計画学	2					1				1～3・5・6	○		
	S2053	交通計画		2					1			1～3・5・6	○		
	S2014	都市計画		2						1		1～3・5・6	○		
	S2042	ランドスケープデザイン		2			1					1～3	○		
	S1018	コンクリート工学Ⅰ	2				1					3～5	○		
	S1037	鉄筋コンクリート構造Ⅰ及び演習	3						2			3～5	○		
	S2020	鉄筋コンクリート構造Ⅱ		2						1		3～5	○		
	S1058	生物学・生態学	2		1							1～4・6・7	○		
	S2011	生態工学		2				1				1～4・6・7	○		
	S2040	環境アセスメント		2				1				2・4・5・7	○		
	S2043	環境工学		2				1				3～6	○		
	S2052	上下水道		2						1		3～5	○		
	S1032	材料力学	2		1							2～5	○		
	S1016	防災工学	2				1					1～5	○		
	S2033	防災地質学		2				1				1～5・7	○		
	S2058	防災計画論		2					1			1～5・7	○		
S2034	土木施工		2						1		3～5	○			
S2057	建設マネジメント		2						1		2・3・5	○			
S1017	設計製図	2							2		3～5	○			
S1041	地理空間情報演習	1					1				1～3	○			
S1042	都市デザイン演習	1						1			3～6	○			
S1057	環境実習	1					1				4～7	○		隔週で開講する	
S1012	防災実習	1					1				1～6	○		隔週で開講する	
S1008	構造実験	1							1		3・5・6	○		隔週で開講する	
S1009	水理実験	1							1		3～6	○		隔週で開講する	
S1010	土質実験	1							1		3～6	○		隔週で開講する	
S1011	材料実験	1							1		3～5	○		隔週で開講する	
S1013	卒業研究	4								※1	1～7				
S2051	職業指導（工業）		2								1・2・5・7	○			
S2047	キャリア意識形成		2					1			1・2・5・7	○		開講学期変更の可能性あり	
S2048	キャリアデザイン		2						1		1・2・5・7	○			
S2050	インターンシップ		2					※1			1～7			卒業要件単位数にのみ加算	
S2049	現代社会と倫理		2						1		1・2・5	○		開講学期変更の可能性あり	

専門教育科目

DS

都市デザイン専攻

	科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考
			必修	選択	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
専門 教育 科目	S2035	学外協働実習		1	※ 1								1・2・7			
	S2036	高大連携特別講義 A		2									1～7			卒業要件単位数にのみ加算
	S2037	高大連携特別講義 B		2									1～7			卒業要件単位数にのみ加算
	S2038	高大連携特別講義 C		1									1～7			卒業要件単位数にのみ加算
総合 教育 科目	G1829	コミュニケーション英語A	1		1								1・6	○		
	G1830	コミュニケーション英語C	1		1								1・6	○		
	G1831	コミュニケーション英語D	1			1							1・6	○		
	G3834	コミュニケーション英語B	1			1							1・6	○		
	G3832	TOEIC・視聴覚英語 A	1				1						1・6	○		
	G3833	TOEIC・視聴覚英語 B	1					1					1・6	○		
	G3835	英語ワークショップA:スピーキング&プレゼンテーション	1			1							1・6	○		前期にも開講する場合あり
	G3836	英語ワークショップB:上級リーディング	1			1							1・6	○		前期にも開講する場合あり
	G3837	英語ワークショップC:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習	1			1							1・6	○		前期にも開講する場合あり
	G3838	英語ワークショップD:海外留学英語	1			1							1・6	○		前期にも開講する場合あり
	G3845	英語圏のことばと文化 A	2				1						1・6	○	○	
	G3846	英語圏のことばと文化 B	2					1					1・6	○	○	
	G3843	中国語 A	1	1									1・6	○		
	G3844	中国語 B	1		1								1・6	○		
	G3841	フランス語 A	1	1									1・6	○		
	G3842	フランス語 B	1		1								1・6	○		
	G3839	ドイツ語 A	1	1									1・6	○		
	G3840	ドイツ語 B	1		1								1・6	○		
	G2834	複素関数論		2			1						3	○	○	
	G2835	代数学		2				1					3	○	○	
	G2836	統計物理		2			1						3	○	○	
	G2837	質点系と剛体の力学		2			1						3	○	○	
	G2036	人間性の探究		2									1・6	○	○	
	G2001	こころの科学		2									1・6	○	○	
	G2026	人間の行動		2									1・6	○	○	
	G2064	科学技術と自然と人間		2									1・6	○	○	
	G2065	表現文化		2									1・6	○	○	
	G2014	現代社会の探究		2									1・6	○		
	G2013	現代の経済		2									1・6	○	○	
	G2066	現代社会と法		2									1・6	○		
	G2048	日本国憲法		2									1・6	○		
	G2010	健康の科学		2									1・6	○	○	
	G2067	ものづくり文化		2									1・6	○	○	
	G2821	環境と地域共創		2									1・6	○	○	
	G2069	創造と倫理		2									1・6	○	○	
	G2841	日本語リテラシ		2	1								1・6	○		開講学期変更の可能性あり
	G2822	ものづくり文化実習		1	1								1・6	○	○	開講学期変更の可能性あり
	G2008	健康・スポーツ科学実習Ⅰ		1	1								1・6	○	○	
	G2009	健康・スポーツ科学実習Ⅱ		1		1							1・6	○	○	
	G2838	中国のことばと文化		2				1					1・6	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2839	フランスのことばと文化		2				1					1・6	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2840	ドイツのことばと文化		2				1					1・6	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2070	特別講義		2									1・6			年度によって開講しない場合がある
	G2823	日本語コミュニケーション		2	1～4年次の前期に開講								1・6			卒業・進級要件単位には含めない
	G2824	海外研修英語		1	※ 1								1・6		○	
	G2833	海外留学英語		4	2年後期または3年後期に開講								1・6		○	

- 履修期は基本的な開講学年学期とし変更する場合がある。
- ※ 1 印の授業科目は毎週の授業時間数を定めない。
- 副専攻の詳細は132ページ
- DPはディプロマ・ポリシーの該当番号に対応

DS

都市デザイン専攻

■ 注意

1. 卒業および進級要件に含めない科目

- ・ インターンシップ、高大連携特別講義は進級判定時の単位数には含めず、卒業要件単位数にのみ加算します。
※インターンシップの詳細は「V学生生活>キャリアセンター」を参照して下さい。
- ・ 日本語コミュニケーションで修得した単位は、卒業・進級要件に含めません。

2. 履修上の注意

総合教育科目の履修については「Ⅲ教育課程>基礎教育センター」を参照して下さい。

3. 他専攻・他学科・他大学履修の注意

自らの専門分野を超え、幅広く柔軟な視野と知識を修得するために、自分の専攻にない他専攻・他学科・他大学の科目を履修することができます。

なお、安易な履修登録など、この目的に合わないと判断した場合は、履修を認めない場合があります。

また、他専攻・他学科・他大学の科目を修得した場合は、卒業および進級に必要な単位として以下の表のとおり認定されます。

履 修 科 目		卒業・進級に必要な単位 として認定される科目区分		卒業・進級に必要な単位 として認定される上限
所属学科 他専攻 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		10単位まで
他学科 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		6単位まで (副専攻対象科目に限る)
単位互換制度による 他大学開設科目		科目区分は履修登録 後、審査して決定され ます。	専門教育科目(選択) の単位として認定	6単位まで
			総合教育科目(選択) の単位として認定	4単位まで

4. 資格試験に関する授業の履修上の注意

- (1) 卒業後、測量士補の資格取得申請をしようとするものは、選択科目のうち「応用測量学及び演習」を修得して下さい。

■ 卒業進級要件

1. 上級年次への進級要件

以下の表に定める単位を修得したものは、上級年次へ進級することができます。

1年次から2年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	12単位以上 うち 社会基盤セミナー1 建設基礎数学 材料力学 測量実習	を全て修得していること	24単位以上
選択科目	(必修科目と合わせて24単位以上)		

※GPAが0.5以上であること。

2年次から3年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	40単位以上 うち (社会基盤セミナー2) 構造力学I及び演習 土質力学I及び演習 水理学I及び演習 } を全て修得していること		66単位以上
選択科目	(必修科目と合わせて66単位以上)		

3年次から4年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	65単位以上 うち 社会基盤セミナー3 構造力学Ⅱ及び演習 土質力学Ⅱ及び演習 水理学Ⅱ及び演習 } を全て修得していること		108単位以上 うち専門実験実習科目6科目(構造実験・水理実験・土質実験・材料実験・環境実習・防災実習)中5科目以修得していること
選択科目	(必修科目と合わせて108単位以上)		

2. 卒業要件

以下の表に定める単位を修得したものは、卒業することができます。

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	75単位	8単位※	83単位
選択科目	25単位以上	16単位以上	41単位以上
計	100単位以上	24単位以上	124単位以上

※必修科目3単位と選択必修科目5単位の合計とする。ただし、このうち英語系科目を6単位以上修得していること。

DS

都市デザイン専攻

建 築 学 科

◎建築学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

建築学は、人類創生の頃から続いている技術であり、芸術に関わる学術分野である。「形態や空間の美しさ」と同時に、「利便性や快適性」、「安全性や耐久性」が要求され、地震・台風その他の外力に対しても安全で、都市や地域において持続可能でかつ実用的なものであることが望まれる。建築学科では、学部のディプロマ・ポリシーに基づき、以下の資質を身につけた者に学位を授与する。

1. 基礎的な知識と素養、何事にも主体的に学ぶ姿勢
2. 建築に関する専門的な理論と総合的で高い応用技術
3. 建築技術者としての強い使命感と責任感、正しい倫理観
4. 自己の表現力、他との協働を尊重できるコミュニケーション能力
5. 人と地球環境にやさしい社会づくりのための先端技術と実践力

◎建築学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げた技術者の育成を実現するため、次の方針に基づいてカリキュラムを編成し、教育を行い、学修成果を評価する。

1. 社会の動向や技術の発展に柔軟に対応できるよう、総合的な教養教育及び建築学の専門性に基づく課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びにより、コミュニケーション能力を有する高度な建築技術者の養成を目的とした教育課程とする。
2. 初年次から工学全般と建築学の基礎科目を通じて建築技術者としての基礎学力を身につけ、建築学に求められる「計画・意匠」「構造・材料」「環境・設備」の3つの分野をバランスよく総合的に学び、実験、実習、設計科目を通じて、何事にも主体的に取り組む、創造力豊かな人材を養成する。
3. 単体の小規模建築から大規模な複合建築まで、また基礎的な科目から応用的な専門分野へ徐々に移行でき、自己の関心にあわせて主体的な学びを選択履修できるカリキュラムを構成している。
実験、実習、セミナーや地域課題の解決に取り組む科目、インターンシップを活用した企業実習、卒業研究などを通して実践力を養成する。

●●●●● 建築学科教育課程表 ●●●●●

授 業 科 目		単位数	必選の別	
			FA 専攻	FL 専攻
専 門 教 育 科 目	データサイエンス基礎数理	2	必	必
	線形代数Ⅰ	2	必	選
	線形代数Ⅱ	2	選	選
	微分積分Ⅰ及び演習	3	必	選
	微分積分Ⅱ及び演習	3	選	選
	微分方程式	2	選	選
	確率・統計	2	選	選
	情報リテラシ	1	必	必
	情報処理演習	2	選	選
	物理学（力学）	2	必	必
	物理学（電磁気学）	2	選	選
	物理学（波動）	2	選	選
	物理実験	2	選	選
	化学Ⅰ	2	選	選
	地球環境	2	選	選
	建築セミナー	1	必	必
	建築概説	2	必	必
	建築 CAD	2	選	選
	建築 CAD 応用	2	選	選
	建築図学	2	必	必
	設計製図Ⅰ	2	必	必
	設計製図Ⅱ	3	必	必
	設計製図Ⅲ	3	必	必
	建築・地域デザイン	2	選必	選必
	建築空間設計	2	選	☆
	地域デザイン	2	☆	選
	建築計画学	2	必	必
	住居計画	2	必	必
	施設計画Ⅰ	2	必	必
	施設計画Ⅱ	2	選	☆
	都市計画Ⅰ	2	必	必
	都市・まちづくり	2	☆	選
	造形	2	選	選
	生活デザイン	2	☆	選
	建築ディテール	2	☆	選
	インテリアデザイン	2	☆	必
	ランドスケープデザイン	2	選	選
	日本建築史Ⅰ	2	必	必
	日本建築史Ⅱ	2	選	選
	西洋建築史	2	必	必
	近代建築史	2	選	選
	建築設備A	2	必	
	建築設備B	2	選	☆
	建築設備設計Ⅰ	2	選必	☆
	建築設備設計Ⅱ	2	選	☆
	建築環境Ⅰ	2	必	必
	建築環境Ⅱ	2	☆	選
	住居設備	2		必
	住環境設計	2	☆	選必
	建築構造力学Ⅰ及び演習	3	必	必
	建築構造力学Ⅱ及び演習	3	必	必
	建築構造解析及び演習	3	選	☆

授 業 科 目		単位数	必選の別	
			FA 専攻	FL 専攻
専 門 教 育 科 目	建築構造設計A	2	選必	選必
	建築構造設計B	2	選	☆
	建築振動学	2	選	☆
	建築基礎構造	2	選	☆
	鉄筋コンクリート構造	2	必	必
	鉄骨構造	2	必	選
	木構造	2	選	必
	建築構造材料	2	必	必
	建築一般材料	2	選	
	インテリア材料	2		選
	建築施工Ⅰ	2	必	必
	建築施工Ⅱ	2	選	☆
	住宅生産	2	☆	選
	建築工学実験	2	必	必
	建築法規及び行政	2	必	必
	ファシリティマネジメント	2	選	選
	測量学	2	選	選
	測量実習	2	選	選
	職業指導（工業）	2	選	選
	キャリア意識形成	2	選	選
	キャリアデザイン	2	選	選
	技術者倫理	2	選	選
	インターンシップ	2	選	選
	卒業研究	4	必	必
	高大連携特別講義A	2	選	選
	高大連携特別講義B	2	選	選
	高大連携特別講義C	1	選	選

☆印は専門教育科目（選択）の単位として認定される他専攻の科目

建築学専攻 科目系統図

必修科目 選択必修科目

FA	1 年		2 年		3 年		4 年		ディプロマポリシーとの対応
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
総合教育 語学系科目	コミュニケーションA コミュニケーションB	コミュニケーションA コミュニケーションB	TOEIC・聴覚英語A 英語圏のことばと文化A	TOEIC・聴覚英語B 英語圏のことばと文化B					1. 基礎知識・主体性 4. 表現・コミュニケーション力
	中国語A	中国語B	中国のことばと文化						
	フランス語A	フランス語B	フランスのことばと文化						
	ドイツ語A	ドイツ語B	ドイツのことばと文化						
	日本語リテラシ								
総合教育 教養系科目	英語ワーキングショップA～D								1. 基礎知識・主体性 4. 表現・コミュニケーション力
	複素関数論/代数学/統計物理/質点系と剛体の力学/人間の科学/人間の行動/科学技術と自然と人間/表現文化/現代社会の探究/現代の経済/現代社会と法/日本国憲法/健康の科学/ものづくり文化/ものづくり文化実習/環境と地域共創/創造と倫理/特別講義								
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ 健康・スポーツ科学実習Ⅱ								
専門基礎科目	データサイエンス基礎数理								1. 基礎知識・主体性
	微分積分Ⅰ及び演習	微分積分Ⅱ及び演習	微分方程式						
	線形代数Ⅰ	線形代数Ⅱ	確率・統計						
	物理学(力学)	物理学(電磁気学)	物理学(波動)	物理実験					
	情報リテラシ	化学Ⅰ							
専門共通科目	建築セミナー	建築セミナー	キャリア意識形成		建築法規及び行政	技術者倫理	卒業研究		2. 専門知識・応用力 3. 責任感・倫理観 4. 表現・コミュニケーション力 5. 先端技術・実践力
	建築概説				建築工学実験	地球環境	ファシリティマネジメント		
					キャリアデザイン	情報処理演習	測量学		
							測量実習		
							職業指導(工業)		
製図系科目	建築図学	設計製図Ⅰ	設計製図Ⅱ	設計製図Ⅲ	建築・地域デザイン	建築空間設計			2. 専門知識・応用力 4. 表現・コミュニケーション力
	造形		建築CAD	建築CAD応用					
計画系科目 (計画・意匠)		建築計画学	住居計画	施設計画Ⅰ	施設計画Ⅱ				1. 基礎知識・主体性 2. 専門知識・応用力 5. 先端技術・実践力
			日本建築史Ⅰ	西洋建築史	都市計画Ⅰ				
					近代建築史				
構造系科目 (構造・材料)		建築構造力学Ⅰ及び演習	建築構造力学Ⅱ及び演習	鉄筋コンクリート構造	建築構造解析及び演習	建築構造設計B			1. 基礎知識・主体性 2. 専門知識・応用力 5. 先端技術・実践力
			木構造	建築一般材料	建築構造設計A	建築振動学			
			建築構造材料		鉄骨構造	建築施工Ⅱ	建築基礎構造		
環境系科目 (環境・設備)		建築環境Ⅰ			建築施工Ⅰ				
				建築設備A					
専門性	基礎			建築設備B	建築設備設計Ⅰ	建築設備設計Ⅱ		応用	

●●●●● 建築学専攻教育課程表 ●●●●●

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 出 発 点	副 専 攻	備 考
		必 修	選 択	1 年 次 前 後	2 年 次 前 後	3 年 次 前 後	4 年 次 前 後	1 年 次 前 後	2 年 次 前 後	3 年 次 前 後	4 年 次 前 後				
A1095	データサイエンス基礎数理	2		1								1	○		
A1045	線形代数Ⅰ	2		1								1	○		
A2101	線形代数Ⅱ		2		1							1	○		
A1057	微分積分Ⅰ及び演習	3		2								1	○		
A2102	微分積分Ⅱ及び演習		3		2							1	○		
A2103	微分方程式		2		1							1	○		
A2003	確率・統計		2		1							1	○		
A1097	情報リテラシ	1		1								1	○		
A2108	情報処理演習		2				2					2・4	○		
A1064	物理学（力学）	2		1								1	○		
A2105	物理学（電磁気学）		2		1							1	○		
A2104	物理学（波動）		2		1							1	○		
A2093	物理実験		2			2						1	○		
A2106	化学Ⅰ		2		1							1	○		
A2181	地球環境		2				1					2・4	○		
A1096	建築セミナー	1		1								2・4	○		
A1094	建築概説	2		1								2・4	○		
A2113	建築CAD		2		1							2・4	○		
A2171	建築CAD応用		2			1						2・4	○		
A1092	建築図学	2		2								2・4	○		
A1041	設計製図Ⅰ	2			2							2・4	○		
A1067	設計製図Ⅱ	3				3						2・4	○		
A1068	設計製図Ⅲ	3				3						2・4	○		
A3005	建築・地域デザイン		2				2					2・4	○	※2	
A2183	建築空間設計		2				2					2・4	○		
A1082	建築計画学	2			1							1・2・5	○		
A1070	住居計画	2				1						1・2・5	○		
A1083	施設計画Ⅰ	2				1						1・2・5	○		
A2144	施設計画Ⅱ		2				1					1・2・5	○		
A1056	都市計画Ⅰ	2					1					1・2・5	○		
A2063	造形		2	2								2・4	○		
A2147	ランドスケープデザイン		2				1					1・2・5	○		
A1084	日本建築史Ⅰ	2			1							1・2・5	○		
A2148	日本建築史Ⅱ		2			1						1・2・5	○		
A1079	西洋建築史	2				1						1・2・5	○		
A2125	近代建築史		2				1					1・2・5	○		
A1099	建築環境Ⅰ	2			1							1・2・5	○		
A1098	建築設備A	2			1							1・2・5	○		
A2187	建築設備B		2			1						1・2・5	○		
A3007	建築設備設計Ⅰ		2				2					1・2・5	○	※2	
A2156	建築設備設計Ⅱ		2					2				1・2・5	○		
A1087	建築構造力学Ⅰ及び演習	3			2							1・2・5	○		
A1088	建築構造力学Ⅱ及び演習	3				2						1・2・5	○		
A2172	建築構造解析及び演習		3				2					1・2・5	○		
A3006	建築構造設計A		2				2					1・2・5	○	※2	
A2186	建築構造設計B		2					2				1・2・5	○		
A2184	建築振動学		2					1				1・2・5	○		
A2161	建築基礎構造		2						1			1・2・5	○		
A1052	鉄筋コンクリート構造	2				1						1・2・5	○		
A1054	鉄骨構造	2					1					1・2・5	○		
A2160	木構造		2		1							1・2・5	○		
A1011	建築構造材料	2			1							1・2・5	○		
A2164	建築一般材料		2			1						1・2・5	○		
A1091	建築施工Ⅰ	2					1					1・2・5	○		
A2121	建築施工Ⅱ		2					1				1・2・5	○		
A1090	建築工学実験	2					2					2・4	○		
A1080	建築法規及び行政	2					1					2・4	○		
A2173	ファシリティマネジメント		2					1				2・4	○		
A2165	測量学		2					1				2・4	○		
A2166	測量実習		2					2				2・4	○		

専門教育科目

FA

建築学専攻

	科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考
			必修	選択	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
専門 教育 科目	A2185	職業指導（工業）		2							1		23・45	○		開講学期変更の可能性あり
	A2178	キャリア意識形成		2			1						23・45	○		
	A2179	キャリアデザイン		2					1				23・45	○		
	A2180	技術者倫理		2					1				23・45	○		
	A2143	インターンシップ		2	※ 1							23・45			卒業要件単位数にのみ加算	
	A1048	卒業研究	4								※ 1		23・45			
	A2167	高大連携特別講義 A		2												卒業要件単位数にのみ加算
	A2168	高大連携特別講義 B		2												卒業要件単位数にのみ加算
	A2169	高大連携特別講義 C		1												卒業要件単位数にのみ加算
総合 教育 科目	G1829	コミュニケーション英語A	1		1								1・4	○		
	G1830	コミュニケーション英語C	1		1								1・4	○		
	G1831	コミュニケーション英語D	1			1							1・4	○		
	G3834	コミュニケーション英語B	1			1							1・4	○		
	G3832	TOEIC・視聴覚英語 A	1				1						1・4	○		
	G3833	TOEIC・視聴覚英語 B	1					1					1・4	○		
	G3835	英語ワークショップA:スピーキング&プレゼンテーション	1			1							1・4	○		前期にも開講する場合あり
	G3836	英語ワークショップB:上級リーディング	1			1							1・4	○		前期にも開講する場合あり
	G3837	英語ワークショップC:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習	1			1							1・4	○		前期にも開講する場合あり
	G3838	英語ワークショップD:海外留学英語	1			1							1・4	○		前期にも開講する場合あり
	G3845	英語圏のことばと文化 A	2				1						1・4	○	○	
	G3846	英語圏のことばと文化 B	2				1						1・4	○	○	
	G3843	中国語 A	1		1								1・4	○		
	G3844	中国語 B	1			1							1・4	○		
	G3841	フランス語 A	1		1								1・4	○		
	G3842	フランス語 B	1			1							1・4	○		
	G3839	ドイツ語 A	1		1								1・4	○		
	G3840	ドイツ語 B	1			1							1・4	○		
	G2834	複素関数論		2			1						1・4	○	○	
	G2835	代数学		2				1					1・4	○	○	
	G2836	統計物理		2			1						1・4	○	○	
	G2837	質点系と剛体の力学		2			1						1・4	○	○	
	G2036	人間性の探究		2									1・4	○	○	
	G2001	こころの科学		2									1・4	○	○	
	G2026	人間の行動		2									1・4	○	○	
	G2064	科学技術と自然と人間		2									1・4	○	○	
	G2065	表現文化		2									1・4	○	○	
	G2014	現代社会の探究		2									1・4	○		
	G2013	現代の経済		2									1・4	○	○	
	G2066	現代社会と法		2									1・4	○		
	G2048	日本国憲法		2									1・4	○		
	G2010	健康の科学		2									1・4	○	○	
	G2067	ものづくり文化		2									1・4	○	○	
	G2821	環境と地域共創		2									1・4	○	○	
	G2069	創造と倫理		2									1・4	○	○	
	G2841	日本語リテラシ		2	1								1・4	○		開講学期変更の可能性あり
	G2822	ものづくり文化実習		1	1								1・4	○	○	開講学期変更の可能性あり
	G2008	健康・スポーツ科学実習Ⅰ		1	1								1・4	○	○	
	G2009	健康・スポーツ科学実習Ⅱ		1		1							1・4	○	○	
	G2838	中国のことばと文化		2				1					1・4	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2839	フランスのことばと文化		2				1					1・4	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2840	ドイツのことばと文化		2				1					1・4	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2070	特別講義		2									1・4			年度によって開講しない場合がある
	G2823	日本語コミュニケーション		2	1～4年次の前期に開講								1・4			卒業・進級要件単位には含めない
	G2824	海外研修英語		1			※ 1						1・4	○		
	G2833	海外留学英語		4	2年後期または3年後期に開講								1・4	○		

1. 履修期は基本的な開講学年学期とし変更する場合がある。
2. ※ 1 印の授業科目は毎週の授業時間数を定めない。
3. 副専攻の詳細は132ページ
4. ※ 2 印の授業科目を複数修得した場合、必修科目として 1 科目が加算され、それ以降は専門選択科目に加算されます。
5. DPはディプロマ・ポリシーの該当番号に対応

■ 注意

1. 卒業および進級要件に含めない科目

- ・ インターンシップ、高大連携特別講義は進級判定時の単位数には含めず、卒業要件単位数にのみ加算します。
※インターンシップの詳細は「V学生生活>キャリアセンター」を参照して下さい。
- ・ 日本語コミュニケーションで修得した単位は、卒業・進級要件に含めません。

2. 履修上の注意

- (1) 建築学は総合的な分野です。工学ばかりでなく、人文科学、美術等を幅広く学ぶことを勧めます。
街には多くの建築があります。これは生きた教材です。多くの建築を見るようにしましょう。
- (2) 授業のなかでは設計製図が重要であるとともに、勉強の時間も多く必要です。製図課題は自宅での作業が多くなります。製図の単位不足は留年になります。十分気をつけて下さい。
- (3) 建築は工学のなかではめずらしく、法律に基づいた資格制度によって仕事が行なわれています。本学は多くの一級建築士を生んでいます。一級建築士の試験科目は「計画」、「環境・設備」、「法規」、「構造」、「施工」および「設計製図」です。資格試験のためにもなるべく多くの科目を履修することを勧めます。
- (4) 総合教育科目の履修については「Ⅲ教育課程>基礎教育センター」を参照して下さい。

3. 他専攻・他学科・他大学履修の注意

自らの専門分野を超え、幅広く柔軟な視野と知識を修得するために、自分の専攻にない他専攻・他学科・他大学の科目を履修することができます。

なお、安易な履修登録など、この目的に合わない判断した場合は、履修を認めない場合があります。

また、他専攻・他学科・他大学の科目を修得した場合は、卒業および進級に必要な単位として以下の表のとおり認定されます。

履 修 科 目		卒業・進級に必要な単位として認定される科目区分		卒業・進級に必要な単位として認定される上限
所属学科 他専攻 開設科目	専門教育科目	住居デザイン専攻の☆印のみ 専門教育科目(選択)の単位として認定		17単位まで
他学科 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		10単位まで (うち他大学開設科目は 6単位まで)
単位互換制度による 他大学開設科目		科目区分は履修登録 後、審査して決定され ます。	専門教育科目(選択) の単位として認定 総合教育科目(選択) の単位として認定	4単位まで

建築学専攻が受講できる住居デザイン専攻の☆印科目

科目 コード	授業科目	単 位 数	毎週授業時間数(コマ数)							
			1年次		2年次		3年次		4年次	
			前	後	前	後	前	後	前	後
L2062	地域デザイン	2						2		
L2052	都市・まちづくり	2						1		
L2020	生活デザイン	2		1						
L2056	建築ディテール	2					1			
L1028	インテリアデザイン	2					1			
L2065	建築環境Ⅱ	2			1					
L3003	住環境設計	2					2			
L2037	住宅生産	2						1		

■ 卒業進級要件

1. 上級年次への進級要件

以下の表に定める単位を修得したものは、上級年次へ進級することができます。

1年次から2年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	12単位以上		20単位以上
選択科目	必修科目と合わせて20単位以上		

※GPAが0.5以上であること。

2年次から3年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	34単位以上 $\left\{ \begin{array}{l} \text{建築図学} \\ \text{設計製図Ⅰ} \\ \text{設計製図Ⅱ} \\ \text{設計製図Ⅲ} \end{array} \right\}$ のうち2科目以上の単位を修得していること		51単位以上
選択科目	必修科目と合わせて51単位以上		

3年次から4年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	53単位以上 建築図学 設計製図Ⅰ 設計製図Ⅱ 設計製図Ⅲ 建築・地域デザイン 建築構造設計A 建築設備設計I のうち3科目以上の単位を修得していること		94単位以上
選択科目	必修科目と合わせて94単位以上		

2. 卒業要件

以下の表に定める単位を修得したものは、卒業することができます。

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	63単位	8単位※	71単位
選択科目	37単位以上	16単位以上	53単位以上
計	100単位以上	24単位以上	124単位以上

※必修科目3単位と選択必修科目5単位の合計とする。ただし、このうち英語系科目を6単位以上修得していること。

専門教育科目の選択必修科目（※2印の授業科目）から、必修科目として1科目（2単位）を選択して修得する必要があります。
また原則1科目のみ修得を認めます。2科目以上修得した場合、2科目目からは選択科目に加算されます。

住居デザイン専攻 科目系統図

必修科目
 選択必修科目

FL	1 年		2 年		3 年		4 年		ディプロマポリシー との対応
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
総合教育 語学系科目	コミュニケーションA コミュニケーションB	コミュニケーションA コミュニケーションB	TOEIC・視聴覚英語A 英語圏のことばと文化A	TOEIC・視聴覚英語B 英語圏のことばと文化B					1. 基礎知識・主体性 4. 表現・コミュニケーション力
	中国語A	中国語B	中国のことばと文化						
	フランス語A	フランス語B	フランスのことばと文化						
	ドイツ語A	ドイツ語B	ドイツのことばと文化						
	日本語リテラシ								
総合教育 教養系科目	英語ワークショップA～D								1. 基礎知識・主体性
	複素関数論／代数学／統計物理／質点系と剛体の力学／人間の科学／こころの科学／人間の行動／科学技術と自然と人間／表現文化／現代社会の探究／現代の経済／現代社会と法／日本国憲法／健康の科学／ものづくり文化／ものづくり文化実習／環境と地域共創／創造と倫理／特別講義								
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ 健康・スポーツ科学実習Ⅱ								
専門基礎科目	データサイエンス基礎数理								1. 基礎知識・主体性
	微分積分Ⅰ及び演習	微分方程式							
	線形代数Ⅰ	確率・統計							
	物理学(力学)	物理学(波動)							
	化学Ⅰ								
専門共通科目	情報リテラシ								2. 専門知識・応用力 3. 責任感・倫理観 4. 表現・コミュニケーション力 5. 先端技術・実践力
	建築セミナー	キャリア意識形成							
	建築概説								
製図系科目	建築図学	設計製図Ⅰ	設計製図Ⅱ	設計製図Ⅲ	建築・地域デザイン	地域デザイン			2. 専門知識・応用力 4. 表現・コミュニケーション力
	造形		建築CAD	建築CAD応用					
計画系科目 (計画・意匠)		建築計画学	住居計画	施設計画Ⅰ	インテリアデザイン				1. 基礎知識・主体性 2. 専門知識・応用力 5. 先端技術・実践力
					都市計画Ⅰ	都市・まちづくり			
構造系科目 (構造・材料)			西洋建築史	日本建築史Ⅰ	日本建築史Ⅱ				
		生活デザイン			近代建築史				
環境系科目 (環境・設備)		建築構造力学Ⅰ及び演習	建築構造力学Ⅱ及び演習		建築ディテール	ランドスケープデザイン			
			木構造	鉄筋コンクリート構造	建築構造設計A				
専門性		建築環境Ⅰ	建築環境Ⅱ	インテリア材料	建築施工Ⅰ	住宅生産			応用
				住居設備		住環境設計			

●●●●● 住居デザイン専攻教育課程表 ●●●●●

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 出 発 点	副 専 攻	備 考
		必 修	選 択	1 年 次 前 後	2 年 次 前 後	3 年 次 前 後	4 年 次 前 後	1 年 次 前 後	2 年 次 前 後	3 年 次 前 後	4 年 次 前 後				
L1033	データサイエンス基礎数理	2		1								1	○		
L2001	線形代数Ⅰ		2	1								1	○		
L2002	線形代数Ⅱ		2		1							1	○		
L2003	微分積分Ⅰ及び演習		3	2								1	○		
L2004	微分積分Ⅱ及び演習		3		2							1	○		
L2005	微分方程式		2		1							1	○		
L2006	確率・統計		2		1							1	○		
L1035	情報リテラシ	1		1								1	○		
L2042	情報処理演習		2				2					2・4	○		
L1001	物理学（力学）	2		1								1	○		
L2008	物理学（電磁気学）		2		1							1	○		
L2007	物理学（波動）		2		1							1	○		
L2009	物理実験		2			2						1	○		
L2010	化学Ⅰ		2	1								1	○		
L2060	地球環境		2				1					2・4	○		
L1034	建築セミナー	1		1								2・4	○		
L1031	建築概説	2		1								2・4	○		
L2048	建築CAD		2		2							2・4	○		
L2049	建築CAD応用		2			2						2・4	○		
L1026	建築図学	2		2								2・4	○		
L1003	設計製図Ⅰ	2			2							2・4	○		
L1004	設計製図Ⅱ	3			3							2・4	○		
L1005	設計製図Ⅲ	3				3						2・4	○		
L3002	建築・地域デザイン		2				2					2・4	○	※2	
L2062	地域デザイン		2				2					2・4	○		
L1006	建築計画学	2			1							1・2・5	○		
L1007	住居計画	2			1							1・2・5	○		
L1008	施設計画Ⅰ	2				1						1・2・5	○		
L1009	都市計画Ⅰ	2					1					1・2・5	○		
L2052	都市・まちづくり		2				1					1・2・5	○		
L2027	造形		2	2								2・4	○		
L2020	生活デザイン		2		1							1・2・5	○		
L2056	建築ディテール		2				1					1・2・5	○		
L1028	インテリアデザイン	2					1					1・2・5	○		
L2018	ランドスケープデザイン		2					1				1・2・5	○		
L1011	日本建築史Ⅰ	2				1						1・2・5	○		
L2025	日本建築史Ⅱ		2				1					1・2・5	○		
L1012	西洋建築史	2			1							1・2・5	○		
L2024	近代建築史		2				1					1・2・5	○		
L1037	建築環境Ⅰ	2			1							1・2・5	○		
L2065	建築環境Ⅱ		2		1							1・2・5	○		
L1036	住居設備	2				1						1・2・5	○		
L3003	住環境設計		2				2					1・2・5	○	※2	
L1015	建築構造力学Ⅰ及び演習	3			2							1・2・5	○		
L1016	建築構造力学Ⅱ及び演習	3				2						1・2・5	○		
L3001	建築構造設計A		2				2					1・2・5	○	※2	
L1032	鉄筋コンクリート構造	2				1						1・2・5	○		
L2032	鉄骨構造		2				1					1・2・5	○		
L1018	木構造	2			1							1・2・5	○		
L1019	建築構造材料	2			1							1・2・5	○		
L2035	インテリア材料		2			1						1・2・5	○		
L1024	建築施工Ⅰ	2					1					1・2・5	○		
L2037	住宅生産		2					1				1・2・5	○		
L1023	建築工学実験	2					2					2・4	○		
L1021	建築法規及び行政	2					1					2・4	○		
L2055	ファシリティマネジメント		2						1			2・4	○		
L2038	測量学		2							1		2・4	○		
L2039	測量実習		2								2	2・4	○		
L2064	職業指導（工業）		2							1		2・4	○		開講学期変更の可能性あり
L2057	キャリア意識形成		2		1							2・4	○		

専門
教育科目

FL

住居
デザイン
専攻

	科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考
			必修	選択	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
専門 教育 科目	L2058	キャリアデザイン		2					1				23・45	○		
	L2059	技術者倫理		2						1			23・45	○		
	L2063	インターンシップ		2									23・45			卒業要件単位数にのみ加算
	L1022	卒業研究	4										23・45			
	L2045	高大連携特別講義 A		2												卒業要件単位数にのみ加算
	L2046	高大連携特別講義 B		2												卒業要件単位数にのみ加算
L2047	高大連携特別講義 C		1												卒業要件単位数にのみ加算	
総合 教育 科目	G1829	コミュニケーション英語 A	1	1									1・4	○		
	G1830	コミュニケーション英語 C	1	1									1・4	○		
	G1831	コミュニケーション英語 D	1		1								1・4	○		
	G3834	コミュニケーション英語 B	1		1								1・4	○		
	G3832	TOEIC・視聴覚英語 A	1			1							1・4	○		
	G3833	TOEIC・視聴覚英語 B	1				1						1・4	○		
	G3835	英語ワークショップ A:スピーキング&プレゼンテーション	1		1								1・4	○		前期にも開講する場合あり
	G3836	英語ワークショップ B:上級リーディング	1		1								1・4	○		前期にも開講する場合あり
	G3837	英語ワークショップ C:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習	1		1								1・4	○		前期にも開講する場合あり
	G3838	英語ワークショップ D:海外留学英語	1		1								1・4	○		前期にも開講する場合あり
	G3845	英語圏のことばと文化 A	2			1							1・4	○	○	
	G3846	英語圏のことばと文化 B	2			1							1・4	○	○	
	G3843	中国語 A	1	1									1・4	○		
	G3844	中国語 B	1		1								1・4	○		
	G3841	フランス語 A	1	1									1・4	○		
	G3842	フランス語 B	1		1								1・4	○		
	G3839	ドイツ語 A	1	1									1・4	○		
	G3840	ドイツ語 B	1		1								1・4	○		
	G2834	複素関数論		2			1						1・4	○	○	
	G2835	代数学		2				1					1・4	○	○	
	G2836	統計物理		2			1						1・4	○	○	
	G2837	質点系と剛体の力学		2			1						1・4	○	○	
	G2036	人間性の探究		2									1・4	○	○	
	G2001	こころの科学		2									1・4	○	○	
	G2026	人間の行動		2									1・4	○	○	
	G2064	科学技術と自然と人間		2									1・4	○	○	
	G2065	表現文化		2									1・4	○	○	
	G2014	現代社会の探究		2									1・4	○		
	G2013	現代の経済		2									1・4	○	○	
	G2066	現代社会と法		2									1・4	○		
	G2048	日本国憲法		2									1・4	○		
	G2010	健康の科学		2									1・4	○	○	
	G2067	ものづくり文化		2									1・4	○	○	
	G2821	環境と地域共創		2									1・4	○	○	
	G2069	創造と倫理		2									1・4	○	○	
	G2841	日本語リテラシ		2	1								1・4	○		開講学期変更の可能性あり
	G2822	ものづくり文化実習		1	1								1・4	○	○	開講学期変更の可能性あり
	G2008	健康・スポーツ科学実習Ⅰ		1	1								1・4	○	○	
	G2009	健康・スポーツ科学実習Ⅱ		1		1							1・4	○	○	
	G2838	中国のことばと文化		2			1						1・4	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2839	フランスのことばと文化		2			1						1・4	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2840	ドイツのことばと文化		2			1						1・4	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2070	特別講義		2									1・4			年度によって開講しない場合がある
	G2823	日本語コミュニケーション		2	1～4年次の前期に開講								1・4			卒業・進級要件単位には含まない
	G2824	海外研修英語		1									1・4		○	
	G2833	海外留学英語		4	2年後期または3年後期に開講								1・4		○	

1. 履修期は基本的な開講学年学期とし変更する場合がある。
2. ※1印の授業科目は毎週の授業時間数を定めない。
3. 副専攻の詳細は132ページ
4. ※2印の授業科目を複数修得した場合、必修科目として1科目が加算され、それ以降は専門選択科目に加算されます。
5. DPはディプロマ・ポリシーの該当番号に対応

■ 注意

1. 卒業および進級要件に含めない科目

- ・ インターンシップ、高大連携特別講義は進級判定時の単位数には含めず、卒業要件単位数にのみ加算します。
※インターンシップの詳細は「V学生生活>キャリアセンター」を参照して下さい。
- ・ 日本語コミュニケーションで修得した単位は、卒業・進級要件に含めません。

2. 履修上の注意

- (1) 自宅は最良の教材です。便利なところ、不便なところ、全て君たちの教材です。特にキッチンには多くの機能が集まっています。自分で料理をするのもいいでしょう。全て勉強です。建築学専攻と同様に設計製図は重要であると共に、勉学の時間も多く必要です。しっかりとやりましょう。製図の単位不足は留年になります。十分気をつけて下さい。
- (2) 建築は工学のなかではめずらしく、法律に基づいた資格制度によって仕事ながされています。本学は多くの一級建築士を生んでいます。一級建築士の試験科目は「計画」、「環境・設備」、「法規」、「構造」、「施工」および「設計製図」です。資格試験のためにもなるべく多くの科目を履修することを勧めます。
- (3) 総合教育科目の履修については「Ⅲ教育課程>基礎教育センター」を参照して下さい。

3. 他専攻・他学科・他大学履修の注意

自らの専門分野を超え、幅広く柔軟な視野と知識を修得するために、自分の専攻にない他専攻・他学科・他大学の科目を履修することができます。

なお、安易な履修登録など、この目的に合わない判断した場合は、履修を認めない場合があります。

また、他専攻・他学科・他大学の科目を修得した場合は、卒業および進級に必要な単位として以下の表のとおり認定されます。

履 修 科 目		卒業・進級に必要な単位 として認定される科目区分		卒業・進級に必要な単位 として認定される上限
所属学科 他専攻 開設科目	専門教育科目	建築学専攻の☆印のみ 専門教育科目(選択)の単位として認定		23単位まで
他学科 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		10単位まで (うち他大学開設科目は 6単位まで)
単位互換制度による 他大学開設科目		科目区分は履修登録 後、審査して決定され ます。	専門教育科目(選択) の単位として認定	4単位まで
			総合教育科目(選択) の単位として認定	

住居デザイン専攻が受講できる建築学専攻の☆印科目

科目 コード	授業科目	単 位 数	毎週授業時間数(コマ数)							
			1年次		2年次		3年次		4年次	
			前	後	前	後	前	後	前	後
A2183	建築空間設計	2						2		
A2144	施設計画Ⅱ	2					1			
A2187	建築設備B	2				1				
A3007	建築設備設計Ⅰ	2					2			
A2156	建築設備設計Ⅱ	2						2		
A2172	建築構造解析及び演習	3					2			
A2186	建築構造設計B	2						2		
A2184	建築振動学	2						1		
A2161	建築基礎構造	2							1	
A2121	建築施工Ⅱ	2						1		

■ 卒業進級要件

1. 上級年次への進級要件

以下の表に定める単位を修得したものは、上級年次へ進級することができます。

1年次から2年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	10単位以上		20単位以上
選択科目	必修科目と合わせて20単位以上		

※GPAが0.5以上であること。

2年次から3年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	29単位以上 $\left\{ \begin{array}{l} \text{建築図学} \\ \text{設計製図Ⅰ} \\ \text{設計製図Ⅱ} \\ \text{設計製図Ⅲ} \end{array} \right\}$ のうち2科目以上の単位を修得していること		52単位以上
選択科目	必修科目と合わせて52単位以上		

3年次から4年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	46単位以上 建築図学 設計製図Ⅰ 設計製図Ⅱ 設計製図Ⅲ 建築・地域デザイン 建築構造設計A 住環境設計 のうち3科目以上の単位を修得していること		91単位以上
選択科目	必修科目と合わせて91単位以上		

2. 卒業要件

以下の表に定める単位を修得したものは、卒業することができます。

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	60単位	8単位※	68単位
選択科目	40単位以上	16単位以上	56単位以上
計	100単位以上	24単位以上	124単位以上

※必修科目3単位と選択必修科目5単位の合計とする。ただし、このうち英語系科目を6単位以上修得していること。

専門教育科目の選択必修科目（※2印の授業科目）から、必修科目として1科目（2単位）を選択して修得する必要があります。
また原則1科目のみ修得を認めます。2科目以上修得した場合、2科目目からは選択科目に加算されます。

経営学科

◎経営学部経営学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

建学の精神「自由、愛、正義」の下、教育のモットー「創造と人間性」を発揮する幅広い教養を持ち、グローバル対応を迫られる地域産業や国際社会に貢献する人材を育成することを目指し、以下に示した基準を満たす学生に学位を授与する。

1. 社会に対して豊かな幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
2. 日本人だけでなく外国人にも表現力とコミュニケーション力を発揮し、協働できる。
3. 論理的に状況を分析し、問題解決へ向けて主体的に対応することができる。
4. 経営者育成、ものづくり、経理・会計、企画・営業サービス、IT、スポーツビジネスのいずれかを得意分野とし、企業をはじめとする組織を経営する専門知識を備えている。

◎経営学部経営学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ビジネス分野における知識・技術・技能の育成、学術的教養を基盤とする知識を育成、さらに何事にも前向きに取り組む、自発的に問題を解決できる人格形成を目的とし、学生個人が自己の関心や得意分野、目的にあわせて選択履修できる教育課程を配する。まず初年次教育では、経営学の基礎、語学、情報学に加え、社会人基礎力を身につける基礎的な科目をカリキュラムに含める。

専門科目では、経営情報システム、スポーツマネジメントの両分野における知識・技術・技能を育成する授業科目と広範囲の学術的教養を基盤とする知識の育成を目的とした、以下の多様な教育課程を設定する。

1. 企業のマネジメントに関する専門知識を踏まえ、国際ビジネスでも通用する語学力と国際感覚のある経営能力を身につける教育課程
2. 卓越したコミュニケーション能力を持ち、経営企画、商品企画、マーケティングに加え、営業サービスにおけるビジネスでも活躍できる広範な知識を身につける教育課程
3. 短い時間で効率的に良いものを作るための知識、さらに技術を事業に結びつけて価値創出するために戦略を立案し実行する能力を身につける教育課程
4. 簿記や企業会計について学び、財務・経理部門で活躍できる専門能力に加え、企業実務における開発・生産・販売・情報システムなどの部門と連携できる実践的会計知識を身につける教育課程
5. ICT（情報通信技術）を駆使しながら、高度なビジネスマネジメントを実践できる能力を身につける教育課程
6. スポーツイベントを実施する際に使用される、商品やサービスの企画、生産、販売に至るビジネスモデルを構築できる能力と、それらを適切に運営管理するマネジメント能力を身に付ける教育課程

成績評価については、透明性と公平性を保証するためにGPA制度を採用し、単位の実質化をはかるため履修登録単位数の上限設定制度を導入している。さらに高い教育の質を保証するため、教員の教育資質を高める教員研修、学修や進路相談等の学生支援を実施している。

● ● ● ● ● 経営学科教育課程表 ● ● ● ● ●

授 業 科 目	単 位 数	必選の別	
		HT 専 攻	HH 専 攻
情報社会及び情報倫理	2	選	選
キャリアデザインⅠ	2	必	
キャリアデザインⅡ	2	必	
キャリア・プランニングⅠ	2		必
キャリア・プランニングⅡ	2		必
経済基礎知識	2	選	選
データサイエンス基礎数学	2	必	必
知的財産権	2	選	選
情報と職業	2	選	選
インターンシップ	2	選	選
ビジネスプレゼンテーション	2	選	
ビジネスコミュニケーション	2	選	
職業指導（商業）	2	選	選
事例研究	2	選	選
経営学概論Ⅰ	2	必	必
経営学概論Ⅱ	2	選	選
ビジネス英語Ⅰ	2	必	必
ビジネス英語Ⅱ	2	選	選
国際ビジネス論	2	選	選
国際マーケティング論	2	選	選
マーケティング論	2	選	選
マーケティング戦略論及び演習	3	選	
マーケティングシミュレーション及び演習Ⅰ	3		選
マーケティングシミュレーション及び演習Ⅱ	3		選
サービスマネジメント	2	選	
経営統計学	2	選必	選
ミクロ経済学	2	選	
マクロ経済学	2	必	
経営組織論	2	選	
経営戦略論	2	必	選
人的資源管理論	2	選	
経営情報システム論	2	必	選
システムマネジメント論	2	選	選
ビジネス・シミュレーション及び演習	3	選	選
ベンチャービジネス論	2	選	
生産管理システム	2	選	
生産管理論	2	必	選
品質管理	2	選	
設備管理	2	選	
ロジスティクス論	2	選	選
技術経営論	2	選	
オペレーションズ・リサーチ	2	選	選
食品生産マネジメント	2	選	
産業法規	2	選	選
ものづくり経営論	2	選	
簿記Ⅰ	2	必	選
簿記Ⅱ	2	選	
経営データ解析Ⅰ	2	選必	選
経営データ解析Ⅱ	2	選必	選
会計学基礎論	2	必	選
原価計算論Ⅰ	2	必	
原価計算論Ⅱ	2	選	
ファイナンス	2	選	必
税務会計論	2	選	
経営分析論	2	選	選
コンピュータ概論Ⅰ	2	必	必
コンピュータ概論Ⅱ	2	選	選
情報技術及び演習Ⅰ	3	必	選

専
門
教
育
科
目

授 業 科 目	単 位 数	必選の別	
		HT 専 攻	HH 専 攻
情報技術及び演習Ⅱ	3	選	選
プログラミング及び演習	3	必	選
マルチメディア	2	選	選
データベース	2	選	
経営情報セキュリティ論	2	選	
Webアプリケーションプログラミングとクラウドシステム	2	選	
インターネットビジネス論	2	選	
知能情報処理	2	選	選
インターネット技術及び演習	3	選	選
システム監査論	2	選	
IT 戦略論	2	選	
スポーツマネジメント論	2		選
スポーツ産業論	2		選
スポーツマーケティング	2		選
スポーツクラブ経営論	2		選
生涯スポーツ経営論	2		選
スポーツ用品論	2		選
産業マネジメント	2		選
スポーツ運営論	2		選
セミナーⅠ	2	必	必
セミナーⅡ	2	必	必
セミナーⅢ	2	必	必
セミナーⅣ	2	必	必
卒業研究	6	必	必
特別講義Ⅰ	2	選	選
特別講義Ⅱ	2	選	選
総合講義Ⅰ	2	選	選
総合講義Ⅱ	2	選	選
高大連携特別講義A	2	選	選
高大連携特別講義B	2	選	選
高大連携特別講義C	1	選	選

専
門
教
育
科
目

経営情報システム専攻 科目系統図

 必修科目

 選択必修科目

学習教育目標		1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A) 人間性を培 う幅広い知 識と素養の 育成	人間・社会・言語に関する知識を深め、それらの知識の関連づけ)と論理的な思考によって、日常のさまざまな現象を明らかにする力を養う。	コミュニケーションA コミュニケーションC 中国語A フランス語A ドイツ語A	コミュニケーションB コミュニケーションD 中国語B フランス語B ドイツ語B	TOEIC・聴解覚英語A 英語圏のことばと文化 中国のことばと文化 フランスのことばと文化 ドイツのことばと文化	TOEIC・聴解覚英語B 英語圏のことばと文化B				
	言語およびコミュニケーション活動に関心を持ち、正確な言語理解と適切な表現のできる国際人を目指す。	健康・スポーツ科学実習I 日本語リテラシ	健康・スポーツ科学実習II	複素関数論 統計物理	代数学				
	多様な領域の講義を通して、よき市民としての広い視野と素養を身につける。	英語ワークショップA～D		質点系と剛体の力学					
	社会的・職業的に自立した学生を育成する。	ビジネスプレゼンテーション	ビジネスコミュニケーション						
	社会人力として、問題発見、解決能力を習得する。	ビジネスプレゼンテーション	ビジネスコミュニケーション						
(B) 人間性の教育・専門性の教育の統合(キャリア教育)	学修基礎知識を修得する。	経済基礎知識 データサイエンス基礎数学 経営学概論I	経済基礎知識 データサイエンス基礎数学 経営学概論I	知的財産権					
	学修基礎知識を修得する。	簿記I コンピュータ概論I 情報技術及び演習I	簿記II 会計学基礎論 コンピュータ概論II 情報技術及び演習II	経営学概論II 経営統計学※ 簿記II 会計学基礎論 コンピュータ概論II 情報技術及び演習II	経営学概論II 経営統計学※ 簿記II 会計学基礎論 コンピュータ概論II 情報技術及び演習II				
(C) 基礎学力・知識の修得	専門基礎知識を修得する。	簿記I 簿記II 簿記III	簿記I 簿記II 簿記III	簿記I 簿記II 簿記III	簿記I 簿記II 簿記III				
	専門基礎知識を修得する。	簿記I 簿記II 簿記III	簿記I 簿記II 簿記III	簿記I 簿記II 簿記III	簿記I 簿記II 簿記III				
(D) 専門基礎知識の修得	専門基礎知識を修得する。	簿記I 簿記II 簿記III	簿記I 簿記II 簿記III	簿記I 簿記II 簿記III	簿記I 簿記II 簿記III				
	専門基礎知識を修得する。	簿記I 簿記II 簿記III	簿記I 簿記II 簿記III	簿記I 簿記II 簿記III	簿記I 簿記II 簿記III				
(E) 専門技術・知識の修得	(1)企画・営業・サービスに関する専門知識を修得する。	マーケティング論 国際ビジネス論	マーケティング論 国際ビジネス論	マーケティング論 国際ビジネス論	マーケティング論 国際ビジネス論				
	(2)経営者育成に関する専門知識を修得する。	経営戦略論 生産管理理論 技術経営論	経営戦略論 生産管理理論 技術経営論	経営戦略論 生産管理理論 技術経営論	経営戦略論 生産管理理論 技術経営論				
(E) 専門技術・知識の修得	(3)ものづくり技術経営に関する専門知識を修得する。	原価計算論I 原価計算論II	原価計算論I 原価計算論II	原価計算論I 原価計算論II	原価計算論I 原価計算論II				
	(4)経理・会計に関する専門知識を修得する。	経理情報セキュリティ論 簿記技術及び演習II	経理情報セキュリティ論 簿記技術及び演習II	経理情報セキュリティ論 簿記技術及び演習II	経理情報セキュリティ論 簿記技術及び演習II				
(E) 専門技術・知識の修得	(5)IT技術者に関する専門知識・技術を修得する。	IT技術者に関する専門知識・技術を修得する。	IT技術者に関する専門知識・技術を修得する。	IT技術者に関する専門知識・技術を修得する。	IT技術者に関する専門知識・技術を修得する。				
	(6)IT技術者に関する専門知識・技術を修得する。	IT技術者に関する専門知識・技術を修得する。	IT技術者に関する専門知識・技術を修得する。	IT技術者に関する専門知識・技術を修得する。	IT技術者に関する専門知識・技術を修得する。				

※この選択必修科目のうち1科目を必修科目として選択し、修得する必要があります。また2科目以上修得した場合、2科目目からは選択科目に加算されます。

●●●●● 経営情報システム専攻教育課程表 ●●●●●

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 出 発 点	副 専 攻	備 考
		必修	選択	1 年次 前 後	2 年次 前 後	3 年次 前 後	4 年次 前 後								
T2228	情報社会及び情報倫理		2	1								1・3	○		
T1138	キャリアデザインⅠ	2				1						1・3	○		
T1139	キャリアデザインⅡ	2					1					1・3	○		
T2229	経済基礎知識		2	1								1	○		キャリア教育・基礎学力関連科目群
T1137	データサイエンス基礎数学	2		1								3	○		
T2230	知的財産権		2		1							1・3・4	○		
T2231	情報と職業		2				1					2・3・4	○		
T2232	インターンシップ		2		※ 1							1・3			
T2216	ビジネスプレゼンテーション		2	1								1・2・3	○		
T2217	ビジネスコミュニケーション		2	1								1・3	○		
T2233	職業指導（商業）		2					1				1	○		
T2158	事例研究		2						1			1・3・4	○		
T1004	経営学概論Ⅰ	2		1								3・4	○		
T2130	経営学概論Ⅱ		2		1							1・3	○		
T1026	ビジネス英語Ⅰ	2			1							2	○		
T2037	ビジネス英語Ⅱ		2		1							2	○		
T2221	国際ビジネス論		2		1							1・3・4	○		企画・営業・サービス関連科目群
T2222	国際マーケティング論		2				1					1・2	○		
T2207	マーケティング論		2		1							2・3・4	○		
T2234	マーケティング戦略論及び演習		3				2					1・3・4	○		
T2213	サービスマネジメント		2			1						1・3・4	○		
T3001	経営統計学	2		1								3・4	○		※ 3
T2190	ミクロ経済学		2		1							3	○		
T1121	マクロ経済学	2			1							3	○		
T2240	経営組織論		2				1					3・4	○		
T1142	経営戦略論	2			1							3・4	○		経営者育成関連科目群
T2168	人的資源管理論		2			1						1・3・4	○		
T1128	経営情報システム論	2			1							4	○		
T2199	システムマネジメント論		2			1						4	○		
T2208	ビジネス・シミュレーション及び演習		3				2					3・4	○		
T2161	ベンチャービジネス論		2				1					4	○		
T2236	生産管理システム		2			1						3・4	○		
T1126	生産管理論	2			1							3・4	○		
T2237	品質管理		2			1						1・3・4	○		
T2107	設備管理		2				1					1・3・4	○		
T2185	ロジスティクス論		2				1					3・4	○		ものづくり技術経営関連科目群
T2198	技術経営論		2		1							1・3・4	○		
T2183	オペレーションズ・リサーチ		2			1						3	○		
T2242	食品生産マネジメント		2				1					3・4	○		
T2020	産業法規		2				1					1・3・4	○		
T2214	ものづくり経営論		2				1					1・3・4	○		
T1133	簿記Ⅰ	2		1								3・4	○		
T2203	簿記Ⅱ		2		1							3・4	○		
T3002	経営データ解析Ⅰ	2			1							1・3・4	○		※ 3
T3003	経営データ解析Ⅱ	2			1							1・3・4	○		※ 3
T1127	会計学基礎論	2		1								3・4	○		経理・会計関連科目群
T1141	原価計算論Ⅰ	2			1							3・4	○		
T2238	原価計算論Ⅱ		2		1							3・4	○		
T2239	ファイナンス		2		1							1・3・4	○		
T2212	税務会計論		2				1					1・3・4	○		
T2166	経営分析論		2			1						3・4	○		
T1122	コンピュータ概論Ⅰ	2		1								2・3・4	○		
T2191	コンピュータ概論Ⅱ		2	1								2・3・4	○		
T1123	情報技術及び演習Ⅰ	3		2								4	○		
T2196	情報技術及び演習Ⅱ		3	2								4	○		
T1135	プログラミング及び演習	3		2								1・3・4	○		※ 1
T2176	マルチメディア		2		1							2・4	○		IT技術者関連科目群
T2241	データベース		2		1							3・4	○		
T2194	経営情報セキュリティ論		2		1							4	○		
T2243	Webアプリケーションプログラミングとクラウドシステム		2		1							4	○		
T2152	インターネットビジネス論		2				1					4	○		
T2177	知能情報処理		2				1					1・3・4	○		
T2171	インターネット技術及び演習		3			2						3・4	○		
T2218	システム監査論		2				1					4	○		
T2215	IT戦略論		2					1				2・3・4	○		

専門教育科目

HT

経営情報システム専攻

	科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P 合 算 対 象	副 専 攻	備 考
					1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次					
			必 修	選 択	前	後	前	後	前	後	前	後				
専門 教育 科目	T1131	セミナーⅠ	2		1							1・2・3				
	T1132	セミナーⅡ	2				1					1・2・3				
	T1129	セミナーⅢ	2						1			1・2・3・4				
	T1130	セミナーⅣ	2							1		1・2・3・4				
	T1117	卒業研究	6								※ 1	1・2・3・4				
	T2034	特別講義Ⅰ		2					※ 1			3	○			
	T2035	特別講義Ⅱ		2					※ 1			3・4	○			
	T2028	総合講義Ⅰ		2					※ 1			1・3	○			
	T2029	総合講義Ⅱ		2					※ 1			1・2・3	○			
	T2200	高大連携特別講義 A		2											卒業要件単位数にのみ加算	
	T2201	高大連携特別講義 B		2											卒業要件単位数にのみ加算	
	T2202	高大連携特別講義 C		1											卒業要件単位数にのみ加算	
総合 教育 科目	G1829	コミュニケーション英語ⅠA	1		1							1・2	○			
	G1830	コミュニケーション英語ⅠC	1		1							1・2	○			
	G1831	コミュニケーション英語ⅠD	1			1						1・2	○			
	G3834	コミュニケーション英語ⅡB	1			1						1・2	○			
	G3832	TOEIC・視聴覚英語 A	1				1					1・2	○			
	G3833	TOEIC・視聴覚英語 B	1					1				1・2	○			
	G3835	英語ワークショップA:スピーキング&プレゼンテーション	1			1						1・2	○		前期にも開講する場合あり	
	G3836	英語ワークショップB:上級リーディング	1			1						1・2	○		前期にも開講する場合あり	
	G3837	英語ワークショップC:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習	1			1						1・2	○		前期にも開講する場合あり	
	G3838	英語ワークショップD:海外留学英語	1			1						1・2	○		前期にも開講する場合あり	
	G3845	英語圏のことばと文化 A	2				1					1・2	○	○		
	G3846	英語圏のことばと文化 B	2				1					1・2	○	○		
	G3843	中国語 A	1		1							1・2	○			
	G3844	中国語 B	1			1						1・2	○			
	G3841	フランス語 A	1		1							1・2	○			
	G3842	フランス語 B	1			1						1・2	○			
	G3839	ドイツ語 A	1		1							1・2	○			
	G3840	ドイツ語 B	1			1						1・2	○			
	G2834	複素関数論		2			1					1・2	○	○		
	G2835	代数学		2				1				1・2	○	○		
	G2836	統計物理		2				1				1・2	○	○		
	G2837	質点系と剛体の力学		2			1					1・2	○	○		
	G2036	人間性の探究		2								1・2	○	○		
	G2001	こころの科学		2								1・2	○	○		
	G2026	人間の行動		2								1・2	○	○		
	G2064	科学技術と自然と人間		2								1・2	○	○		
	G2065	表現文化		2								1・2	○	○		
	G2014	現代社会の探究		2								1・2	○			
	G2013	現代の経済		2								1・2	○	○		
	G2066	現代社会と法		2								1・2	○			
	G2048	日本国憲法		2								1・2	○			
	G2010	健康の科学		2								1・2	○	○		
	G2067	ものづくり文化		2								1・2	○	○		
	G2821	環境と地域共創		2								1・2	○	○		
	G2069	創造と倫理		2								1・2	○	○		
	G2841	日本語リテラシ		2	1							1・2	○			
	G2822	ものづくり文化実習		1	1							1・2	○	○		
	G2008	健康・スポーツ科学実習Ⅰ		1	※2							1・2	○	○	八草キャンパスで実施	
	G2009	健康・スポーツ科学実習Ⅱ		1		1						1・2	○	○	八草キャンパスで実施	
	G2838	中国のことばと文化		2				1				1・2	○	○	後期にも開講する場合あり	
	G2839	フランスのことばと文化		2				1				1・2	○	○	後期にも開講する場合あり	
	G2840	ドイツのことばと文化		2				1				1・2	○	○	後期にも開講する場合あり	
	G2070	特別講義		2								1・2			年度によって開講しない場合がある	
	G2823	日本語コミュニケーション		2								1・2・3・4			卒業・進級要件単位には含まない	
	G2824	海外研修英語		1						※ 1			2		○	
	G2833	海外留学英語		4									2		○	

- 履修期は基本的な開講学年学期とし変更する場合がある。
- ※ 1 印の授業科目は毎週の授業時間数を定めない。
- 副専攻の詳細は132ページ
- ※ 2 印の授業科目は集中講義として行う。
- ※ 3 印の授業科目を複数修得した場合、必修科目として 1 科目が加算され、それ以降は専門選択科目に加算されます。
- DPはディプロマ・ポリシーの該当番号に対応

■ 注意

1. 卒業および進級要件に含めない科目

- ・ 高大連携特別講義は進級判定時の単位数には含めず、卒業要件単位数にのみ加算します。
- ・ 日本語コミュニケーションで修得した単位は、卒業・進級要件に含めません。

2. 履修上の注意

- (1) 多様な科目が配置されているが、受講に際しては、それらの関わりを意識しながら受講して下さい。それによって、個別の講義という「点」が「線」としてつながってくるためです。
- (2) 1年次のセミナーIから卒業研究までの一連の少人数教育形式は、大学教育の中でも非常に重要性が高いものであり、自主性、問題発見能力、問題解決能力を高めるものです。したがって、自分自身を高めるという意識を持って臨んで下さい。
- (3) 1年次に開講される必修科目は、単なる必修科目ではなく、4年間の学習の根幹をなすものであり、そこでの理解の深さが後の講義の理解度に影響することを踏まえて受講して下さい。
- (4) 総合教育科目の履修については「Ⅲ教育課程＞基礎教育センター」を参照して下さい。

3. 他専攻・他学科・他大学履修の注意

自らの専門分野を超え、幅広く柔軟な視野と知識を修得するために、自分の専攻にない他専攻・他学科・他大学の科目を履修することができます。

なお、安易な履修登録など、この目的に合わないとは判断した場合は、履修を認めない場合があります。

また、他専攻・他学科・他大学の科目を修得した場合は、卒業および進級に必要な単位として以下の表のとおり認定されます。

履 修 科 目		卒業・進級に必要な単位 として認定される科目区分		卒業・進級に必要な単位 として認定される上限
所属学科 他専攻 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		30単位まで
他学科 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		16単位まで (うち他大学開設科目は 6単位まで)
単位互換制度による 他大学開設科目		科目区分は履修登録 後、審査して決定され ます。	専門教育科目(選択) の単位として認定	4単位まで
			総合教育科目(選択) の単位として認定	

■ 卒業進級要件

1. 上級年次への進級要件

以下の表に定める単位を修得したものは、上級年次へ進級することができます。

1年次から2年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	20単位以上		20単位以上
選択科目			

※GPAが0.5以上であること。

2年次から3年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	54単位以上		54単位以上
選択科目			

3年次から4年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	94単位以上		94単位以上
選択科目			

2. 卒業要件

以下の表に定める単位を修得したものは、卒業することができます。

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	48単位 (注1)	8単位※	56単位
選択科目	52単位以上	16単位以上	68単位以上
計	100単位以上	24単位以上	124単位以上

(注1) 選択必修科目(※3印の授業科目)から、必修科目として1科目(2単位)を選択して修得する必要があります。また、選択必修科目を2科目以上修得した場合、2科目目からは選択科目に加算されます。

※必修科目3単位と選択必修科目5単位の合計とする。ただし、このうち英語系科目を6単位以上修得していること。

スポーツマネジメント専攻 科目系統図

必修科目
 選択必修科目

学習教育目標	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)人間性を培 う幅広い知 識と素養の 育成	コミュニケーション英語A コミュニケーション英語C 中国語A フランス語A ドイツ語A 健康・スポーツ科学実習Ⅰ 日本語リテラシ	コミュニケーション英語B コミュニケーション英語D 中国語B フランス語B ドイツ語B 健康・スポーツ科学実習Ⅱ 英語ワークショップA～D	TOEIC・聴覚英語A 英語圏のことばと文化A 中国のことばと文化 フランスのことばと文化 ドイツのことばと文化 複素関数論 統計物理 質点系と剛体の力学	TOEIC・聴覚英語B 英語圏のことばと文化B 英語圏のことばと文化 ドイツのことばと文化 代数学				
	海外研修英語							
	人間性の探究/こころの科学/人間の行動/科学技術と自然と人間/表現文化/現代社会の探究/現代社会と法/日本国憲法/健康の科学/環境と地域共創/創造と倫理/特別講義							
	ものづくり文化/ものづくり文化実習							
	インターンシップ							
(B)人間性の教 育・専門性 の教育の統 合(キャリア 教育)	セミナーⅠ		セミナーⅡ		キャリア・プランニングⅠ セミナーⅢ	情報と職業 キャリア・プランニングⅡ セミナーⅣ	職業指導(商業) 事例研究	
(C)基礎学力・ 知識の修得	経済基礎知識 データサイエンス基礎数学	情報社会及び情報倫理	知的財産権					
(D)専門基礎 の修得	経営学概論Ⅰ	経営統計学 経営学概論Ⅱ			ビジネス英語Ⅰ	ビジネス英語Ⅱ		
	情報技術及び演習Ⅰ 簿記Ⅰ	情報技術及び演習Ⅱ 会計学基礎論	経営情報システム論 経営データ解析Ⅰ 経営データ解析Ⅱ					
(E)専門技術・ 知識の修得	コンピュータ概論Ⅰ	コンピュータ概論Ⅱ	マーケティング論 マーケティングシミュレーション 及び演習Ⅰ	国際ビジネス論 マーケティングシミュレーション 及び演習Ⅱ		国際マーケティング論	卒業研究	
				経営戦略論		ビジネス・シミュレーション 及び演習		
					ロジスティクス論	生産管理論 産業法規		
			ファイナンス		経営分析論			
		プログラミング及び演習		マルチメディア	インターネット技術及び演習 システムマネジメント論 スポーツ運営論	知能情報処理 オペレーションズ・リサーチ		
		スポーツマネジメント論 スポーツ産業論	スポーツマーケティング スポーツ用品論 産業マネジメント	スポーツクラブ経営論 生涯スポーツ経営論				
					特別講義Ⅰ、Ⅱ/総合講義Ⅰ、Ⅱ			

スポーツマネジメント専攻教育課程表

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 出 発 点	副 専 攻	備 考
		必修	選択	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
専門 教育 科目	H2075 情報社会及び情報倫理		2		1							1・3	○		
	H1015 キャリア・プランニングⅠ	2						1				1・3	○		
	H1016 キャリア・プランニングⅡ	2							1			1・3	○		
	H2076 経済基礎知識		2	1								1	○		
	H1014 データサイエンス基礎数学	2		1								3	○		
	H2077 知的財産権		2			1						1・3・4	○		
	H2078 情報と職業		2						1			2・3・4	○		
	H2079 インターンシップ		2	※ 1								1・3			
	H2080 職業指導（商業）		2							1		1	○		
	H2027 事例研究		2								1	1・3・4	○		
	H1007 経営学概論Ⅰ	2		1								1・3	○		
	H2009 経営学概論Ⅱ		2		1							1・3	○		
	H1006 ビジネス英語Ⅰ	2							1			2	○		
	H2029 ビジネス英語Ⅱ		2							1		2	○		
	H2071 国際ビジネス論		2				1					1・3・4	○		
	H2072 国際マーケティング論		2							1		1・2	○		
	H2069 マーケティング論		2				1					2・3・4	○		
	H2018 マーケティングシミュレーション及び演習Ⅰ		3				2					3・4	○		
	H2019 マーケティングシミュレーション及び演習Ⅱ		3				2					3・4	○		
	H2040 経営統計学		2			1						3・4	○		
	H2081 経営戦略論		2				1					3・4	○		
	H2064 経営情報システム論		2				1					4	○		
	H2045 システムマネジメント論		2						1			4	○		
	H2026 ビジネス・シミュレーション及び演習		3							2		3・4	○		
	H2061 生産管理論		2							1		4	○		
	H2021 ロジスティクス論		2						1			3・4	○		
	H2062 オペレーションズ・リサーチ		2							1		3	○		
	H2012 産業法規		2							1		1・3・4	○		
	H2066 簿記Ⅰ		2		1							3・4	○		
	H2042 経営データ解析Ⅰ		2				1					1・3・4	○		
	H2043 経営データ解析Ⅱ		2					1				1・3・4	○		
	H2063 会計学基礎論		2			1						3・4	○		
	H1017 ファイナンス	2					1					1・3・4	○		
	H2014 経営分析論		2						1			3・4	○		
	H1008 コンピュータ概論Ⅰ	2			1							2・3・4	○		
	H2041 コンピュータ概論Ⅱ		2			1						2・3・4	○		
	H2058 情報技術及び演習Ⅰ		3		2							4	○		
	H2059 情報技術及び演習Ⅱ		3			2						4	○		
	H2073 プログラミング及び演習		3			2						1・3・4	○		
	H2024 マルチメディア		2					1				2・4	○		
	H2057 知能情報処理		2							1		1	○		
	H2025 インターネット技術及び演習		3						2			3・4	○		
	H2030 スポーツマネジメント論		2			1						3	○		
	H2031 スポーツ産業論		2			1						1・3	○		
	H2032 スポーツマーケティング		2				1					3	○		
	H2033 スポーツクラブ経営論		2					1				3	○		
	H2051 生涯スポーツ経営論		2					1				1	○		
	H2052 スポーツ用品論		2				1					3・4	○		
	H2053 産業マネジメント		2				1					3・4	○		
	H2056 スポーツ運営論		2						1			1・3	○		
H1012 セミナーⅠ	2			1							1・2・3				
H1013 セミナーⅡ	2					1					1・2・3				
H1010 セミナーⅢ	2							1			1・2・3・4				
H1011 セミナーⅣ	2								1		1・2・3・4				
H1005 卒業研究	6									※ 1	1・2・3・4				
H2034 特別講義Ⅰ		2				2～4年次の前期に開講					3	○			
H2035 特別講義Ⅱ		2				2～4年次の後期に開講					1・2・3	○			
H2036 総合講義Ⅰ		2				2～4年次の前期に開講					1	○			
H2037 総合講義Ⅱ		2				2～4年次の後期に開講					1・3	○			
H2048 高大連携特別講義A		2												卒業要件単位数にのみ加算	
H2049 高大連携特別講義B		2												卒業要件単位数にのみ加算	
H2050 高大連携特別講義C		1												卒業要件単位数にのみ加算	

専門教育科目

HH

スポーツマネジメント専攻

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考
		必修	選択	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
総合 教育 科目	G1829 コミュニカティブイングリッシュA	1		1								1・2	○		
	G1830 コミュニカティブイングリッシュC	1		1								1・2	○		
	G1831 コミュニカティブイングリッシュD	1			1							1・2	○		
	G3834 コミュニカティブイングリッシュB	1			1							1・2	○		
	G3832 TOEIC・視聴覚英語 A	1				1						1・2	○		
	G3833 TOEIC・視聴覚英語 B	1					1					1・2	○		
	G3835 英語ワークショップA：スピーキング&プレゼンテーション	1			1							1・2	○		前期にも開講する場合あり
	G3836 英語ワークショップB：上級リーディング	1			1							1・2	○		前期にも開講する場合あり
	G3837 英語ワークショップC：ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習	1			1							1・2	○		前期にも開講する場合あり
	G3838 英語ワークショップD：海外留学英語	1			1							1・2	○		前期にも開講する場合あり
	G3845 英語圏のことばと文化 A	2				1						1・2	○	○	
	G3846 英語圏のことばと文化 B	2				1						1・2	○	○	
	G3843 中国語 A	1		1								1・2	○		
	G3844 中国語 B	1			1							1・2	○		
	G3841 フランス語 A	1		1								1・2	○		
	G3842 フランス語 B	1			1							1・2	○		
	G3839 ドイツ語 A	1		1								1・2	○		
	G3840 ドイツ語 B	1			1							1・2	○		
	G2834 複素関数論		2			1						1・2	○	○	
	G2835 代数学		2				1					1・2	○	○	
	G2836 統計物理		2			1						1・2	○	○	
	G2837 質点系と剛体の力学		2			1						1・2	○	○	
	G2036 人間性の探究		2									1・2	○	○	
	G2001 こころの科学		2									1・2	○	○	
	G2026 人間の行動		2									1・2	○	○	
	G2064 科学技術と自然と人間		2									1・2	○	○	
	G2065 表現文化		2									1・2	○	○	
	G2014 現代社会の探究		2									1・2	○		
	G2013 現代の経済		2									1・2	○	○	
	G2066 現代社会と法		2									1・2	○		
	G2048 日本国憲法		2									1・2	○		
	G2010 健康の科学		2									1・2	○	○	
	G2067 ものづくり文化		2									1・2	○	○	
	G2821 環境と地域共創		2									1・2	○	○	
	G2069 創造と倫理		2									1・2	○	○	
	G2841 日本語リテラシ		2	1								1・2	○		
	G2822 ものづくり文化実習		1	1								1・2	○	○	開講学期変更の可能性あり
	G2008 健康・スポーツ科学実習Ⅰ		1	1								1・2	○	○	
	G2009 健康・スポーツ科学実習Ⅱ		1		1							1・2	○	○	
	G2838 中国のことばと文化		2			1						1・2	○	○	後期にも開講する場合あり
G2839 フランスのことばと文化		2			1						1・2	○	○	後期にも開講する場合あり	
G2840 ドイツのことばと文化		2			1						1・2	○	○	後期にも開講する場合あり	
G2070 特別講義		2									1・2			年度によって開講しない場合がある	
G2823 日本語コミュニケーション		2		1～4年次の前期に開講							1・2・3・4			卒業・進級要件単位には含めない	
G2824 海外研修英語		1						※ 1				2		○	
G2833 海外留学英語		4		2年後期または3年後期に開講							2		○		

- 履修期は基本的な開講学年学期とし変更する場合がある。
- ※ 1 印の授業科目は毎週の授業時間数を定めない。
- 副専攻の詳細は132ページ
- DPはディプロマ・ポリシーの該当番号に対応

■ 注意

1. 卒業および進級要件に含めない科目

- ・ 高大連携特別講義は進級判定時の単位数には含めず、卒業要件単位数にのみ加算します。
- ・ 日本語コミュニケーションで修得した単位は、卒業・進級要件に含めません。

2. 履修上の注意

- (1) 1年次の健康・スポーツ科学実習Ⅰ(前期)、Ⅱ(後期)は選択科目ですが、可能な限り履修して下さい。
- (2) セミナーⅠ～Ⅳは必修です。担当教員の専門性をもとにした少人数授業です。単位を修得できなかった場合、原則として下位学年生と履修することになりますので、当該学年で単位を修得するように努力して下さい。
- (3) インターンシップは企業体験により単位を得るものです。就職や企業選択に有利に働きますので、履修することを勧めます。
- (4) 総合教育科目の履修については「Ⅲ教育課程>基礎教育センター」を参照して下さい。

3. 他専攻・他学科・他大学履修の注意

自らの専門分野を超え、幅広く柔軟な視野と知識を修得するために、自分の専攻にない他専攻・他学科・他大学の科目を履修することができます。

なお、安易な履修登録など、この目的に合わないと思われる場合は、履修を認めない場合があります。

また、他専攻・他学科・他大学の科目を修得した場合は、卒業および進級に必要な単位として以下の表のとおり認定されます。

履 修 科 目		卒業・進級に必要な単位 として認定される科目区分		卒業・進級に必要な単位 として認定される上限
所属学科 他専攻 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		30単位まで
他学科 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		16単位まで (うち他大学開設科目は 6単位まで)
単位互換制度による 他大学開設科目		科目区分は履修登録 後、審査して決定され ます。	専門教育科目(選択) の単位として認定	4単位まで
			総合教育科目(選択) の単位として認定	

■ 卒業進級要件

1. 上級年次への進級要件

以下の表に定める単位を修得したものは、上級年次へ進級することができます。

1年次から2年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	20単位以上		20単位以上
選択科目			

※GPAが0.5以上であること。

2年次から3年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	54単位以上		54単位以上
選択科目			

3年次から4年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	94単位以上		94単位以上
選択科目			

2. 卒業要件

以下の表に定める単位を修得したものは、卒業することができます。

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	28単位	8単位※	36単位
選択科目	72単位以上	16単位以上	88単位以上
計	100単位以上	24単位以上	124単位以上

※必修科目3単位と選択必修科目5単位の合計とする。ただし、このうち英語系科目を6単位以上修得していること。

情報科学科

◎情報科学部情報科学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

現代社会は、情報を扱うシステムを不可欠なものとする「情報化社会」となっている。そうした社会を持続可能な形で構築・維持するために、情報・コンピュータ・メディアに関する基礎知識を備え、システム設計や安全性確保のための技術・技能を持ち、さらには、エンタテインメント分野を含むさまざまな適用先に情報技術を応用できる技術者がも求められる。学士（情報科学）には、教育のモットー「創造と人間性」の下に培われた幅広い教養を礎に情報科学の基礎知識・技術・技能を修得し、社会に役立てることのできる高度な専門技術者として、以下の能力・資質を求める。

1. 人間科学・社会科学・語学に関する深い知識を持ち、それらの知識を関連づけることで、日常に潜む課題を明らかにできる能力
2. 自然科学の知識を修得し、課題に対する論理的・科学的な思考や分析ができる能力
3. 情報技術の基礎的および専門的な知識を持ち、その知識をどのように適用すれば課題が解決できるかを考え提案できる能力
4. コンピュータシステム分野の技術（システム開発手法など）やメディア情報分野の技術（コンテンツ制作手法など）を、課題解決に実践的に応用できる能力
5. 情報システムの研究経験やメディア・コンテンツの制作経験を活かして、産業および社会が求めるより高度な課題に対しても、解決策を見いだせる能力
6. 身につけた専門知識・技術・経験を健全な情報化社会の発展に役立てるための、深い教養と高い倫理性

◎情報科学部情報科学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学位授与の方針に掲げた能力・資質を持った人材を育成するため、情報科学科では、コンピュータシステムや情報コンテンツの開発能力を養う教育課程を配する。具体的には、情報技術者を養成するための様々なコンピュータシステムの開発能力の育成を目的とした教育課程（コンピュータシステム専攻）と、メディア・クリエイターを養成するための様々な情報コンテンツの開発能力の育成を目的とした教育課程（メディア情報専攻）を配する。それぞれの教育課程において、以下の方針に沿ったカリキュラムを編成する。

1. 日常に潜む課題を自ら見つけられる発想力を身につけるべく、人間・社会・言語に関する知識を学ぶための授業科目を配する。
2. 見つけた課題に対する論理的・科学的な思考力や分析力を身につけるべく、自然科学の知識を修得するための授業科目を配する。
3. 課題の解決法提案に必要な情報技術の知識を身につけるべく、コンピュータシステムの知識や、種々のメディアを用いたコンテンツの知識を修得するための授業科目を配する。
4. 課題解決のための実践的な技術を身につけるべく、種々のシステムの開発手法やコンテンツの開発手法を学ぶための演習系の授業科目を配する。
5. 社会が求めるより高度な課題に対しても解決策を見いだせる十分な能力を身につけるべく、情報システムの研究経験やメディア・コンテンツの制作経験を得るための卒業研究・卒業制作の科目を配する。
6. 深い教養と高い倫理性を備えた社会人となるべく、キャリア形成に必要な知識や体験を得るための授業科目を配する。

● ● ● ● ● 情報科学科教育課程表 ● ● ● ● ●

授 業 科 目	単 位 数	必選の別	
		KK 専 攻	KX 専 攻
情報社会及び情報倫理	2	必	必
キャリアデザインⅠ	2	必	必
キャリア意識形成	2	必	必
キャリアデザインⅡ	2	選	選
経済基礎知識	2	選	選
知的財産権	2	選	選
情報と職業	2	選	選
インターンシップ	2	選	選
データサイエンス基礎数理	2	必	必
微分積分Ⅰ	2	選	選
微分積分Ⅱ	2	選	
線形代数Ⅰ	2	選	選
線形代数Ⅱ	2	選	
確率統計	2	選	選
幾何学	2	選	☆
物理学（力学）	2	必	選
物理学（電磁気学）	2	選	☆
物理実験	2	必	☆
情報数学Ⅰ	2	必	☆
情報数学Ⅱ	2	選	☆
コンピュータ概論	2	選	選
人工知能	2	選	選
オペレーティングシステム	2	選	選
データベース	2		選
データベース及び演習	3	選必	
情報システム概論	2	選	選
CAD 及び演習Ⅰ	3	選	選
CAD 及び演習Ⅱ	2		選
CG プログラミング及び演習	3		必
コンピュータリテラシ	2	必	必
プログラミング及び演習Ⅰ	3	必	必
プログラミング及び演習Ⅱ	3	選	選
アルゴリズムとデータ構造	2	選	選
アルゴリズムとデータ構造演習	1	選	
コンピュータネットワーク	2	必	選
モバイルネットワーク	2	選	選
ネットワーク及び演習	3	選必	選
情報セキュリティ	2	選	選
Web プログラミング及び演習	3	選必	必
論理回路	2	選	☆
数値計算	2	選	☆
オペレーションズ・リサーチⅠ	2	選	☆
オペレーションズ・リサーチⅡ	2	選	☆
数理論理学	2	選	
言語理論及びコンパイラ	2	選	☆
計算の理論	2	選	☆
ソフトコンピューティング	2	選	☆
オブジェクト指向プログラミング及び演習Ⅰ	3	選	☆
オブジェクト指向プログラミング及び演習Ⅱ	3	選	☆
ソフトウェア工学Ⅰ	2	選	☆
ソフトウェア工学Ⅱ	2	選	☆
Web プログラミング基礎	2	選	
コンピュータアーキテクチャⅠ	2	選	☆
コンピュータアーキテクチャⅡ	2	選	☆
システム制御	2	選	
組み込みシステム概論	2	必	☆
組み込みプログラミング及び演習	3	選必	☆
マイコン制御及び演習	3	選必	☆

専門
教育
科目

授 業 科 目	単 位 数	必選の別	
		KK 専 攻	KX 専 攻
プロジェクト演習Ⅰ	1	選	
プロジェクト演習Ⅱ	1	選	
画像処理及び演習	3	選	必
デジタル映像処理及び演習	3	☆	選
応用プログラミング及び演習	3	☆	選
ゲームプログラミング	2	☆	選
マルチメディア情報処理及び演習Ⅰ	3	選	選
マルチメディア情報処理及び演習Ⅱ	3		選
CG コンテンツ基礎及び演習	3		必
サウンドメディア論	2	☆	選
デッサンとモデリング	2		選
Web デザイン及び演習	3		必
映像制作概論	2	☆	選
映像制作及び演習	3	☆	選
カラーデザイン	2	☆	選
コミュニケーション論	2	☆	選
ユーザインタフェース	2	☆	選
デジタルコンテンツ基礎	2		選
デジタルコンテンツ及び演習	3		選
メディア産業論	2	☆	選
メディア文化論	2	☆	選
経営学概論	2	☆	選
インターネットビジネス論	2	☆	選
メディア英語	1	☆	選
ベンチャービジネス論	2	☆	選
セミナー	2	必	必
特別講義Ⅰ	2	選	選
特別講義Ⅱ	2	選	選
卒業研究	4	必	選必
卒業制作	4		選必
高大連携特別講義A	2	選	選
高大連携特別講義B	2	選	選
高大連携特別講義C	1	選	選

専門
教育
科目

☆印は専門教育科目（選択）の単位として認定される他専攻の科目

コンピュータシステム専攻 カリキュラムツリー

選択科目
選択必修科目
必修科目
連結・前提科目
連携・関連科目

学習到達目標		1 年 前期	後期	2 年 前期	後期	3 年 前期	後期	4 年 通年
人間性を培う幅広い知識と素養の育成 人間・社会・言語に関する知識を深め、それらの知識（の関連づけ）と論理的な思考によって、日常のさまざまな現象を明らかにする力を養う。 言語およびコミュニケーション活動に関心をもち、正確な言語理解と適切な表現のできる国際人を目指す。 多様な領域の講義を通して、よき市民としての広い視野と素養を身につける。	人間性の教育・専門性の教育の統合（キャリア教育） 社会的・職業的に自立した学生を育成する。	コミュニケーションイングリッシュA コミュニケーションイングリッシュC	コミュニケーションイングリッシュB コミュニケーションイングリッシュD	TOEIC・視聴覚英語A 英語圏のことばと文化A 中国語のことばと文化 フランスのことばと文化 ドイツ語のことばと文化	TOEIC・視聴覚英語B 英語圏のことばと文化B 中国語のことばと文化 フランスのことばと文化 ドイツ語のことばと文化	経済基礎知識 キャリアデザインII キャリアデザインI	情報と職業 知的財産権	
	基礎学力・知識の修得 ・各専門分野を学ぶために必要な自然科学の知識を習得し、科学的な思考を身に付ける。 ・情報科学分野に共通する基礎力と社会人として必要な人間的能力を養う。	データサイエンス基礎理 線形代数I 情報数学I	物理学（力学） 微積分I 線形代数II 情報数学II	物理学（電磁気学） 微積分II 確率統計 幾何学	物理実験	キャリア意識形成 インターンシップ		

ものづくり文化／ものづくり文化実習

専門基礎の修得	コンピュータ概論	情報システム概論 オペレーティングシステム	CGプログラミング 及び演習	CAD及び演習I
ICTの基礎及び専門知識を習得し、柔軟な 応用能力を有する人材を育成する。(ICT 基礎、メディア情報専攻共通科目)				
専門技術・知識の修得	コンピュータリテラシ プログラミング及び演習I プログラミング及び演習II	数値計算 数理論理学	オペレーションズ・ リサーチI オペレーションズ・ リサーチII 計算の理論	
コンピュータシステムについての知識と技 術を修得する。 (1) システム開発のための専門的な知識と 技術を修得する。				
(2) ソフトウェア開発のための専門知識と 技術を修得する。	人工知能 画像処理及び演習 オブジェクト指向 プログラミング及び演習I オブジェクト指向 プログラミング及び演習II	ソフトウェア工学I データベース及び演習 アルゴリズムとデータ構造 アルゴリズムとデータ構造演習	ソフトウェア工学II ソフトウェア工学II	ソフトウェア工学II
(3) ネットワーク・システム開発のための専 門知識と技術を修得する。	コンピュータネットワーク Webプログラミング基礎	モバイルネットワーク 情報セキュリティ ネットワーク及び演習	Webプログラミング 及び演習	
(4) 組み込みシステム開発のための専門知 識と技術を修得する。	論理回路	コンピュータアーキテクチャI コンピュータアーキテクチャII システム制御	組み込みシステム概論 及び演習 マイコン制御及び演習	
(5) 高度なICTシステムの研究・開発を通し て専門知識と技術を実践的に修得す る。	プロジェクト演習I プロジェクト演習II	特別講義I 特別講義II	セミナー	卒業研究

コンピュータシステム専攻教育課程表

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考
		必 修	選 択	1年次		2年次		3年次		4年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
専門 教育 科目	K1021 情報社会及び情報倫理	2		1								1	○		
	K1022 キャリアデザインⅠ	2		1								1	○		
	K1023 キャリア意識形成	2				1						1	○		
	K2113 キャリアデザインⅡ		2						1			1	○		
	K2114 経済基礎知識		2						1			1	○		
	K2115 知的財産権		2						1			1	○		
	K2116 情報と職業		2						1			1	○		
	K2117 インターンシップ		2	※ 1								5・6			
	K1020 データサイエンス基礎数理	2		1								2	○		
	K2058 微分積分Ⅰ		2	1								2	○		
	K2059 微分積分Ⅱ		2		1							2	○		
	K2060 線形代数Ⅰ		2	1								2	○		
	K2061 線形代数Ⅱ		2		1							2	○		
	K2062 確率統計		2				1					2	○		
	K2063 幾何学		2				1					2	○		
	K1019 物理学（力学）	2			1							2	○		
	K2087 物理学（電磁気学）		2			1						2	○		
	K1013 物理実験	2					2					2	○		
	K1005 情報数学Ⅰ	2		1								2	○		
	K2016 情報数学Ⅱ		2		1							2	○		
	K2094 コンピュータ概論		2	1								3	○		
	K2049 人工知能		2			1						3	○		
	K2090 オペレーティングシステム		2				1					3	○		
	K3005 データベース及び演習	3							2			4	○	※ 2	
	K2071 情報システム概論		2				1					3	○		
	K2076 CAD及び演習Ⅰ		3							2		4	○		
	K2119 マルチメディア情報処理及び演習Ⅰ		3						2			4	○		
	K1017 コンピュータリテラシ	2		1								3	○		
	K1003 プログラミング及び演習Ⅰ	3		2								4	○		
	K2022 プログラミング及び演習Ⅱ		3		2							4	○		
	K2088 アルゴリズムとデータ構造		2						1			3・4	○		
	K2089 アルゴリズムとデータ構造演習		1						1			3・4	○		
	K1007 コンピュータネットワーク	2				1						3	○		
	K2070 モバイルネットワーク		2				1					3	○		
	K3001 ネットワーク及び演習	3							2			4	○	※ 2	
	K2091 情報セキュリティ		2						1			3	○		
	K3002 Webプログラミング及び演習	3								2		4	○	※ 2	
	K2035 論理回路		2	1								3	○		
	K2044 数値計算		2				1					3	○		
	K2017 オペレーションズ・リサーチⅠ		2						1			3	○		
	K2018 オペレーションズ・リサーチⅡ		2							1		3	○		
	K2082 数理理論学		2				1					3	○		
	K2012 言語理論及びコンパイラ		2						1			3	○		
	K2014 計算の理論		2							1		3	○		
	K2077 ソフトコンピューティング		2							1		3	○		
	K2065 オブジェクト指向プログラミング及び演習Ⅰ		3			2						4	○		
K2066 オブジェクト指向プログラミング及び演習Ⅱ		3				2					4	○			
K2095 ソフトウェア工学Ⅰ		2						1			3	○			
K2037 ソフトウェア工学Ⅱ		2							1		3	○			
K2083 Webプログラミング基礎		2		1							3	○			
K2068 コンピュータアーキテクチャⅠ		2			1						3	○			
K2069 コンピュータアーキテクチャⅡ		2				1					3	○			
K2118 システム制御		2				1					3	○			
K1015 組み込みシステム概論	2							1			3	○			
K3003 組み込みプログラミング及び演習	3								2		4	○	※ 2		
K3004 マイコン制御及び演習	3							2			4	○	※ 2		
K2084 プロジェクト演習Ⅰ		1			1						5	○	1年次のGPA=2.5以上が履修条件		
K2085 プロジェクト演習Ⅱ		1				1					5	○	1年次のGPA=2.5以上が履修条件		
K2097 画像処理及び演習		3			2						4	○			
K1016 セミナー	2							1			5・6				
K2053 特別講義Ⅰ		2		※ 1										年度によって開講しない場合がある	
K2054 特別講義Ⅱ		2		※ 1										年度によって開講しない場合がある	
K1018 卒業研究	4									※ 1	5・6				
K2079 高大連携特別講義A		2												卒業要件単位数にのみ加算	
K2080 高大連携特別講義B		2												卒業要件単位数にのみ加算	
K2081 高大連携特別講義C		1												卒業要件単位数にのみ加算	

KK

コンピュータシステム専攻

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考	
		必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次						
				前	後	前	後	前	後	前	後					
総合 教育 科目	G1829	コミュニケーション英語A	1		1								1	○		
	G1830	コミュニケーション英語C	1		1								1	○		
	G1831	コミュニケーション英語D	1			1							1	○		
	G3834	コミュニケーション英語B	1			1							1	○		
	G3832	TOEIC・視聴覚英語 A	1				1						1	○		
	G3833	TOEIC・視聴覚英語 B	1					1					1	○		
	G3835	英語ワークショップA:スピーキング&プレゼンテーション	1			1							1	○		前期にも開講する場合あり
	G3836	英語ワークショップB:上級リーディング	1			1							1	○		前期にも開講する場合あり
	G3837	英語ワークショップC:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習	1			1							1	○		前期にも開講する場合あり
	G3838	英語ワークショップD:海外留学英語	1			1							1	○		前期にも開講する場合あり
	G3845	英語圏のことばと文化 A	2				1						1	○	○	
	G3846	英語圏のことばと文化 B	2					1					1	○	○	
	G3843	中国語 A	1		1								1	○		
	G3844	中国語 B	1			1							1	○		
	G3841	フランス語 A	1		1								1	○		
	G3842	フランス語 B	1			1							1	○		
	G3839	ドイツ語 A	1		1								1	○		
	G3840	ドイツ語 B	1			1							1	○		
	G2834	複素関数論		2			1						1	○	○	
	G2835	代数学		2				1					1	○	○	
	G2836	統計物理		2			1						1	○	○	
	G2837	質点系と剛体の力学		2			1						1	○	○	
	G2036	人間性の探究		2									5	○	○	
	G2001	こころの科学		2									5	○	○	
	G2026	人間の行動		2									5	○	○	
	G2064	科学技術と自然と人間		2									5	○	○	
	G2065	表現文化		2									5	○	○	
	G2014	現代社会の探究		2									5	○		
	G2013	現代の経済		2									5	○	○	
	G2066	現代社会と法		2									5	○		
	G2048	日本国憲法		2									5	○		
	G2010	健康の科学		2									5	○	○	
	G2067	ものづくり文化		2									5	○	○	
	G2821	環境と地域共創		2									5	○	○	
	G2069	創造と倫理		2									6	○	○	
	G2841	日本語リテラシ		2	1								5	○		開講学期変更の可能性あり
	G2822	ものづくり文化実習		1	1								5	○	○	開講学期変更の可能性あり
	G2008	健康・スポーツ科学実習Ⅰ		1	1								5	○	○	
	G2009	健康・スポーツ科学実習Ⅱ		1		1							5	○	○	
	G2838	中国のことばと文化		2			1						1	○	○	後期にも開講する場合あり
G2839	フランスのことばと文化		2			1						1	○	○	後期にも開講する場合あり	
G2840	ドイツのことばと文化		2			1						1	○	○	後期にも開講する場合あり	
G2070	特別講義		2									4・5			年度によって開講しない場合がある	
G2823	日本語コミュニケーション		2									1			卒業・進級要件単位には含めない	
G2824	海外研修英語		1						※ 1			1		○		
G2833	海外留学英語		4									1		○		

- 履修期は基本的な開講学年学期とし変更する場合がある。
- ※ 1 印の授業科目は毎週の授業時間数を定めない。
- 副専攻の詳細は132ページ
- ※ 2 印の授業科目を複数修得した場合、必修科目として 1 科目が加算され、それ以降は専門選択科目に加算されます。
- DPはディプロマ・ポリシーの該当番号に対応

KK

コンピュータシステム専攻

■ 注意

1. 卒業および進級要件に含めない科目

- ・ 高大連携特別講義は進級判定時の単位数には含めず、卒業要件単位数にのみ加算します。
- ・ 日本語コミュニケーションで修得した単位は、卒業・進級要件に含めません。

2. 履修上の注意

(1) コンピュータシステム専攻では、ソフトウェアの開発技術を中心に、コンピュータ技術を総合的に学びます。以下の事項に注意して、多くの科目を積極的に履修して下さい。

- 1) 各科目は、科目系統図にあるように、互いに密接に関連しています。高学年で開講される科目を理解するためには、その前提となる科目を低学年で履修登録して修得しておく必要があります。カリキュラムツリーを十分に理解して、各学年に割り当てられた科目を大切に履修して下さい。
- 2) 1年次のキャリアデザインIは、大学生活を充実したものにするために、また、将来社会で活躍するために、これから大学で何を学ぶべきか、何をすべきかを考えるための授業です。この授業に積極的に参加して皆さんの一人一人の将来計画を作成し、その夢に向かって毎日の大学生活を有意義に送って下さい。
- 3) 卒業するためには、必修科目の全てと選択必修科目の幾つかを必ず修得する必要があります。これらの科目が不合格になると再履修する必要がありますが、在籍学年の科目と再履修科目の開講時間が重なることがあり、再履修は通常容易ではありません。必修科目、選択必修科目は割り当てられた学年で必ず合格するようにしましょう。また、履修科目をしっかり身につけるため、GPAは2.0以上を目指しましょう。
- 4) 演習科目は皆さんの将来の仕事と直接関係しており、仕事をするための実践力を養います。どの演習も宿題が多くて大変ですが、頑張ればその分力がつきます。演習科目はできるだけ多く、かつ、積極的に履修して下さい。なお一部の演習科目には履修条件があるので注意して下さい。
- 5) コンピュータシステム専攻の科目の中には数学、物理の科目が多数あります。これらの科目はコンピュータやソフトウェアの科目を理解するために必要であり、また、就職後10~20年して皆さんがリーダー、管理者として活躍するためにも必要です。高校生のときに数学、物理を学ばなかった人も大学で是非学んで下さい。
- 6) 卒業研究は大学教育の総仕上げです。教わるのではなく、自分で勉強して自分で問題を解決する力を養います。3年次のセミナーで準備を行い、4年次で本格的に取り組めます。卒業研究をうまく行えるように、3年次後期までに各科目をしっかり修得しておきましょう。
- 7) 選択必修科目(※2印の授業科目)から、必修科目として1科目(3単位)を選択して修得する必要があります。また選択必修科目を2科目以上修得した場合、2科目目からは選択科目に加算されます。

(2) 総合教育科目の履修については「Ⅲ教育課程>基礎教育センター」を参照して下さい。

3. 他専攻・他学科・他大学履修の注意

自らの専門分野を超え、幅広く柔軟な視野と知識を修得するために、自分の専攻にない他専攻・他学科・他大学の科目を履修することができます。

なお、安易な履修登録など、この目的に合わないとは判断した場合は、履修を認めない場合があります。

また、他専攻・他学科・他大学の科目を修得した場合は、卒業および進級に必要な単位として以下の表のとおり認定されます。

履 修 科 目		卒業・進級に必要な単位 として認定される科目区分	卒業・進級に必要な単位 として認定される上限
所属学科 他専攻 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定	40単位まで
他学科 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定	16単位まで (うち他大学開設科目は 6単位まで)
単位互換制度による 他大学開設科目		科目区分は履修登録 後、審査して決定され ます。 専門教育科目(選択) の単位として認定 総合教育科目(選択) の単位として認定	4単位まで

■ 卒業進級要件

1. 上級年次への進級要件

以下の表に定める単位を修得したものは、上級年次へ進級することができます。

1年次から2年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	35単位以上		35単位以上
選択科目			

※GPAが0.5以上であること。

2年次から3年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	70単位以上		70単位以上
選択科目			

3年次から4年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	105単位以上		105単位以上
選択科目			

2. 卒業要件

以下の表に定める単位を修得したものは、卒業することができます。

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	32単位	8単位※	40単位
選択科目	68単位以上	16単位以上	84単位以上
計	100単位以上	24単位以上	124単位以上

※必修科目3単位と選択必修科目5単位の合計とする。ただし、このうち英語系科目を6単位以上修得していること。

選択必修科目（※2印の授業科目）から、必修科目として1科目（3単位）を選択して修得する必要があります。
また選択必修科目を2科目以上修得した場合、2科目目からは選択科目に加算されます。

メディア情報専攻 カリキュラムツリー

必修科目
選択必修科目
選択科目
連結・前提科目
連携・関連科目

学習到達目標		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 通年
人間性を培う幅広い知識と素養の育成 人間・社会・言語に関する知識を深め、それらの知識（の関連づけ）と論理的な思考によって、日常のさまざまな現象を明らかにする力を養う。 言語およびコミュニケーション活動に関心をもち、正確な言語理解と適切な表現のできる国際人を目指す。 多様な領域の講義を通して、よき市民としての広い視野と素養を身につける。	人間性	コミュニケーション英語A イングリッシュA	コミュニケーション英語B イングリッシュB	TOEIC・視聴覚英語A 英語圏のことばと文化A	TOEIC・視聴覚英語B 英語圏のことばと文化B			
	国際性	中国語A フランス語A ドイツ語A	中国語B フランス語B ドイツ語B	中国語のことばと文化 フランスのことばと文化 ドイツ語のことばと文化	中国語のことばと文化 フランスのことばと文化 ドイツ語のことばと文化	英語圏のことばと文化A 英語圏のことばと文化B		
人間性の教育・専門性の教育の統合 （キャリア教育） 社会的・職業的に自立した学生を育成する。	キャリア教育	健康・スポーツ 科学実習I	健康・スポーツ 科学実習II	質点系と剛体の力学 統計物理 複素関数論	代数学			
	キャリア教育	英語ワークショップA～D						
人間性の教育・専門性の教育の統合 （キャリア教育） 社会的・職業的に自立した学生を育成する。		情報社会及び情報倫理	日本語リテラシー	キャリア意識形成	キャリアデザインII	経済基礎知識	情報と職業	知的財産権
基礎学力・知識の修得 ・各専門分野を学ぶために必要な自然科学の知識を習得し、科学的な思考を身に付ける。 ・情報科学分野に共通する基礎力と社会人として必要な人間的能力を養う。		データサイエンス基礎数理	線形代数I	微分積分I	確率統計	物理学（力学）		

専門基礎の修得	コンピュータ概論 情報システム概論 コンピュータネットワーク モバイルネットワーク 人工知能 オペレーティングシステム 情報セキュリティ ネットワーク及び演習
専門技術・知識の修得	プログラミング及び演習Ⅰ プログラミング及び演習Ⅱ 画像処理及び演習 アルゴリズムとデータ構造 データベース ゲームプログラミング デジタル映像処理及び演習 ゲームプログラミング Webプログラミング及び演習 CGプログラミング及び演習 Webデザイン及び演習 Webプログラミング及び演習 マルチメディア情報処理及び演習Ⅰ マルチメディア情報処理及び演習Ⅱ 映像制作概論 映像制作及び演習
(2)クリエイターのための専門的な知識・技能を修得する。	Webデザイン及び演習 カラーデザイン サウンドメディア論 デジタルコンテンツ基礎 デジタルコンテンツ基礎 CGコンテンツ基礎及び演習 CGコンテンツ基礎及び演習 マルチメディア情報処理及び演習Ⅰ マルチメディア情報処理及び演習Ⅱ 映像制作概論 映像制作及び演習
(3)コミュニケーションやインタフェースに関する専門技術・知識を修得する。	コミュニケーション論 ユーザインタフェース
(4)メディアビジネス・文化に関する専門技術・知識を修得する。	メディア産業論 メディア文化論 ベンチャービジネス論 インターネットビジネス論 メディア英語 経営学概論
(5)メディア応用に関する専門的な知識・技能を修得する。	CAD及び演習Ⅰ CAD及び演習Ⅱ
(6)高度なメディア・コンテンツの制作および研究・開発を通して知識と技能を実践的に修得する。	デジタルコンテンツ及び演習 セミナー 卒業研究・卒業制作 特別講義Ⅰ 特別講義Ⅱ

メディア情報専攻教育課程表

科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 出 発 点	副 専 攻	備 考				
		必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次									
				前	後	前	後	前	後	前	後								
X1017	情報社会及び情報倫理	2		1								1	○						
X1018	キャリアデザインⅠ	2		1								1	○						
X1019	キャリア意識形成	2				1						1	○						
X2066	キャリアデザインⅡ		2					1				1	○						
X2067	経済基礎知識		2					1				1	○						
X2068	知的財産権		2						1			1	○						
X2069	情報と職業		2						1			1	○						
X2070	インターンシップ		2	※ 1								5・6							
X1016	データサイエンス基礎数理	2		1								2	○						
X2002	微分積分Ⅰ		2	1								2	○						
X2003	線形代数Ⅰ		2	1								2	○						
X2004	確率統計		2		1							2	○						
X2058	物理学（力学）		2		1							2	○						
X2056	コンピュータ概論		2	1								3	○						
X2032	人工知能		2					1				3	○						
X2049	オペレーティングシステム		2						1			3	○						
X2060	データベース		2						1			3	○						
X2031	情報システム概論		2			1						3	○						
X2026	CAD及び演習Ⅰ		3					2				4	○						
X2027	CAD及び演習Ⅱ		2						2			4	○						
X1014	CGプログラミング及び演習	3				2						4	○						
X1001	コンピュータリテラシ	2		2								3	○						
X1003	プログラミング及び演習Ⅰ	3		2								4	○						
X2011	プログラミング及び演習Ⅱ		3		2							4	○						
X2048	アルゴリズムとデータ構造		2			1						3・4	○						
X2055	コンピュータネットワーク		2			1						3	○						
X2030	モバイルネットワーク		2			1						3	○						
X2028	ネットワーク及び演習		3						2			4	○						
X2050	情報セキュリティ		2					1				3	○						
X1004	Webプログラミング及び演習	3					2					4	○						
X1013	画像処理及び演習	3				2						4	○						
X2052	デジタル映像処理及び演習		3					2				4	○						
X2046	応用プログラミング及び演習		3						2			4	○						
X2023	ゲームプログラミング		2			1						3	○						
X2054	マルチメディア情報処理及び演習Ⅰ		3	2								4	○						
X2045	マルチメディア情報処理及び演習Ⅱ		3					2				4	○						
X1020	CGコンテンツ基礎及び演習	3			2							4	○						
X2061	サウンドメディア論		2			1						3	○						
X2065	デッサンとモデリング		2		2							4	○						
X1006	Webデザイン及び演習	3				2						4	○						
X2044	映像制作概論		2			1						3	○						
X2059	映像制作及び演習		3						2			4	○						
X2020	カラーデザイン		2			1						3	○						
X2019	コミュニケーション論		2		1							3	○						
X2021	ユーザインタフェース		2			1						3	○						
X2072	デジタルコンテンツ基礎		2			1						4	○						
X2073	デジタルコンテンツ及び演習		3				2					5	○						
X2025	メディア産業論		2			1						3	○						
X2024	メディア文化論		2				1					3	○						
X2033	経営学概論		2					1				3	○						
X2034	インターネットビジネス論		2						1			3	○						
X2057	メディア英語		1				1					3	○						
X2035	ベンチャービジネス論		2					1				3	○						
X1011	セミナー	2						1				5・6							
X2036	特別講義Ⅰ		2	※ 1											年度によって開講しない場合がある				
X2037	特別講義Ⅱ		2	※ 1											年度によって開講しない場合がある				
X3003	卒業研究	4								※ 1		5・6							
X3004	卒業制作	4								※ 1		5・6							
X2039	高大連携特別講義A		2												卒業要件単位数にのみ加算				
X2040	高大連携特別講義B		2												卒業要件単位数にのみ加算				
X2041	高大連携特別講義C		1												卒業要件単位数にのみ加算				

専門教育科目

KX

メディア情報専攻

	科目コード	授 業 科 目	単位数		毎週授業時間数（コマ数）								D P	G P A 算 出 対 象	副 専 攻	備 考
			必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
総合 教育 科目	G1829	コミュニケーション英語A	1		1								1	○		
	G1830	コミュニケーション英語C	1		1								1	○		
	G1831	コミュニケーション英語D	1			1							1	○		
	G3834	コミュニケーション英語B	1			1							1	○		
	G3832	TOEIC・視聴覚英語A		1			1						1	○		
	G3833	TOEIC・視聴覚英語B		1				1					1	○		
	G3835	英語ワークショップA:スピーキング&プレゼンテーション		1		1							1	○		前期にも開講する場合あり
	G3836	英語ワークショップB:上級リーディング		1		1							1	○		前期にも開講する場合あり
	G3837	英語ワークショップC:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習		1		1							1	○		前期にも開講する場合あり
	G3838	英語ワークショップD:海外留学英語		1		1							1	○		前期にも開講する場合あり
	G3845	英語圏のことばと文化A		2			1						1	○	○	
	G3846	英語圏のことばと文化B		2			1						1	○	○	
	G3843	中国語A		1	1								1	○		
	G3844	中国語B		1		1							1	○		
	G3841	フランス語A		1	1								1	○		
	G3842	フランス語B		1		1							1	○		
	G3839	ドイツ語A		1	1								1	○		
	G3840	ドイツ語B		1		1							1	○		
	G2834	複素関数論			2			1					1	○	○	
	G2835	代数学			2				1				1	○	○	
	G2836	統計物理			2			1					1	○	○	
	G2837	質点系と剛体の力学			2			1					1	○	○	
	G2036	人間性の探究			2								5	○	○	
	G2001	こころの科学			2								5	○	○	
	G2026	人間の行動			2								5	○	○	
	G2064	科学技術と自然と人間			2								5	○	○	
	G2065	表現文化			2								5	○	○	
	G2014	現代社会の探究			2								5	○		
	G2013	現代の経済			2								5	○	○	
	G2066	現代社会と法			2								5	○		
	G2048	日本国憲法			2								5	○		
	G2010	健康の科学			2								5	○	○	
	G2067	ものづくり文化			2								5	○	○	
	G2821	環境と地域共創			2								5	○	○	
	G2069	創造と倫理			2								6	○	○	
	G2841	日本語リテラシ			2	1							5	○		開講学期変更の可能性あり
	G2822	ものづくり文化実習			1	1							5	○	○	開講学期変更の可能性あり
	G2008	健康・スポーツ科学実習Ⅰ			1	1							5	○	○	
	G2009	健康・スポーツ科学実習Ⅱ			1		1						5	○	○	
	G2838	中国のことばと文化			2			1					1	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2839	フランスのことばと文化			2			1					1	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2840	ドイツのことばと文化			2			1					1	○	○	後期にも開講する場合あり
	G2070	特別講義			2								4・5			年度によって開講しない場合がある
	G2823	日本語コミュニケーション			2								1			卒業・進級要件単位には含めない
	G2824	海外研修英語			1					※ 1			1		○	
	G2833	海外留学英語			4								1		○	

- 履修期は基本的な開講学年学期とし変更する場合がある。
- ※ 1 印の授業科目は毎週の授業時間数を定めない。
- 副専攻の詳細は132ページ
- DPはディプロマ・ポリシーの該当番号に対応

■ 注意

1. 卒業および進級要件に含めない科目

- ・ 高大連携特別講義は進級判定時の単位数には含めず、卒業要件単位数にのみ加算します。
- ・ 日本語コミュニケーションで修得した単位は、卒業・進級要件に含めません。

2. 履修上の注意

(1) メディア情報専攻では、画像や音声などのマルチメディア情報処理技術を中心に、情報をコンテンツにする技術を総合的に学びます。以下の事項に注意して、多くの科目を積極的に履修して下さい。

- 1) 各科目は、科目系統図にあるように、互いに密接に関連しています。高学年で開講される科目を理解するためには、その前提となる科目を低学年で履修登録して修得しておく必要があります。カリキュラムツリーを十分に理解して、各学年に割り当てられた科目を大切に履修して下さい。
- 2) 1年次のキャリアデザインIは、大学生活を充実したものにするために、また、将来社会で活躍するために、これから大学で何を学ぶべきか、何をすべきかを考えるための授業です。この授業に積極的に参加して皆さんの一人一人の将来計画を作成し、その夢に向かって毎日の大学生活を有意義に送って下さい。
- 3) 卒業するためには、必修科目の全てと選択必修科目の一つを必ず修得する必要があります。これらの科目が不合格になると再履修する必要がありますが、在籍学年の科目と再履修科目の開講時間が重なることがあり、再履修は通常容易ではありません。必修科目、選択必修科目は割り当てられた学年で必ず合格するようにしましょう。また、履修科目をしっかり身につけるため、GPAは2.0以上を目指しましょう。
- 4) 演習科目は皆さんの将来の仕事と直接関係しており、仕事をするための実践力を養います。どの演習も宿題が多くて大変ですが、頑張ればその分力がつきます。演習科目はできるだけ多く、かつ、積極的に履修して下さい。
- 5) メディア英語が用意されています。メディアの世界では英語力が必要とされます。選択科目ですが、履修することを勧めます。
- 6) 卒業研究・卒業制作は大学教育の総仕上げです。卒業研究、卒業制作のいずれかを選び4単位を必修とします。教わるのではなく、自分で勉強して自分で問題を解決する力を養います。3年次のセミナーで準備を行い、4年次で本格的に取り組めます。卒業研究・卒業制作をうまく行えるように、3年次後期までに各科目をしっかり修得しておきましょう。

(2) 総合教育科目の履修については「Ⅲ教育課程>基礎教育センター」を参照して下さい。

3. 他専攻・他学科・他大学履修の注意

自らの専門分野を超え、幅広く柔軟な視野と知識を修得するために、自分の専攻にない他専攻・他学科・他大学の科目を履修することができます。

なお、安易な履修登録など、この目的に合わないと判断した場合は、履修を認めない場合があります。

また、他専攻・他学科・他大学の科目を修得した場合は、卒業および進級に必要な単位として以下の表のとおり認定されます。

履 修 科 目		卒業・進級に必要な単位 として認定される科目区分		卒業・進級に必要な単位 として認定される上限
所属学科 他専攻 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		40単位まで
他学科 開設科目	専門教育科目	専門教育科目(選択)の単位として認定		16単位まで (うち他大学開設科目は 6単位まで)
単位互換制度による 他大学開設科目		科目区分は履修登録 後、審査して決定され ます。	専門教育科目(選択) の単位として認定	4単位まで
			総合教育科目(選択) の単位として認定	

■ 卒業進級要件

1. 上級年次への進級要件

以下の表に定める単位を修得したものは、上級年次へ進級することができます。

1年次から2年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	35単位以上		35単位以上
選択科目			

※GPAが0.5以上であること。

2年次から3年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	70単位以上		70単位以上
選択科目			

3年次から4年次

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	105単位以上		105単位以上
選択科目			

2. 卒業要件

以下の表に定める単位を修得したものは、卒業することができます。

	専門教育科目	総合教育科目	計
必修科目	34単位	8単位※	42単位
選択科目	66単位以上	16単位以上	82単位以上
計	100単位以上	24単位以上	124単位以上

※必修科目3単位と選択必修科目5単位の合計とする。ただし、このうち英語系科目を6単位以上修得していること。

基礎教育センター

◎教育方針

基礎教育センターは、本学の教育のモットー「創造と人間性」の下、各専攻での学習に必要な科学的理解および論理的思考・表現の基礎を身につけ、「創造」に必要な多面的な視野をもち、さらには多様な人々とのコミュニケーションによって相互理解をはかることのできる、豊かな教養と「人間性」を兼ね備えた個人の育成を目的とする。

基礎教育センターは、自然科学教室と総合教育教室からなる。

〈自然科学教室〉

自然科学関連科目は、数学と物理学を中心とする。これらを通じて、科学的なものの見方や考え方、論理の進め方といった、工学・情報科学などの科学・技術に携わるうえで欠かせない基礎学力を養成する。

〈総合教育教室〉

総合教育関連科目は、法学、経済学、社会学、倫理学、心理学、環境学、教育学、文学等の人文・社会科学や健康科学の諸分野、および外国語（英語、中国語、フランス語、ドイツ語）や日本語表現と多岐にわたる。これらを通じて、社会生活を送るうえで必要不可欠な、人間と社会について基本的知識・判断力・表現力を養成する。

◎総合教育科目

(1) 卒業要件

必修科目	8単位(※)
選択科目	16単位以上
計	24単位以上

p.127に示す表の総合教育科目から、24単位以上を修得してください。

①その際、表のAグループから8単位以上を修得してください。

②ただし、Aグループの中では、表のBグループから必修科目3単位を含む6単位以上の科目を修得してください。

(※)表の選択必修科目において、修得した科目の5単位までは必修科目の単位となります。これにより必修科目の卒業要件8単位を満たします。なお、選択必修科目は、5単位を超えて修得した科目がある場合、その科目の単位数は選択科目の単位として認められます。

(注)Aグループの科目は、できるだけ2年次後期までに修得できるように計画してください。

(2) 各科目履修の注意事項

- (i) Bグループの科目には、開講時期が決まっている科目と全学年全学期になっている科目があります。所属する専攻の教育課程表で確認してください。
- (ii) 英語ワークショップは、上級者向けのテーマ別少人数クラスで、各キャンパス全専攻、全学年を対象としています。履修希望者は、まず履修登録(仮登録)をして初回授業に出席し、担当者の受講許可を受けてください。
- (iii) コミュニカティブイングリッシュC・Dは習熟度別の区分になっています。ただし、登録の都合上、再履修生、未履修生、留年生、編入生は、各学科の第一区分以外の区分で履修してください。
- (iv) 第2外国語科目(ドイツ語A・B、フランス語A・B、中国語A・B)と健康・スポーツ科学実習I・IIは学年・専

攻が指定され授業時間割表に記載されます。

(v) 日本語コミュニケーションは、卒業・進級に必要な単位として認定されません。

(vi) 海外留学英語および海外研修英語は、卒業・進級に必要な単位として認定されます。

	必選	科目名	単位数			
	必修科目					
総合教育科目	必修科目	コミュニケーション英語A	1	Bグループ： ここから6単位以上	Aグループ： ここから8単位以上	ここから24単位以上
		コミュニケーション英語C	1			
		コミュニケーション英語D	1			
	選択必修科目	コミュニケーション英語B	1			
		TOEIC・視聴覚英語A	1			
		TOEIC・視聴覚英語B	1			
		英語ワークショップA：スピーキング&プレゼンテーション	1			
		英語ワークショップB：上級リーディング	1			
		英語ワークショップC：ビジネスコミュニケーション& TOEIC 演習	1			
		英語ワークショップD：海外留学英語	1			
		英語圏のことばと文化A	2			
		英語圏のことばと文化B	2			
		中国語A	1			
		中国語B	1			
		フランス語A	1			
		フランス語B	1			
		ドイツ語A	1			
		ドイツ語B	1			
	選択科目	複素関数論	2			
		代数学	2			
		統計物理	2			
		質点系と剛体の力学	2			
		人間性の探究	2			
		こころの科学	2			
		人間の行動	2			
		科学技術と自然と人間	2			
		表現文化	2			
		現代社会の探究	2			
		現代の経済	2			
		現代社会と法	2			
		日本国憲法	2			
		健康の科学	2			
		ものづくり文化	2			
		環境と地域共創	2			
		創造と倫理	2			
		日本語リテラシ	2			
		ものづくり文化実習	1			
		健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1			
		健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1			
		中国のことばと文化	2			
		フランスのことばと文化	2			
		ドイツのことばと文化	2			
		特別講義	2			
		日本語コミュニケーション	2			
		海外研修英語	1			
		海外留学英語	4			

(3) 1年次Aグループの履修上限

1年次でのAグループの履修は、5単位(5科目)までとなっています。コミュニケーション英語A・C・Dが必修科目ですので、あと2単位(2科目)履修できます。

(1年次履修例)			英語8単位で卒業要件を満たす履修の場合	英語7単位+第2外国語1単位で卒業要件を満たす履修の場合	英語6単位+第2外国語2単位で卒業要件を満たす履修の場合
1年次に履修可能なAグループの科目	前期	必修	コミュニケーション英語A コミュニケーション英語C	コミュニケーション英語A コミュニケーション英語C	コミュニケーション英語A コミュニケーション英語C
		選択必修	英語ワークショップA:スピーキング&プレゼンテーション 英語ワークショップB:上級リーディング 英語ワークショップC:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習 英語ワークショップD:海外留学英語 } ※1	中国語A フランス語A ドイツ語A } いずれか 1科目	中国語A フランス語A ドイツ語A } いずれか 1科目
	後期	必修	コミュニケーション英語D	コミュニケーション英語D	コミュニケーション英語D
		選択必修	コミュニケーション英語B 英語ワークショップA:スピーキング&プレゼンテーション 英語ワークショップB:上級リーディング 英語ワークショップC:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習 英語ワークショップD:海外留学英語 } ※2	コミュニケーション英語B 英語ワークショップA:スピーキング&プレゼンテーション 英語ワークショップB:上級リーディング 英語ワークショップC:ビジネスコミュニケーション&TOEIC演習 英語ワークショップD:海外留学英語 } いずれか 1科目	中国語B フランス語B ドイツ語B } いずれか 1科目

※1と※2から前期後期合わせて2科目まで履修できる。

中期留学コース

グローバル社会で通用する異文化コミュニケーション能力の養成を目的とした、語学学習を中心としたコースであり、在学期間中に最大6ヶ月間、留学に充てながら、4年間で卒業が可能な制度です。

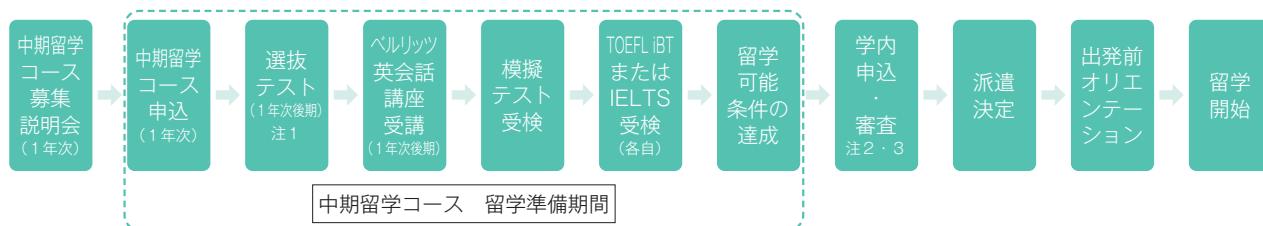
留学準備期間として、1年次から約1年半（専攻によっては2年半）、中期留学コースに在籍し、英語力を高めます。コース登録者のうち、留学可能条件を満たした学生のみ出願できます。（派遣上限人数あり）

本コースを希望する方は、まず1年次に開催する説明会に参加し、中期留学コースに申し込みしてください。

【1.留学先等について】

留学先（予定）	トンプソン・リバーズ・ユニバーシティ（Thompson Rivers University）
URL	https://www.tru.ca/
所在地	カナダ プリティッシュコロンビア州 カムループス市
留学費用	授業料：留学する年度の後期分として本学に納めた授業料が留学先の授業料として充当されます。 宿泊費等（ホームステイ3食付）：自己負担になります。
留学先大学での履修科目	Visiting Student English as Second Language：語学授業を履修します。 ※レベル4以上の語学力を有する場合、大学の正規授業を履修することも可能です。
補助金	愛工大同窓会（瑞若会）から1名につき300,000円が支給されます。

【2.申込から留学までの流れ】



注1：中期留学コースの留学可能条件である英会話講座には、定員制限があるため、コース申込者が定員を超過した場合は、1年次9月に実施する選抜テストの結果を基に、登録の可否を判断します。結果によっては、中期留学コースに在籍することはできません。

注2：申込後、指導教員が面談を行い、留学の可否を判断します。留学人数は年間10名を限度とします。（11名以上の志望者が出た場合は、TOEFL iBTスコア またはIELTSスコアの上位10名を選抜します。）

注3：本コースは、所属学科によって、以下の通り留学時期が指定されています。定められた時期以外は、留学できませんので、注意してください。

留学時期	電気学科	応用化学科	機械学科	社会基盤学科	建築学科	経営学科	情報科学科
2年次後期	○	—	○	○	○	○	○
3年次後期	—	○	—	—	○	○	○

【3.留学可能条件】

内容	基準日
GPAが2.67以上であること。	留学する前年度末時点
TOEFL iBT:40以上、またはIELTSアカデミックモジュール:5.0以上であること。	
総合教育科目のうち、必修科目及び「英語ワークショップD:海外留学英語」の単位を修得していること。	
上級年次への進級要件単位数以上の単位を修得していること。 ^{注1} ※進級要件に関する特別措置：留学期間中に開講されている進級に必要な指定科目の修得を進級要件から免除します。（指定科目を進級要件としている学年専攻のみ）	留学する年度の前期終了時点
ベルリッツ英会話講座（後期開講）を受講して、8割以上の授業に出席すること。	英会話講座終了後

注1：上級年次への進級要件単位数以上の単位修得のために、留学年度の前期は余裕をもって多めの科目（単位数）を履修すること。

また、「インターンシップ（工学部のみ）」及び「高大連携特別講義A・B・C」は、卒業要件単位数にのみ加算され、上級年次への進級要件単位数には含まれないため注意すること。（詳細は各専攻の教育課程表参照）

【4.その他】

留学期間中・帰国後の連絡・報告	留学中は毎月教務グループへ状況報告を行い、帰国後も留学報告書を提出していただきます。また、帰国後は指導教員との面談を実施します。
単位認定	中期留学コースを修了した学生は、学内の審査を経て、「海外留学英語」（総合教育科目・選択4単位）の単位が認定されます。 ※「海外留学英語」は卒業・進級要件に含まれます。 ※現地学校が認定する基準以上の語学力を有する方のうち、留学先大学の正規授業を履修して単位を取得した場合、追加の単位認定がされることがあります。
問い合わせ	教務グループ（電話:0565-48-8121／メールアドレス:kyoumu@aitech.ac.jp）

【5.中期留学コースの主なスケジュール(予定)】

所属学年	時期	予定 ^{注1}
1年次	4月中旬	中期留学コース前期募集説明会 中期留学コース参加者募集受付（前期分）
	6月中旬	TOEFLテスト説明会（第1回）
	7月下旬	中期留学相談会
	9月中旬	中期留学コース後期募集説明会 中期留学コース参加者募集受付（後期分）
	9月下旬 ～10月初旬	ベルリッツ英会話講座事前テスト〈GTEC〉（コース受講者選抜テスト）受検
	10月初旬	ベルリッツ英会話講座開始（12月下旬まで・全23回）
	11月下旬	TOEFLテスト説明会（第2回目）
	12月中旬	TOEFL ITP受検（模擬テスト受検）
	12月下旬 ～翌年1月下旬	ベルリッツ英会話講座事後テスト〈GTEC〉（成長度確認テスト）受検
	～翌年3月下旬	TOEFL iBTまたはIELTS受検（各自）
	翌年3月下旬	学内申込期限（TOEFL iBTスコア、IELTSスコア提出期限）
2年次 または 3年次 ^{注2}	5月初旬	指導教員との面談（学内審査） 審査結果により派遣決定 トンブソンリバース大学への留学手続
	5月下旬	トンブソンリバース大学への手続き料等払い込み期限
	8月上旬	留学前オリエンテーション
	8月下旬	カナダへ出発
	9月初旬	トンブソンリバース大学留学コース開講
	12月中旬 ～12月下旬	トンブソンリバース大学留学コース修了、日本へ帰国
	翌年2月	「海外留学英語」（総合教育科目4単位）単位認定
	帰国後	指導教員との面談（帰国後報告） 留学報告書の作成・提出

注1：各予定の詳細については、対象者に別途L-Camで通知します。

注2：留学する学年は所属学科ごとに異なります。（前頁2.参照）

副専攻制

副専攻制は、所属する学部・学科・専攻の専門教育課程を学ぶ主専攻とは異なる分野を修得できる制度です。当該分野の授業科目から6単位以上修得すれば、当該分野を修めたことを認定する「修了証明書」の発行を卒業予定年度に願い出ることができます。

なお、副専攻の授業科目の履修により修得した単位は、卒業に必要な修得単位数に算入できます。

副専攻の分野	区分	授業科目名	単位数	電気工学専攻	電子情報工学専攻	応用化学専攻	バイオ環境化学専攻	機械工学専攻	機械創造工学専攻	土木工学専攻	都市デザイン専攻	建築学専攻	住居デザイン専攻	経営情報システム専攻	スポーツマネジメント専攻	コンピュータシステム専攻	メディア情報専攻
SDGs とものづくり	総合教育科目	ものづくり文化	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	ものづくり文化実習	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	創造と倫理	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	環境と地域共創	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	科学技術と自然と人間	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	現代の経済	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒューマンサイエンス	総合教育科目	健康の科学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	こころの科学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	人間の行動	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	人間性の探究	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
数理科学	専門教育科目	微分方程式	2	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
	専門教育科目	フーリエ解析	2	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	専門教育科目	確率・統計	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	—	—
	専門教育科目	幾何学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
	専門教育科目	物理学（波動）	2	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	○	○	○	○
	専門教育科目	物理学（電磁気学）	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	—	○
	専門教育科目	量子物理	2	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	複素関数論	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	代数学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	統計物理	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	質点系と剛体の力学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	中国のことばと文化	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グローバルメディア アンドカルチャー	総合教育科目	フランスのことばと文化	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	ドイツのことばと文化	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	英語圏のことばと文化A	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	英語圏のことばと文化B	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	海外研修英語	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	海外留学英語	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合教育科目	海外留学英語	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

所属する専攻で開講されている専門教育科目は、副専攻の修了に必要な単位数に算入されません。

○印は、副専攻として履修できる授業科目です。

教職課程（教員免許）Ⅳ

教職課程

本学では学則第5条に定められているとおり、高等学校教諭を志願する者のために、教職課程が設置されています。教育職員免許状の取得を希望する者は、教職課程の履修手続を行い、卒業に必要な単位数の他に教育職員免許法で定められた科目を修得しなければなりません。

1. 免許状の種類と教科

本学で取得できる免許状の種類及び教科は以下のとおりです。

学科	免許状の種類	免許教科
電気学科	高等学校教諭1種免許状	工業・情報
応用化学科	高等学校教諭1種免許状	理科
機械学科・社会基盤学科・建築学科	高等学校教諭1種免許状	工業
経営学科	高等学校教諭1種免許状	情報・商業
情報科学科	高等学校教諭1種免許状	情報

2. 教育職員免許法の定めによる基礎資格と最低修得単位数

免許 教科	免許法上における最低取得単位数						その他必要な科目	基礎資格
	教科及び 教科の指 導法に関 する科目	教育の基 礎的理解 に関する 科目	道徳、総 合的な学 習の時間 等の指 導法及び 生徒指導 、教育相談 等に関する 科目	教育実践 に関する 科目	大学が独 自に設定 する科目		教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める科目	
高等学校 教諭種 別	工業	24	10 (4)	8 (5)	5	12	「日本国憲法」 「体育」 「外国語コミュニケーション」 「情報機器の操作」 ※科目については各学科の 頁を参照。	学士の学位を有すること
	理科	24	10 (4)	8 (5)	5	12		
	商業	24	10 (4)	8 (5)	5	12		
	情報	24	10	8	5	12		

※基礎資格の学士の学位を得るためには所属学科において、卒業に必要な単位数を修得しなければなりません。

※高等学校教諭1種免許状「理科」「商業」について

教育職員免許法第5条別表第1・備考第5により、各教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等の単位数のうち、その一部の単位は、当該免許状に係る教科に関する専門的事項に関する科目について修得することができます。この場合において、各教科の指導法に関する科目にあつては1単位以上、その他の科目にあつては括弧内の数字以上の単位を修得するものとします。

※高等学校教諭1種免許状「工業」について（工業の特例含む）

教育職員免許法第5条別表第1・備考第6により、当分の間、各教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等の全部又は一部の単位は、当該免許状に係る「教科及び教科の指導法に関する科目」（各教科の指導法を除く）について修得することができます。したがって、本学の教職課程が設定する科目の単位を修得しなくても、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目、かつ「教科及び教科の指導法に関する科目」の中から職業指導と工業の関係科目の○印を含め59単位以上修得することにより、工業の免許状が取得できます。ただし、教諭を強く志願する者は教職課程へ登録申請をし所定の科目を修得するようにしてください。

3. 教職課程の履修手続等

教職課程に関する新規申込説明会に必ず出席し、内容を理解した上で、窓口で申し込み手続きを行ってください。新規申し込みは、1年次前期または2年次前期のみで行うことができます。3年次編入学生は、窓口にご相談してください。

今後の教職課程のオリエンテーションの時期や手続き日時等については、L-Cam で通知をしますの、見落とさないようにしてください。またオリエンテーションを欠席した場合は教職課程の履修を取り消すことがあるので注意してください。教職課程の履修を許可された場合でも、単位修得状況によっては、「教育実習」を履修できないことがあるので注意してください。

(1) 手続方法

八草キャンパスの学生は履修料分の証紙を「教職課程履修願」に貼り、教務グループに提出してください。

証紙は教務グループ前の証明書発行機で購入できます。

自由ヶ丘キャンパスの学生は履修料と「教職課程履修願」を事務室に提出してください。

※手続期間終了後は一切受け付けません。

※一旦納付した履修料はいかなる理由があっても返金しません。

※決められた期限までに履修料を納付しない場合は教職課程の履修を辞退したものとみなします。

教職課程履修料について

学科	免許教科	手続時	3年次	4年次	合計
電気学科	工業・情報の両方	10,000円	5,000円	10,000円	25,000円
	工業又は情報	10,000円	5,000円	5,000円	20,000円
	工業の特例	不要	不要	不要	不要
応用化学科	理科	10,000円	5,000円	5,000円	20,000円
機械学科	工業	10,000円	5,000円	5,000円	20,000円
社会基盤学科	工業の特例	不要	不要	不要	不要
建築学科					
情報科学科	情報	10,000円	5,000円	5,000円	20,000円
経営学科	情報・商業の両方	10,000円	5,000円	10,000円	25,000円
	情報又は商業	10,000円	5,000円	5,000円	20,000円

(免許状申請時には、別途費用が必要となります。)

(2) 教職課程登録申請はしたが、やむを得ず教育職員免許状の取得を諦める場合が生じたときは、すみやかに「教職課程履修辞退願」を窓口へ提出してください。また、休学、退学、留年、転学部転学科などにより、身分に異動が生じた場合はその旨を申し出てください。

4. 教育職員免許状の申請手続き（4年次）

免許状は、免許取得資格者の申請によって、授与権者である都道府県教育委員会が授与します。

所定の単位を修得しても、教育委員会に申請しない限り、発行されません。申請手続きには以下の2つの方法があります。

(1) 一括申請

当該年度の卒業見込者の免許状授与申請は、大学が教育委員会に一括で申請を行います。

対象者(工業の特例含む)は、4年次4月に行う教職課程オリエンテーション(免許状一括申請一次申請説明)に必ず出席し申し込み手続きをしてください。なお申請には、教育委員会への申請料として1教科3,400円が必要となります。

(2) 個人申請

免許取得資格者のうち、一括申請を出来ない学生、一括申請申し込み手続きを忘れた学生、卒業後、免許状授与申請をする卒業生は、居住地の都道府県教育委員会へ個人で申請を行うことができます。必要書類等は各教育委員会へ確認をした上、個人で申請を行ってください。

5. その他

自由ヶ丘キャンパス開講科目でも、科目によっては八草キャンパスで受講する場合があります。

5. 教職課程年間計画

※オリエンテーションは必ず出席してください。
※下記以外の行事や詳細は、授業やL-Camで案内します。

学年	時期	行 事	備 考	費 用
(2年からも申し込み可)	1年又は2年 4月	オリエンテーション (新規申込説明)	*教職課程の概要(履修方法、単位数、費用等)を説明します。 *参加しない場合は教職課程の履修を認めません。 *工業の特例(詳細は134頁)による免許状申請を希望される方も参加してください。	—
		教職課程履修手続	*新規申込説明会参加者のうち教職課程の履修希望者は、履修登録期間中に「教職課程履修願」を窓口へ提出し、履修料を納付してください。 (web履修不可) *初学期のみ、教職課程が設置する科目については教務グループで登録します。 翌学期以降は、毎学期の履修登録期間中に、各自でシステムから履修登録してください。	履修料 10,000円
3年	4月	オリエンテーション (教育実習依頼説明)	*実習校への依頼方法について説明します。	—
		3年次履修料納付	*履修登録期間中に、履修料を納付してください。	履修料5,000円
	5月頃	教育実習校へ依頼	*各自で実習希望校へ訪問し依頼します。(原則出身高校)	—
		教育実習校からの内諾 教育実習校の決定	*実習希望校から内諾を得ます。 *実習校が決定します。	—
4年	4月	オリエンテーション (免許一括申請一次申請説明)	*免許状申請について説明します。卒業時に免許状の交付を希望する学生は「一括申請申込書」を提出します。 *工業の特例(詳細は134頁)による免許状申請を希望される方も参加してください。	—
		4年次履修料納付	*履修登録期間中に、履修料を納付してください。	履修料 1教科 5,000円 2教科10,000円
		教育実習直前説明会	*「教育実習演習」の授業中に実習中の注意事項について説明します。	—
	5月頃	実習校事前打ち合わせ	*実習校と事前打ち合わせを行ってください。	—
		教育実習	*大学の授業を欠席する場合は、窓口に出してください。 *教育実習中に発生した費用は立替、後日清算となります。	実費立替
		教育実習報告会	*1～4年生の教職課程の学生を対象に行います。	—
	9月	オリエンテーション (免許一括申請二次申請説明)	*免許一括申請一次申請者に行います。 *工業の特例(詳細は134頁)による免許状申請を希望される方も参加してください。	—
	11月頃	免許一括申請授与願の確認と記入 申請料の納付	*窓口で「教育職員免許状授与願」を確認し、必要事項を記入してください。 *申請料を愛知県収入証紙で納付します。	1教科3,400円 2教科6,800円
	3月	免許状授与	*卒業式終了後に免許状を授与します。	—

電気学科（高等学校教諭一種免許・工業）

高等学校教諭一種免許（工業）取得を希望する学生は、下記表○印の科目および免許法に必要な単位数を必ず修得すること。

▼教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学での開設授業科目			
科目区分	法定単位	授業科目	単位	必選の別	備考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	選	○
体育	2	健康の科学	2	選	○
外国語コミュニケーション	2	コミュニケーションイングリッシュA	1	必	○
		コミュニケーションイングリッシュB	1	選必	○
情報機器の操作	2	プログラミングI及び演習	3	必	○

▼教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目											
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位		授 業 科 目	単位	開講専攻		備考		授 業 科 目	単位	開講専攻		備考
				指 導 業			EE	EV					EE	EV	
第2欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	工業の 関係科目	職業指導(工業)	2	選	選	○	工業の 関係科目	電気電子材料学Ⅰ	2	選	選	
					電気電子工学基礎	2	選	選			電気電子材料学Ⅱ	2	選	選	
					電子情報工学概論	2		選			電気エネルギー工学	2	選		
					電気磁気学Ⅰ及び演習	3	必	必	○		電気電子応用工学	2	選		
					電気磁気学Ⅱ及び演習	3	必	必	○		電気機器設計・製図	2	選		
					電気磁気学Ⅲ及び演習	3	選				電気機器設計	2		選	
					電磁界理論	2		選			高電圧工学	2	選		
					電気回路Ⅰ及び演習	3	必	必	○		電力システム工学	2	選		
					電気回路Ⅱ及び演習	3	必	必	○		電機システム工学	2	選		
					電気回路Ⅲ	2	選	選			電気法規	2	選		
					アナログ回路Ⅰ	2	必	必			機械工学概論	2	選		
					アナログ回路Ⅱ	2	選	選			真空気体電子工学	2		選	
					電子デバイス工学	2	選	選			オプトエレクトロニクス	2		選	
					電気工学実験ⅠA	2	必				ロボティクス	2		選	
					電気工学実験ⅡA	2	必				電磁波工学	2		選	
					電気工学実験ⅢA	2	必				電子情報工学実験1	2		必	
					電気工学実験ⅠB	2	必				電子情報工学実験2	2		必	
					電気工学実験ⅡB	2	必				電子情報工学実験4	2		必	
					電気工学実験ⅢB	2	必			各教科の指導法(併修科目) 信授の活用を含む	工業科教育法Ⅰ	2	必	必	※
					電気機器工学	2	選				工業科教育法Ⅱ	2	必	必	※
					メカトロニクス	2	選								
					パワーエレクトロニクス	2	選								

(注) 1. 自分の専攻にない科目は、同学科内にある他専攻の授業を履修すること。
2. 第2欄の※印の科目は、進級要件及び卒業要件の単位には含まない。また、GPA算出対象外とする。

▼教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目					
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位	授業科目	単位数	必選の別	履修年次		履修条件
							前	後	
第3欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10 (4)	教育原論	2	必	1		
		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	2	必	2		
				教職特論Ⅰ	2	選	2		
				教職特論Ⅱ	2	選		2	
				教職特論Ⅲ	2	選	3		
				教職特論Ⅳ	2	選		3	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度論	2	必		1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	必		1	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援論	2	必	2					
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	必		2				
第4欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	8 (5)	特別活動論(総合的な探究の時間の指導法)	2	必		2	
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術	2	必	3		教育原論、教育心理学を修得していること
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		情報機器活用の理論と方法	1	必		3	
		生徒指導の理論及び方法		生徒指導論(進路指導を含む)	2	必	4		
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談	2	必		3	
第5欄	教育実践に関する科目	教育実習 学校体験活動	3 (2)	教育実習演習	1	必	4		工業科教育法Ⅰ・Ⅱ、教育の方法と技術を修得していること
		教育実習		2	必	4		注3	
		教職実践演習	2	教職実践演習(高)	2	必		4	原則、教育実習をすませていること
第6欄	大学が独自に設定する科目		12	※本学では開設していません。教科に関する専門的事項に関する科目または、第3欄～5欄の科目の単位数を充てることができます。					
最低修得単位数			59						

(注) 1. 第3欄～第5欄の科目の単位は進級要件及び卒業要件の単位に含めない。また、GPAの算出対象外とする。

2. 移行時期において、開講時期・方法の変更及び内容の実質同じ科目の読替を行うことがある。

3. 教育実習の申し込み(3年前期)は教育の方法と技術を履修していることとする。

教職

教職課程

電気学科（高等学校教諭一種免許・情報）

高等学校教諭一種免許（情報）取得を希望する学生は、下記表○印の科目および免許法に必要な単位数を必ず修得すること。

▼教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学での開設授業科目			
科目区分	法定単位	授業科目	単位	必選の別	備考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	選	○
体育	2	健康の科学	2	選	○
外国語コミュニケーション	2	コミュニケーション英語A	1	必	○
		コミュニケーション英語B	1	選必	○
情報機器の操作	2	プログラミングI及び演習	3	必	○

▼教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等					左記に対応する本学での開設授業科目				
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項		法定単位	授 業 科 目	単位	開講専攻		備考
							EE	EV	
第2欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会(職業に関する内容を含む)・情報倫理	24	情報社会及び情報倫理	2	KK,KX		○
			コンピュータ・情報処理		技術者倫理	2	選	選	○
					情報と職業	2	KK,KX		
					プログラミングⅡ及び演習	3	必	必	○
					プログラミングⅢ	2		選	○
					デジタル回路Ⅰ	2	必	必	
					デジタル回路Ⅱ	2	選	選	
					電気電子計測	2	選	選	
					制御工学	2	選	選	
					計算機工学	2		選	○
					情報伝送工学	2		選	
			情報システム		データベース及び演習	3	KK		か○と 1科 ちら
					電子情報工学実験3	2		必	
					組込システム	2		選	
					情報システム概論	2	KK,KX		
			情報通信ネットワーク		通信システムⅠ	2		選	○
					通信システムⅡ	2		選	
					通信ネットワーク	2		選	○
					電波・通信法規	2		選	
					電子情報工学実験5	2		必	
			マルチメディア表現・マルチメディア技術		画像音響工学	2		選	
					電子情報工学実験6	2		必	○
					情報科教育法Ⅰ	2	必	必	※
			各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)				情報科教育法Ⅱ	2	必

- (注) 1. 自分の専攻にない科目は、同学科内にある他専攻の授業を履修すること。
 2. 自分の学科にない科目は、情報科学科(KK又はKX)の授業を履修すること。
 3. KK,KXで開講されている科目はWEBで履修登録できないので、登録期間中に教務グループ窓口で登録すること。
 4. 第2欄の※印の科目は、進級要件及び卒業要件の単位には含めない。また、GPA算出対象外とする。

▼教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目					
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位	授業科目	単位数	必選の別	履修年次		履修条件
							前	後	
第3欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原論	2	必	1		
		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	2	必	2		
				教職特論Ⅰ	2	選	2		
				教職特論Ⅱ	2	選		2	
				教職特論Ⅲ	2	選	3		
				教職特論Ⅳ	2	選		3	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度論	2	必		1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	必		1	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援論	2	必	2					
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	必		2				
第4欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	8	特別活動論(総合的な探究の時間の指導法)	2	必		2	
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術	2	必	3		教育原論、教育心理学を修得していること
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		情報機器活用の理論と方法	1	必		3	
		生徒指導の理論及び方法		生徒指導論(進路指導を含む)	2	必	4		
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		教育相談	2	必		3	
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法							
第5欄	教育実践に関する科目	教育実習 学校体験活動	3	教育実習演習	1	必	4		情報科教育法Ⅰ・Ⅱ、教育の方法と技術を修得していること
				教育実習	2	必	4		注3
		教職実践演習	2	教職実践演習(高)	2	必		4	原則、教育実習をすすませていること
第6欄	大学が独自に設定する科目		12	※本学では開設していません。教科に関する専門的事項に関する科目または、第3欄～5欄の科目の単位数を充てることができます。					
最低修得単位数			59						

(注) 1. 第3欄～第5欄の科目の単位は進級要件及び卒業要件の単位に含めない。また、GPAの算出対象外とする。

2. 移行時期において、開講時期・方法の変更及び内容の実質同じ科目の読替を行うことがある。

3. 教育実習の申し込み(3年前期)は教育の方法と技術を履修していることとする。

教職

教職課程

応用化学科（高等学校教諭一種免許・理科）

高等学校教諭一種免許（理科）取得を希望する学生は、下記表○印の科目および免許法に必要な単位数を必ず修得すること。

▼教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学での開設授業科目			
科目区分	法定単位	授業科目	単位数	必選の別	備考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	選	○
体育	2	健康の科学	2	選	○
外国語コミュニケーション	2	コミュニケーションイングリッシュA	1	必	○
		コミュニケーションイングリッシュB	1	選必	○
情報機器の操作	2	ソフトウェア	2	必	○

▼教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目											
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位	授 業 科 目		単位	開講専攻		備考	授 業 科 目		単位	開講専攻		備考
							CC	CB					CC	CB	
第2欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	化学	基礎化学I	2	必	必	○	物理学	物理学(力学)	2	必	必	○
					基礎化学II	2	必	必	○		物理学(電磁気学)	2	選	選	
					無機化学I	2	必	必			物理学(波動)	2	選	選	
					無機化学II	2	必	必			物理化学I	2	必	必	
					有機化学I	2	必	必			物理化学II	2	必	必	
					有機化学II	2	必	必			物理化学演習	1	選	選	
					有機化学III	2	選	選		生物	生物有機化学	2	選	選	
					分析化学I	2	必	必			生物化学概論	2	選		
					分析化学II	2	選	選			分子生物学	2		必	
					化学計測学	2	必	必			生物学	2	選	選	○
					高分子化学I	2	必	選			生物化学I	2		必	
					高分子化学II	2	選	選			生物化学II	2		選	
					超分子化学概論	2	選	選		地学	地学概論	2	選	選	○※
					固体構造化学	2	選	選		物理学実験・化学実験・生物化学実験・地学実験	物理実験	2	必	必	○
					化学工学	2	選	選			環境・分析化学実験	2	必	必	○
					有機構造解析	2	選	選			応用材料化学実験I	2	必		1科目選択必修
					環境化学	2	選	選			バイオ環境化学実験I	2		必	
					環境分析化学	2	選	選			応用材料化学実験II	2	必		1科目選択必修
					固体反応化学	2	選				バイオ環境化学実験II	2		必	
					機能性セラミックス化学	2	選								
					無機材料化学	2	選								
					電気化学	2	選								
					エネルギー材料化学	2	選								
					高分子材料物性	2	選			各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)	理科教育法I	2	必	必	※
					機能性高分子化学	2	選				理科教育法II	2	必	必	※

(注) 1. 自分の専攻にない科目は、同学科内にある他専攻の授業を履修すること。
2. 第2欄の※印の科目は、進級要件及び卒業要件の単位には含めない。また、GPA算出対象外とする。

▼教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目					
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位	授業科目	単位数	必選の別	履修年次 前 後		履修条件
第3欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10 (4)	教育原論	2	必	1		
		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	2	必	2		
				教職特論Ⅰ	2	選	2		
				教職特論Ⅱ	2	選		2	
				教職特論Ⅲ	2	選	3		
				教職特論Ⅳ	2	選		3	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度論	2	必		1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	必		1	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援論	2	必	2					
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	必		2				
第4欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	8 (5)	特別活動論(総合的な探究の時間の指導法)	2	必		2	
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術	2	必	3		教育原論、教育心理学を修得していること
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		情報機器活用の理論と方法	1	必		3	
		生徒指導の理論及び方法		生徒指導論 (進路指導を含む)	2	必	4		
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談	2	必		3	
第5欄	教育実践に関する科目	教育実習 学校体験活動	3 (2)	教育実習演習	1	必	4		理科教育法Ⅰ・Ⅱ、教育の方法と技術を修得していること
				教育実習	2	必	4		注3
		教職実践演習	2	教職実践演習(高)	2	必		4	原則、教育実習をすませていること
第6欄	大学が独自に設定する科目		12	※本学では開設していません。教科に関する専門的事項に関する科目または、第3欄～5欄の科目の単位数を充てることができます。					
最低修得単位数			59						

(注) 1. 第3欄～第5欄の科目の単位は進級要件及び卒業要件の単位に含めない。また、GPAの算出対象外とする。

2. 移行時期において、開講時期・方法の変更及び内容の実質同じ科目の読替を行うことがある。

3. 教育実習の申し込み(3年前期)は教育の方法と技術を履修していることとする。

教職

教職課程

機械学科（高等学校教諭一種免許・工業）

高等学校教諭一種免許（工業）取得を希望する学生は、下記表○印の科目および免許法に必要な単位数を必ず修得すること。

▼教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学での開設授業科目			
科目区分	法定単位	授業科目	単位数	必選の別	備考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	選	○
体育	2	健康の科学	2	選	○
外国語コミュニケーション	2	コミュニケーション英語A	1	必	○
		コミュニケーション英語B	1	選必	○
情報機器の操作	2	コンピュータリテラシ	2	選	○

▼教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目											
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位	授 業 科 目		単位	開講専攻		備考	授 業 科 目		単位	開講専攻		備考
							MM	MP				MM	MP		
第2欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	職業指導	職業指導(工業)	2	選	選	○	工業の関係科目	応用材料力学	2	選	選	
				技術者倫理	2	選	選		機械要素設計		2	選	選		
				機械工学セミナー	1	選			電気・電子工学		2	選	選		
				機械創造セミナー	1		選		制御工学応用		2	選	選		
				機械基礎数学	2	必	必		計測工学		2	選	選		
				機械基礎力学	2	必	必		伝熱工学		2	選	選		
				材料力学Ⅰ	2	必	必		センサ・アクチュエータ工学		2	選	選		
				材料力学Ⅱ	2	必	必		数値解析法		2	選	選		
				機械力学	2	必	必		先端生産工学		2	選	選		
				機械力学応用	2	必	必		生体工学		2	選			
				流体力学Ⅰ	2	必	必		自動車工学概論		2	選	選		
				流体力学Ⅱ	2	必	必		航空宇宙工学概論		2	選	選		
				熱力学Ⅰ	2	必	必	○	ロボット工学概論		2	選	選		
				熱力学Ⅱ	2	必	必		表面工学		2	選			
				機械材料	2	必	必		機械設計製図		2	必	必		
				プログラミング	2	必	必	○	空気力学		2	選	選		
				機械設計工学	2	必	必	○	エネルギー変換工学		2	選			
				機構学	2	必	必		機能材料工学		2	選			
				制御工学	2	必	必		自動車構造力学		2		選		
				生産加工工学	2	必	必		カーエレクトロニクス		2		選		
				機械製図Ⅰ	2	必	必	○	先進自動車論		2		選		
				機械製図Ⅱ	2	必	必		航空構造力学		2		選		
				統合設計製作Ⅰ	2	必	必		ロケット工学		2		選		
				統合設計製作Ⅱ	2	必	必		ロボット制御		2		選		
				統合設計製作Ⅲ	2	必	必		ヒューマンロボットインタラクション		2		選		
				機械工学実験Ⅰ	2	必	必		マイコンプログラミング		2		選		
				機械工学実験Ⅱ	2	必	必		知的情報処理		2	選	選		
				機械デザインセミナー	1	選			各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)	工業科教育法Ⅰ	2	必	必	※	
				創造リサーチセミナー	1		選			工業科教育法Ⅱ	2	必	必	※	
				創造デザインセミナー	1		選								
	材料工学	2	選	選											

(注) 1. 自分の専攻にない科目は、同学科内にある他専攻の授業を履修すること。
2. 第2欄の※印の科目は、進級要件及び卒業要件の単位には含めない。また、GPA算出対象外とする。

▼教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目					
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位	授業科目	単位数	必修の別	履修年次 前 後		履修条件
第3欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10 (4)	教育原論	2	必	1		
		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	2	必	2		
				教職特論Ⅰ	2	選	2		
				教職特論Ⅱ	2	選		2	
				教職特論Ⅲ	2	選	3		
				教職特論Ⅳ	2	選		3	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度論	2	必		1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	必		1	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援論	2	必	2					
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	必		2				
第4欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	8 (5)	特別活動論(総合的な探究の時間の指導法)	2	必		2	
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術	2	必	3		教育原論、教育心理学を修得していること
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		情報機器活用の理論と方法	1	必		3	
		生徒指導の理論及び方法		生徒指導論 (進路指導を含む)	2	必	4		
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談	2	必		3	
第5欄	教育実践に関する科目	教育実習 学校体験活動	3 (2)	教育実習演習	1	必	4		工業科教育法Ⅰ・Ⅱ、教育の方法と技術を修得していること
				教育実習	2	必	4		注3
		教職実践演習	2	教職実践演習(高)	2	必		4	原則、教育実習をすすめていること
第6欄	大学が独自に設定する科目		12	※本学では開設していません。教科に関する専門的事項に関する科目または、第3欄～5欄の科目の単位数を充てることができます。					
最低修得単位数			59						

(注) 1. 第3欄～第5欄の科目の単位は進級要件及び卒業要件の単位に含めない。また、GPAの算出対象外とする。

2. 移行時期において、開講時期・方法の変更及び内容の実質同じ科目の読替を行うことがある。

3. 教育実習の申し込み(3年前期)は教育の方法と技術を履修していることとする。

教職

教職課程

社会基盤学科（高等学校教諭一種免許・工業）

高等学校教諭一種免許（工業）取得を希望する学生は、下記表○印の科目および免許法に必要な単位数を必ず修得すること。

▼教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学での開設授業科目			
科目区分	法定単位	授業科目	単位数	必選の別	備考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	選	○
体育	2	健康の科学	2	選	○
外国語コミュニケーション	2	コミュニケーションイングリッシュA	1	必	○
		コミュニケーションイングリッシュB	1	選必	○
情報機器の操作	2	情報処理演習	2	選	○

▼教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目											
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位	授 業 科 目		単位	開講専攻		備考	授 業 科 目		単位	開講専攻		備考
							DD	DS					DD	DS	
第2欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	指職 職業	職業指導(工業)	2	選	選	○	工業の 関係科目	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	2	選	選	
					社会基盤セミナー1	1	必	必	○		鋼構造学	2	選		
					構造実験	1	必	必			水文学	2	選	選	
					水理実験	1	必	必			上下水道	2		選	
					土質実験	1	必	必	○		ランドスケープデザイン	2		選	
					材料実験	1	必	必	○		水理学Ⅰ及び演習	3	必	必	
					環境実習	1	必	必			水理学Ⅱ及び演習	3	必	必	
					防災実習	1	必	必			土質力学Ⅰ及び演習	3	必	必	
					生態工学	2		選			土質力学Ⅱ及び演習	3	必	必	
					環境アセスメント	2		選			土質力学Ⅲ及び演習	3	必	必	
					測量学	2	必	必			鉄筋コンクリート構造Ⅰ及び演習	3	必	必	
					測量実習	2	必	必			地盤工学	2	選	選	
					都市計画	2		選			河川工学	2	選	選	
					防災工学	2	必	必			社会基礎計画学	2	必	必	
					設計製図	2	必	必	○		交通計画	2	選	選	
					材料力学	2	必	必			橋梁工学	2	選		
					コンクリート工学Ⅰ	2	必	必			土木施工	2	選	選	
					コンクリート工学Ⅱ	2	選			各教科の指導法(情報通 信技術の活用を含む)	工業科教育法Ⅰ	2	必	必	※
					構造力学Ⅰ及び演習	3	必	必			工業科教育法Ⅱ	2	必	必	※
					構造力学Ⅱ及び演習	3	必	必							
					構造力学Ⅲ及び演習	3	必	必							

(注) 1. 自分の専攻にない科目は、同学科内にある他専攻の授業を履修すること。
2. 第2欄の※印の科目は、進級要件及び卒業要件の単位には含めない。また、GPA算出対象外とする。

▼教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目					
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位	授業科目	単位数	必選の別	履修年次 前 後		履修条件
第3欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10 (4)	教育原論	2	必	1		
		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	2	必	2		
				教職特論Ⅰ	2	選	2		
				教職特論Ⅱ	2	選		2	
				教職特論Ⅲ	2	選	3		
				教職特論Ⅳ	2	選		3	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度論	2	必		1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	必		1	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援論	2	必	2					
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	必		2				
第4欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	8 (5)	特別活動論(総合的な探究の時間の指導法)	2	必		2	
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術	2	必	3		教育原論、教育心理学を修得していること
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		情報機器活用の理論と方法	1	必		3	
		生徒指導の理論及び方法		生徒指導論(進路指導を含む)	2	必	4		
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談	2	必		3	
第5欄	教育実践に関する科目	教育実習 学校体験活動	3 (2)	教育実習演習	1	必	4		工業科教育法Ⅰ・Ⅱ、教育の方法と技術を修得していること
				教育実習	2	必	4		注3
		教職実践演習	2	教職実践演習(高)	2	必		4	原則、教育実習をすませていること
第6欄	大学が独自に設定する科目		12	※本学では開設していません。教科に関する専門的事項に関する科目または、第3欄～5欄の科目の単位数を充てることができます。					
最低修得単位数			59						

(注) 1. 第3欄～第5欄の科目の単位は進級要件及び卒業要件の単位に含めない。また、GPAの算出対象外とする。

2. 移行時期において、開講時期・方法の変更及び内容の実質同じ科目の読替を行うことがある。

3. 教育実習の申し込み(3年前期)は教育の方法と技術を履修していることとする。

教職

教職課程

建築学科（高等学校教諭一種免許・工業）

高等学校教諭一種免許（工業）取得を希望する学生は、下記表○印の科目および免許法に必要な単位数を必ず修得すること。

▼教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学での開設授業科目			
科目区分	法定単位	授業科目	単位数	必選の別	備考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	選	○
体育	2	健康の科学	2	選	○
外国語コミュニケーション	2	コミュニケーションイングリッシュA	1	必	○
		コミュニケーションイングリッシュB	1	選必	○
情報機器の操作	2	情報処理演習	2	選	○

▼教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目												
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位	授 業 科 目				備考	授 業 科 目				備考			
				単位	開講専攻		備考		単位	開講専攻		備考				
				指 導 専 業	職業指導(工業)	2	選	選	○		建築設備B	2	選		○	
第2欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	工業の 関係科目	建築セミナー	1	必	必	○	工業の 関係科目	建築設備設計I	2	選必			
					情報リテラシ	1	選	選	○		建築設備設計II	2	選			
					建築概説	2	必	必			住居設備	2		必		
					建築CAD	2	選	選			住環境設計	2		選必		
					建築CAD応用	2	選	選			建築構造力学I及び演習	3	必	必	○	
					建築図学	2	必	必	○		建築構造力学II及び演習	3	必	必	○	
					設計製図I	2	必	必	○		建築構造解析及び演習	3	選			
					設計製図II	3	必	必	○		建築構造設計A	2	選必	選必		
					設計製図III	3	必	必	○		建築構造設計B	2	選			
					建築・地域デザイン	2	選必	選必			建築振動学	2	選			
					建築空間設計	2	選				建築基礎構造	2	選			
					地域デザイン	2		選			鉄筋コンクリート構造	2	必	必		
					建築計画学	2	必	必	○		鉄骨構造	2	必	選		
					住居計画	2	必	必	○		木構造	2	選	必		
					施設計画I	2	必	必	○		建築構造材料	2	必	必	○	
					施設計画II	2	選				建築一般材料	2	選			
					都市計画I	2	必	必	○		インテリア材料	2		選		
					都市・まちづくり	2		選	○		建築施工I	2	必	必		
					生活デザイン	2		選			建築施工II	2	選			
					建築ディテール	2		選			住宅生産	2		選		
					インテリアデザイン	2		必			建築工学実験	2	必	必	○	
					ランドスケープデザイン	2	選	選			建築法規及び行政	2	必	必	○	
					日本建築史I	2	必	必	○		ファシリティマネジメント	2	選	選		
					日本建築史II	2	選	選	○		測量学	2	選	選		
					西洋建築史	2	必	必	○		測量実習	2	選	選		
					近代建築史	2	選	選			食料の 偏法の 情報(選)	工業科教育法I	2	必	必	※
					建築環境I	2	必	必				工業科教育法II	2	必	必	※
					建築環境II	2		選	○							
					建築設備A	2	必									

(注) 1. 自分の専攻にない科目は、同学科内にある他専攻の授業を履修すること。
2. 第2欄の※印の科目は、進級要件及び卒業要件の単位には含めない。また、GPA算出対象外とする。

▼教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目					
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位	授業科目	単位数	必選の別	履修年次		履修条件
							前	後	
第3欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10 (4)	教育原論	2	必	1		
		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	2	必	2		
				教職特論Ⅰ	2	選	2		
				教職特論Ⅱ	2	選		2	
				教職特論Ⅲ	2	選	3		
				教職特論Ⅳ	2	選		3	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度論	2	必		1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	必		1	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援論	2	必	2					
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	必		2				
第4欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	8 (5)	特別活動論(総合的な探究の時間の指導法)	2	必		2	
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術	2	必	3		教育原論、教育心理学を修得していること
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		情報機器活用の理論と方法	1	必		3	
		生徒指導の理論及び方法		生徒指導論 (進路指導を含む)	2	必	4		
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		教育相談	2	必		3	
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法							
第5欄	教育実践に関する科目	教育実習 学校体験活動	3 (2)	教育実習演習	1	必	4		工業科教育法Ⅰ・Ⅱ、教育の方法と技術を修得していること
				教育実習	2	必	4		注3
		教職実践演習	2	教職実践演習(高)	2	必		4	原則、教育実習をすませていること
第6欄	大学が独自に設定する科目		12	※本学では開設していません。教科に関する専門的事項に関する科目または、第3欄～5欄の科目の単位数を充てることができます。					
最低修得単位数			59						

(注) 1. 第3欄～第5欄の科目の単位は進級要件及び卒業要件の単位に含めない。また、GPAの算出対象外とする。

2. 移行時期において、開講時期・方法の変更及び内容の実質同じ科目の読替を行うことがある。

3. 教育実習の申し込み(3年前期)は教育の方法と技術を履修していることとする。

教職

教職課程

経営学科（高等学校教諭一種免許・情報）

高等学校教諭一種免許（情報）取得を希望する学生は、下記表○印の科目および免許法に必要な単位数を必ず修得すること。

▼教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学での開設授業科目			
科目区分	法定単位	授業科目	単位数	必選の別	備考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	選	○
体育	2	健康の科学	2	選	○
外国語コミュニケーション	2	コミュニケーション英語A	1	必	○
		コミュニケーション英語B	1	選必	○
情報機器の操作	2	コンピュータ概論I	2	必	○

▼教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等					左記に対応する本学での開設授業科目						
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項		法定単位	授 業 科 目	単位	開講専攻		備考		
							HT	HH			
第2欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会(職業に関する内容を含む。) ・情報倫理	24	情報社会及び情報倫理	2	選	選	○		
			コンピュータ・ 情報処理		情報と職業	2	選	選	○		
					インターネットビジネス論	2	選				
					経営データ解析I	2	選必	選			
					経営データ解析II	2	選必	選			
					コンピュータ概論II	2	選	選	○		
					プログラミング及び演習	3	必	選	○		
					知能情報処理	2	選	選	○		
			情報システム		マーケティングシミュレーション及び演習I	3		選	○どちらか1科目		
					マーケティング戦略論及び演習	3	選				
					マーケティングシミュレーション及び演習II	3		選			
					経営情報システム論	2	必	選	○		
					ビジネス・シミュレーション及び演習	3	選	選	○		
					生産管理システム	2	選				
					ロジスティクス論	2	選	選	○		
					経営情報セキュリティ論	2	選		○		
					Webアプリケーションプログラミングとクラウドシステム	2	選				
					インターネット技術及び演習	3	選	選	○		
			情報通信ネット ワーク		情報技術及び演習I	3	必	選	○		
					情報技術及び演習II	3	選	選			
					マルチメディア	2	選	選	○		
					各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		情報科教育法I	2	必	必	※
					情報科教育法II	2	必	必	※		

(注) 1. 自分の専攻にない科目は、同学科内にある他専攻の授業を履修すること。
2. 第2欄の※印の科目は、進級要件及び卒業要件の単位には含めない。また、GPA算出対象外とする。

▼教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目					
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位	授業科目	単位数	必選の別	履修年次 前 後		履修条件
第3欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原論	2	必	1		
		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	2	必	2		
				教職特論Ⅰ	2	選	2		
				教職特論Ⅱ	2	選		2	
				教職特論Ⅲ	2	選	3		
				教職特論Ⅳ	2	選		3	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度論	2	必		1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	必		1	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援論	2	必	2					
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	必		2				
第4欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	8	特別活動論(総合的な探究の時間の指導法)	2	必		2	
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術	2	必	3		教育原論、教育心理学を修得していること
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		情報機器活用の理論と方法	1	必		3	
		生徒指導の理論及び方法		生徒指導論 (進路指導を含む)	2	必	4		
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		教育相談	2	必		3	
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法							
第5欄	教育実践に関する科目	教育実習 学校体験活動	3	教育実習演習	1	必	4		情報科教育法Ⅰ・Ⅱ、教育の方法と技術を修得していること
				教育実習	2	必	4		注3
		教職実践演習	2	教職実践演習(高)	2	必		4	原則、教育実習をすすめていること
第6欄	大学が独自に設定する科目		12	※本学では開設していません。教科に関する専門的事項に関する科目または、第3欄～5欄の科目の単位数を充てることができます。					
最低修得単位数			59						

- (注) 1. 第3欄～第5欄の科目の単位は進級要件及び卒業要件の単位に含めない。また、GPAの算出対象外とする。
 2. 移行時期において、開講時期・方法の変更及び内容の実質同じ科目の読替を行うことがある。
 3. 教育実習の申し込み(3年前期)は教育の方法と技術を履修していることとする。

教職

教職課程

経営学科（高等学校教諭一種免許・商業）

高等学校教諭一種免許（商業）取得を希望する学生は、下記表○印の科目および免許法に必要な単位数を必ず修得すること。

▼教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学での開設授業科目			
科目区分	法定単位	授業科目	単位数	必選の別	備考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	選	○
体育	2	健康の科学	2	選	○
外国語コミュニケーション	2	コミュニケーション英語A	1	必	○
		コミュニケーション英語B	1	選必	○
情報機器の操作	2	コンピュータ概論I	2	必	○

▼教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目							
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項		法定単位	授 業 科 目	単位	開講専攻		備考		
			職業指導				HT	HH			
第2欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	商業の関係科目	24	職業指導（商業）	2	選	選	○		
					経済基礎知識	2	選	選			
					経営学概論Ⅰ	2	必	必	○		
					経営学概論Ⅱ	2	選	選			
					ビジネス英語Ⅰ	2	必	必	○		
					ビジネス英語Ⅱ	2	選	選			
					国際ビジネス論	2	選	選	○		
					国際マーケティング論	2	選	選			
					マーケティング論	2	選	選	○		
					経営統計学	2	選必	選			
					経営戦略論	2	必	選	○		
					人的資源管理論	2	選				
					システムマネジメント論	2	選	選			
					ベンチャービジネス論	2	選				
					生産管理論	2	必	選	○		
					品質管理	2	選				
					オペレーションズ・リサーチ	2	選	選	○		
					産業法規	2	選	選			
					簿記Ⅰ	2	必	選	○		
					簿記Ⅱ	2	選				
					会計学基礎論	2	必	選	○		
					原価計算論Ⅰ	2	必				
					ファイナンス	2	選	必	○		
					経営分析論	2	選	選			
					スポーツマネジメント論	2		選			
					スポーツ産業論	2		選			
					スポーツマーケティング	2		選			
					スポーツクラブ経営論	2		選			
					生涯スポーツ経営論	2		選			
					スポーツ用品論	2		選			
					産業マネジメント	2		選			
		各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）					商業科教育法Ⅰ	2	必	必	※
							商業科教育法Ⅱ	2	必	必	※

(注) 1. 自分の専攻にない科目は、同学科内にある他専攻の授業を履修すること。
2. 第2欄の※印の科目は、進級要件及び卒業要件の単位には含まない。また、GPA算出対象外とする。

▼教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目					
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位	授業科目	単位数	必選の別	履修年次 前 後		履修条件
第3欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10 (4)	教育原論	2	必	1		
		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	2	必	2		
				教職特論Ⅰ	2	選	2		
				教職特論Ⅱ	2	選		2	
				教職特論Ⅲ	2	選	3		
				教職特論Ⅳ	2	選		3	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度論	2	必		1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	必		1	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援論	2	必	2					
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	必		2				
第4欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	8 (5)	特別活動論(総合的な探究の時間の指導法)	2	必		2	
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術	2	必	3		教育原論、教育心理学を修得していること
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		情報機器活用の理論と方法	1	必		3	
		生徒指導の理論及び方法		生徒指導論 (進路指導を含む)	2	必	4		
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談	2	必		3	
第5欄	教育実践に関する科目	教育実習 学校体験活動	3 (2)	教育実習演習	1	必	4		商業科教育法Ⅰ・Ⅱ、教育の方法と技術を修得していること
				教育実習	2	必	4		注3
		教職実践演習	2	教職実践演習(高)	2	必		4	原則、教育実習をすすめていること
第6欄	大学が独自に設定する科目		12	※本学では開設していません。教科に関する専門的事項に関する科目または、第3欄～5欄の科目の単位数を充てることができます。					
最低修得単位数			59						

(注) 1. 第3欄～第5欄の科目の単位は進級要件及び卒業要件の単位に含めない。また、GPAの算出対象外とする。

2. 移行時期において、開講時期・方法の変更及び内容の実質同じ科目の読替を行うことがある。

3. 教育実習の申し込み(3年前期)は教育の方法と技術を履修していることとする。

教職

教職課程

情報科学科（高等学校教諭一種免許・情報）

高等学校教諭一種免許（情報）取得を希望する学生は、下記表○印の科目および免許法に必要な単位数を必ず修得すること。

▼教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学での開設授業科目			
科目区分	法定単位	授 業 科 目	単位数	必修の別	備 考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	選	○
体育	2	健康の科学	2	選	○
外国語コミュニケーション	2	コミュニケーション英語A	1	必	○
		コミュニケーション英語B	1	選必	○
情報機器の操作	2	コンピュータリテラシ	2	必	○

▼教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目					
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項		法定単位	授 業 科 目	単位	開講専攻		備考
							KK	KX	
第2欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会(職業に関する内容を含む。)・情報倫理	24	情報社会及び情報倫理	2	必	必	○
					情報と職業	2	選	選	○
					インターネットビジネス論	2		選	
			コンピュータ・情報処理		コンピュータ概論	2	選	選	○
					オペレーティングシステム	2	選	選	
					プログラミング及び演習Ⅰ	3	必	必	○
					プログラミング及び演習Ⅱ	3	選	選	
					アルゴリズムとデータ構造	2	選	選	○
					コンピュータアーキテクチャⅠ	2	選		
			情報システム		データベース及び演習	3	選必		○
					情報システム概論	2	選	選	○
					Webプログラミング及び演習	3	選必	必	○
					組み込みシステム概論	2	必		
					組み込みプログラミング及び演習	3	選必		
			情報通信ネットワーク		コンピュータネットワーク	2	必	選	○
					モバイルネットワーク	2	選	選	
					ネットワーク及び演習	3	選必	選	○
					情報セキュリティ	2	選	選	
			マルチメディア表現・マルチメディア技術		CGプログラミング及び演習	3		必	○
					マルチメディア情報処理及び演習Ⅰ	3		選	
					Webデザイン及び演習	3		必	
		各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)				情報科教育法Ⅰ	2	必	必
				情報科教育法Ⅱ	2	必	必	※	

(注) 1. 自分の専攻にない科目は、同学科内にある他専攻の授業を履修すること。
2. 第2欄の※印の科目は、進級要件及び卒業要件の単位には含めない。また、GPA算出対象外とする。

▼教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等				左記に対応する本学での開設授業科目					
第1欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位	授業科目	単位数	必選の別	履修年次 前 後		履修条件
第3欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原論	2	必	1		
		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	2	必	2		
				教職特論Ⅰ	2	選	2		
				教職特論Ⅱ	2	選		2	
				教職特論Ⅲ	2	選	3		
				教職特論Ⅳ	2	選		3	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度論	2	必		1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	必		1	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援論	2	必	2					
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	必		2				
第4欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	8	特別活動論(総合的な探究の時間の指導法)	2	必		2	
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術	2	必	3		教育原論、教育心理学を修得していること
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		情報機器活用の理論と方法	1	必		3	
		生徒指導の理論及び方法		生徒指導論 (進路指導を含む)	2	必	4		
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		教育相談	2	必		3	
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法							
第5欄	教育実践に関する科目	教育実習 学校体験活動	3	教育実習演習	1	必	4		情報科教育法Ⅰ・Ⅱ、教育の方法と技術を修得していること
				教育実習	2	必	4		注3
		教職実践演習	2	教職実践演習(高)	2	必		4	原則、教育実習をすすませていること
第6欄	大学が独自に設定する科目		12	※本学では開設していません。教科に関する専門的事項に関する科目または、第3欄～5欄の科目の単位数を充てることができます。					
最低修得単位数			59						

(注) 1. 第3欄～第5欄の科目の単位は進級要件及び卒業要件の単位に含めない。また、GPAの算出対象外とする。

2. 移行時期において、開講時期・方法の変更及び内容の実質同じ科目の読替を行うことがある。

3. 教育実習の申し込み(3年前期)は教育の方法と技術を履修していることとする。

教職

教職課程

学 生 生 活



1. 学籍
2. 学費
3. 奨学金・貸費金・助成制度等
4. 学生生活上の各手続
5. キャンパスルール・マナー、日常生活上の諸注意
6. クラブ活動
7. ボランティア活動
8. 地域連携・社会貢献活動
9. 留学・国際交流活動
10. 各種保険等
11. 健康管理・学生相談等
12. 施設・設備
13. 証明書、届出書、願い書

1. 学籍

(1) 修業年限・在学年限・休学年限

	標準修業年限	在学年限	休学年限
学部	4年	8年	3年
大学院・前期課程	2年	4年	2年
大学院・後期課程	3年	6年	3年

※休学期間は在学年数に算入しません。

※再入学、転入学した学生については、すでに在学した年数を在学年限から差し引きます。

※編入学した学生、転学部・転学科・転専攻した学生については、別途定めます。

(2) 休学・復学・退学等

休学	疾病その他やむを得ない事情の為に2ヶ月以上修学することができない時は、願い出て休学することができます。	
	休学期間	原則、前期(4月1日～9月30日)、後期(10月1日～3月31日)の学期単位です。 休学期間は1年以内とします。 特別の理由がある場合に限り、引き続きさらに1年間の休学が許可されることがあります。また、学期途中の休学が許可されることがあります。
	手続期限	前期を休学する場合…2月28日まで、後期を休学する場合…8月31日まで
	手続方法	「休学願」の提出(事由が疾病等の場合は医師の診断書を添付) 在籍料30,000円(1学期)の納入
復学	休学事由が終わった時は、願い出て復学することができます。	
	復学日	前期(4月1日)、後期(10月1日)の学期単位です。 特別の理由がある場合に限り、学期途中の復学が許可されることがあります。
	手続期限	前期から復学する場合…2月28日まで、後期から復学する場合…8月31日まで
	手続方法	「復学願」の提出
退学	疾病その他やむを得ない事情の為に学業を続ける見込みがないときは、願い出て退学することができます。	
	退学日	前期(9月30日)、後期(3月31日)の学期単位です。 授業料等が納入されている学期の末日とします。
	手続期限	前期をもって退学する場合…8月31日まで、後期をもって退学する場合…2月28日まで
	手続方法	「退学願」の提出、学生証の返却
除籍	退学の月の属する学期の授業料等又は在籍料は納めなくてはなりません。	
	次に該当する者は除籍とします。 ①在学年限におよんでもなお所定の履修を終わらない場合 ②休学期間が終わって復学を願い出ない場合 ③授業料もしくは在籍料の納付を怠り督促してもなお納付しない場合	
	退学及び除籍になった者が再入学を願い出たときに、収容力のある場合に限り、考査のうえ入学を許可するものです。但し、懲戒により退学処分となった者及び在学年限を超えて除籍となった者を除きます。	
	再入学日	前期(4月1日)、後期(10月1日)の学期単位です。
再入学	手続方法	別途、再入学出願要項を八草キャンパス教務グループから取り寄せてください。 出願書類の他に検定料35,000円の納入が必要です。

(3) 転学部・転学科・転専攻

学部・学科・専攻の変更は、希望先が受入れ可能であり、かつ出願資格・要件を満たしている場合に、考査のうえ、認めることがあります。詳しくは八草キャンパス教務グループへ問合せください。

(4) 他大学への転学

他大学への転学をしようとするときは、大学に許可を受けなければなりません。詳しくは八草キャンパス学生サービスグループへ問合せください。

(5) 入学前既修得単位の認定

本学の第1年次に入学した者のうち、他の大学又は短期大学を卒業又は中途退学した者は、審議の上、既に履修した授業科目を合計30単位まで本学の単位として認めることがあります。

手続期限…1年次前期期間4月下旬まで(入学初年度のみ)

詳しくは八草キャンパス教務グループまで問い合わせてください。

2. 学費

八草キャンパス経理会計課

(1) 授業料等学納金 内訳

2025年度入学生

		初年度		2年度		3年度		4年度	
		入学手続時	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
工 学 部	学納金	入学金	250,000	—	—	—	—	—	—
	学納金	授業料	440,000	440,000	450,000	450,000	460,000	470,000	470,000
		教育研究充実費	230,000	230,000	235,000	235,000	240,000	245,000	245,000
		学 友 会 費	5,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	委託徴収会費等	学生教育研究災害傷害保険料	2,650	—	—	—	—	—	—
		学研災付帯賠償責任保険料	1,360	—	—	—	—	—	—
		後 援 会 費	40,000	—	—	—	—	—	—
		同 窓 会 費	—	—	—	—	—	—	50,000
	合計		969,010	670,000	687,000	687,000	702,000	717,000	767,000
	学納金	入学金	250,000	—	—	—	—	—	—
経 営 学 部	学納金	授業料	360,000	360,000	365,000	365,000	370,000	375,000	375,000
		教育研究充実費	205,000	205,000	210,000	210,000	215,000	220,000	220,000
		学 友 会 費	5,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	委託徴収会費等	学生教育研究災害傷害保険料	2,650	—	—	—	—	—	—
		学研災付帯賠償責任保険料	1,360	—	—	—	—	—	—
		後 援 会 費	40,000	—	—	—	—	—	—
		ノートパソコン購入費(自己負担金)	28,000	—	—	—	—	—	—
		ノートパソコン設定費・保守費	32,000	—	—	—	—	—	—
		同 窓 会 費	—	—	—	—	—	—	50,000
	合計		924,010	565,000	577,000	577,000	587,000	597,000	647,000
情 報 科 学 部	学納金	入学金	250,000	—	—	—	—	—	—
		授業料	440,000	440,000	450,000	450,000	460,000	470,000	470,000
		教育研究充実費	230,000	230,000	235,000	235,000	240,000	245,000	245,000
	委託徴収会費等	学 友 会 費	5,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
		学生教育研究災害傷害保険料	2,650	—	—	—	—	—	—
		学研災付帯賠償責任保険料	1,360	—	—	—	—	—	—
		後援会費	40,000	—	—	—	—	—	—
		ノートパソコン購入費(自己負担金)	28,000	—	—	—	—	—	—
		ノートパソコン設定費・保守費	32,000	—	—	—	—	—	—
		同窓会費	—	—	—	—	—	—	50,000
	合計		1,029,010	670,000	687,000	687,000	702,000	717,000	767,000

※学友会 入会金1,000円と年会費4,000円を入学手続時に納入。2年次以降は、前期と後期に各々会費2,000円を納入。

※学生教育研究災害傷害保険 4ヶ年分2,650円を入学手続時に納入。

※学研災付帯賠償責任保険 4ヶ年分1,360円を入学手続時に納入。

※愛知工業大学後援会(保護者の会) 会費40,000円(入会金、4ヶ年分会費を含む)を入学手続時に納入。

※愛知工業大学同窓会 入会金10,000円と終身会費40,000円を4年次後期学費納入時に納入。

※経営学部及び情報科学部は、大学からの購入補助を除く自己負担金としてノートパソコンの購入費28,000円を入学時に納入。

※経営学部及び情報科学部は、ノートパソコンの設定費・保守費として、4ヶ年分32,000円を入学手続時に納入。自損修理の場合は、有償となります。

(2) 授業料等学納金 納入期限

前期分…5月6日 後期分…10月6日 ※土・日・祝日の場合は繰下げます。

(3) 授業料等学納金 納入方法

学期毎に保証人へ振替案内又は振込用紙を郵送します。

口座振替の場合	授業料等の納入方法は、原則口座振替方式となります。オリエンテーション時に配布の「授業料等の納付方法について」に記載のQRコード、URLまたはL-Cam内、学内リンクに記載の「授業料ネット口座振替受付サービス」から口座情報の登録をお願いします。 登録時期：4月～5月、初回振替日：当年度後期分より 登録時期：8月～9月、初回振替日：翌年度前期分より *一部金融機関について取扱えない場合があります。その場合は八草キャンパス本部棟2階経理会計課窓口もしくは自由ヶ丘キャンパス事務室窓口にて「預金口座振替依頼書」をお渡しします。必要事項を記入の上、書面でのお手続きをお願い致します。 *口座振替は、基本的に、現在開設されている金融機関の普通預金口座からできますので、新たに口座を開設される必要はありません。新たにインターネットバンキングを契約する必要もありません。ただし、貯蓄預金口座は取扱いができませんのでご注意ください。
振込の場合	金融機関の窓口にて指定の振込用紙を使用し、電信扱でお振込みください。

(4) 授業料等学納金 納入の猶予措置

経済的理由によって納入が困難なとき、その他やむを得ない事情があるときは、申請により納入期限の猶予が認められることがあります。猶予期限は原則、当該学期の指定する日までとし、それまでに納入されない場合は除籍となります。申請する場合は「授業料等徴収猶予願」を八草キャンパス学生サービスグループ又は経理会計課、自由ヶ丘キャンパス事務室で受け取り、指導教員と面談のうえ経理会計課へ提出してください。

前期分猶予期限…6月30日 後期分猶予期限…11月30日 ※土・日・祝日の場合は繰上げます。

3. 奨学金・貸費金・助成制度等

本学では、愛知工業大学独自の奨学金、(独)日本学生支援機構奨学金、民間奨学財団・地方公共団体等の奨学金を扱っています。また、国の教育ローン、大学提携教育ローン制度の紹介も行っています。

奨学金には、「返還義務のある貸与制」と「返還義務のない給付制」があります。

希望者全員が採用されるとは限りませんが、多くの学生が奨学金制度を利用して、より充実した学生生活を送っています。詳しくは、各窓口へ相談してください。

(1) 愛知工業大学独自の給付奨学金

	種類	対象	支給額
学 部	選抜奨学生	一般入試前期日程入試A方式において成績上位者の中から選抜する者	授業料相当額の50%
	成績優秀奨学生	在学生で前年度末までの学業成績が、各学部・各年次・各学科・各専攻で極めて優秀かつ人物評価等総合的上位の者	月額50,000円
	瑞若会奨学生	在学生で前年度末までの学業成績が、各学部・各年次・各学科・各専攻で優秀な者	年額100,000円
大学院	博士前期課程一般入試成績優秀者奨学生	前期課程一般入試を優秀な成績で入学した者	工学研究科 年額250,000円 経営情報科学研究科 年額200,000円
学部・大学院	後藤すす子先生奨学金	就学の意思があるにもかかわらず、学資負担者の死亡等により学資負担が困難であると認められる者	原則として一人につき 300,000円以内

(2) 独立行政法人日本学生支援機構奨学金 貸与型奨学金

① 貸与型奨学金とは

経済的に困難な状況にある優れた学生に対し奨学金を貸与する制度で、貸与終了後には、返還の義務があります。

募集は、毎年4月と10月頃に行います。（「定期採用」と言う。）ただし、生計維持者の死亡等により家計が急変した場合には、年間随時申請することができます。（「緊急・応急採用」と言う。）

なお、貸与型奨学金の詳細は、独立行政法人日本学生支援機構HPを確認してください。



② 対象および貸与月額

対象	種別	通学形態	月額	
学 部	第一種奨学金 (無利子)(※1)	自宅通学	2万円・3万円・4万円	5.4万円(※2)
		自宅外通学	2万円・3万円・4万円・5万円	6.4万円(※2)
	第二種奨学金 (有利子)		2万円～12万円のうち1万円単位で選択	
大学院	第一種奨学金 (無利子)	通学形態に係わらず いずれも選択可	(前期課程)5万円・8.8万円 (後期課程)8万円・12.2万円	
	第二種奨学金 (有利子)		5万円・8万円・10万円・13万円・15万円	

(※1) 給付型奨学金と併用の場合は、第一種の貸与月額が増減額されることがあります。

(※2) 生計維持者の年収が、日本学生支援機構の定める基準額以下の場合のみ選択できます。

③申込基準の目安(令和6年度学部生参考)

種類	対象	学力基準(※1)	家計基準(※2)
第一種奨学金	1年次	出身高校の評定平均値が原則3.5以上	世帯人数、家族構成等により異なります。
第一種・第二種併用	2年次以上	前年度の成績が所属専攻において上位1/3以内	
第二種奨学金	1年次	出身高校の評定平均値が原則2.7以上	
	2年次以上	前年度の成績が所属専攻において平均水準以上	

(※1)生活保護世帯の者、児童養護施設出身の者、家計支持者(父母ともに)が非課税である者の併用・第1種学力基準は、この限りではありません。

(※2)家計基準の審査については、日本学生支援機構がマイナンバーを用いて行います。

(注)大学院生の申込資格については、別途窓口にて確認してください。

(3) 独立行政法人日本学生支援機構奨学金 給付型奨学金

①給付型奨学金とは

国の高等教育における修学支援新制度のひとつとして、意欲と能力のある学生が経済的理由により修学の継続を断念することのないよう、原則として返還の義務がない奨学金を支給する制度です。(大学院生は対象外です。)

募集は、毎年4月と10月頃に行います。〔定期採用〕と言う。ただし、生計維持者の死亡等により家計が急変した場合には、年間随時申請(事由発生日から3ヶ月以内)することができます。〔家計急変採用〕と言う。

なお、給付型奨学金の詳細は、独立行政法人日本学生支援機構HPを確認してください。



②区分および給付月額

区分	月額	
	自宅通学	自宅外通学
第Ⅰ区分	38,300円	75,800円
第Ⅰ区分(多子世帯 ^{※1})		
第Ⅱ区分	25,600円	50,600円
第Ⅱ区分(多子世帯 ^{※1})		
第Ⅲ区分	12,800円	25,300円
第Ⅲ区分(多子世帯 ^{※1})		
第Ⅳ区分(理工農 ^{※2})	支給なし	支給なし
第Ⅳ区分(多子世帯 ^{※1})	9,600円	19,000円
多子世帯 ^{※1}	支給なし	支給なし

第Ⅳ区分(多子世帯)と第Ⅳ区分(理工農)では第Ⅳ区分(多子世帯)が優先されます。

※1 多子世帯の要件…生計維持者の扶養する子供が3人以上いる世帯(扶養の確認に用いる情報は申請時点で確定している前年以前の年末)

※2 第Ⅳ区分(理工農学部)の対象学科…経営学科を除くすべての学科

③申込基準の目安(令和6年度学部生参考)

対象	学力基準	家計基準(※1)
1年次	出身高校の評定平均値が3.5以上	世帯人数、家族構成等により異なります。
2年次以上	前年度の成績が所属専攻において上位1/2以内	
上記基準を満たしていない場合	修得した単位数が標準単位数以上であり、かつ、将来、社会で自立し、活躍する目標を持って学修する意欲を有していることが学修計画書等で確認できること	

(※1)家計基準の審査については、日本学生支援機構がマイナンバーを用いて行います。

(4) 文部科学省 授業料等減免制度

①授業料等減免制度とは

国の高等教育における修学支援新制度のひとつとして、意欲と能力のある学生が経済的理由により修学の継続を断念することのないよう、国が入学金や授業料に係る費用を負担する制度です。

申請は、毎年4月と10月頃に行います。

なお、授業料等減免制度の詳細は、文部科学省HP、または本学HPを確認してください。



文科省HP



本学HP

②令和7年度区分および減免額(日本学生支援機構の審査により決定します。)

区分	還付額上限（年間）	
	入学金	授業料
第Ⅰ区分	25万円	70万円
第Ⅰ区分(多子世帯 ^{※1})		
第Ⅱ区分	第Ⅰ区分の2/3の金額	
第Ⅱ区分(多子世帯 ^{※1})	第Ⅰ区分と同額	
第Ⅲ区分	第Ⅰ区分の1/3の金額	
第Ⅲ区分(多子世帯 ^{※1})	第Ⅰ区分と同額	
第Ⅳ区分（理工農 ^{※2} ）	第Ⅰ区分の1/3の金額	
第Ⅳ区分(多子世帯 ^{※1})	第Ⅰ区分と同額	
多子世帯 ^{※1}	第Ⅰ区分と同額	

第Ⅳ区分(多子世帯)と第Ⅳ区分(理工農)では第Ⅳ区分(多子世帯)が優先されます。

※1 多子世帯の要件…生計維持者の扶養する子供が3人以上いる世帯(扶養の確認に用いる情報は申請時点で確定している前年以前の年末)

※2 第Ⅳ区分(理工農学部)の対象学科…経営学科を除くすべての学科

③申込基準の目安(令和6年度学部生参考)

授業料等減免制度の申込基準は、日本学生支援機構の給付型奨学金の基準と同一です。給付奨学金の申込手続きと同時に申請手続きを行います。

④本学における授業料等減免制度の取り扱いについて

本学が指定する期日までに減免適用前の学納金全額の納入をお願い致します。支援対象者の認定結果を受けて、減免対象額を給付奨学金の振込口座に返還致します。返還の時期は、各学期末を予定しています。

なお、授業料については半期ごとの還付になりますのでご注意ください。

(5) 民間奨学財団・地方公共団体等の奨学金

民間奨学財団や地方公共団体からの奨学生募集は年間随時ありますが、主に4月に集中して募集があります。

本学に依頼があったものについては、L-Camにて随時通知します。

なお、団体によっては他の奨学金との併用を認めていないものもありますので、申込資格等をよく確認してください。

(6) 国の教育ローン

日本政策金融公庫(旧国民生活金融公庫)が、大学生生活全般において必要な教育資金を融資する公的制度です。

入学金や授業料だけでなく、教科書・学習用品代、定期代、アパート等の敷金・家賃等に幅広く利用することが可能です。

利用を希望する場合は、保護者が日本政策金融公庫または最寄りの金融機関(銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、農協、漁協)に直接申込みをします。

【問合せ先】教育ローンコールセンター 0570-008656 (月~金 9:00~19:00)

【日本政策金融公庫HP】<https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html>

(7) 大学提携教育ローン

八草キャンパス本部棟2F 経理会計課

大学が入学金や授業料などの学資をサポートするため、金融機関と提携した教育ローン制度があります。

希望する場合は、保護者が直接提携先の金融機関に申込みをします。

	オリエントコーポレーション	ジャックス
名 称	学費サポートプラン	教育ローン
申 請 方 法	電話又はインターネット https://orico.jp/gakusapo/ 	下記問い合わせ先へ電話
問 合 せ 先	学費サポートデスク 0120-517-325	コンシューマデスク 0120-338-817

この金融機関から提携ローンの融資を受けた場合「愛知工業大学提携教育ローン利子補給制度」を利用することができます。(利子補給期間は在籍期間中)。

(8) 助成制度

学生の研究活動を支援するための助成制度を設けています。手続方法等、制度の詳細は指導教員又は担当部署に問合せください。

種類	対象	金額	制限
瑞若会学生助成金	学部生※	上限3万円 全国規模の学会、国内外で開催される国際学会等の発表の交通費、宿泊費	当該年度に1人1回

※他の奨学金・助成金等の支給を受けていない者

(9) ティーチング・アシスタント(TA)、スチューデント・アシスタント(SA) 八草キャンパス本部棟1F 人事課

本学の教育活動の充実及びこれに対する手当支給により学生生活の改善に資すると共に、教育指導のトレーニングの機会を提供するため、TA、SAを採用しています。手続方法等、制度の詳細は指導教員又は担当部署に問い合わせください。

種類	対象	職務内容
TA	大学院生	学部の実験、実習、演習等の教育補助 (講義科目、卒業研究を除く)
SA	学部生	学部の演習、実習等の授業補助
	学部生 大学院生	公開講座、イベント等、本学が認めた学外事業の運営補助

※TA、SAは担当授業時間及びそれに付随する業務中は担当職務に専念しなければなりません。

4. 学生生活上の各手続

(1) 住所変更等があった場合

学生本人の住所・連絡先はL-Cam(PC版)の学事システムから変更可能です。常に最新の情報に更新してください。
保証人やその他の登録情報に変更があった場合は、各窓口へ届け出てください。
届け出がされないと、緊急時に大学からの連絡が取れなかったり、郵便物が届かない場合がありますので注意してください。

(2) 拾得物・遺失物

学内で忘れ物、落とし物をした、または見つけた場合は、各窓口へ届け出てください。
近年、学内での拾得物・遺失物の届け出が多くなっていますので、所持品の管理には十分注意してください。
また、貴重品類(各警察署で取り扱う拾得物のうち「貴重な物件」に該当するもの)は常に携帯するよう心掛けてください。
拾得物・遺失物の保管期間は届け出月から原則3ヶ月間(貴重品類は原則1年間)とします。
保管期間後は処分しますので早目に引き取ってください。なお、衛生上好ましくないもの、悪臭を放つもの等は保管期間に関係なく処分します。

(3) 学内で盗難にあった場合

残念ながら学内において盗難が発生することがあります。少しの時間、席を外す場合でも、貴重品類は必ず持って移動してください。
万が一、盗難にあってしまった場合は、各窓口へ届け出るとともに各自で最寄りの警察署・交番へ届け出てください。

(4) 自動車・バイク・自転車通学

通学するキャンパスにより、許可されている交通手段が異なります。

交通手段	八草キャンパス	自由ヶ丘キャンパス
自動車	○ ^{※1}	×
バイク	○ ^{※1}	×
自転車	○ ^{※2}	○ ^{※2}
電動キックボード	×	×

※1 登録手続きが必要です。登録フォームはL-Camでお知らせします。

※2 登録手続きは不要です。

【駐車場・駐輪場】

八草キャンパス構内への乗り入れは禁止です。
自動車・バイクは学生駐車場に、自転車は駐輪場にためてください。

【自由ヶ丘キャンパス生】

自由ヶ丘キャンパスには学生駐車場がないため、自動車・バイクで通学することは禁止しています。
ただし、講義等で八草キャンパスに自動車・バイクで通学する場合は、学生サービスグループまで相談してください。

【交通マナー】

交通マナーに関する苦情が多数寄せられています。
愛工大生としての自覚と責任を持ち、ルールとマナーを守って良識ある行動をとるようにしてください。

【八草キャンパス構内へ自動車の乗り入れが必要な場合】

ケガなど諸事情により構内へ乗り入れが必要な場合は、学生サービスグループまで相談してください。ただし、電動キックボードの乗り入れは認めていません。

【自転車で通学する際の注意事項】

愛知県では「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が令和3年3月に制定され、令和3年10月から自転車損害賠償責任保険等への加入が義務化されました。
自転車で通学する場合は、必ず自転車損害賠償責任保険等に加入してください。

【放置バイク・自転車の処分】

長期間放置されているバイク・自転車等については、処分の告知を行った上で撤去・処分を行います。

(5) 通学定期券

公共交通機関で通学するために必要な通学定期券を購入する場合は、学生証および本学が発行する「在籍確認兼通学証明書シール」が必要です。シールに必要事項を記入し学生証裏面に貼付の上、駅窓口で通学定期券を購入してくだ

さい。シールは通学するキャンパスの窓口で配布しています。（新生の方は、入学式後に実施する新生オリエンテーションで配布します）

また、転居等の理由により通学経路が変更となった場合には、シールの交換が必要となりますので、各窓口に出してください。

なお、名古屋市営地下鉄・市バス、愛知高速交通（リニモ）については、学生証のみで通学定期券を購入することができます。（他社との連絡定期券を購入する場合は、シールが必要です）

（6）学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）

学割証は、学生個人の自由な権利として使用することを前提としたものではなく、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的としたものです。

使用目的の範囲は、制度の趣旨に鑑み、原則として次の目的をもって旅行をする場合に限られています。

【使用目的の範囲】

- （1）休暇、所用による帰省
- （2）実験実習などの正課の教育活動
- （3）学校が認めた特別教育活動又は体育・文化に関する正課外の教育活動
- （4）就職又は進学のための受験等
- （5）学校が修学上適当と認めた見学又は行事への参加
- （6）傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
- （7）保護者の旅行への随行

発行は、八草キャンパスは証明書自動発行機、自由ヶ丘キャンパスは事務室で行ってください。

【使用上の注意】

- ① 学割証の有効期限は発行日から3か月です。本学では1回につき4枚発行できます。学割制度の趣旨を理解した上で、計画的に発行するようにしてください。
 - ② 学割証は発行した本人以外は使用することができません。よって、他人に譲ったり、また、譲り受けてはいけません。
 - ③ 他人の学割証を使用するなど不正な手段で乗車した場合には、利用した鉄道会社より多額の追徴金が課せられるばかりか、大学全体が学割証発行停止の処分を受ける場合があります。
- 他の学生が不利益を被ることとなりますので、不正使用は絶対にしないでください。

（7）学生の団体旅行割引

ゼミや学内公認団体などで同じ行程と一緒に旅行し、学生8名以上で引率者（教職員）が同行する場合には、団体割引制度が使用できます。

JRの駅や旅行会社などにある所定の用紙に必要事項を記入の上、学生サービスグループまで申し出てください。

なお、JR以外の鉄道会社を利用する場合は、適用条件などが異なる場合があります。事前に利用する鉄道会社で確認の上、申請をしてください。

（8）下宿・アパートの紹介

本学では遠方出身者の学生を対象に、大学近郊の下宿・アパートを紹介していますが、下宿紹介は、株式会社エイアイテック（受付窓口はメディアショップCom・Com）に業務委託しています。下宿紹介を希望する場合は、下記の窓口で直接問い合わせてください。

[下宿紹介窓口・問い合わせ先：メディアショップCom・Com]

〒470-0392 愛知県豊田市八草町八千草1247 愛知工業大学八草キャンパス内 AITプラザ2F

TEL：0565-43-1555 FAX：0565-43-1556 E-mail:comcom@aitech.ac.jp

・下宿紹介専用番号 0120-789-138

・(株)エイアイテックHP <https://aitech.jp>

平日 9:00~17:00

（9）国民年金保険料学生納付特例制度

日本国内に住む20歳以上60歳未満の人は、「国民年金法」により国民年金に加入することになっています。20歳になったら、忘れずに国民年金の加入手続きをしましょう。

所得の少ない学生のために、年金保険料の納付を先送り（猶予）できる「学生納付特例制度」があります。保険料を納められないときはそのままにせず、学生納付特例を申請しましょう。

本学では、厚生労働大臣から学生納付特例事務法人の指定を受けていますので、大学を通じて申請することも可能です。申請を希望する場合は、各窓口で手続きしてください。



日本年金機構

5. キャンパスルール・マナー、日常生活上の諸注意

皆さんが学生生活を送る上での主なルール・マナーを挙げましたので、日頃から愛工大生としての自覚と責任を持った行動を心掛けてください。

[キャンパスルール・マナー]

(1) 喫煙

20歳未満の喫煙は法律により禁止されてます。本学では、「健康増進法」により、受動喫煙を防止するために学内の分煙を進めており、歩行喫煙及び指定場所以外での喫煙は禁止しています。

皆さんが、快適に過ごすことができるよう喫煙マナーを守ってください。

【喫煙場所】

キャンパス	場 所
八 草 キャンパス	AITプラザ北側、11号館東側、総合技術研究所駐車場東側
自由ヶ丘キャンパス	本館西側

(2) 授業中のマナー

授業中は携帯電話、スマートフォンなどの電源を切るか、マナーモードにして鞆にしまうなど、授業進行の妨げにならないよう注意しましょう。

試験中は携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチなどの通信機器は電源を切って鞆の中に入れておいてください。鞆の中に入れていない場合は不正行為とみなされることがあります。

(3) ゴミの分別

学内のゴミ箱は、ゴミの種類ごとに設置されています。ゴミを捨てる際は、決められたゴミ箱の種類のとおり分別して捨ててください。

(4) 迷惑行為などの禁止

①学内において、政治活動や宗教活動、マルチ商法などの勧誘活動を一切禁止します。また、大学に許可なく物品を販売することも禁止します。

②学内の共有スペースにおいて、ゲームや麻雀などを興じて大声で騒いだり、階段や廊下、地面への座り込みなど他人の迷惑になる行為は絶対に止めましょう。

このような行為を発見した場合や迷惑行為を受けた場合は、各窓口へ連絡してください。

(5) 通学時のマナー

公共交通機関で通学する場合は、大声で騒いだり、座席を独占するなど、他の乗客の迷惑とならないようにしてください。また、大学最寄り駅から徒歩で通学する場合は、横断歩道の信号無視や、ごみの投げ捨て・道をふさぐ並列歩行など、地域住民の迷惑とならないようにしてください。

自動車、バイク、自転車で通学する場合は、運転マナーを守り、安全運転を心掛けてください。

[日常生活上の諸注意]

(1) 薬物

近年、学生が大麻、覚せい剤、危険ドラッグの使用、所持等により逮捕される事件が相次いでおり、特に大麻による若者の検挙者が急増しています。違法薬物は一回だけの使用でも乱用になります。

違法薬物は使用や所持だけでなく、栽培・製造、販売行為も重大な犯罪行為であり、厳しく罰せられます。薬物の乱用は本人の精神と体の両面を破壊しつくし、さらには友人関係や家族関係の崩壊をもたらすので、好奇心やストレスなどから安易に手を出してはいけません。「一回だけなら大丈夫」「ちょっとだけなら」という軽い気持ちで手を出すと抜け出せなくなってしまうので、一回でもダメという意識を常に持つておくことが大切です。

自分自身や大切な人を守るためにも正しい知識を身につけ、薬物についての悩みや疑問を感じたときには窓口に相談してください。

相談窓口	連絡先
愛知県医薬安全課	052-954-6305
愛知県精神保健福祉センター	052-962-5377
名古屋市精神保健福祉センター	052-483-2095

(2) 詐欺・悪徳商法

近年、学生などの若者を狙った悪徳商法・詐欺行為による被害が多発していますので、十分に注意してください。

主な種類	手口の内容
キャッチセールス	路上でアンケート調査と称して個人情報を入力し、高額商品を強引に売りつける商法
マルチ商法	「儲け話がある」などと誘い、高額商品・入会金をだまし取る商法。新規会員を紹介するとマージンが得られるとだまされることがから、友人・知人にも被害が及び、自身が加害者になることがある
アポイント商法	「景品を渡すから取りに来て欲しい」などと呼びだし、高額商品を強引に売りつける商法

もし、被害に遭ってしまった場合は、直ちに消費者ホットラインに問合せください。

相談窓口	連絡先
消費者ホットライン	188(局番なし)

※全国の消費生活センター等の住所・相談時間掲載HP <http://www.kokusen.go.jp/map/>



(3) インターネットの利用

SNS(ソーシャルネットワークサービス)などの交流サイトを利用する場合は、不特定多数の人が閲覧していることを認識し、個人情報の書込みや誹謗中傷の書込みなど、軽率な書込みを行ってトラブルにならないよう心掛けてください。

(4) イッキ飲み・無理な飲酒

20歳未満の飲酒は法律により禁止されています。学生生活においては、クラブ活動、歓送迎会などで飲酒する機会が多くなると思いますが、イッキ飲みや無理な飲酒は急性アルコール中毒による死亡事故にもつながり、訴訟問題などに発展することにもなります。学生のイッキ飲みによる死亡事故は後を絶たず大きな社会問題にもなっています。無理な飲酒は大きな事故につながることを常に認識し、自覚と責任ある行動を心掛けてください。

6. クラブ活動

大学は学問の研究・知識の習得の場であることは言うまでもありませんが、人間形成の場として、クラブ活動などの課外活動も重要です。クラブ活動は心身を鍛錬し、勉学以外のことを学ぶことができ、実社会で役に立つ経験を得ることができ

ます。
現在、本学には多くのクラブがあり、各目標に向かって活動を行っています。自分の目的に合ったクラブがあれば積極的に参加し、有意義な学生生活を送ってください。

※各クラブの活動内容については、入学時に配布された「クラブ活動ハンドブック」を参照または各窓口へ問い合わせてください。

(1) クラブへの入部・退部

入部を検討する場合は、各クラブの説明会や実際の活動場所にも足を運び、活動状況を確認してください。入部・退部は最終的に自分の意思で決めるものですが、入部・退部のことで困ったことがありましたら、各窓口へ相談してください。

(2) 新しく団体を結成し、本学公認クラブとして認定してもらいたい場合

以下の要件を満たしていることを確認の上で、クラブ認定願とクラブ規約および部員名簿を提出してください。
用紙は各窓口で配布しています。

なお、既存のクラブと活動内容が類似する場合や活動内容によっては認定されない場合もありますので注意してください。

〈認定要件〉

- ① 本学学部生4名以上で構成されていること
- ② 本学専任教員を顧問に置くこと
- ③ 学生責任者を置くこと
- ④ 会計責任者を置くこと

(3) 部員募集、クラブ説明会等を案内する場合の学内掲示などの手続き

【学内掲示】

掲示物を各窓口を持参し許可を得た上、所定の場所に掲示してください。掲示期間は最長3ヶ月です。掲示期間が過ぎたものは責任を持って撤去してください。

【ビラ配布】

配布するビラを各窓口を持参の上、配布日時、配布場所・時間の許可を得た上、配布してください。

※学内のビラ配布は大学公認のクラブのみを対象とします。

7. ボランティア活動

ボランティア活動は、その様々な活動の実体験を通して、地域や社会に学修の成果や能力を生かすことのできる自己実現の場であり、社会や環境が持つ課題に気付き解決策を見出す学びの場でもあります。学生が主体的に行うボランティア活動は本学のモットーである「創造と人間性」の育成に大きく寄与すると期待されます。このことから、本学では災害ボランティアを始めとする様々な地域や社会に役立つボランティア活動を推奨しています。

【ボランティア活動への参加】

- 学生は参加前に「ボランティア活動届」により大学へ届出てください。
- 届出があった場合は学校管理下の行事として扱い、本人が負ったケガや、ボランティア活動中に他人の物を壊した場合は、学研災及び学研賠の補償対象とします。保険未加入の場合は加入した上で参加するものとします。
- 参加後は「ボランティア活動報告書」により活動内容を大学へ報告してください。
- 届出先 八草キャンパス：学生サービスグループ／自由ヶ丘キャンパス：事務室

8. 地域連携・社会貢献活動

愛知工業大学では、地元にお住いの住民の方々向けに公開講座や子供向けイベントなどを行う地域貢献活動を行っています。大学主催のイベントや近隣の学校、自治体、NPO法人などからの依頼に対して大学として様々な協力支援活動を行うほか、学生自身で企画から実施までを行う一般・子供向けイベントや公開講座など様々な活動を行うことで、大学での学生生活だけでは経験できない社会活動を経験し、かつ地域社会に貢献することができます。

〈愛知工業大学地域連携スタッフについて〉

地域連携スタッフの募集はL-Camで告知します。希望者は履歴書、学生証の画像データをエクステンションセンターにメールで提出し、面接の上正式登録になります。

【履歴書提出方法】

下記★の場所にある「履歴書」をダウンロードし、「学生証の画像データ」と共にエクステンションセンターまでメールで提出してください。

提出先メールアドレス：e-center@aitech.ac.jp

★申請書データ場所

L-Camログイン > トップメニュー > キャンパスライフ > 学内共有ファイル
> エクステンションセンターカテゴリの【地域連携スタッフ申請書等】の中にあります。

〈メール送信方法〉

- ・件名には 学籍番号・氏名・地域連携スタッフ履歴書についてと記入すること。
- ・文章内に学籍番号、氏名、添付資料の名前 を記載のうえ、「履歴書」と「学生証の画像データ」を添付すること。

〈学内・地域連携イベントへの参加について〉

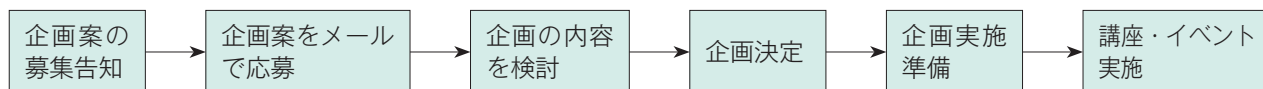
学内外で行われる講座やイベントなど、運営協力してくれるスタッフを募集します。

募集予定：8月まるごと体験ワールド、12月サイエンス大賞、他各種地域連携イベント等

〈学生企画イベントへの参加について〉

登録スタッフ自身で地域貢献に関する一般向け講座や子供向けイベント等の企画を提案し、大学が承認した企画をグループごとに実施することができます。

（募集から実施までの流れ）



〈その他〉

- 地域連携スタッフに関する募集やお知らせは全てL-Camで行います。
- 「地域連携スタッフ」に登録し、各種活動を行った場合、履歴書に“愛知工業大学地域連携スタッフとして活動”と記載することができます。
- 就職活動などで地域連携の活動記録が必要な場合は、イベント参加記録一覧をお渡しすることも可能です。
（必要期日の1週間前までにエクステンションセンターに申し出てください）

9. 留学・国際交流活動

八草キャンパス学生サービスグループ・教務グループ
自由ヶ丘キャンパス事務室

教学センターでは短期海外語学研修の案内や海外協定大学への長期留学希望者への情報提供などさまざまなアドバイスをしています。また、留学生との交流イベントの企画・開催や国際交流ボランティアの募集も行っています。留学や国際交流に関心がある方は気軽に問い合わせてください。

■国際交流行事の主な予定

6月頃	日本人学生と留学生の交流イベント
8月	夏季海外語学研修
9月	学生訪中団（東南大学）
10月	学生訪日団（東南大学）
11月頃	日本人学生と留学生の交流イベント
2月	春季海外語学研修 春季中国語研修（東南大学）

※海外諸事情等により変更または中止となる場合があります。

10. 各種保険等

本学では、学校生活における事故によるケガに備えるため、公益財団法人日本国際教育支援協会が取扱う保険のうち、学生教育研究災害傷害保険(学研災)に全員加入しており、安心して勉学に励むことができる環境を整えています。

また、学生本人が他人にケガをさせたり、他人の財物を破損した場合に備えるため、学研災付帯賠償責任保険(学研賠)にも全員加入をしています。(最短修業年限まで)

学校生活を送る中で事故によりケガをした場合や、他人にケガをさせた、他人の財物を破損した場合は、保険金請求手続きを行うことができます。詳しくは各窓口へ問い合わせてください。

(1) 公益財団法人日本国際教育支援協会が取扱う保険

詳細は公益財団法人日本国際教育支援協会HPを確認してください。



① 学生教育研究災害傷害保険(学研災)

教育研究活動中に生じた急激かつ偶然な外来の事故によって学生本人が身体に傷害を被った場合に保険金が支払われます。〔「病気」はこの保険の対象となりません。〕

② 学研災付帯賠償責任保険(学研賠)

正課、学校行事、学校に届け出たインターンシップやボランティア活動およびその往復中に発生した偶然な事故により、他人の身体の障害または財物の損壊について、学生本人が法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害に対して保険金が支払われます。

③ 学研災付帯学生生活総合保険(付帯学総)

学研災や学研賠では補償されない病気やケガの治療費実費を補償する他、加害事故時の賠償責任(アルバイト中・クラブ活動中を含む)等、学生生活を24時間総合的に補償します。

この保険への加入は任意です。加入を希望する場合は以下へ問合せの上、各自で加入手続きを行ってください。

愛知工業大学学生生活総合保険相談デスク
0120-873-588
(土日祝除く9:00~17:00、IP電話用0564-73-0742)

(2) 公益財団法人スポーツ安全協会が取扱う保険

詳細は公益財団法人スポーツ安全協会HPを確認してください。



④ スポーツ安全保険

本学公認のクラブに対し加入を推奨している保険で、3つの補償(傷害保険・賠償責任保険・突然死葬祭費用保険)が付帯されています。本学公認クラブが学校に届出をしたクラブ活動中の事故が補償の対象となります。

11. 健康管理・学生相談等

(1) 保健室（八草・自由ヶ丘キャンパス保健室）

皆さんが学業に励み、健康で明るく充実したキャンパスライフを送るためには、生活環境を整え心も体も健康でなくてはなりません。保健室では病気や怪我、健康に関する相談を始め、健康への関心を高め自己の健康管理ができるように専門的立場から支援・サポートを行っていますので、気軽に利用しましょう。

①保健室の利用

保健室では看護師が常年在して皆さんの健康状態を把握し、病気の早期発見や予防的検査、医療的な情報提供、応急処置等を常におこなえる体制をとっています。

開室時間

保健室場所	平 日	土 曜
八草キャンパス(第2本部棟3階)	9:00 ~ 17:00	9:00 ~ 13:00
自由ヶ丘キャンパス(本館1階)	9:00 ~ 16:10	

②健康相談

相談内容によって看護師や医師（学校医）が対応しています。学校医が来校した際には、疾病の予防・早期発見・生活指導等の相談を無料で受けることができます。校医診察の日程については、L-Camで確認をしてください。皆さんから相談があった内容やプライバシーは必ず守られますので気軽に相談してください。

③定期健康診断

定期健康診断は、学生の健康保持・増進等を目的に年1回（4月）「学校保健安全法」に基づき実施しており、集団生活を送る上でとても重要となってきますので必ず受診するようにしてください。この定期健康診断を毎年受診しないと、就職活動等で必要となる「健康診断証明書」の発行ができなくなりますので、ご注意ください。実施日程については、L-Camで確認してください。

④健康診断証明書

就職やインターンシップ、アルバイト、資格試験などで提出先から求められた場合に発行します。

毎年、大学の定期健康診断を受診した場合又は、それと同等の健康診断書（大学指定）を提出した場合にのみ発行されます。証明書の発行は、八草キャンパスは証明書自動発行機、自由ヶ丘キャンパスは事務室で発行できます。郵送での取り扱いは行っていません。

⑤健康保険証

安心して医療機関で治療を受けるには、健康保険証が必要です。カード型個別保険証を常に携帯するようにしましょう。カード型個別保険証でない場合は、遠隔地被扶養者証を作成する必要がありますので、保護者の加入する健康保険組合でご相談ください。また、保険証は大切なものです。紛失しないように充分注意しましょう。

⑥感染症に罹った場合

登校は次項の一覧表を確認し、それぞれの分類に沿った対応をしてください。なお、授業欠席の取扱いについては「修学について 授業の欠席」の章を参照してください。

学校保健安全法施行規則に定める感染症

・学校感染症の種類

第一種感染症

エボラ出血熱、クリミヤ・コンゴ出血熱、痘瘡、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）、鳥インフルエンザ（H5N1）の他、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症

第二種感染症

インフルエンザ（H5N1を除く）、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風疹、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、新型コロナウイルス感染症、結核、髄膜炎菌性髄膜炎

第三種感染症

コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎など

・出席停止期間

分 類		出席停止期間の基準
第一種		完全に治癒するまで
第二種	インフルエンザ	発症後5日経過し、かつ解熱後2日経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失または、5日間の適正な抗菌剤による治療終了まで
	麻疹	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫張が出現した後5日経過し、かつ全身症状が良好になるまで
	風疹	発疹が消失するまで
	水痘（水ぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱（プール熱）	主症状が消失した後2日経過するまで
	新型コロナウイルス感染症	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで
	結核	病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	
第三種		

（2）学生相談室

学生相談室は、学生生活を送る上で困ったこと、悩みなどがあった場合に相談ができるところです。必要に応じて学内の関係部署や外部の関係機関への紹介もできますので、1人で悩まずに遠慮なく相談してください。利用方法は以下のとおりです。なお、相談内容やプライバシーは必ず守られますので安心して利用してください。

たとえばこんなときに…

- 友人ができない
- 学業や進路のことが不安
- 自分に自信がもてない
- やる気が出ない
- 大学へ行くのがつらい
- 夜眠れない、食欲がない

利 用 方 法	八草キャンパス	開室時間：9：00～16：30（月～金） ・学生相談室（第2本部棟4階）に直接来てください。 ・面接中や不在の場合は、メールで予約してください。
	自由ヶ丘キャンパス	開室：不定期（要予約） ・予約日に420室（4F）に直接来てください。
	予約（電話・メール）	TEL：0565-43-3858（直通） E-mail：gakusou@aitech.ac.jp

(3) ハラスメント

本学ではハラスメントによる人権侵害行為に害されことなく、教育研究、学業に専念できる環境の確保に取り組んでおり、ハラスメント行為に関する相談窓口を設けています。学生生活においてハラスメントの被害を受けていると感じたら、1人で悩まずに以下の相談窓口にご相談してください。

【ハラスメントの主な種類】

ハラスメントの種類	定 義
アカデミック・ハラスメント (アカハラ)	研究教育の場における権力を利用したいやがらせ。意図した場合はもちろん、上位にある者が意図せずに行った発言・行動も含まれます。
セクシャル・ハラスメント (セクハラ)	意図する、しないにかかわらず、相手が不快に思い、自身の尊厳を傷つけられたと感じるような性的な発言・行動
パワー・ハラスメント (パワハラ)	職務上の上位者にある者が、本人が意識する、しないにかかわらず、その地位及び職務上の権限を背景に人権を侵害する発言・行動で相手に精神的苦痛を与えること。
アルコール・ハラスメント (アルハラ)	飲酒の強要、イッキ飲みの強要、意図的な酔いつぶし、酔ったうえでの迷惑な発言・行動

【相談窓口】

八草キャンパス学生相談室 第2本部棟4階 TEL:0565-43-3858(直通) E-mail: gakusou@aitech.ac.jp

(4) 障がいのある学生の修学支援

本学では「障害者差別解消法」に則り、「愛知工業大学障がいのある学生の修学支援に関する基本指針」をHPで公開するとともに、障がいのある学生に関わる修学支援に取り組んでいます。修学支援を希望される学生は以下の相談窓口にご相談してください。身体面・精神面のそれぞれに関して担当職員が皆さんの状況を伺いながら、本学の基本指針に則って所属学科等と調整の上、修学支援のお手伝いをします。申請書の提出期限については、学生サービスグループで確認してください。

【相談窓口】

八草キャンパス学生サービスグループ 第2本部棟2階

12. 施設・設備

(1) 附属図書館

本図書館は、教育・研究支援サービス機関としての重要な使命に応えるために、学術情報の収集・整理・提供・保存を行っており、特に情報の電子化・ネットワーク化が進む中で、IT時代に対応したサービスの拡充に力を注いでいます。

ホームページでのオンライン蔵書検索システムの公開、国内外の様々な分野のオンライン文献データベースサービスや電子ジャーナルの導入、ネットワーク利用環境の整備を進めると共に、情報検索オリエンテーションやデータベース講習会等を開催し、情報リテラシー教育の一環を担う役割も果たしています。

八草・自由ヶ丘の各キャンパス所蔵資料は、両キャンパス間で取り寄せ・貸出が可能です。

返却や貸出延長手続きも両キャンパスで受け付けます。

利 用 時 間	八草キャンパス 附属図書館 月～金 8:50～21:10／土 8:50～17:00 休講日 月～金 8:50～17:00／土 閉館 自由ヶ丘キャンパス マルチメディア情報ライブラリー 月～金 8:50～17:00 ※利用時間は変更することがあります。詳しくは図書館ホームページを参照してください。
蔵 書 ・ 設 備 等	蔵書冊数 27万6千冊(2024年4月現在) 所蔵雑誌種数 2,051種(2024年4月現在) 電子ジャーナル 3,542タイトル(2024年4月現在) データベース 17種(2024年4月現在) 八草キャンパス 附属図書館 ・ 個人閲覧室(計15ブース) ・ 視聴覚用ブース(11席) ・ 多目的室(可動式椅子45席)、グループ閲覧室(2部屋・各10席) ・ パソコンコーナー(パソコン32台、ネットワークプリンタ2台) ・ アクティブ・ラーニングルーム(パソコン17台、ネットワークプリンタ1台、可動式机等) ・ 館内貸出用機器(ノートパソコン3台、プロジェクター2台、DVDドライブ2台) 自由ヶ丘キャンパス マルチメディア情報ライブラリー - AV設備(1台)、パソコン(14台)、ネットワークプリンタ(3台) 個人自習室 パソコン(6台)
入 館 方 法	八草キャンパス 附属図書館 入館時にゲートで学生証をかざしてください。 自由ヶ丘キャンパス マルチメディア情報ライブラリー 入退室自由
問 合 せ	詳しくは図書館のホームページをご覧ください。ご不明な点がございましたら図書館員に気軽にお尋ねください。 愛知工業大学附属図書館 https://www.ait.ac.jp/facility/library/

■資料の利用

貸出期間 貸出冊数		冊数上限	貸出期間				
			図書	問題集	視聴覚 資料	雑誌	
						学術雑誌	一般雑誌
		学 部 生	10冊(点)	14日			
	大 学 院 生	30冊(点)	60日	7日	7日	1日	7日
	研 究 生						
	科目等履修生	10冊(点)	14日				
※文学に該当する図書は一律14日貸出です。雑誌最新号及び禁帯出資料は貸出できません。							
貸 出 方 法	カウンターに資料と学生証を持参してください。						
返 却 方 法	カウンターに返却してください。 ブックポストへの返却も可能です。 但し、雑誌・視聴覚資料はカウンターへ返却してください。						
貸出期間更新	返却期限日までにカウンターに資料を持参し、手続きをしてください。図書館ホームページやスマホからも手続きができます。更新回数は3回まで。予約者がいる場合は更新できません。						
予 約	貸出中の資料を予約することができます。 カウンターで手続するか、OPACの検索結果画面から申し込んでください。予約図書が返却されるとL-Camでお知らせします。						
蔵 書 検 索 シ ス テ ム	おぼっく OPAC (Online Public Access Catalog の略) 図書館の所蔵資料を探すシステムです。タイトルや著者名等を入力し検索してください。						
そ の 他	図書館に希望する資料がない場合でも、購入希望の制度を利用したり、他大学図書館等との相互利用サービスを利用したりすることにより、資料や論文コピーを入手することができます。						

■オンラインデータベース・電子ジャーナル・電子ブック（学内アクセス専用）

文献情報データベースを中心に、新聞記事や日本工業規格等のデータベースが利用できます。

また、オンライン上で雑誌論文・記事を読むことができる電子ジャーナルや電子ブックもあります。

図書館ホームページからアクセスしてください。

※学認対応のデータベース、電子ジャーナルについては学外から利用可能

■予約が必要な施設

グループ閲覧室 【八草キャンパス 附属図書館4階】

資料をもとにグループで学習や研究を行うため等に活用してください。

設 備	第1グループ閲覧室（10席）、第2グループ閲覧室（10席） ※パーティションを外して1部屋にすることも可能。
申 込	予約制。図書館カウンターで手続きしてください。

多目的室 【八草キャンパス 附属図書館4階】

ゼミや卒業研究等でのグループワーク、ミーティングなど様々な目的で利用できます。

※予約は教職員に限ります。

設 備	プロジェクター、ホワイトボード、可動式の椅子（テーブル・荷物棚付）など
申 込	教職員による予約制。図書館カウンターで手続きしてください。

(2) 計算センター／情報教育センター

八草キャンパス

計算センターは学内ネットワークの中核であり、ネットワークや各種サーバなどの管理・運営を行い、教育・研究に最適なコンピュータ利用環境を提供しています。

2次元・3次元CAD、数値計算ソフト、有限要素法解析ツール、化学構造式描画など高度なアプリケーションを導入し、授業ではもちろん、空き時間にも自由に利用できる環境が整備されています。最先端の情報技術を習得し、即戦力となるエンジニアの養成を目指しています。

入学時の配布物について			
愛工大IDとパスワードの配付について(1枚)		学内情報システム利用時に必要なID・パスワードが記載されています。	
情報システムガイドブック(1冊)		学内情報システム利用の手引きです。	
ソフトウェア包括ライセンス利用同意(電子証書)		本学はマイクロソフト社、トレンドマイクロ社と包括ライセンス契約を締結しており、WindowsOS、Office、ウイルス対策ソフトを無償でインストールできます。なお、利用にあたり同意が必須です。(同意は電子証明となります)	
パソコンの利用について			
○ 授業・講座等で利用していない時間帯は自由に利用できます。(長期休業・行事・メンテナンス他、利用時間を変更することがあります。詳しくは、L-Cam、計算センターホームページを参照してください。) ○ 持ち込み端末は学内各所の情報コンセント・無線LANから学内LAN接続によりインターネットを利用できます。(初回のみ端末単位で認証設定が必要) ※講義室にてオンライン授業の配信・受講が可能 ○ プリンタの印刷枚数は半期毎に上限があります。(半期につき1人400Point／白黒:1Point カラー:2Point 消費)			
計算センター	1F 講義室	93座席 無線LAN Webカメラ PC充電BOX	月～金 9:00～20:00 土・日・祝日 休館
	2F PC学習室	PC25台 プリンタ2台 大判プリンタ1台	
	3F マイコン実習室1 マイコン実習室2	72座席 プリンタ2台 PC64台(ノート) 24座席 プリンタ1台	
	3F 実習室1	PC85台 プリンタ2台	
	4F 実習室2	PC85台 プリンタ2台	
情報教育センター	1F ネットワークルーム	PC24台 プリンタ2台 大判プリンタ2台	月～金 9:00～19:00 土・日・祝日 休館
	2F 実習室A	PC97台 プリンタ2台 大判プリンタ1台	
	3F 実習室B	PC97台 プリンタ2台 大判プリンタ1台	
1号館	6F メディアラボ	PC71台 (iMac)	月～金 9:00～19:00 土・日・祝日 休館
その他			
問い合わせ先:request@aitech.ac.jp ホームページ:https://www.center.aitech.ac.jp/			

(3)みらい工房

八草キャンパス12号館

学生の創作活動をサポートする、愛工大独自のモノづくり空間、それが「みらい工房」です。

当工房では、木材や金属加工を主としたハンドマシンや工作機械が多数設置されており、オリジナルのアート作品を製作したり、家具や補修パーツを自製したりと幅広い創造活動に対応しています。

また、専任の管理担当者が常任し、技術的なサポートや、製作のアドバイスなども受けることができるため、経験のない学生も安心して作業することができます。自分の工作技術を磨き上げ、作ることの本质をつかむ。工学を学ぶ学生にとって、「みらい工房」はものづくりの楽しみの場であり学びの場でもあります。

利用講習会を受講して利用登録し、いつでも「みらい工房」を利用できるようにしましょう。

(みらい工房の精神)

「自由自在・創意工夫」 自分で発想し、自分で計画し、自分で製作する

利 用 時 間	月～金 9:00～20:50 ※利用時間は変更になる場合があります。
利 用 案 内	(主な工作機械) パネルソー、バンドソー、ドラムサンダー、旋盤、卓上旋盤、フライス盤、直立ボール盤(大型)、卓上ボール盤、帯鋸、コンターマシン、シャーリングマシン、コーナーカッター、直線曲げ機、糸のこ盤、ディスクグラインダー、溶接機、サンドブラスター、定盤
利 用 方 法	安全に使用して頂くため、利用講習会の受講が必須です。利用講習会は予約制で、学生サービスグループで受け付けています。
問 合 せ	みらい工房 http://www.ait.ac.jp/facility/future/

(4) キャリアセンター

八草キャンパス 1号館 2F

自由ヶ丘キャンパス別館 1F

本学では、職業安定法に基づき、学生に対する職業紹介を行っています。

就職は、人生を左右する大きな意義を持つ極めて重要な行為です。このため本学においては、教職員一丸となりよりよい進路選択ができるようなキャリア支援体制をとっていますが、学生の皆さんも就職活動の時期になってあわてることのないよう事前の準備を十分に行うことが大切です。これには、入学初年次から就職および進路について正しく認識し、目的意識を持って学業や課外活動に励むことが肝要です。

キャリアセンターは「人とつながる、企業とつながる、社会とつながる」をコンセプトに、キャリアや進路を考える皆さんの将来を支える拠り所です。

■就職支援

就職に関する諸問題については、各専攻の就職指導教員が個人相談や指導助言に当り、この関連においてキャリアセンターで各種就職支援プログラムや学内企業研究会の企画運営、求人受付、求人先の開拓なども行い、またその立場からの相談やキャリアカウンセリングにも応じています。

したがって、学生の皆さんはいつでも就職指導教員によく相談して「適性、適職」の開拓、発見に努力してください。また、就職・資格情報コーナーや公務員・教員資料コーナー、参考書・県別資料コーナーなどを活用して必要な情報を得たり、進路に迷うときは相談してください。

利 用 時 間	八草キャンパス 月～金 9:00～17:00 自由ヶ丘キャンパス 月～金 9:00～17:00
求 人 検 索 シ ス テ ム	愛知工業大学求人検索NAVIは本学に企業から直接届く求人票が検索できる就職システムです。最新の求人が更新されますので、定期的にチェックしてください。
各 種 支 援 プ ロ グ ラ ム	■就職ガイダンス 就職に対する心構えや準備すべき事柄について定期的に発信するとともに、講座等とのつながりを含め「就活のいろは」を説明します。 ■就職力向上講座 就職活動本番期を見据え、就職に対する考え方や自己理解・自己分析の方法、履歴書対策、面接実践演習、筆記試験対策等、各種支援策のつながりを強化するなかで適切な時期に実施します。 ■低学年向けキャリアガイダンス 就職活動の際や、社会人として働いていくうえで求められるものについて取り上げ、これからの学生生活をどのように過ごすべきかを説明するとともに、自己理解と職業理解を深める為に実施します。
研 究 会 等	■業界研究会 自分の専門を活かせる業界がどういうところか、企業からの説明を受けて視野を広げる為に実施します。 ■学内企業研究会 学内で行う大学への求人企業を対象とする合同企業説明会で、人事担当者との面談形式で実施します。 ■地元企業交流会 全国の地元企業との関係を構築して、地元に戻りたい、また地方で活躍したいという学生のU・Iターン就職の支援として実施します。 ■学内個別企業説明会 キャリアセンターに近接する個室で、企業単独の会社説明会を人事担当者との面談形式で実施します。
問 合 せ	キャリアセンター

■インターンシップ支援

インターンシップとは、学生が在学中に自らの専攻・将来のキャリア（職業）に関連した就業体験を行うことであり、本学では授業科目のひとつとして組み込まれています。その目的は将来のキャリア（職業）を考える機会をつくり、職業観・就労意識を醸成することです。また自分自身の適性、特性を確認し、異世代とのコミュニケーションを通して社会や企業に対する理解を深める機会でもあります。キャリアセンターのインターンシップ支援では、ガイダンスを開催しインターンシップの目的や意義を伝えるとともに、愛工大インターンシップ制度の説明および事前研修としてマナー講座並びに目標設定支援を実施しています。また終了後には事後研修を実施しインターンシップ参加者の体験・学びを振り返るとともに、将来を考える機会としています。一連のキャリア教育、就職活動の流れの中では是非インターンシップに参加してください。

利 用 時 間	月～金 9:00～17:00
実 施 対 象 者	各学部1～4年次生
実 施 時 期	夏季：8月～9月中旬／春季：2月～3月末日まで
研 修 内 容	愛工大インターンシップの目的にふさわしい就業体験を伴うプログラムとし、対面による実習指導とする。
受 入 企 業	学生への実務指導が可能な企業、官公庁、またはその他の団体
単 位	インターンシップの諸要件（1）～（3）を全て満たしたものを総合的に評価したうえで、選択2単位が認められます。 （1）実施日数：連続して実働10日間以上（1日6時間以上）の実習、もしくは連続して実働5日間単位の実習2回以上とする。但し、季節を跨ぐ5日間単位の実習参加による単位認定は、春夏（夏春）連続での2回参加を必要とする。 （2）以下①～④全てのインターンシップ実習プログラムに参加すること。 ①参加者向け説明会：企業とのマッチング及び応募シート作成方法の説明 ②事前研修：グループワークによる目標設定及び発表、マナー講座 ③インターンシップ実習 ④事後研修：グループワークによる振り返り及び発表 （3）事後研修参加後の資料提出（以下①～③） ①実習先からの評価表 ②実習週報 ③実習レポート
問 合 せ	キャリアセンター

■アルバイト紹介

キャリアセンターではアルバイトに関して「愛知工業大学アルバイト紹介システム」を導入し、アルバイト紹介を行っています。大学経由ですので安心なアルバイト情報を知ることができ、24時間365日いつでも閲覧できます。

愛知工業大学アルバイト紹介システム <https://www.aines.net/ait/>

■資格支援

学生の資格取得・スキルアップを支援するため、学内資格講座を開講しています。

利 用 時 間	月～金 9:00～17:00	
利 用 案 内	各種資格講座	【対面】 基本情報技術者、ITパスポート、2次元CAD利用技術者2級、3次元CAD利用技術者、技術士、公務員、TOEIC、危険物取扱者（甲種）、防災士養成研修 ※対面による講座は、八草キャンパスにて開講となります。 ※防災士養成研修は、地域防災研究センターが主管となります。 【Web】 2級建築士、1級建築士、2級建築施工管理技士、1級建築施工管理技士、宅地建物取引士、2級土木施工管理技士、ファイナンシャルプランナー3級、日商簿記検定3級、日商簿記検定2級、ITパスポート ※WebによるITパスポートは、自由ヶ丘キャンパスの学生のみ対象となります。
	各 種 相 談	【八草キャンパス/自由ヶ丘キャンパス】 ・就職と資格に関する相談やスキルアップ等キャリアサポートに関する相談 ・資格講座の詳細、申込み方法、検定試験に関する相談 ※外部委託先:日建学院名古屋校(052-856-0631)
	設 備 等	・資格・検定試験に関する雑誌・書籍の閲覧コーナー ・学生用パソコン(資格・検定試験のサイト集、インターネット等に利用可能)
問 合 せ	キャリアセンター	

■予約が必要な施設

プレゼンテーションルーム 【八草キャンパス 1号館2階】

オンラインでの企業説明会やインターンシップへの参加、オンライン選考、その準備等に活用してください。

設 備	ルーム1（6席）、ルーム2（16席 プロジェクター・スクリーン有） ※パーティションを外して1部屋にすることも可能。
申 込	予約制。キャリアセンターカウンターで手続きしてください。

(5)学習支援センター**八草キャンパス10号館1F**

基礎科目（数学・物理・英語）は担当教員による学習指導が受けられます。学習指導は高校レベルの復習から大学の授業での分からない分野の相談などができます。「授業についていけない」「数学・物理・英語を教えてほしい」など、あなたの学習に関する悩み・疑問に対応します。

利 用 時 間	月～金 9:00～17:00
利 用 案 内	・数学・物理・英語の個別学習指導 ・学習に関する相談窓口 ※必要に応じて授業科目担当教員、指導教員、チューター、担当部署へ連絡します。
利 用 方 法	・予約不要（試験前及び試験期間中は除く） ※指導状況などにより、お待ちいただく場合があります。
問 合 せ	学習支援センター E-mail : gshien@aitech.ac.jp

(6) 厚生施設等

各キャンパスには、皆さんの学生生活をサポートするため、食堂をはじめとした各施設が設けられています。

■厚生施設等

八 草 キ ャ ン パ ス	店 名		場 所	営業時間
	食 堂	すき家	AITプラザ1階(410席)	10:00~16:00(月~金)
		愛和食堂	愛和会館1階(500席)	11:00~14:00(月~金)
		カフェ&レストセントラル	セントラルテラス1階(377席)	8:15~13:30(月~金)
		馬鹿坊(バカボン)	セントラルテラス2階(176席)	8:15~14:00(月~金)
		アロハカフェ	1号館1階(250席)	8:15~14:00(月~金)
	4号館売店		4号館1階	8:30~18:00(月~金)
	セブンイレブン(コンビニエンスストア)		AITプラザ2階	8:00~20:00(月~金)
	紀伊國屋書店			9:30~16:30(月~金)
	メディアショップCom・Com			9:00~17:00(月~金)
理容室		愛和会館1階	9:00~17:00(月~金)	
移動販売車(キッチンカー)		1号館前・セントラルガーデン	10:00~17:00(月~金)	
キ ャ ン パ ス 自 由 ヶ 丘	自由ヶ丘食堂		本館1階(175席)	8:15~13:30(月~金)
	紀伊國屋書店・売店		本館1階	10:30~13:30(月~金)
	移動販売車(キッチンカー)		本館玄関脇	10:00~17:00(不定期・週1回)

※大学の長期休暇中、学校行事等において営業日、営業時間が変更されることがあります。営業時間に変更がある場合はL-Cam等でお知らせします。

※食堂のラストオーダーは閉店時間の30分前です。

※各食堂は全てセルフサービスのため、食器類は必ず所定の場所に返却してください。

※昼食時間帯の11:30~13:30までは特に混雑しますので、食事以外の利用は控えてください。

■ATM(八草キャンパス)

金融機関名	場 所	利用時間
三菱UFJ銀行	愛和会館1階	8:00~21:00(月~金)
ゆうちょ銀行		9:00~18:30(月~金)
セブン銀行	AITプラザ2階セブンイレブン内	8:00~20:00(月~金) ※セブンイレブンの営業時間に準ずる

※土曜・日曜・祝日及び年末年始は利用できません。また、メンテナンス等により利用できないことがあります。

※大学の長期休暇中、学校行事等において利用日、利用時間が変更されることがあります。利用時間に変更がある場合はL-Cam等でお知らせします。

(7) 鉀徳館(体育館)

鉀徳館を一般利用する場合は、以下の使用心得を遵守してください。

使 用 規 則	①健康・スポーツ科学実習の授業日(火1～4限、金3・4限)の授業時間帯は、授業履修者以外の入室・利用は禁止。(※クラブ活動は火曜日・金曜日の16:30まで入館禁止) また、授業及びクラブ活動などによる使用がない場合においては、2階アリーナ、1階トレーニング室、南体育室を一般利用することができる。 ②運動用具は各自で持参するか、鉀徳館2階事務室で借用すること。 ③館内施設を使用する場合においては、次のことを遵守すること。 ・一般利用において、備品・設備等を破損した場合、鉀徳館2階事務室に届け出ること。 ・貴重品は更衣室ロッカーに保管するか、各自で責任をもって管理すること。 ・館内施設は土足厳禁のため、必ず室内シューズに履き替えること。 ・鉀徳館内で飲食・喫煙はしないこと。 ④使用後は授業に支障をきたさないよう原状回復、清掃、整理整頓を行うこと。 ⑤規則を遵守しない場合は、使用を禁止する。
一般利用日時	月・水・木 9:30～16:00 金 9:30～12:45
利用可能施設	1階 トレーニング室 1階 南体育室(卓球) 2階 アリーナ
貸 出 備 品	・バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ドッジボール・卓球ラケット等
利 用 方 法	◇鉀徳館2階事務室にて受付を行う。 ・学生証の提示。 ・室内シューズ持参。
更 衣 室	・1階、2階にある更衣室は常時使用可能。 ・ロッカーは、授業、クラブ活動、一般利用時のみ使用可。 ※私物の保管等、個人での長時間のロッカーの占有は禁止します。 ※貴重品は各自で管理し、盗難防止に努めてください。盗難・紛失等の責任は負いかねます。 ※ロッカーの不具合、故障等、2階鉀徳館事務室に申し出てください。
事 務 室	【開室時間】 月・水・木 8:40～16:10 火・金 8:40～16:40 (長期休暇、期末試験など、授業期間ではない日は利用できません) ◎ご不明な点がございましたら、鉀徳館2階事務室までお越しください。

(8) その他の体育施設

八草キャンパスには、鉦徳館の他に、小体育館、陸上競技場、テニスコート、野球場、弓道場、サッカー場、球技場などがあります。テニスコート、サッカー場、球技場は一般学生でも利用できます。利用したい場合は八草キャンパス学生サービスグループに申し出てください。

(9) 教室使用

- ①教室を使用する時は、使用責任者名及び申請者名、使用目的、使用期間及び時間、使用室名などを、管轄の部署に届け出て、承認を受けなければなりません。
- ②使用後は、原状回復しなければなりません。また火災、破損等についても十分注意し、万一の場合には使用責任者においてその責を負うものとします。

13. 証明書、届出書、願い書

	種 類	手数料	取 扱			備 考
			証明書 自動 発行機	八草	自由ヶ丘 事務室	
学 生 証	学生証再発行	1,000円		教務 グループ	○	
	仮学生証発行	300円		教務 グループ	○	発行当日のみ有効
証 明 書	在学証明書	和文 100円 英文 200円	○ (和文のみ)	教務 グループ (英文のみ)	○	在学中のみ
	在籍証明書	和文 100円 英文 200円		教務 グループ		休学中のみ
	成績証明書	和文 100円 英文 200円	○ (和文のみ)	教務 グループ (英文のみ)	○ (和文のみ)	
	卒業見込証明書	100円	○		○	4年次のみ
	教育職員免許状 取得見込証明書	100円	○		○	4年次教職課程履修 者のみ
	健康診断証明書	300円	○		○	
	学割証	不要	○		○	1回につき4枚
学 籍	休学願	不要		学生サービス グループ	○	在籍料として1学期 3万円必要
	復学願	不要		学生サービス グループ	○	
	退学願	不要		学生サービス グループ	○	
	氏名・住所等変更届・ 保証人変更届	不要		学生サービス グループ	○	保証人・住所変更など
教 室 使 用	教室使用許可願	不要		教務 グループ	○	P.3、186参照
	施設等使用申請書・ 物品借用申請書	不要		学生サービス グループ	○	
	居残・徹夜・休日利用届	不要		警備室		
試 験	追試験願	不要		教務 グループ	○	
クラブ活動	クラブ認定願	不要		学生サービス グループ	○	
他	被害届	不要		学生サービス グループ	○	
	事故(ケガ)報告届(学 生教育研究災害傷害保 険の届出等)	不要		学生サービス グループ	○	

※上記以外の証明書については、日数がかかります。

※自由ヶ丘キャンパス事務室での発行については、時間を要する場合があります。

■証明書自動発行機

- ・証明書自動発行機は八草キャンパス第2本部棟2階及び12号館1階に設置されています。
- ・学生証とパスワードが必要です。

※パスワードを忘れた場合は、教務グループ・学生サービスグループの窓口にお問い合わせください。

学 則 、 諸 規 則

VI

愛知工業大学学則

愛知工業大学学位規程

愛知工業大学における授業料その他の費用に関する規則

履修細則

愛知工業大学における副専攻に関する規程

愛知工業大学における副専攻の実施に関する細則

転学部・転学科に関する細則

学科内の転専攻取扱要領

愛知工業大学大学院工学研究科入学前履修に係る申合せ

愛知工業大学再入学に関する規程

愛知工業大学学生懲戒規程

愛知工業大学クラブ活動に関する規程

愛知工業大学研究倫理指針

愛知工業大学学則

第1章 目的及び使命

(目的及び使命)

第1条 本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところにしたがい、学術の理論と応用を教授研究し、知的道徳的に円満な教養を有する高級技術者を育成することを目的とし、あわせて、人類の福祉に貢献するとともに地方産業の技術的發展に寄与することを使命とする。

2 本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

3 前項の点検及び評価を行うに当たっては、同項の趣旨に即し適切な項目を設定するとともに、適当な体制を整えて行うものとする。

第2章 組織及び目的

(組織)

第2条 本学に次の学部及び大学院研究科を置く。

工学部
経営学部
情報科学部
工学研究科
経営情報科学研究科

2 大学院の学則は、別に定める。

(教育研究上の目的の公表等)

第2条の2 前条の学部における人材の養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的を別に定め、公表するものとする。

第3章 学部、学科及び課程

(学部及び学科)

第3条 本学に次の学部及び学科を置く。

工学部
電気学科
応用化学科
機械学科
社会基盤学科
建築学科
経営学部
経営学科
情報科学部
情報科学科

(授業科目)

第4条 各学科における授業科目は、専門教育科目及び総合教育科目とする。

2 授業科目の種類、単位数その他教育課程の編成について別表のとおりとする。

(教員免許状の授与資格)

第5条 教育職員免許法に基づき教員免許状授与の所要資格を得ようとする者のために、教職に関する科目を置く。

2 教員免許状の授与資格を得ようとする者は、第11条に定める単位のほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める単位を修得しなければならない。

3 本学の学部の各学科において当該所要資格を取得できる教員免許状の種類及び免許教科は、次のとおりとする。

工学部

学 科	免許状の種類	免許教科
電 気 学 科	高等学校教諭1種免許状	工 業 情 報
機 械 学 科 社会基盤学科 建 築 学 科	高等学校教諭1種免許状	工 業
応 用 化 学 科	高等学校教諭1種免許状	理 科

経営学部

学 科	免許状の種類	免許教科
経 営 学 科	高等学校教諭1種免許状	情 報 商 業

情報科学部

学 科	免許状の種類	免許教科
情 報 科 学 科	高等学校教諭1種免許状	情 報

4 この条に定めるもののほか、教職に関する科目の履修方法その他必要な事項は、別に定める。

第4章 修業年限、在学年限、履修の認定、履修の方法、卒業及び学位

(履修申告)

第6条 学生は、毎学期のはじめに、その学期中に学習しようとする授業科目を申告して、許可を受けなければならない。

(単位の計算方法)

第7条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
(2) 外国語、演習、実験及び実習その他の授業については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(修業年限)

第8条 学部の修業年限は、4年とする。

(在学年限)

第9条 学生は、8年を超えて在学することはできない。ただし、再入学、編入学した学生は、すでに大学に在学した年数を8年から引いた年数を超えて在学することができない。

2 前項の規定にかかわらず、編入学した学生は、第27条により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

(履修の認定)

第10条 学生が履修した授業科目の認定は、試験その他の成績考査の方法によって、秀、優、良、可、不可をもって表わし、秀、優、良、可の成績の者には規定の単位を与える。

(修得すべき単位)

第11条 学生は、次の各号に定める単位を修得しなければならない。

(1) 専門教育科目については、100単位以上
(2) 総合教育科目については、24単位以上

- (授業方法)
- 第11条の2** 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
- 2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 第一項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
- 4 第一項の授業の一部は、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。
- 5 第2項及び第3項の規定により修得する単位数は、60単位を超えない範囲で卒業要件の単位として認めることができる。

- (他大学の授業科目の履修等)
- 第11条の3** 学生は、他大学(外国の大学を含む。)との協定に基づき、学部長の許可を得て、当該大学の授業科目を履修し、単位を修得することができる。
- 2 前項の規定により履修し修得した授業科目の単位は、教授会の議を経て、30単位を超えない範囲で、卒業要件の単位として認めることができる。
- 3 履修に関する事項は別に定める。

- (卒業)
- 第12条** 本学に4年以上在学し、第11条の単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。
- 2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書・学位記を授与する。

- 第13条** 削 除
- (学士の学位)
- 第14条** 本学の工学部を卒業した者には、学士(工学)、経営学部を卒業した者には、学士(経営学)、情報科学部を卒業した者には、学士(情報科学)の学位を授与する。

- 2 学位規程は別に定める。

第5章 学年、学期、授業期間及び休業日

- (学年)
- 第15条** 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- (学期)
- 第16条** 学年は、次の2学期とする。
前期 4月1日から9月30日まで
後期 10月1日から翌年3月31日まで

- 2 学長は、必要がある場合、前項の学期の開始及び終了を変更することができる。

- (授業期間)
- 第16条の2** 1年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。

- (休業日)
- 第17条** 休業日は、次のとおりとする。
(1)日 曜 日
(2)国民の祝日 (国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める休日)
(3)創立記念日 11月13日
(4)春季休業

- (5)夏季休業
(6)冬季休業
- 2 学長は、必要がある場合、前項第1号及び第2号の休業日を臨時に変更することができる。
- 3 第1項第4号、第5号及び第6号の休業日は、毎年度、学長が定める。
- 4 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第6章 収容定員

- (収容定員)
- 第18条** 収容定員は、次のとおりとする。
- | | | |
|--------|------|-------|
| 工学部 | 入学定員 | 収容定員 |
| 電気学科 | 270名 | 1080名 |
| 応用化学科 | 130名 | 520名 |
| 機械学科 | 250名 | 1000名 |
| 社会基盤学科 | 115名 | 460名 |
| 建築学科 | 220名 | 880名 |
| 計 | 985名 | 3940名 |
| 経営学部 | 入学定員 | 収容定員 |
| 経営学科 | 130名 | 520名 |
| 計 | 130名 | 520名 |
| 情報科学部 | 入学定員 | 収容定員 |
| 情報科学科 | 200名 | 800名 |
| 計 | 200名 | 800名 |

第7章 入学、休学、転学及び退学

- (入学の時期)
- 第19条** 入学の時期は、毎年4月とする。ただし、再入学の場合は、後期の始めにも許可することがある。

- (入学資格)
- 第20条** 本学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
(1)高等学校を卒業した者
(2)中等教育学校を卒業した者
(3)通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)
(4)外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
(5)文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
(6)専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
(7)文部科学大臣の指定した者
(8)高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
(9)個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

- (入学の出願)
- 第21条** 本学に入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて願出しなければならない。

- (入学者の選考)
- 第22条** 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

- (入学手続)
- 第23条** 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、指定の期

日までに、誓約書、保証書、住民票その他大学の必要とする書類を提出するとともに、所定の入学金、その他の納付金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に対して、入学を許可する。

（保証人）

第24条 前条の保証書には保証人として、父母又はこれに準ずる者の署名を必要とする。

2 保証人は、入学した者の誓約の履行に関し一切の責任を負うものとする。

3 保証人の身分、その他に異動があったときは、直ちにその旨届出なければならない。

（再入学）

第25条 第31条によって退学並びに第38条によって除籍になった者が再入学を願い出たときは、収容力のある場合に限り第22条の定めによらず考査のうえ入学を認めることがある。ただし、在学年限に及んでもなお所定の履修を終わらない理由で除籍になった者の再入学は認めない。

2 第39条によって退学処分となった者の再入学は認めない。

（転入学及び編入学）

第26条 他の大学の同種類の学部からその学長の許可を得て本学に転入学を願い出たものがあるときは、収容力のある場合に限り、学力、健康その他について考査のうえ入学を認めることがある。

2 短期大学卒業者、高等専門学校、国立工業教員養成所及び国立養護教諭養成所を卒業した者、並びに学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第92条の3に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校の課程を修了し、又は卒業した者が編入学を願い出たときは収容力のある場合に限り、学力、健康その他について考査の上、入学を認めることがある。

（転部）

第26条の2 削除

（転コース）

第26条の3 削除

（転学部・転学科）

第26条の4 本学に在学する者が他学部又は他学科への転学部・転学科を願い出たときは、収容力がある場合に限り、転学部・転学科を認めることがある。

2 転学部・転学科については別に定めるところにより選考を行う。

（再入学、転入学、編入学、転学部及び転学科の修業年限）

第27条 再入学、転入学、編入学により入学を認められた者及び転学部、転学科を認められた者の在学すべき年数は、教授会の議を経て、学長が決定する。

（再入学、転入学、編入学、転学部、転学科者及び1年次に入学した者の既修得単位）

第27条の2 再入学、転入学、編入学により入学を認められた者及び転学部、転学科を認められた者の、既に履修した授業科目及び単位数の取扱いについては、教授会の議を経て、学長が決定する。

2 大学又は短期大学を、卒業又は中途退学した者で、本学の第1年次に入学した者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱いについては、申請のあった者について、合計30単位をこえない範囲で、教授会の議を経て、学長が決定する。

（再入学、転入学、編入学、転学部及び転学科手続）

第28条 再入学、転入学、編入学により入学を認められた者及び転学部、

転学科を認められた者は、第23条に定める手続をしなければならない。ただし、再入学、転学部、転学科については、入学金を免除することがある。

（休学）

第29条 疾病その他止むを得ない事情のため2か月以上学習することができないときは、医師の診断書又は詳細な事由書を添えて願い出て、許可を受けて休学することができる。

2 休学は1年以内とする。ただし、特別の事情があるときは引き続き許可するが、通算3年を超えることはできない。

3 休学期間中でも、その事情の終わったときは、届出て復学することができる。

4 休学の期間は、在学年数に算入しない。

5 休学を許可された者は、別表に定める在籍料を納付しなければならない。ただし、前期または後期の休学を許可された場合の在籍料は年額の2分の1とする。

（転学）

第30条 学生が他の大学に転学しようとするときは、事由を詳記して願い出て、許可を受けなければならない。

（退学）

第31条 学生が疾病その他止むを得ない事情のため学業を続ける見込みがないときは、願い出て退学することができる。

第8章 入学検定料、入学金、授業料及びその他の納付金

（入学検定料、入学金及び授業料の額）

第32条 入学検定料、入学金及び授業料の額は、別表のとおり定める。

（授業料の納付時期）

第33条 授業料は、特に指定する場合を除き、年額の2分の1ずつを前期及び後期に分け、それぞれ納付しなければならない。

（休学、復学、退学等の場合の授業料）

第34条 休学を許可された者の授業料は、月割計算により休学の月の翌月から復学の月の前月までの分に相当する額を免除する。ただし、既に納付した授業料については返付しない。

2 復学したときの授業料は、月割計算により復学の月から次の授業料の納付時期前までの月数分に相当する額を、復学の際納付しなければならない。

3 退学又は除籍の場合は、退学又は除籍の月の属する期の授業料は徴収する。

4 停学期間中の授業料は徴収する。

（その他の納付金）

第35条 第32条に定めるもののほか、入学手続時又は在学の間に納付すべきその他の納付金の額は、別表のとおり定める。

（納付金の納付方法）

第36条 第32条及び前条に定める納付金の納付方法は、この章に定めるもののほか、愛知工業大学における授業料その他の費用に関する規則の定めるところによる。

2 いったん納付された入学検定料、入学金、授業料及びその他の納付金は、原則として還付しない。ただし入学辞退者については、大学が定めるところにより、納付金の一部を還付することができる。

第9章 賞 罰

（表彰）

第37条 学生として表彰に値する行為のあった者は、教授会の議を経て

表彰することができる。

(除籍)

第38条 学生が、第9条に定める在学年限におよんでもなお所定の履修を終わらない場合、休学期間が終わって復学を願えない場合、又は授業料もしくは在籍料の納付を怠り督促しても納付しない場合には除籍する。

(懲戒)

第39条 学長は、教育上必要があると認めたときは、教授会の議を経て、学生を懲戒する。

2 懲戒は、退学、停学および訓告とする。ただし、退学は次の場合に限る。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなく出席が常でない者
- (4) 大学の秩序を乱しその他学生としての本分に反した者

(停学期間の取扱)

第40条 停学3か月以上にわたるときは、その期間は、在学期間に算入しない。

第10章 削 除

第41条 削 除

第11章 研究生

(研究生)

第42条 本学学部において特定の専門事項について研究したいと願い出た者があるときは、学部の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ教授会の議を経て研究生として入学を許可することがある。

2 研究生に関する規程は別に定める。

第12章 科目等履修生及び特別聴講学生

(科目等履修生)

第43条 本学学部の授業科目を1科目又は数科目を選んで履修したいと願い出た者があるときは、学部の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ教授会の議を経て科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生に関する規程は別に定める。

(特別聴講学生)

第43条の2 他大学の学生で、当該大学との協定に基づき、本学において授業科目を履修し、単位を修得しようとする者があるときは、学長は教授会の議を経て、特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 特別聴講学生の入学の時期は、学期の始めとする。ただし、特別の事情がある場合は、この限りでない。

3 特別聴講学生に関する事項は別に定める。

第13章 外国人留学生

(外国人留学生)

第44条 外国人であって本学を志願する者に対しては、第7章の各条の規程に準じ、別に定める選考により入学を許可することがある。

(交換留学生)

第44条の2 本学と協定を締結した外国の大学から推薦された者に対しては、所定の手続きを経て、交換留学生として入学を許可することができる。

2 交換留学生に関する事項は別に定める。

第14章 職員組織

(職員組織)

第45条 本学に次の職員を置く。

学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員

2 前項のほか、必要に応じて他の職員を置くことができる。

第15章 大学協議会及び教授会

(大学協議会及び教授会)

第46条 本学に重要事項を審議するため、大学協議会及び教授会を置く。

2 前項に関する規程は別に定める。

第47条 削除

第48条 削除

第49条 削除

第16章 図 書 館

(図書館)

第50条 本学に附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する規則は、別に定める。

第17章 厚生、保健施設

(厚生、保健施設)

第51条 本学に厚生、保健施設を設ける。

第18章 学 生 寮

(学生寮)

第52条 本学に学生寮を置き、学生の願い出により選考の上入寮を許可する。

2 学生寮に関する規則は、別に定める。

第19章 細 則

(細則)

第53条 本学則施行に必要な細則は、別に定める。

附則の記載については省略
(第29条、第5項〔別表〕)

休学者 (単位:円)	
在 籍 料	(年 額) 60,000

(第32条、第35条〔別表〕) (単位:円)

区 分	入学検定料
一般選抜 前期日程 A、M方式 後期日程 M方式 学校推薦型選抜 編入試 帰国生徒入試 外国人留学生入試 同窓生入試	35,000
前期日程Aw方式 共通テストプラス A、M方式	5,000
共通テスト利用入試	20,000

(工学部・経営学部・情報科学部共通)

工学部 (単位:円)

	初年度	2年度	3年度	4年度
	入学手続時	後 期	年 額	年 額
入 学 金	250,000	—	—	—
授 業 料	440,000	440,000	900,000	920,000
教育研究充実費	230,000	230,000	470,000	480,000
合 計	920,000	670,000	1,370,000	1,400,000

経営学部 (単位:円)

	初年度		2年度 年 額	3年度 年 額	4年度 年 額
	入学手続時	後 期			
入 学 金	250,000	—	—	—	—
授 業 料	360,000	360,000	730,000	740,000	750,000
教育研究充実費	205,000	205,000	420,000	430,000	440,000
合 計	815,000	565,000	1,150,000	1,170,000	1,190,000

情報科学部 (単位:円)

	初年度		2年度 年 額	3年度 年 額	4年度 年 額
	入学手続時	後 期			
入 学 金	250,000	—	—	—	—
授 業 料	440,000	440,000	900,000	920,000	940,000
教育研究充実費	230,000	230,000	470,000	480,000	490,000
合 計	920,000	670,000	1,370,000	1,400,000	1,430,000

愛知工業大学学位規程

(目的)

第1条 この規程は、学位規則(昭和28年文部省令第9号)第13条の規定に基づき、愛知工業大学(以下「本学」という。)が授与する学位について必要な事項を定めるものとする。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、次のとおりとする。

- (1) 学士(工学)
- (2) 学士(経営学)
- (3) 学士(情報科学)
- (4) 修士(工学)
- (5) 修士(経営情報科学)
- (6) 博士(工学)
- (7) 博士(経営情報科学)

(学位授与の要件)

第3条 学士の学位は、愛知工業大学学則の規定により、本学を卒業した者に授与する。

2 修士の学位は、愛知工業大学大学院(以下「大学院」という。)学則の規定により、本学大学院の博士前期課程を修了した者に授与する。

3 博士の学位は、大学院学則の規定により、本学大学院の博士後期課程を修了した者に授与する。

4 博士の学位は、前項に規定するもののほか、本学に学位論文を提出して、その審査に合格し、かつ、学力諮問により本学大学院の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを認めた者に授与することができる。

(学位論文の提出)

第4条 第3条第2項及び第3項の規定により学位の授与を申請する者は、学位論文を学長に提出するものとする。ただし、必要により参考論文を添付することができる。

2 第3条第4項の規定により学位の授与を申請する者は、申請書に学位論文、学位論文の要旨、参考論文のあるときは当該参考論文、履歴書及び愛知工業大学博士学位授与申請等に関する取扱要領に定める論文審査手数料を添えて学長に提出する。

3 前項の申請の受理は、当該大学院教授会(以下「大学院教授会」という。)の議を経て、学長が決定する。

4 学位論文は1編とし、3通を提出するものとする。

5 提出した論文及び論文審査手数料は返却しない。

(学位審査委員会)

第5条 学長が申請を受理したときは、大学院教授会において当該専攻から研究指導教員を含む3名以上の教員を選出し、学位審査委員会を組織する。

2 学位審査委員会に主査と副査を置き、主査は研究指導教員から選出する。

3 学位審査委員会は、論文の審査及び試験に関する事項を担当する。

4 学位審査委員会が必要と認めたときは、本学大学院の他の専攻又は他の大学院等の教員等を学位審査委員会に加えることができる。

(論文の審査等の期間)

第6条 修士論文の審査については、学位論文は在学中に提出させ、審査及び試験を修了するものとする。

2 博士論文の審査、博士の学位授与に係る最終試験及び学力の確認は、学位の授与の申請を受理した後、1年以内に終了するものとする。ただし、特別の事由があるときは、大学院教授会の議を経て、その期間を延長することができる。

(学位論文の審査及び試験)

第7条 第5条第3項による試験は、論文の内容を中心とし、学識、研究能力等について筆記又は口頭により行なう。

2 第3条第4項の規定により学位の授与を申請する者は、学位論文の審査のほか、外国語及びその他その専攻科目について本学大学院の博士後期課程の修了者と同等以上の学力を有することを認めるための試問を行なうものとする。

3 前項の規定による外国語科目の試問は、1外国語以上を課すものとする。

(論文の審査及び試験の結果の報告)

第8条 学位審査委員会は、論文の審査及び試験の結果を大学院教授会に報告する。

(課程の修了及び学位論文の審査の議決)

第9条 大学院教授会は、前条の報告に基づいて第3条第2項及び第3項によるものについては課程の修了の可否、第3条第4項によるものについては、その論文の審査及び学力諮問の合否について議決をする。

2 別項の議決は、無記名投票により、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(学位記の授与)

第10条 学長は、前条の議決に基づいて第3条第2項及び第3項によるものについては課程の修了を、第3条第4項によるものについては学位の授与を決定し、学位記を授与するものとする。

2 学位記は、様式1、2及び3のとおりとする。

(様式省略)

(学位論文及び審査結果の要旨の公表)

第11条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文(以下、「博士学位論文」という。)の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表しているときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず博士の学位を授与された者は、やむを得ない理由がある場合には、当該研究科教授会の承認を受けて、博士学位論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学はその博士学位論文の全文を求めに応じて関

覧に供するものとする。ただし、やむを得ない理由が無くなった場合、博士の学位を授与された者は、当該博士学位論文の全文を公表するものとする。

3 前2項に規定する博士の学位を授与された者が行う公表は、インターネットの利用によって行うものとし、第1項の規定により、公表する場合は、学位の次に「愛知工業大学審査学位論文」と、また前項の規定により公表する場合は学位の次に「愛知工業大学審査学位論文の要約」と明記しなければならない。

4 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に当該博士学位論文の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用によって公表するものとする。

(リポジトリの運用)

第11条の2 前条のインターネットの利用による公表は、原則として「愛知工業大学学術情報リポジトリ」(以下、「リポジトリ」という。))によって行うものとし、博士の学位を授与された者が行う公表は、本学が協力するものとする。

2 リポジトリの利用に関する事項は、別に定める。

(学位の名称の使用)

第12条 本学において学位を授与された者は、学位の名称を用いるときは、学位の次に「(愛知工業大学)」と付記するものとする。

(学位授与の取消)

第13条 本学において学位を授与された者で、次の各号の一に該当するときは、学長は、学士の学位にあっては教授会、修士及び博士の学位にあっては大学院教授会の議を経て授与した学位を取消すものとする。

- (1) 不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき。
- (2) 学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為のあったとき。

附則の記載については省略

愛知工業大学における授業料 その他の費用に関する規則

第1条 愛知工業大学(以下「大学」という。))における授業料その他の費用に関しては、愛知工業大学学則、愛知工業大学大学院学則及びその他の規則に定めるものの他は、この規則の定めるところによる。

(授業料の徴収方法)

第2条 授業料の徴収は、前期(4月から9月まで)及び後期(10月から翌年3月まで)に区分して行うものとし、それぞれの期において徴収する額は年額の2分の1に相当する額とする。科目等履修生について徴収する額は1単位の額に、それぞれの学期において履修すべき単位数を乗じて得た額とする。

2 前項の授業料は、入学手続時に係るものについて特に指定する場合を除き、前期にあっては4月20日から5月6日までに、後期にあっては9月20日から10月6日までに徴収するものとする。

(入学の時期が徴収の時期後である場合における授業料の額及び徴収方法)

第3条 特別の事情により、入学する時期が徴収の時期後である場合に前期又は後期において徴収する授業料の額は、授業料年額の2分の1に相当する額とし、入学の日の属する月に徴収するものとする。

(復学の場合における授業料の額及び徴収方法)

第4条 前期又は後期の中途において復学をした者から前期又は後期において徴収する授業料の額は、授業料の年額の12分の1に相当する額に復学の日の属する月から次の徴収の時期前までの月数を乗じて得た額とし、復学の日の属する月に徴収するものとする。

(学年の途中で卒業等をする場合における授業料の額及び徴収方法)

第5条 学年の途中で卒業し、又は修了する者から徴収する授業料の額は、卒業又は修了する月が、当該学年の前期に属するときは、授業料の年額の2分の1に相当する額、後期に属するときは、その年額を、それぞれ第2条第2項の例により徴収するものとする。

(学部卒業延期者の授業料の額及び徴収方法)

第6条 4年次において、所定の単位を修得できず卒業延期となった者のうち、未修得単位数が次年度初めに10単位未満の者の授業料は、前期(4月から9月まで)及び後期(10月から3月まで)に区分して徴収するものとし、それぞれの学期において徴収する額は、年度初めの未修得単位数を基に別表に定める方法により得た額とする。

2 卒業延期となった者の休学及び退学において徴収する前項の授業料は月割計算を行わないものとする。

(休学における在籍料の徴収)

第7条 休学は在籍料相当額を徴収する。

2 前期又は後期の中途において休学をする者が、当該期の授業料等を既に納付している場合の在籍料は徴収しないものとする。

3 前期又は後期の中途において復学する者から徴収した授業料等が年額の2分の1と同額で在籍料を既に納付している場合は、在籍料を還付するものとする。

(退学等の場合における授業料の額)

第8条 後期の徴収の時期前に退学し、又は除籍された者から徴収する授業料の額は、授業料の年額の2分の1に相当する額とする。

(入学金及び入学検定料の徴収方法)

第9条 入学金は、大学の通知に基づき、入学の意思を表示する者について、その際徴収するものとする。

2 入学検定料は、入学の志望を受理するときに徴収するものとする。

(学生寮に係る費用及び徴収方法)

第10条 学生寮に入寮を許可する者については、学生寮の維持保全その他運営に要する費用の一部を徴収するものとする。

2 入寮費は、入寮を許可するときに徴収するものとする。

3 寮費及び維持費は、いずれも前期(4月から9月まで)及び後期(10月から翌年3月まで)の2期に区分して、前期にあっては入寮を許可するとき、後期にあっては10月に、それぞれ6か月分ずつを徴収するものとする。

4 前期又は後期の中途で入寮する者から前期又は後期において徴収する寮費及び維持費の額は、その月額に入寮の日の属する月から次の徴収の時期前までの月数を乗じて得た額とし、入寮の日の属する月に徴収するものとする。

5 前期又は後期の中途で退寮する者から前期又は後期に徴収する寮費及び維持費の額は、その月額に退寮の日の属する月までの月数を乗じて得た額とし、その額が第3項により徴収した額に満たないときは、その差額に相当する額を、その際還付するものとする。

(理事長の承認を要する費用の額及び徴収方法)

第11条 この規則に定めるもののほか、大学における一般的な運営上必要と認められる検査料、手数料その他の費用に関しては、理事長の承認を得て学長が定めるものとする。

(授業料等の免除及び徴収の猶予)

第12条 学長は、経済的理由によって納付が困難と認めるとき、その他やむを得ない事情があると認めるとき、若しくは学業成績優秀と認めるときその他大学の運営上特に必要があると認めるときは、次項及び第3項で定めるところにより、学則に定める入学検定料、入学金、授業料、その他

の納付金等の全部又は一部を免除し、若しくはその徴収を猶予することができるものとする。

2 前項の規定による徴収の猶予は、当該年度に係る授業料その他の費用について猶予を受けようとする者の申請に基づき、学長が理事長の承認を得て行うものとする。この場合において徴収猶予の期間は当該年度を超えて定めないものとする。

3 第1項による免除は、当該事例について、学長と理事長が協議して定めるところにより行うものとする。

(既納の授業料その他の費用)

第13条 この規則に別段の定めのあるものを除くほか、既に納付された授業料その他の費用は原則として還付しない。ただし、大学が定める日までに入学を辞退した者に限り、授業料その他の費用の一部を還付することができる。

(実施の細目)

第14条 この規則に定めるもののほか、この規則の実施について必要な細目は理事長の承認を得て学長が定めるものとする。

附則の記載については省略

第6条別表

学 部	授 業 料
工 学 部	100千円＋(20千円×未修得単位数)
経 営 学 部	80千円＋(20千円×未修得単位数)
情報科学部	100千円＋(20千円×未修得単位数)

履 修 細 則

(総則)

第1条 授業科目の履修に関しては、学則に定めることのほか、この細則による。

(教育課程表)

第2条 各専攻、各年次において履修すべき授業科目及びその単位数は、別表の教育課程表による。

(履修登録)

第3条 専攻、各年次に指定された授業科目のうち、当該学期中に履修しようとするものはすべて指定された期間内に履修登録しなければならない。ただし、1年を通して開講される授業科目は前期に履修登録するものとする。なお、必修科目は必ず履修登録し、選択科目及び選択必修科目は各専攻教育課程表に定める範囲で履修登録するものとする。また、履修登録については、授業科目担当教員または当該学科の許可が必要な場合がある。定員の超過または著しく受講者数が少ない場合、受講者数の調整、履修制限または授業科目の開講を行うことがある。

2 履修登録できる授業科目の単位数の上限は次のとおりとする。

	学期毎	年度毎
工 学 部	30単位	48単位
経 営 学 部	28単位	48単位
情報科学部	30単位	48単位

ただし、卒業・進級要件に含まない授業科目、単位互換制度による授業科目及び学科が定めた授業科目は除く。

3 前項の規定にかかわらず、進級・卒業判定時点での通算GPAが3.0以上の学生を対象に、翌年度の年度毎単位数上限を52単位とする。

4 既に単位を修得した授業科目は、前年度の進級の判定に影響を与えないことを条件として、既に修得した単位を無効とした上で再び履修すること

ができる。これを「再チャレンジ履修」という。

5 同一授業科目を同一学期に二つ以上履修することはできない。

6 授業科目の再履修は次のとおりとする。

(1) 当該専攻において定められた学年学期までに開講済かつ単位未修得の授業科目を履修登録することができる。これを「再履修」という。

(2) 当該専攻の授業科目については、原則として他専攻で再履修することはできない。ただし、学科・教室が承認した授業科目では、他専攻で再履修することができる。

(3) 他専攻で再履修した授業科目は、当該専攻の教育課程表に準じて履修したものとする。

7 当該学科他専攻の授業科目の履修は次のとおりとする。

(1) 履修可能な当該学科他専攻の専門教育科目は次の科目とする。

ア 当該学科が履修を認めた科目

イ 副専攻に定めた当該専攻にない科目

ウ 教職課程に関する科目

(2) 専門教育科目を履修し修得した単位は、卒業及び進級に必要な専門教育科目(選択)の単位として認定する。認定する単位数の上限は次のとおりとする。

工 学 部	電気学科	20単位
	応用化学科	10単位
	機械学科	30単位
	社会基盤学科	10単位
	建築学科 建築学専攻	17単位
	建築学科 住居デザイン専攻	23単位
経 営 学 部	経営学科	30単位
情報科学部	情報科学科	40単位

8 他学科の授業科目の履修は次のとおりとする。

(1) 履修可能な他学科の専門教育科目は次の科目とする。

ア 当該学科が履修を認めた科目

イ 副専攻に定めた当該学科にない科目

ウ 教職課程に関する科目

(2) 専門教育科目を履修し修得した単位は、卒業及び進級に必要な専門教育科目(選択)の単位として認定する。認定する単位数の上限は次のとおりとする。

工 学 部	電気学科	6単位
	応用化学科	6単位
	機械学科	6単位
	社会基盤学科	6単位(副専攻対象科目に限る)
	建築学科	10単位
経 営 学 部	経営学科	16単位
情報科学部	情報科学科	16単位

9 単位互換制度によって開設される他大学の授業科目は、10単位を限度として履修できる。履修し修得した単位は、総合教育科目4単位、専門教育科目6単位まで、卒業及び進級に必要な単位として認定する。ただし、専門教育科目として認定する単位は、社会基盤学科を除き前項の単位に含まれる。

10 履修登録した授業科目は指定された期間内に取り消すことができる。ただし、必修科目の履修登録は取り消しを認めない。なお、履修登録を取り消した授業科目は学期・年度の履修上限単位数及びGPA算出の対象から除外する。

(履修手続)

第4条 削除

(定期試験)

第5条 学期の終りに予め日時を決めて、その学期に履修登録した授業科目につき試験を行なう。これを「定期試験」という。

(特別再試験)

第6条 削除

(追試験)

第7条 定期試験を病気その他やむを得ない事由のために欠席した者の願い出により授業科目担当教員が試験を行なうことがある。これを「追試験」という。追試験を受けようとする者は試験日を含む5日以内(土日祝含む)に所定の手続きのうえ授業科目担当教員に願い出て、成績発表予定日前に試験を受けるものとする。ただし担当教員は事情により卒業・進級判定に影響を及ぼさない範囲で追試験の実施を延期し、成績評価を保留することができる。

(受験)

第8条 試験を厳正に実施するために、次の各号を定める。

- (1) 受験中は学生証の写真の貼付してある面が見えるよう、常に机上に提示して置かなければならない。これを忘れて来た者の受験は認めない。
- (2) 学生証を忘れた者は、受験前に所定の手続きのうえ仮学生証の発行を受けることができる。ただし、有効期限は発行日限りとする。
- (3) 試験においては、あらかじめ指定された座席、または監督者の指示する座席に着席するものとする。
- (4) 書籍、ノート類筆箱等はカバン等の中にしまい、見ることができないようにしなければならない。参照可の試験における参照書類は各自持参の物でなければならない。試験場での貸借は認めない。
- (5) スマートフォン等の情報通信機器は電源を切り、カバン等の中にしまうこと。時計としての使用も認めない。
- (6) 答案用紙の配布を受けたら、まず学籍番号と氏名を所定欄に記し、監督者の求めにより提示しなければならない。
- (7) 試験開始30分以上の遅刻及び30分以内の退場を認めない。
- (8) 試験中態度不良もしくは監督者の指示に違反した者には退場を命ずることがある。

(不正行為)

第9条 試験中(定期試験、追試験、中間試験、小テスト等)において、第8条に違反する行為を行ったと認められる場合は不正行為とみなし、その学期中の全ての科目の試験の成績を零点とし、それ以後当該学期中の試験を受験させないものとする。このほか、場合によっては学則第39条による懲戒を加える。

(単位の認定)

第10条 授業科目の所定の単位並びに成績は、当該授業科目の終了時にまとめて与えられる。

2 当該学期及び通算の学修状況及び成果を示す指標として、グレードポイントアベレージ(履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という。)を算出する。

3 GPAの算出方法は以下のとおりとする。

(1) 科目の成績毎にグレードポイント(GP)を配し、履修単位数あたりの平均点を算出する。

(2) 成績評価基準

成績 得点 GP

秀:90点以上 4 到達目標を極めて優秀な水準で達成している。

優:80点以上 3 到達目標を優秀な水準で達成している。

良:70点以上 2 到達目標を概ね達成している。

可:60点以上 1 到達目標の必要最低限は達成している。

F:59点以下 0 到達目標の必要最低限を達成していない。

失:評価対象外 0 出席日数不足、試験欠席などで評価の対象とならない。

(3) GPA算出式

$$GPA = \frac{(\text{各科目の単位数} \times \text{当該科目で得たGP}) \text{の合計}}{\text{履修登録したすべての科目の総単位数}}$$

ただし、再履修をした科目は、過去の履修登録を算出対象外とする。

4 教職科目、インターンシップ、高大連携科目、ゼミナール形式の科目及び学科が指定する科目は、GPA算出対象外科目とする。

5 成績通知書及び成績確認書には、当該学期GPA及び通算GPAを記載する。

(成績)

第11条 成績については、学生及び保証人に通知する。通知する内容は次のとおりとする。

(1) 履修した科目の成績、認定時期

(2) 修得した科目の単位数

(3) 当該学期GPA、通算GPA

2 成績評価に疑問が生じた場合、指定された期間内に所定の手続きのうえ成績説明を申請することができる。ただし、成績変更を直接求める内容の申請は受け付けない。

(進級)

第12条 各学科が定める進級要件を満たした者については、教授会の議を経て進級させる。

2 進級要件を満たしても当該年次に1年以上の在学をしていない者は進級できない。

附則の記載については省略

愛知工業大学における副専攻に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、愛知工業大学における副専攻に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 副専攻は、学部学科における専門教育に加え、人間性の幅を広げることを目的とする。

2 副専攻は、様々な知識を体系的に学び、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流及び多様な人々との協働を図ることのできる人材を養成することを目的とする。

(副専攻の要件)

第3条 副専攻は、関係する学部等において開設するものとする。

2 副専攻は、定められた卒業要件に従い専攻する学科専攻の専門教育課程表とは異なる領域について学ぶものとする。

3 副専攻の名称、授業科目名、その他の副専攻に関し必要な事項は、別に定める。

4 副専攻を修了するために必要な単位数は別に定める。

(卒業に必要な修得単位数への算入)

第4条 副専攻の授業科目の履修により修得した単位は、卒業に必要な修

得単位数に算入できる。

(修了認定の要件)

第5条 副専攻の修了は、次に掲げる要件を全て満たした学生に行う。

- (1) 卒業予定者であること。
- (2) 修了を希望する副専攻において必要な単位数を修得していること。
- (3) 副専攻の修了証明書発行を願ひ出ていること。

(修了認定)

第6条 副専攻の修了認定は、学部等の教授会または代議員会の議を経て、学長が行う。

(修了証書の授与)

第7条 学長は、前条の認定に基づき、当該学生に、副専攻修了証書を当該学生の卒業時に授与する。

(庶務)

第8条 副専攻に関する庶務は、教務・学生サービス課が処理する。

(その他)

第9条 この規程に定めるもののほか副専攻に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

愛知工業大学における副専攻の実施に関する細則

(趣旨)

第1条 この細則は、愛知工業大学で編成する副専攻の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(副専攻)

第2条 副専攻の名称と受講制限は別表1に定めるとおりとする。

(授業科目)

第3条 副専攻ごとの授業科目名、専門教育科目・総合教育科目の別、単位数は別表2に定めるとおりとする。

2 学生が所属する専攻で開講されている専門教育科目は、副専攻の修了に必要な単位数に算入しないものとする。

(副専攻の修了)

第4条 副専攻の修了に必要な単位は6単位とする。

(事務の所管)

第5条 副専攻に関する事務は、教務・学生サービス課が所管する。

(雑則)

第6条 この細則に定めるもののほか、副専攻の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この細則は、令和4年4月1日から施行する。

別表1 (第2条関係)

副専攻の名称	受講制限
SDGsとものづくり	なし
ヒューマンサイエンス	なし
数理科学	なし
グローバル メディア アンド カルチャー	なし

別表2 (第3条関係)

副専攻の名称	授業科目名	専門教育科目・総合教育科目の別	単位数
SDGsとものづくり	ものづくり文化	総合教育科目	2
	ものづくり文化実習	総合教育科目	1
	創造と倫理	総合教育科目	2
	環境と地域共創	総合教育科目	2
	科学技術と自然と人間	総合教育科目	2
	現代の経済	総合教育科目	2
ヒューマンサイエンス	健康の科学	総合教育科目	2
	健康・スポーツ科学実習I	総合教育科目	1
	健康・スポーツ科学実習II	総合教育科目	1
	こころの科学	総合教育科目	2
	人間の行動	総合教育科目	2
	人間性の探究	総合教育科目	2
	表現文化	総合教育科目	2
数理科学	微分方程式	専門教育科目	2
	フーリエ解析	専門教育科目	2
	確率・統計	専門教育科目	2
	幾何学	専門教育科目	2
	物理学(波動)	専門教育科目	2
	物理学(電磁気学)	専門教育科目	2
	量子物理	専門教育科目	2
	複素関数論	総合教育科目	2
	代数学	総合教育科目	2
	統計物理	総合教育科目	2
	質点系と剛体の力学	総合教育科目	2
グローバル メディア アンド カルチャー	中国のことばと文化	総合教育科目	2
	フランスのことばと文化	総合教育科目	2
	ドイツのことばと文化	総合教育科目	2
	英語圏のことばと文化A	総合教育科目	2
	英語圏のことばと文化B	総合教育科目	2
	海外研修英語	総合教育科目	1
	海外留学英語	総合教育科目	4

転学部・転学科に関する細則

第1章 総則

(総則)

第1条 学則第26条の4による転学部・転学科の取り扱いについては、学則の定めることのほか、この細則による。

第2章 転学部・転学科

(転学部・転学科の時期及び出願)

第2条 転学部・転学科の時期は、各学年末とし、その願ひ出は、指定された期日までに、所属学科長、所属学部長及び教学センター長を経由して学長に願ひ出るものとする。

2 転学部・転学科の可能数は、若干名とし、転学部・転学科先に収容力がある場合とする。

(出願資格)

第3条 転学部・転学科を志望することができる者は、転学部・転学科先の勉学に耐えうる能力と強い意志のある者とする。

(出願手続き及び審査)

第4条 転学部・転学科を志望する者は、別に定める願書及び理由書に検定料を添えて提出するものとする。

2 所属学科長は、転学部・転学科が妥当と認めたときは、学部長に報告するとともに、教学センター長に申し出るものとする。

3 転学部(科)先の学科長は、志願者の出願書類に基づき、転学部・転学

科理由の審査、取得単位の状態、学力等の審査を行い、その結果を学部長に報告するとともに、教学センター長に申し出るものとする。教学センター長は教務委員会の議を経て転学部(科)先の学部長に報告し、教授会の承認を得るものとする。

(審査の基準)

第5条 審査の基準は、転学部・転学科先で修学できる十分な学力がある者とする。

(在学年数)

第6条 転学部・転学科を認められた者の在学年数は、その者が本学に在学した年数(休学期間を除く)を在学年数と認め、在学期間に算入する。

(取得科目及び同単位数の取り扱い)

第7条 転学部・転学科が認められた者が、在籍学部・学科において既に修得した授業科目及び単位数については、転学部・転学科先の単位として認定するものとする。ただし、卒業要件、進級要件となる授業科目及び単位数の認定は受け入れ学部・学科の意向によるものとする。

2 授業科目及び単位数に係る必修・選択の区分については受け入れ学部・学科の意向により認定するものとする。

(転学部・転学科手続き)

第8条 転学部・転学科を認められた者は、指定の期日までに所定の転学部・転学科の手続きを完了するものとする。

第3章 学納金等

(学納金等)

第9条 転学部・転学科に伴う学納金の扱いは別に定める。

附則の記載については省略

学科内の転専攻取扱要領

(総則)

第1条 転専攻の取り扱いについては、この要領によるものとする。

(転専攻の時期及び受入れ人数)

第2条 転専攻の時期は、第2年次末(ただし、経営学部経営学科及び情報科学部情報科学科においては1年次及び2年次末)とし、その願い出は、指定された期日までに、所属学科長(専攻主任)、学部長及び教学センター長を経由して学長に願い出るものとする。

2 転専攻の受入れ人数は、各専攻の当該年度募集人数の10%とする。

(出願資格)

第3条 転専攻を志望することができる者は、転専攻先の勉学に耐える能力と強い意志のある者とする。

2 転専攻を志望することができる者は、所属専攻及び転専攻先の両方の進級要件を、満たしている者とする。ただし、情報科学部情報科学科においてはこの限りではない。また、進級要件を課していない学科は別途定める。

(出願手続き)

第4条 転専攻を志望する者は、別に定める転専攻願書を提出するものとする。

2 学科長は、出願書類により要件を満たし、転専攻が妥当と認めたときは、学部長に報告するとともに、教学センター長に申し出るものとする。

3 教学センター長は、教務委員会の議を経て教授会の承認を得るものとする。

(承認の基準)

第5条 転専攻の承認要件は、第2条第2項及び第3条を満たした者とする。

(在学年数)

第6条 転専攻を認められた者の在学年数は、その者が本学に在学した年数(休学期間を除く)を在学年数と認め、在学期間に算入する。

(修得科目及び同単位数の取扱い)

第7条 転専攻が認められた者が、在籍専攻において既に修得した授業科目及び単位数については、転専攻先の単位として認定するものとする。

2 授業科目及び単位数に係る必修・選択の区分については、転専攻先の区分に変更するものとする。

(転専攻の手続き)

第8条 転専攻を認められた者は、指定の期日までに所定の手続きを完了するものとする。

附則の記載については省略

愛知工業大学大学院工学研究科 入学前履修に係る申合せ

愛知工業大学大学院科目等履修生規程(以下「規程」という。)第5条第2項により、大学院工学研究科博士前期課程への入学を志願し、講義を受講する者(以下「科目等履修生」という。)の取扱について、次のとおり申合せ。

1 志願資格

科目等履修生として、入学を志願し受講する者は、学部4年次であって、学科専攻において、3年次後期終了時までの成績順位が30%以内の者とする。

2 履修条件

(1) 履修単位は、4単位までとする。

(2) 履修科目は、工学研究科入学予定専攻の特論とする。ただし、履修する科目は、学部学科専攻において指導を受けるものとする。

3 手続

科目等履修生として入学を志願する者は、規程に準じて手続を行う。

4 認定科目の取扱

科目等履修生として受講し、認定された科目は、大学院工学研究科に入学後、博士前期課程当該専攻における修得単位として認定する。

5 申合せ

この申合せは、平成21年2月5日から施行し、平成21年度学部4年次に在籍する者から適用する。

愛知工業大学再入学に関する規程

(総則)

第1条 愛知工業大学学則(以下、「学則」という。)第25条、愛知工業大学大学院学則(以下、「大学院学則」という。)第14条による再入学の取り扱いについては、学則及び大学院学則の定めることのほか、この規程の定めるところによる。

(出願資格)

第2条 再入学を願い出ることができる者は、学則第25条又は大学院学則第14条の定めによる。このほか、学部に限っては退学・除籍日から10年未満の者とする。

(出願手続及び審査・決定)

第3条 再入学志願者は、指定された書類に検定料を添えて指定期間内に願出しなければならない。

2 再入学の志願先は退学又は除籍時に所属していた学科、専攻とする。ただし、退学又は除籍時に所属していた学科、専攻が廃止、改組等により存しないときは、同一とみなすことができる学科、専攻で協議のうえ、決定する。

3 再入学志願者に対して当該学部又は当該研究科は書類及び面接等により再入学の可否を審査し、当該教授会の議を経て、学長が決定する。

(再入学の時期)

第4条 再入学の時期は、毎年4月とする。ただし、後期の始めにも許可することがある。

(再入学の年次)

第5条 再入学を許可する学年は原則、退学又は除籍時の学年とする。ただし、退学又は除籍時の単位修得状況等により当該学部又は当該研究科が他の年次に入學させることが適当であると判断した場合は、この限りではない。

(在学期間及び休学期間)

第6条 再入学後の在学期間は学則第9条第1項に定める在学年限又は大学院学則第2条第5項もしくは第6項に定める在学年限から、退学前又は除籍前に在学していた期間を差し引いた期間とし、当該教授会の議を経て、学長が決定する。

2 再入学後の休学期間は退学前又は除籍前の休学期間と合算して、学則第29条第2項又は大学院学則第22条第2項に規定する期間を超えることはできない。

(教育課程)

第7条 再入学が認められた者の教育課程は、再入学時点で現に運用されている教育課程によるものとし、再入学する学年の正規学生と同年度を適用する。

(既修得科目及び単位数)

第8条 再入学が認められた者の既に履修した授業科目及び単位数については、学則第27条の2第1項又は大学院学則第14条第2項の定めるところにより、当該教授会の議を経て、学長が決定する。

(再入学の手続)

第9条 再入学が認められた者は、学則第23条第1項又は大学院学則第13条第1項に定める手続をしなければならない。

(入学金及び授業料)

第10条 再入学が認められた者の入学金及び授業料の額は、再入学者の属する学年の在学者と同額とする。ただし、入学金については、再入学者の属する学年の入学金を標準修業年限で除した数に最短修業年限を乗じた額とする。

2 前項のほか、学則第28条の定めにより入学金を免除することがある。

附則の記載については省略。

愛知工業大学学生懲戒規程

(趣旨)

第1条 この規程は、愛知工業大学学則第39条及び愛知工業大学大学院学則第30条の規定に基づき、学生の懲戒処分に関して必要な事項について定める。

(懲戒の対象となる行為)

第2条 懲戒の対象となる行為は、次の各号の行為をいう。

- (1) 人権を侵害する行為
- (2) 犯罪行為等、社会の秩序を乱す行為
- (3) ハラスメント行為
- (4) 情報倫理に反する行為
- (5) 学問的な倫理に反する行為
- (6) 本学の教育・研究活動を妨害する等、本学の秩序を乱す行為
- (7) 試験等における不正行為
- (8) 学生の本分に反する行為
- (9) その他、本学の学則及び規程に違反する行為

2 前項各号において別に規程が定められている場合はその規程によるものとする。

(懲戒の種類)

第3条 懲戒の種類は、次のとおりとする。

- (1) 退学は、学生としての身分を剥奪するものとする。
- (2) 停学は、一定期間、教育課程の履修及び課外活動を停止するものとする。
- (3) 訓告は、学生の行った非違行為を戒めて反省を求め、将来にわたってそのようなことのないよう書面により注意する。

(停学の期間)

第4条 停学の期間は、無期又は有期とする。

(不正行為)

第5条 試験等において不正行為を行ったと認められる学生に対しては、履修細則第9条の規定により処分するとともに当該学生が在籍する学部の長は厳重注意を行う。

2 複数回不正行為を行ったとき又は悪質な不正行為を行ったときは、懲戒の対象とする。

(懲戒対象行為の確認)

第6条 懲戒対象行為が確認された場合、教学センター長は当該学生等に対する事情聴取等の調査を行い、事実関係を確認する。

2 調査にあたり、教学センター長は事前に学生に対して要旨を口頭又は文書で告知し、当該事実に関する弁明の機会を与えなければならない。

3 当該学生が意見陳述の機会を与えられたにもかかわらず、正当な理由なく欠席又は文書を提出しなかった場合は、当該権利を放棄したものとみなす。

(委員会の設置)

第7条 前条により懲戒対象の行為を確認した場合、懲戒委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2 委員会は、学生委員会委員をもって組織する。

3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、意見又は説明を聴くことができる。

(委員会委員長)

第8条 委員会の委員長は、学生委員会委員長をもってあてる。

2 委員長に事故があるときは、学長が指名した者がその職務を代理する。

(審議報告)

第9条 委員長は委員会の審議結果を、懲戒対象の学生が所属する学部長又は研究科長に報告する。

(懲戒処分の決定)

第10条 学部長又は研究科長は、委員会の原案をもとに教授会又は研究科教授会において審議し、その結果を学長に報告する。

2 学長は前項の報告に基づき、懲戒処分を決定し、文書により当該学生に通知する。

3 前項の通知を学生に行った場合は、保証人に対し通知の写しを送付する。

4 懲戒処分を行った場合は、処分内容を学内に告示する。

（無期停学の解除）

第11条 学長は、無期停学の学生について、停学の解除が適当であると認めたときは、委員会において協議し、教授会又は大学院教授会の審議を経て、停学を解除することができる。

（不服申立て）

第12条 懲戒を受けた学生は、懲戒の発効日から2週間以内に明確な証拠を提示して、不服の申立てをすることができる。ただし、期間内に不服申立てができない正当な理由が認められる場合は、その理由が消滅した日から起算して1週間以内に不服申立てを行うことができる。

2 前項の不服申立ては、学長への不服申立書の提出をもって行う。

（不服申立審査委員会）

第13条 学長は、前条の不服申立ての審査を行うため、不服申立審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置する。

2 審査委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 副学長
- (2) 学長の指名する教職員 若干名

3 審査委員会の長は、副学長とする。

（不服申立ての審査手続）

第14条 審査委員会は、不服申立書に基づき審査を行い、必要と認める場合には、学外有識者の出席を求めることができる。

2 不服申立てをした学生は、書面で意見を述べ、資料を提出することができる。

3 審査委員会は、懲戒の内容が相当であると判断した場合には、不服申立ての却下を求める旨の勧告を学長に行う。

4 審査委員会は、懲戒の内容が相当でないと判断した場合には、懲戒の取消し又は変更を求める旨の勧告を学長に行う。

（不服申立てに対する措置）

第15条 学長は、前条第3項の勧告を受け、不服申立てを却下する決定をしたときは不服申立てをした学生に通知する。

2 学長は、前条第4項の勧告を受けた場合は、教学センター長に対し、懲戒委員会の協議を経て、新たな懲戒原案を作成するよう指示する。

3 前項の懲戒原案については、教授会又は研究科教授会を経て学長が決定し、不服申立てをした学生に通知する。

（庶務）

第16条 この規程に関する庶務は、教務・学生サービス課が行う。

（補則）

第17条 この規程に定めるもののほか、学生の懲戒に関し必要な事項は、別に定める。

附則の記載については省略

愛知工業大学クラブ活動に関する規程

（目的）

第1条 この規程は、愛知工業大学（以下、「本学」という。）のクラブ活動に関して必要な事項を定め、課外活動を振興し、その発展に資することを目的とする。

（定義）

第2条 クラブとは、課外活動のうち、スポーツ、芸術、文化、学術などの分野で、本学の認定を受けた学生の団体をいう。

2 クラブの設立趣旨に基づき学生が自主的に行う活動をクラブ活動という。

（認定）

第3条 学生が団体を結成し、本学の認定を受けようとするときは、次の各号を満たし、願出書に規約と部員名簿、その他必要な書類を添えて申請し、学生委員会の議を経て、学長の承認を得なければならない。

- (1) 本学学部生4名以上で構成されていること
- (2) 本学専任教員を顧問に置くこと
- (3) 学生責任者を置くこと
- (4) 会計責任者を置くこと

（継続）

第4条 クラブが認定を受けた年度を超えて活動を継続しようとするときは、毎年度、本学が定める期日までに継続の手続きをしなければならない。

（解散）

第5条 クラブが解散するときは、本学に届出をしなければならない。

2 前条に定める手続きを怠ったクラブは、解散したものとする。

（顧問・指導者）

第6条 顧問はクラブ活動に関し、適切な助言及び必要な諸手続を行う。

2 クラブは、本学の許可を得て、指導者を置くことができる。ただし、スポーツ奨学生を受け入れるクラブは、指導者を置かなければならない。

（活動支援）

第7条 本学はクラブに対して可能な範囲において次の支援を行う。

- (1) 本学の名称使用
- (2) 課外活動施設の貸与
- (3) 学内施設・備品等の優先的な利用
- (4) 補助金の交付
- (5) その他本学が必要と認める支援

（活動）

第8条 クラブ活動を行う上で次の各号に掲げる事項を行わなければならない。

- (1) 構成員の届出
- (2) 活動に必要な諸手続
- (3) 適正な会計管理
- (4) その他本学が必要と認める事項

（処分）

第9条 クラブ又はその構成員が法令、学則その他本学の諸規則に反する行為を行ったと認められる場合は、学生委員会の議を経て、学長はクラブに対し、次の各号に掲げる処分を行うことができる。

- (1) 認定の取消
- (2) 活動の停止
- (3) 厳重注意

2 前項の処分がある場合は、本学は第7条の活動支援を停止することができる。

（庶務）

第10条 クラブ活動に関する事務は、教務・学生サービス課が処理する。

（雑則）

第11条 第7条第4号に関する事項は、別に定める。

2 この規程に定めるもののほか、クラブ活動に関し必要な事項は、別に定める。

附則の記載については省略

愛知工業大学研究倫理指針

1 基本的な考え方

愛知工業大学（以下「本学」という。）は、学術の理論と応用を教授研究し、知的道徳的に円満な教養を有する高級技術者を育成することを目的とし、あわせて、人類の福祉に貢献するとともに地方産業の技術的発展に寄与することを使命としている。

この目的及び使命を遂行していく上で、研究者は高度な倫理的規範を保持し、社会の厚い信頼を得ることが必要不可欠である。

愛知工業大学研究倫理指針（以下「指針」という。）は、本学の研究が社会の信頼を得つつ適正に推進されるよう、本学の研究者が研究を遂行する上で遵守すべき規準を定めたものである。

2 不正行為の定義

この方針において不正行為とは、発表された研究成果の中に示されたデータ、情報または調査結果等の捏造、改ざん、盗用、不適切なオーサiership、二重投稿をいい、故意による行為のみならず研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠ったことによる行為も含むものとする。

- (1) 捏造とは、存在しないデータ、研究成果等を作成するものをいう。
- (2) 改ざんとは、研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工するものをいう。
- (3) 盗用とは、他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究成果、論文又は用語を当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用するものをいう。
- (4) 不適切なオーサiershipとは、研究成果の発表物の「著者」となることができる要件を満たさない者を著者として記載すること、著者としての要件を満たす者を著者として適切に記載しないこと又は当人の承諾なしに著者に加えるものをいう。
- (5) 二重投稿とは、他の学術誌等に既発表又は投稿中の論文と本質的に同じ論文を投稿するものをいう。
- (6) 前5号に掲げる行為のほか、研究活動の伝統的な価値を侵害する行為で、研究プロセスに有害な影響を与えうる好ましくない研究行為のうち、研究不正として扱うことが妥当と判断される行為をいう。

3 研究者の定義

指針における「研究者」は、本学の教員、本学において研究活動に従事する客員教員、研究員等とし、学部学生及び大学院学生であっても、研究に関わるときは、「研究者」に準ずるものとする。

4 研究者の責務

(1) 基本的事項

- ① 研究者は、本学の使命の実現に向け、各人の自覚に基づいた高い倫理的規範のもとに、良心と信念に従い誠実に行動しなければならない。
- ② 研究者は、人間の尊厳と基本的人権を尊重しなければならない。
- ③ 研究者は、我が国の法令及び本学の諸規程、規則等のほか、国際的に認められた規範、規約、条約等を遵守しなければならない。
- ④ 研究者は、自己研鑽に努め、常にその能力を最高水準に保つよう努力しなければならない。
- ⑤ 研究者は、専門的知識をいたずらに過信することなく、常に自らの行動や発言を律するよう努めるとともに、自らが関与する研究が一般社会や人々に与える影響を常に謙虚に自覚しな

ければならない。

- ⑥ 研究者は、異なる学問分野等に係る固有の文化や価値観等の理解に努め、それらを尊重しなければならない。
- ⑦ 研究者は、相互に独立した対等の研究者として互いの学問的立場を尊重しなければならない。また、教員は、学部学生及び大学院学生が研究に関わるときは、学生が不利益を被らないように十分配慮しなければならない。

(2) 研究計画の立案、実施

- ① 研究者は、研究計画の立案にあたっては、過去に行われた研究業績の調査・把握に努め、誠実に自己のアイデアや手法の独創性、新規性を確認しなければならない。また、他者の独創性、新規性は、尊重しなければならない。
- ② 研究者は、研究成果の公表にあたっては、研究方法等を他の研究者から追試、検証できるようにできるだけ具体的に提示しなければならない。
- ③ 研究者は、研究途中であっても、当該研究によって社会や人類に好ましくない影響を及ぼす可能性がある判断された場合は、その研究を続行するか否かについて慎重に検討しなければならない。
- ④ 研究者は、個人に関する情報、データの提供を受けて研究を行うときは、当該情報、データを提供する人（以下「協力者」という。）に対して研究の目的・意義、収集方法や利用方法等について、十分説明しなければならない。

(3) 資料・データ等の適切な方法による収集、管理

- ① 研究者は、資料やデータ等の収集にあたっては、科学的かつ一般的に妥当と考えられる方法、手段により行わなければならない。
- ② 研究者は、収集、作成した資料やデータ等の記録は適切に保管し、事後の検証・追試が行えるよう十分な期間、保存しなければならない。ただし、個人に関する情報・データについては、協力者との合意を得た期間とする。
- ③ 研究記録は、研究者の当該研究活動の経過を具体的に示す大切な記録書であり、権利確保のためにも必ず作成し、適正に保管しなければならない。

(4) 個人情報の保護

- ① 個人情報は、個人の人格尊重の理念の下に慎重に扱われるべきものであり、研究者は、本学の個人情報保護に関する規程に則り、利用目的の明確化、内容の正確性の確保等その適正な取り扱いに努めなければならない。また、個人情報を収集する場合は、必ず管理者に申し出なければならない。
- ② 研究者は、協力者に関する情報の管理に万全を期すとともに、職務上知り得た個人情報を本人の承諾なくして他に漏らしてはならない。また、その職を辞した後も同様とする。
- ③ 研究者は、研究の推進上、協力者に関する個人情報の取扱いを外部に委託するときは、委託先に安全管理の方法の明確化及び個人情報保護の徹底を義務付けなければならない。
- ④ 研究者は、個人情報の取扱いに関する苦情等には誠実に対応しなければならない。

(5) 研究機器・薬品等の安全管理

- ① 研究者は、研究実験において研究装置・機器、薬品及び各種材料等を用いるときは、関係法令・規程等を遵守し、その安全管理に努めなければならない。
- ② 研究者は、研究実験の過程で生じた残滓物、廃棄物及び使用済みの薬品・材料等については、責任を持って最終処理しなければならない。

(6) 研究の透明性の確保

研究者は、研究遂行中において適宜進捗状況の自己点検を行い、協力者等からの研究の進捗状況の問い合わせ等に対しては、誠実に対応しなければならない。

(7) 研究成果の公表

- ① 研究者は、特許権の取得等合理的な理由があるため公表に制約がある場合を除き、研究の成果を広く社会に還元するため公表しなければならない。

- ② 研究者は、研究成果の公表にあたっては、先行研究を精査し尊重するとともに、他者の知的財産を侵害してはならない。また、ねつ造、改ざん、盗用等の不正な行為をしてはならない。
- ③ 研究成果の公表にあたっては、当該研究に直接関与し、その結果に責任を負う者を著者・共著者としなければならない。

(8) 研究費の適切な管理

- ① 研究者は、研究費の原資が学生納付金、国・地方公共団体等からの補助金や財団・企業等からの助成金、寄付金等によって賄われていることを深く認識し、研究費の適正な使用、管理に努めなければならない。
- ② 研究者は、研究費の使用にあたっては、関係法令、規程及び当該補助金の使用規則等を遵守しなければならない。
- ③ 研究費に関する証拠書類等については、関係法令等に基づき所定の期間、適切に管理・保存しなければならない。

(9) 他者の業績評価における留意事項

- ① 研究者は、他の研究者の業績評価に関わり知り得た情報を、自己又は第三者の利益のために不正に利用したり、他に漏らしてはならない。
- ② 研究者が審査員として他の研究者の業績評価を行うときは、評価に恣意的な観点を混入してはならない。また、求められている評価が自己の能力を超えている場合又は利害関係があるため公正な評価が困難であると判断するときは、審査員を辞退しなければならない。

5 本学の責務

(1) 愛知工業大学研究倫理委員会を置いて審議

- ① 指針の運用に関する事項を審議するため、愛知工業大学研究倫理委員会（以下「委員会」という。）を置く。
- ② 委員会に関する事項は、別に定める。

(2) 啓発及び研修の実施

大学は、研究者の研究倫理意識の高揚を図るため、必要な啓発及び研修を実施する。

(3) 研究活動の不正行為の防止に関する事項は、別に定める。

6 事務

この指針に関する事務は、総務課が行う。

7 補則

この指針に定めるもののほか、この指針の施行に関して必要な事項は、学長が別に定める。

附則の記載については省略

付 録

建物平面図

沿 革

学 歌

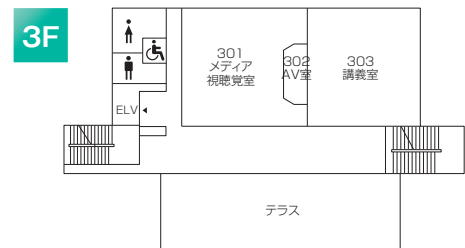
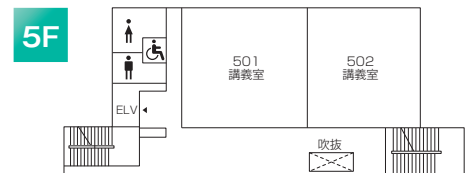
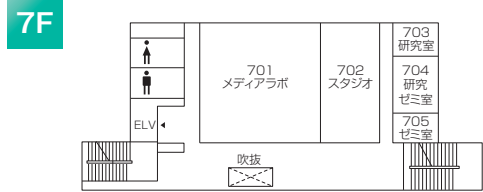
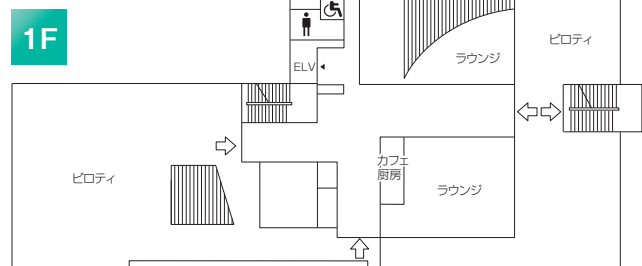
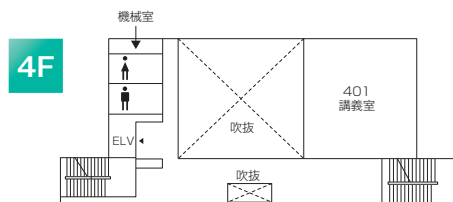
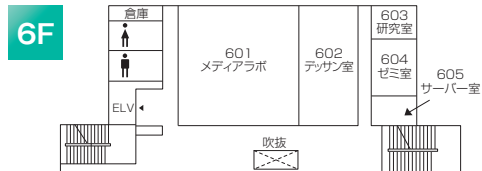
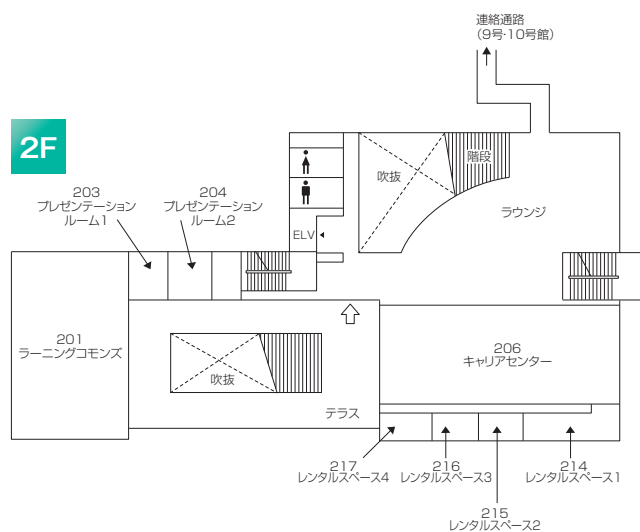
行事予定

..... 八草キャンパス構内配置図

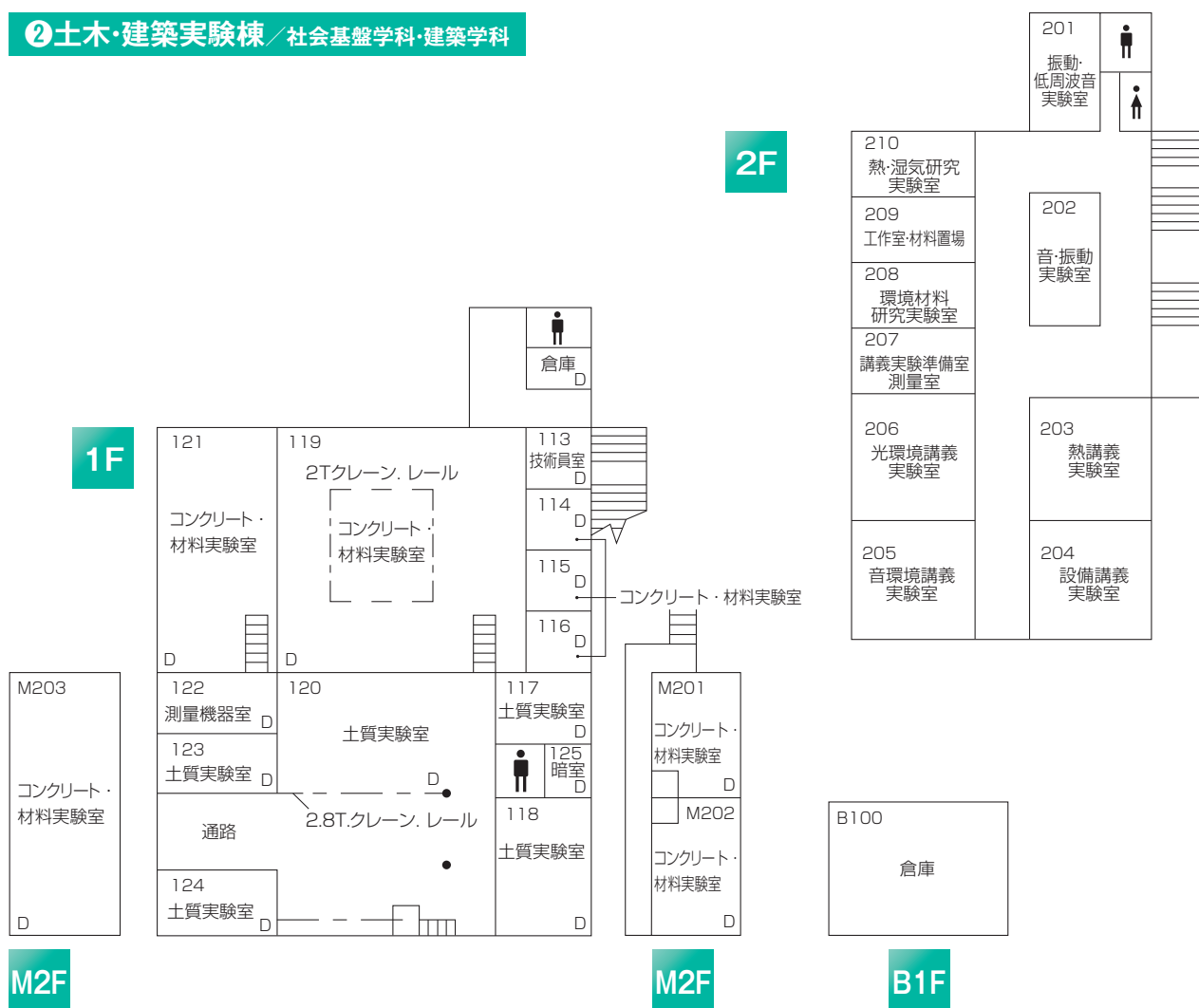


- | | | | |
|--------------|-------------|--------------|---------------|
| ① 1号館 | ⑪ 7号館 | ⑳ 計算センター | ㉑ 愛和会館 |
| ② 土木・建築実験棟 | ⑫ 8号館 | ㉒ 情報教育センター | ㉒ AITプラザ |
| ③ 2号館 | ⑬ 9号館 | ㉓ 総合技術研究所 | ㉓ セントラルテラス |
| ④ 3号館 | ⑭ 10号館 | ㉔ 耐震実験センター | ㉔ 鉦徳館(講堂兼体育館) |
| ⑤ 3号館別館 | ⑮ 10号館・旧1号館 | ㉕ 振動実験棟 | ㉕ 総合運動場管理棟 |
| ⑥ バイオ環境化学実験棟 | ⑯ 11号館 | ㉖ 地域防災研究センター | ㉖ 小体育館 |
| ⑦ 4号館 | ⑰ 12号館 | ㉗ エコ電力研究センター | ㉗ 第3クラブハウス |
| ⑧ 4号館別館 | ⑱ 13号館 | ㉘ 本部棟 | ㉘ 第4クラブハウス |
| ⑨ 5号館講義実験棟 | ㉑ 14号館 | ㉙ 第1本部棟 | ㉙ 第5クラブハウス |
| ⑩ 6号館 | ㉒ 図書館 | ㉚ 第2本部棟 | ㉚ 庭球場管理ハウス |

① 1号館

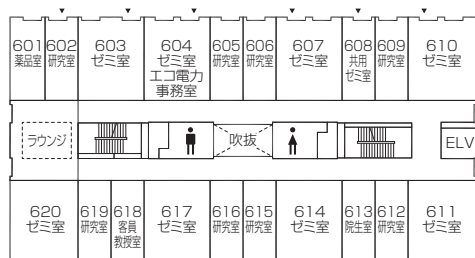


②土木・建築実験棟 / 社会基盤学科・建築学科

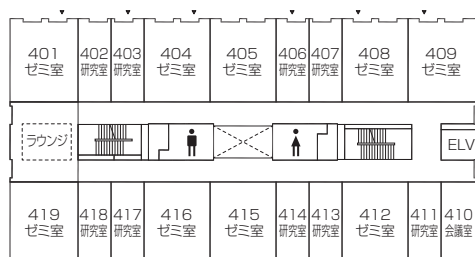


32号館／電気学科・建築学科

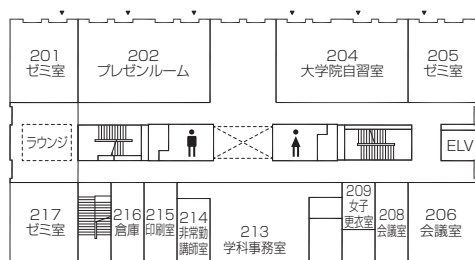
6F



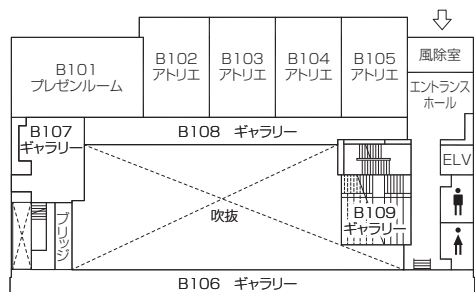
4F



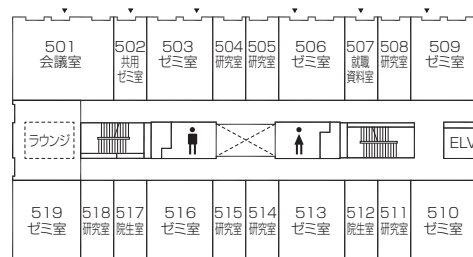
2F



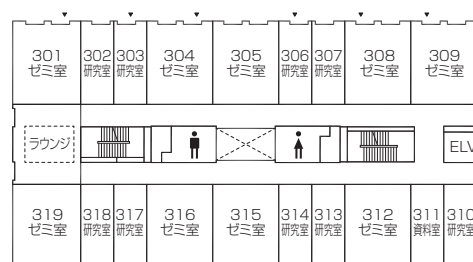
B1F



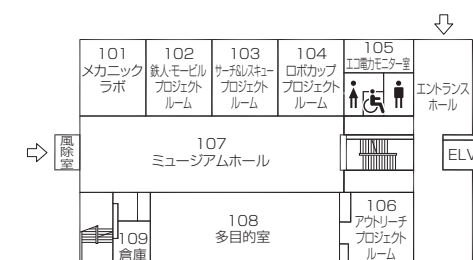
5F



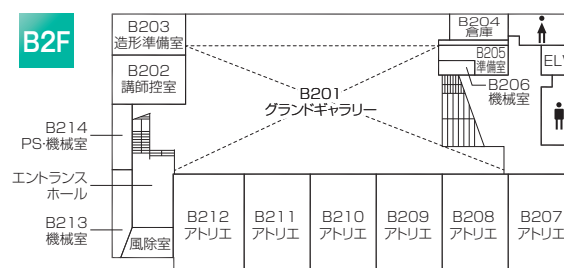
3F



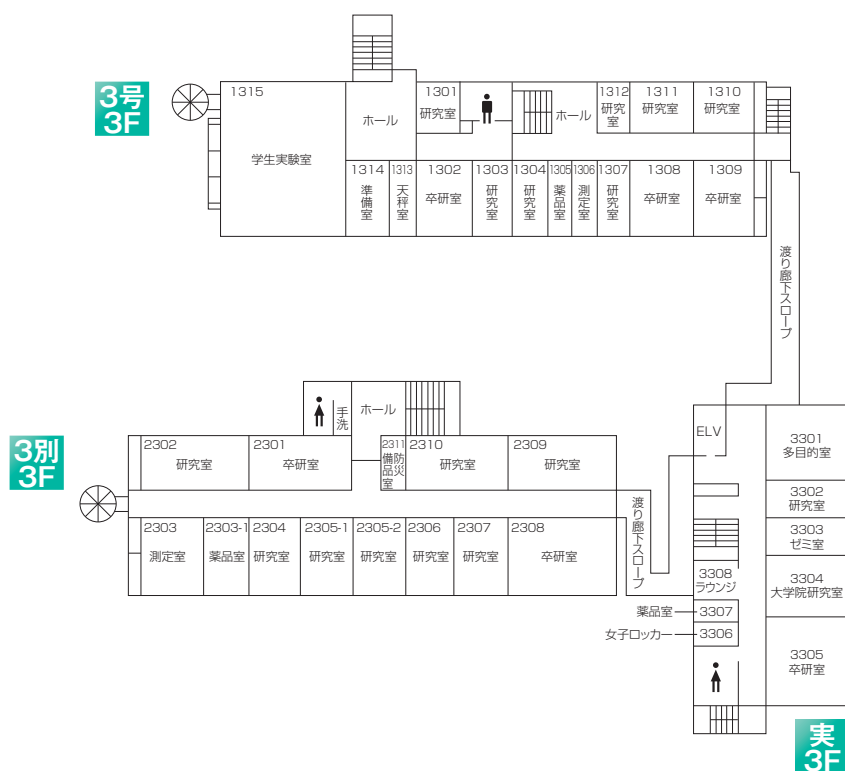
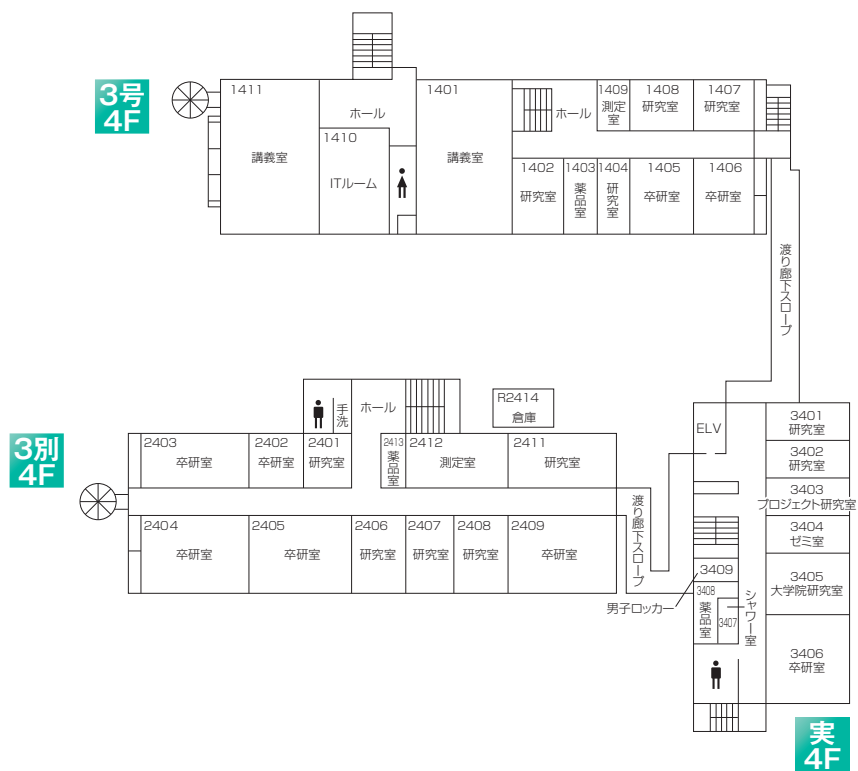
1F

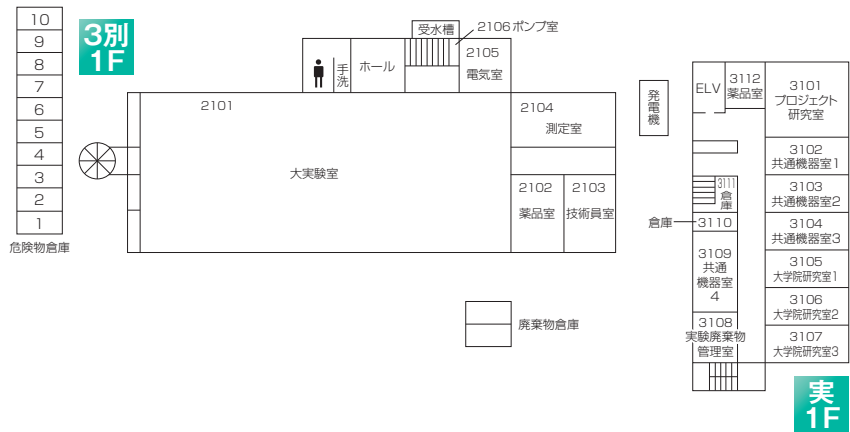
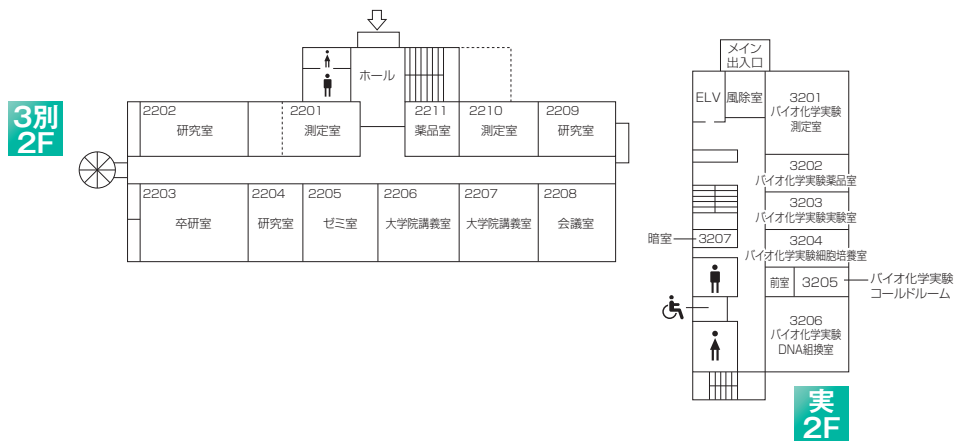
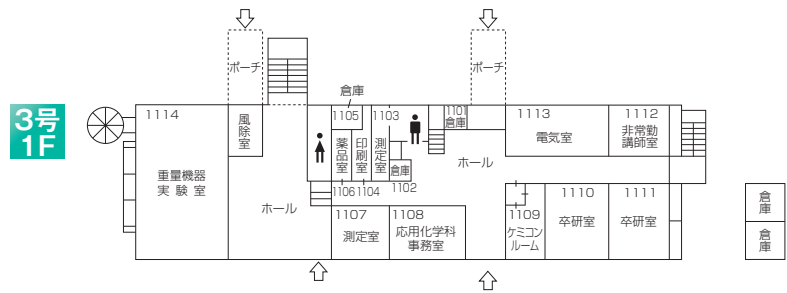
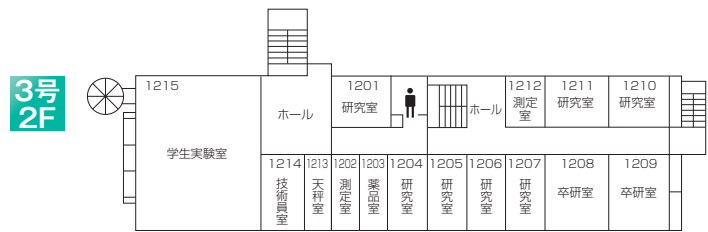


B2F



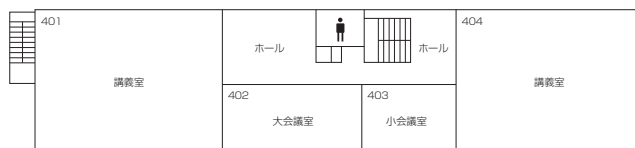
④3号館、⑤3号館別館、⑥バイオ環境化学実験棟／応用化学科



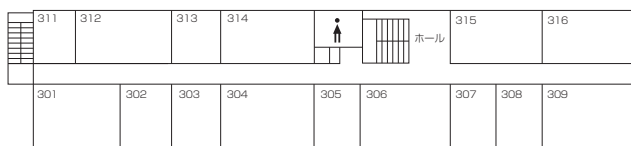


⑦ 4号館

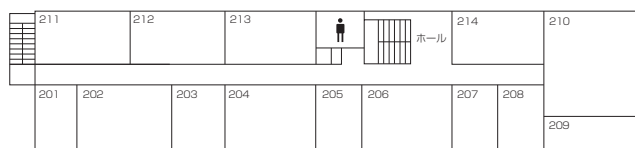
4F



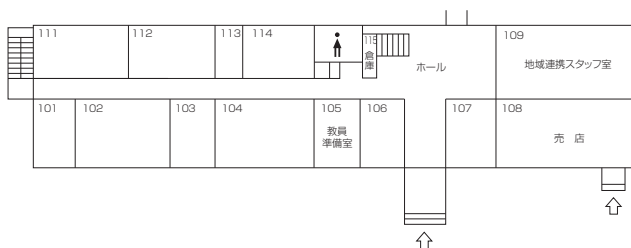
3F



2F

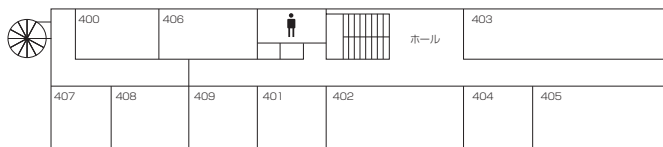


1F

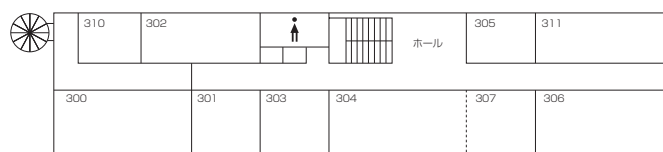


⑧ 4号館別館

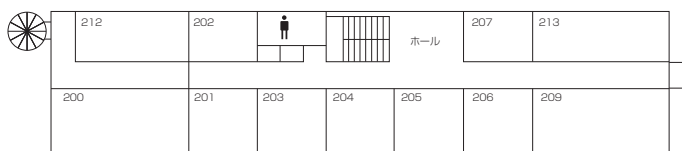
4F



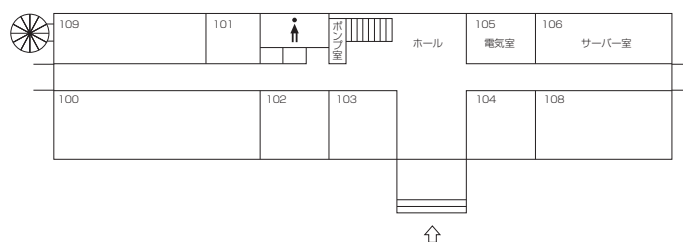
3F



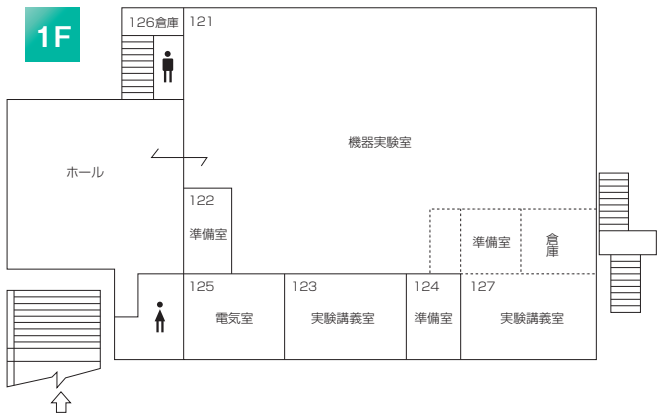
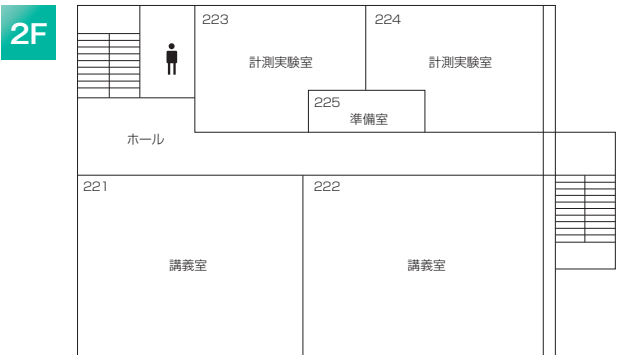
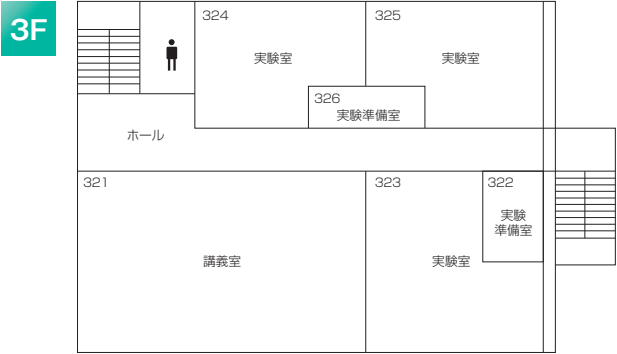
2F



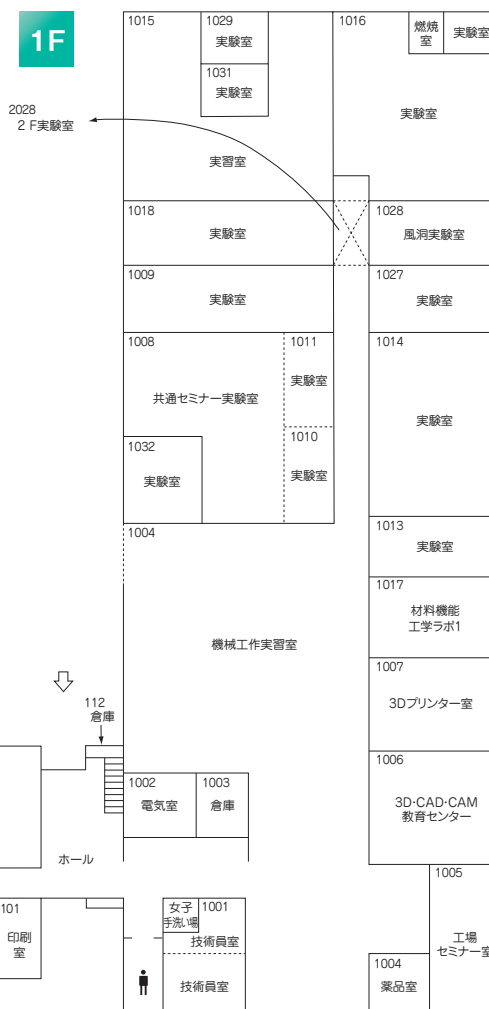
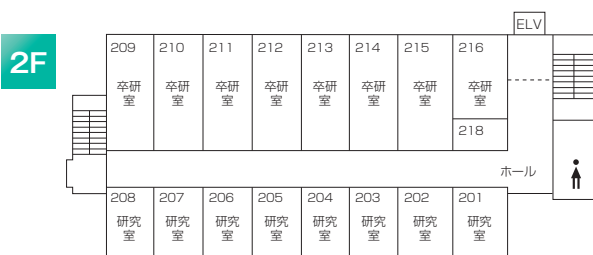
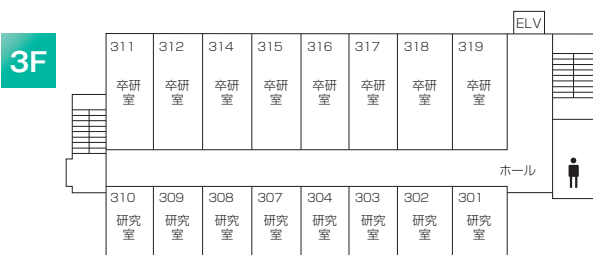
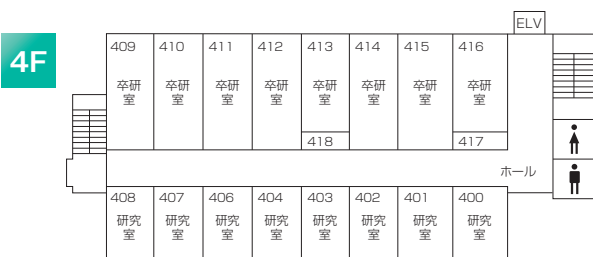
1F



⑨5号館 講義実験棟／電気学科



10 6号館 機械学科

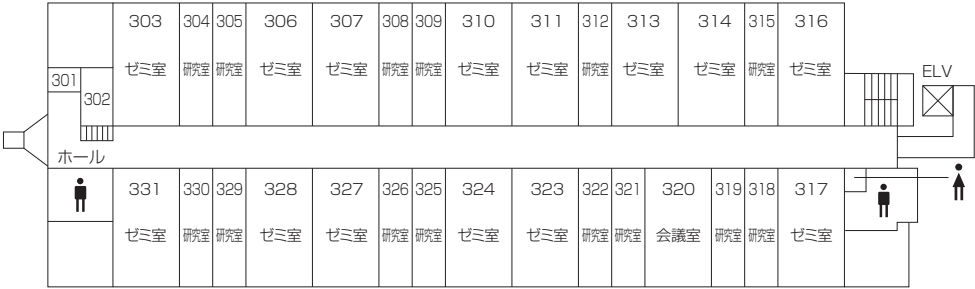


⑪ 7号館 / 社会基盤学科・建築学科

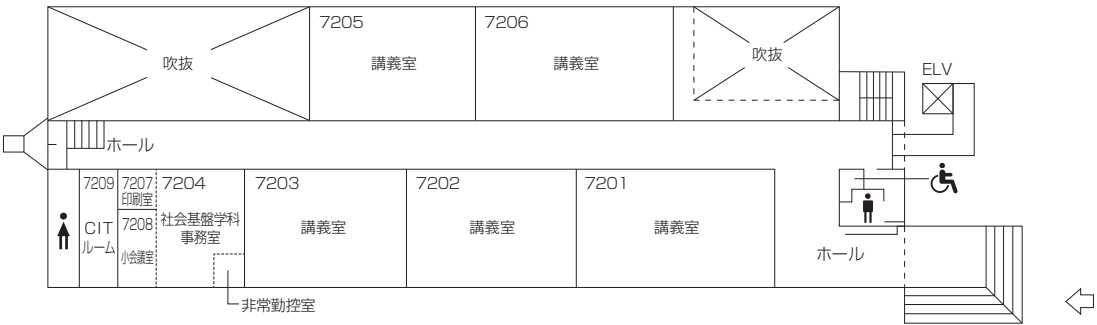
M3F

M301
資料室

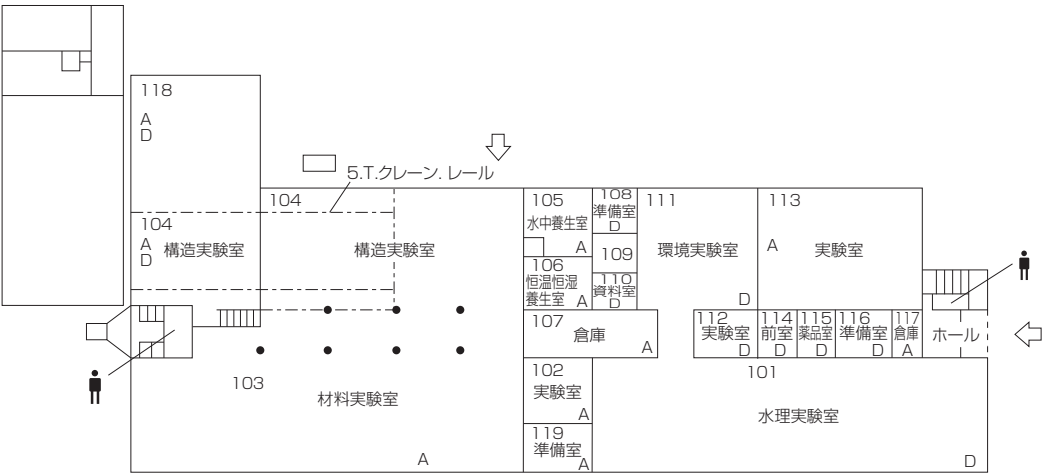
3F



2F



1F

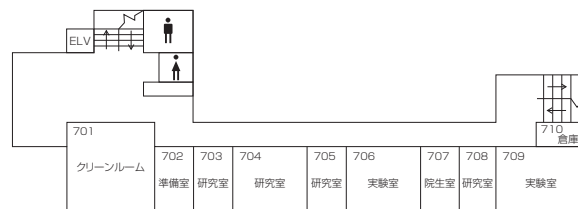


⑫ 8号館／電気学科

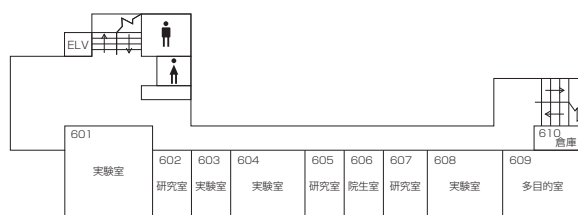
R



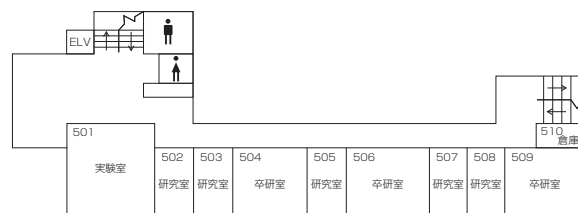
7F



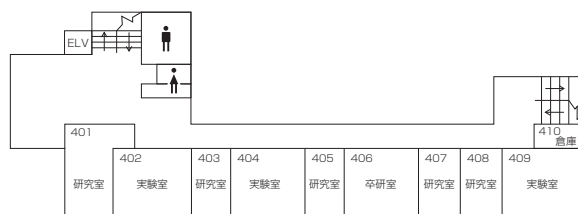
6F



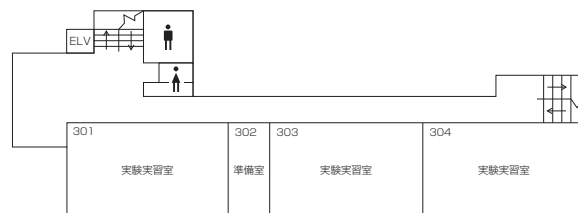
5F



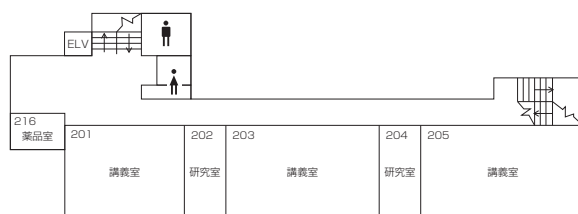
4F



3F



2F

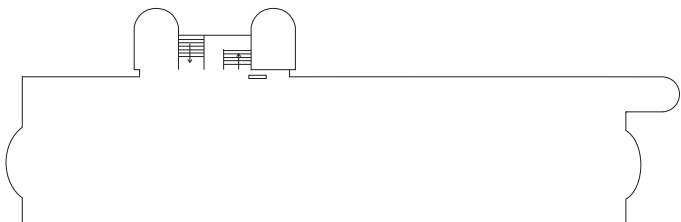


1F

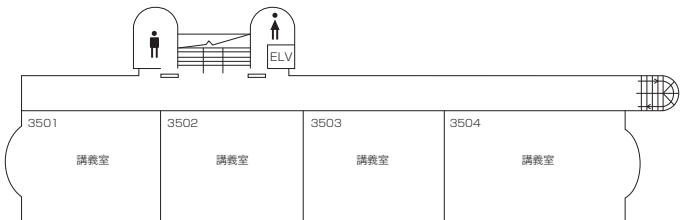


13 9号館 / 基礎教育センター

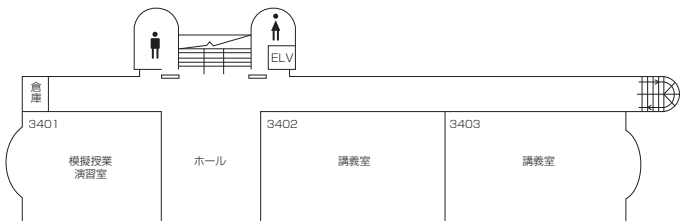
R



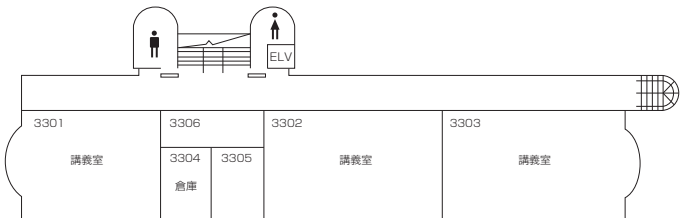
5F



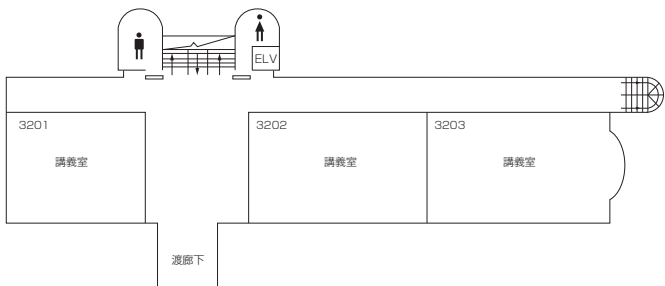
4F



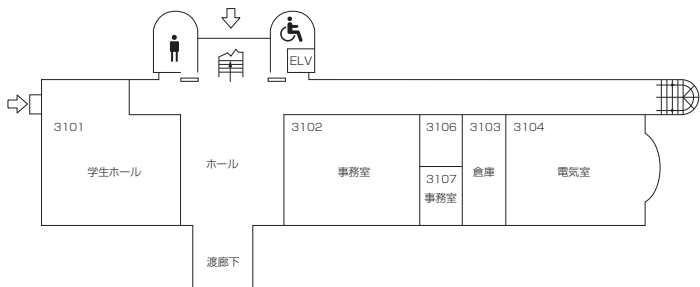
3F



2F

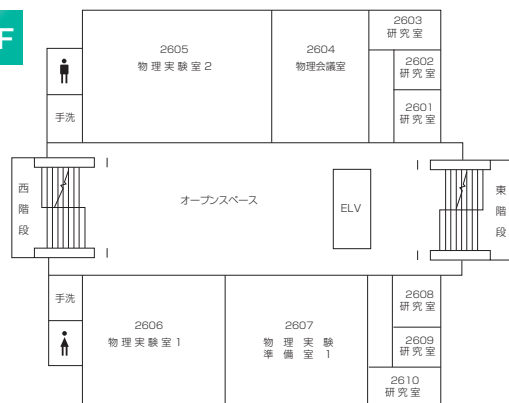


1F

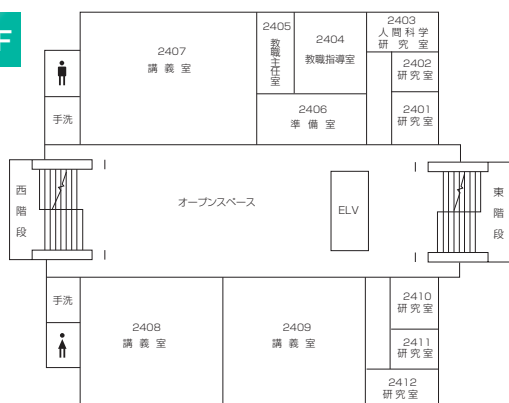


14 10号館／基礎教育センター

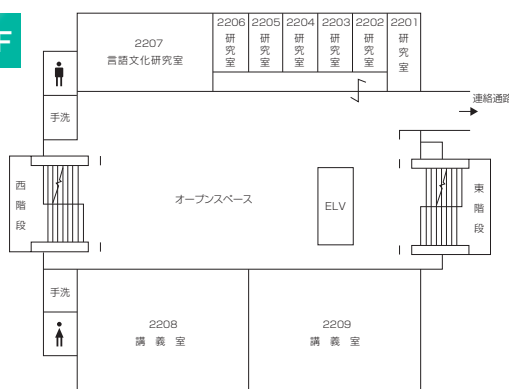
6F



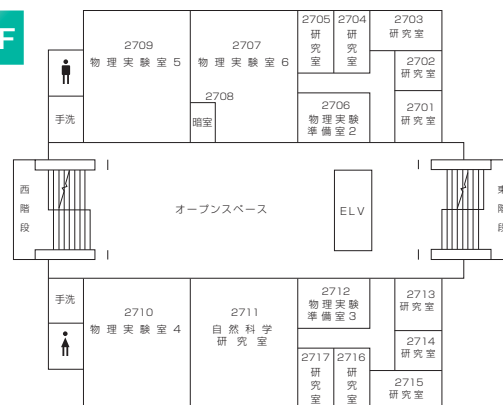
4F



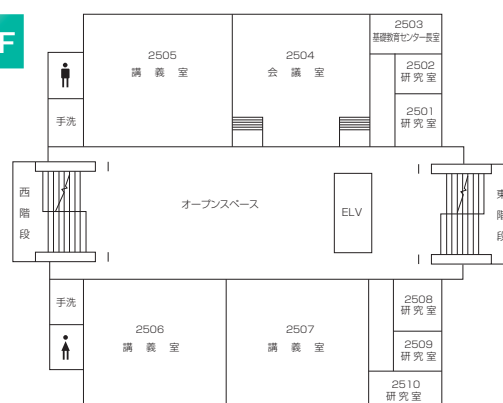
2F



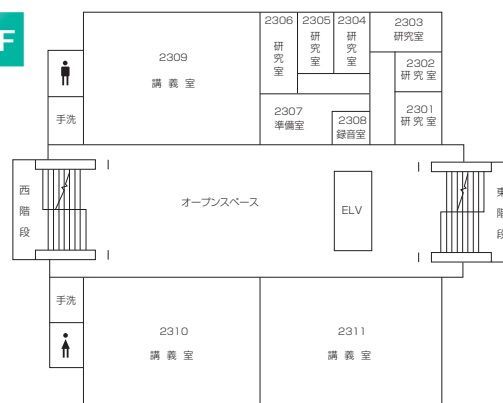
7F



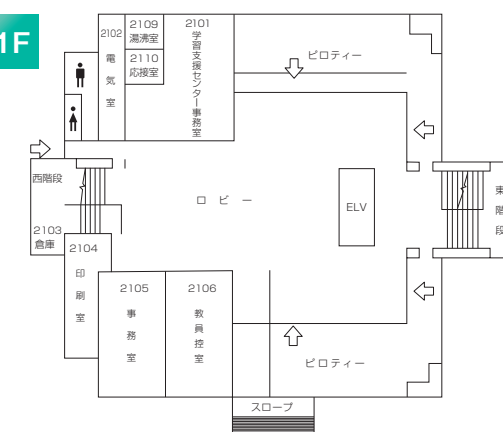
5F



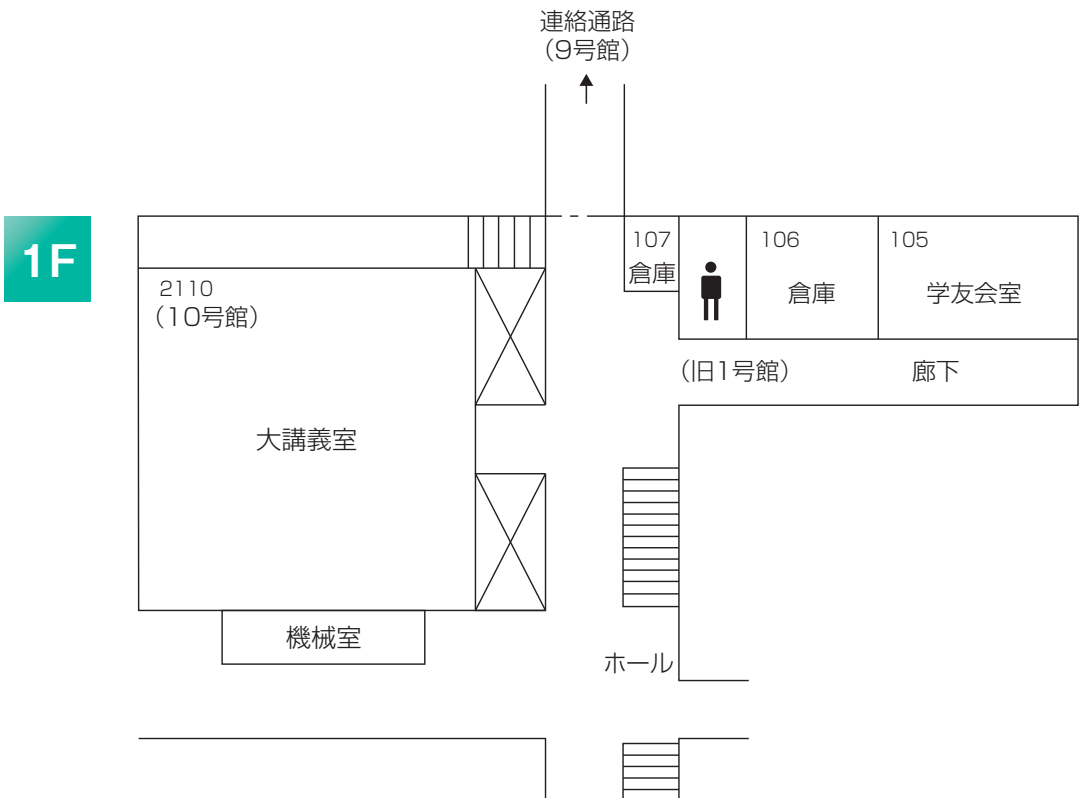
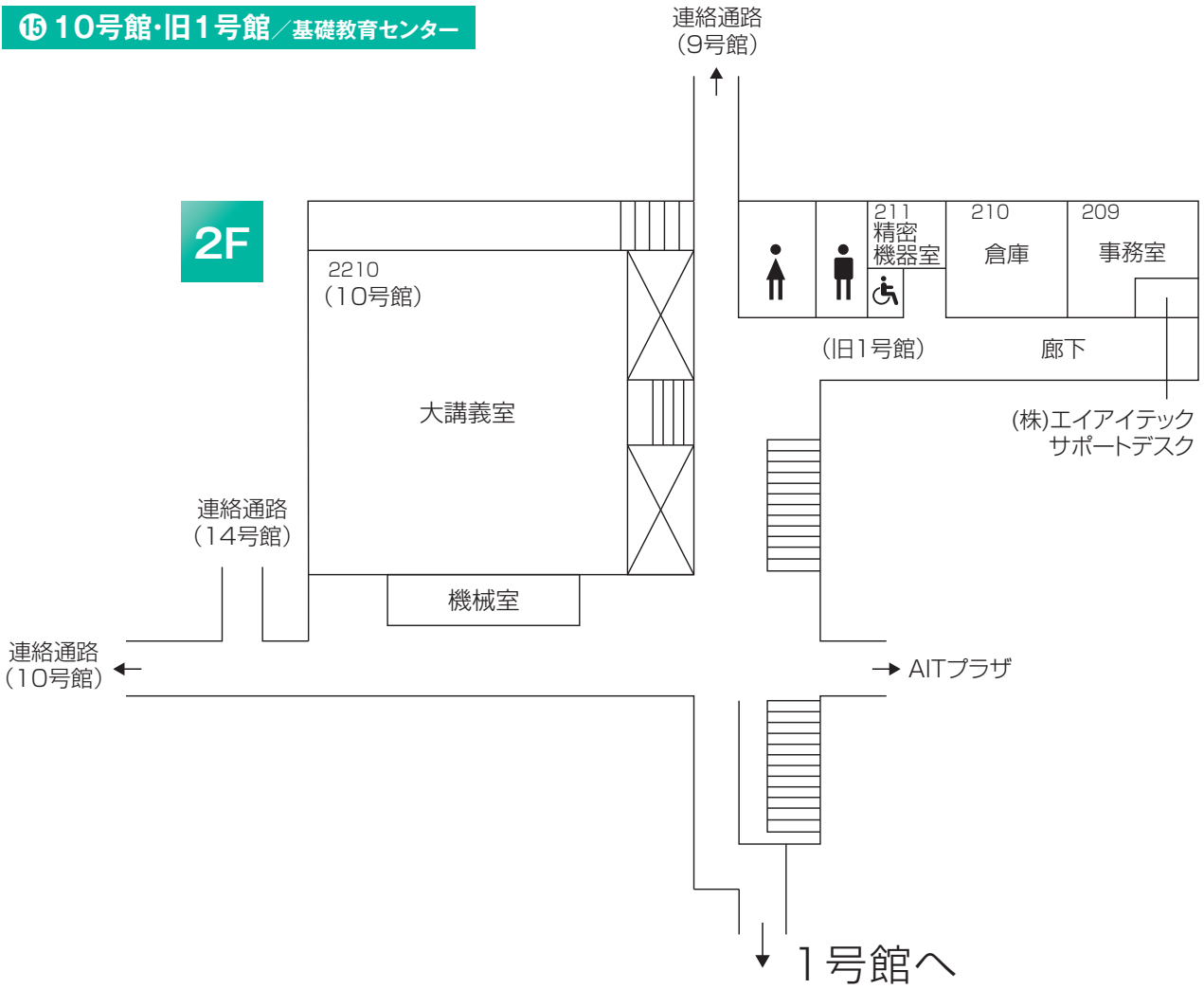
3F



1F



⑮ 10号館・旧1号館／基礎教育センター

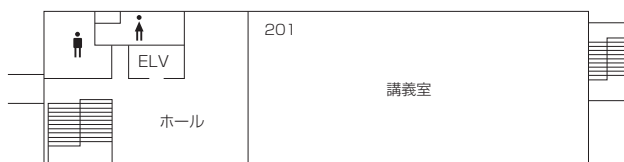


⑩ 11号館／経営学科

4F



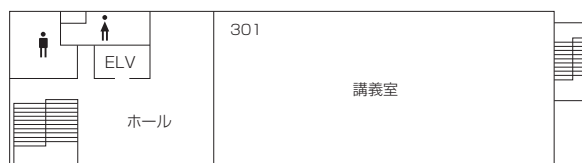
2F



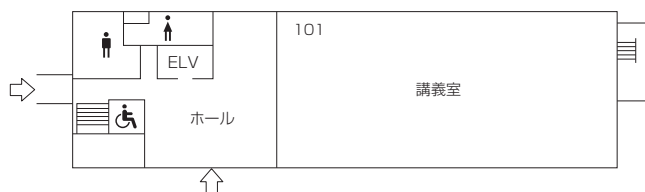
5F



3F



1F

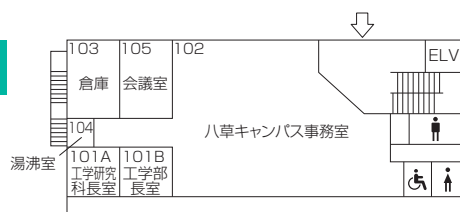


⑪ 12号館

3F



1F



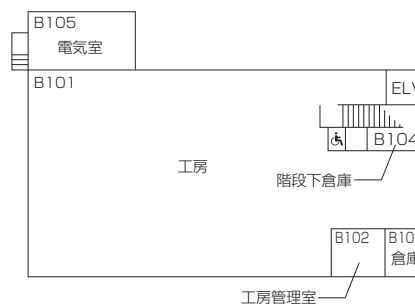
4F



2F

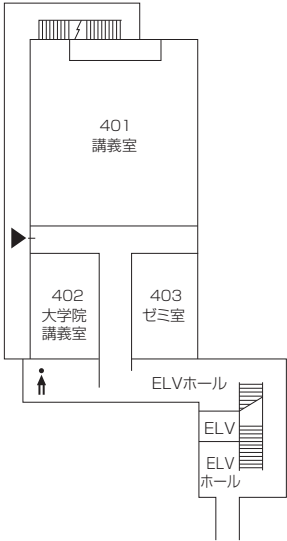


B1F

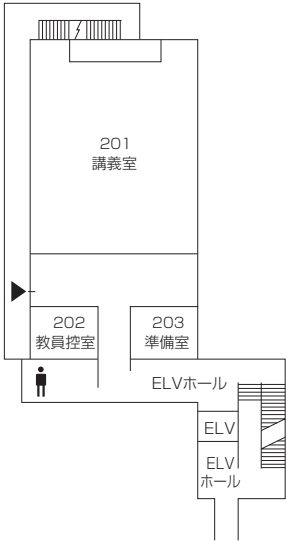


13号館 機械学科

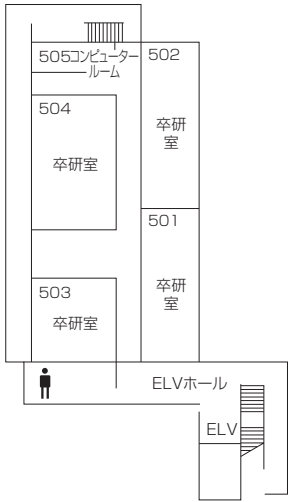
4F



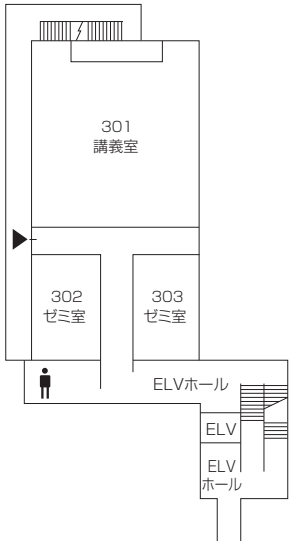
2F



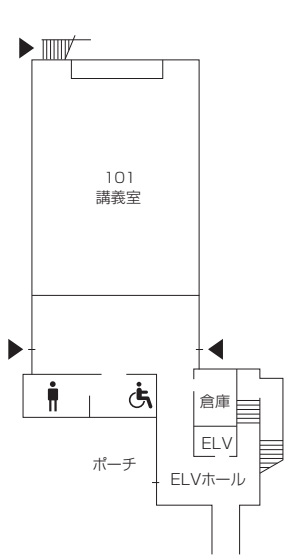
5F



3F

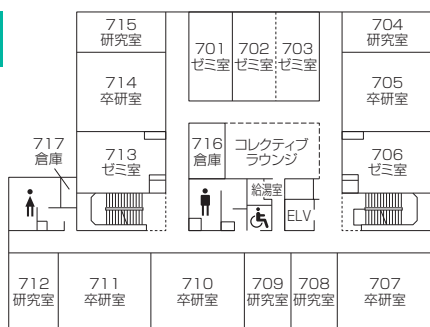


1F

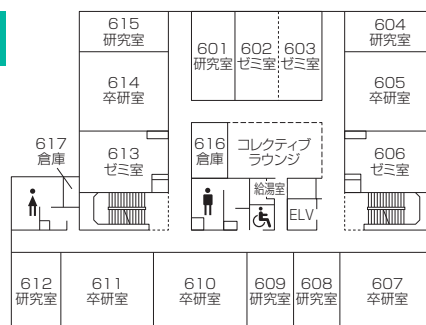


⑩ 14号館／情報科学科

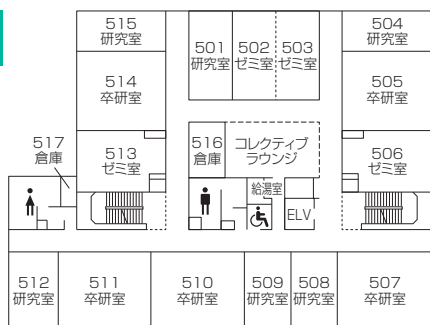
7F



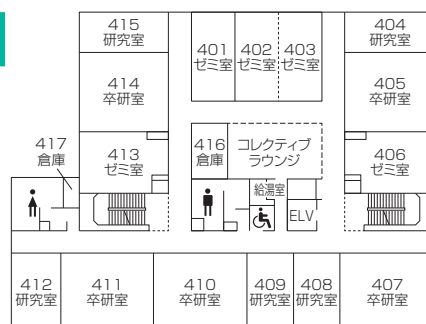
6F



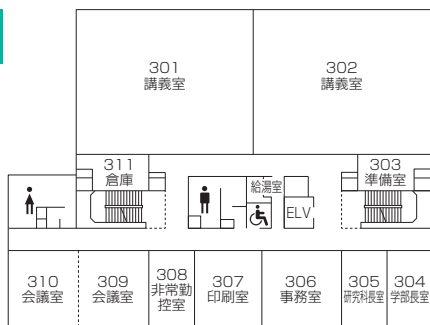
5F



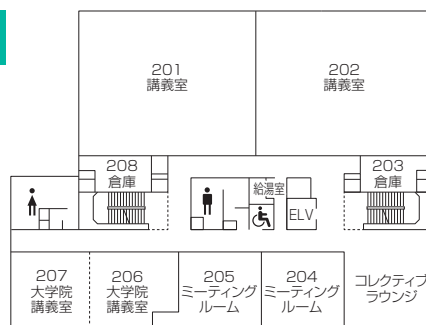
4F



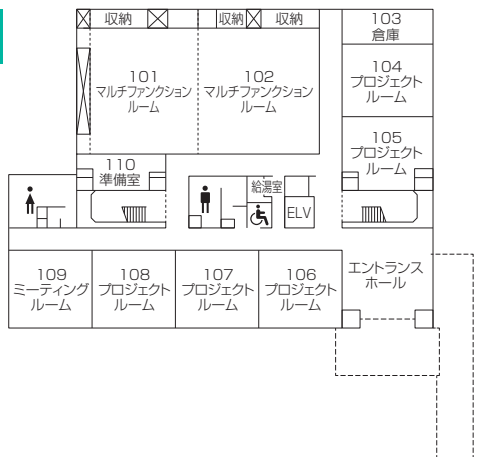
3F



2F



1F

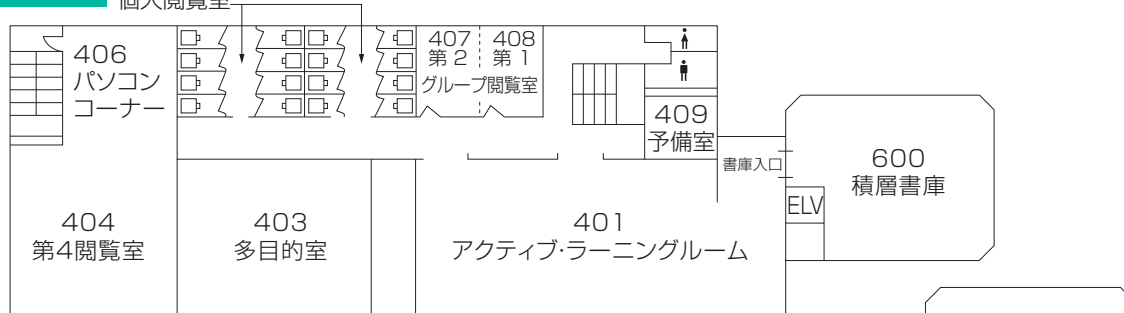


20 図書館

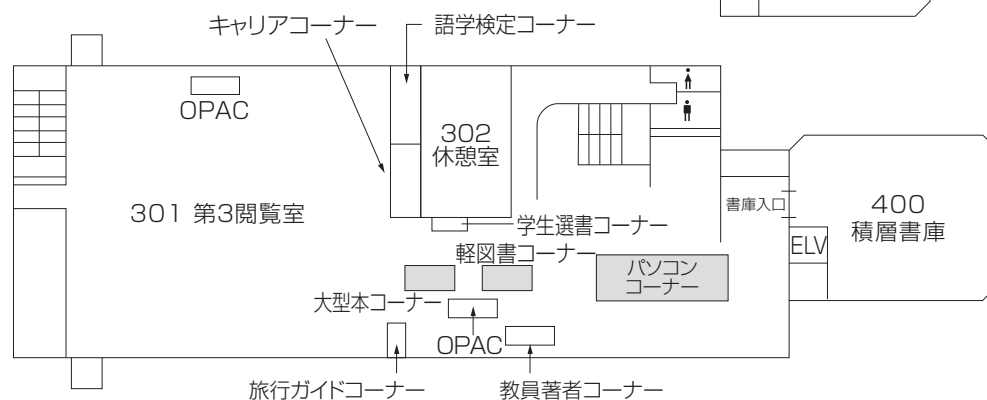
405

個人閲覧室

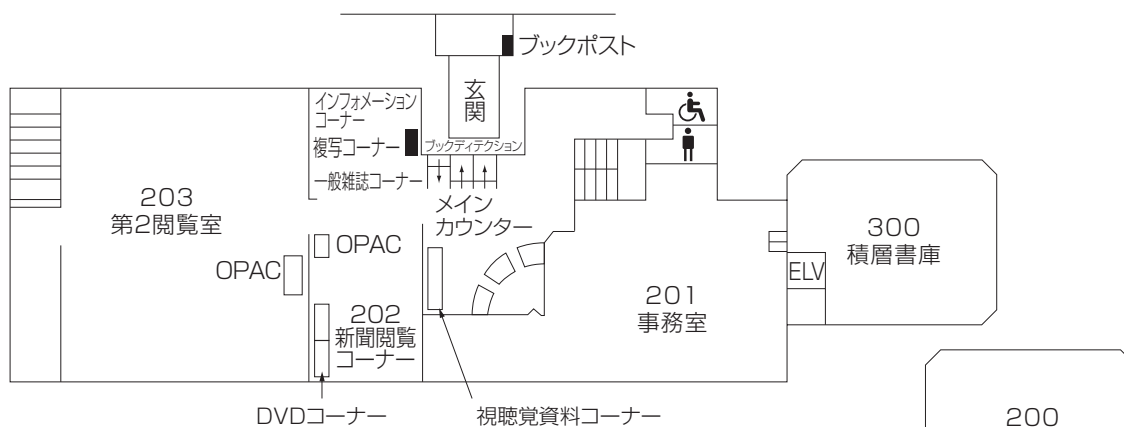
4F



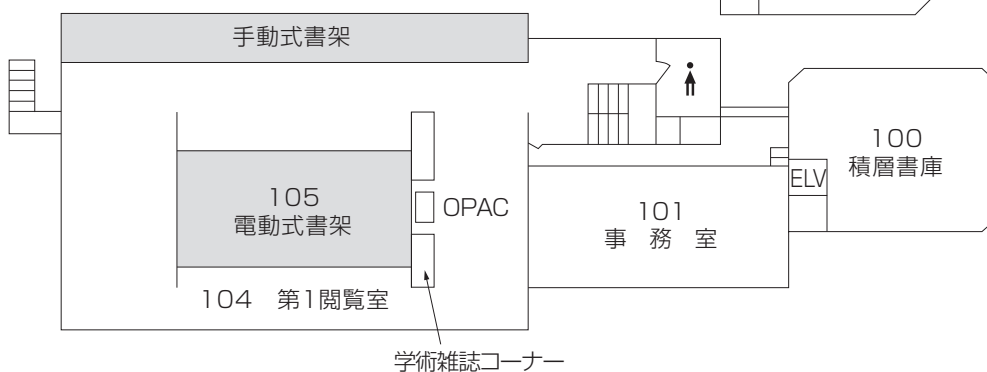
3F



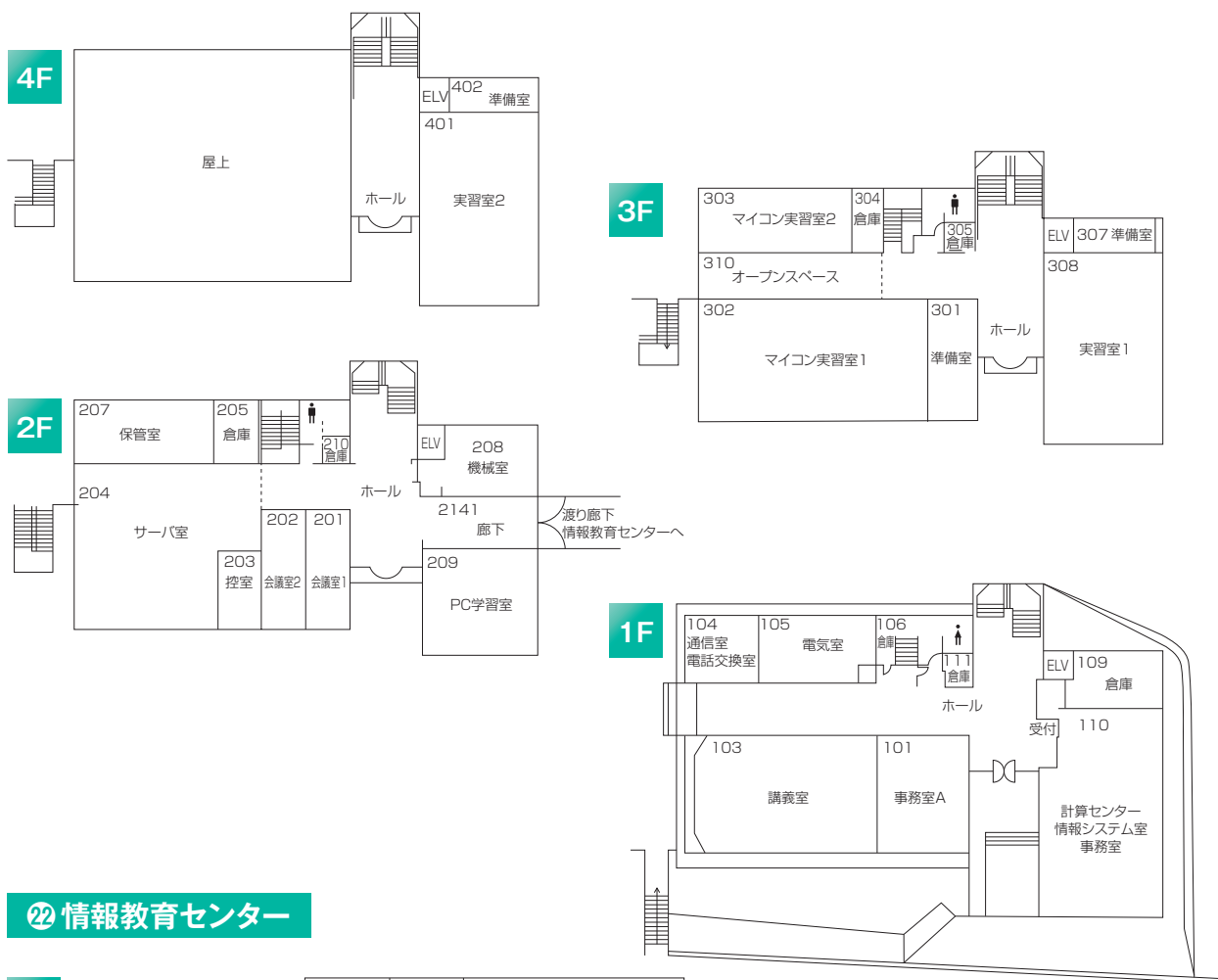
2F



1F



⑪ 計算センター

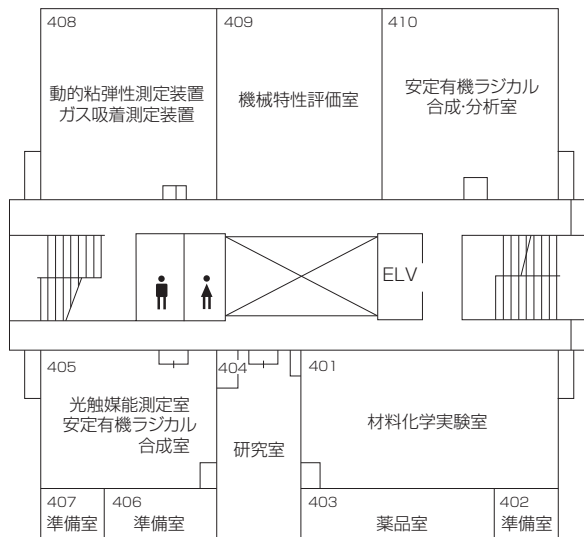


⑫ 情報教育センター

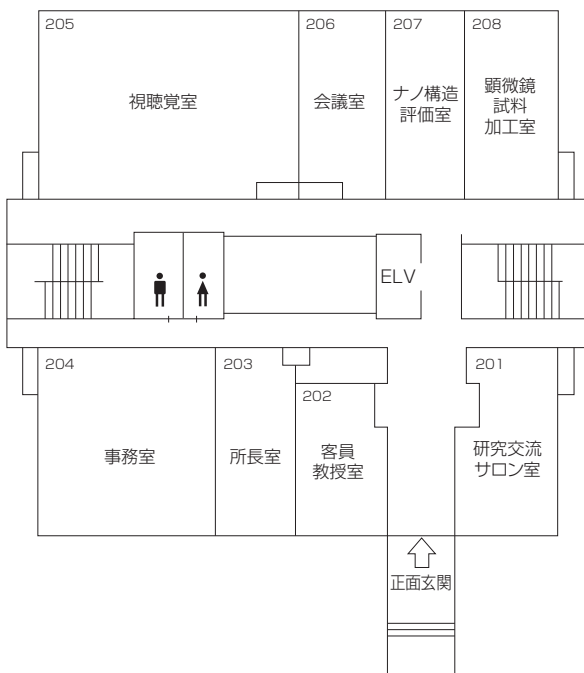


② 総合技術研究所

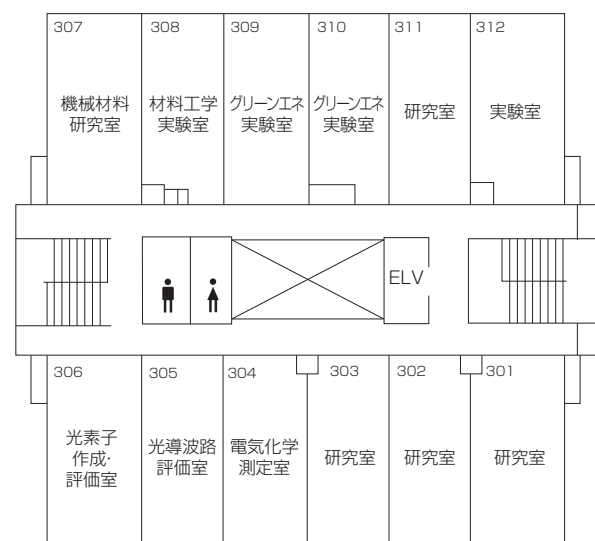
4F



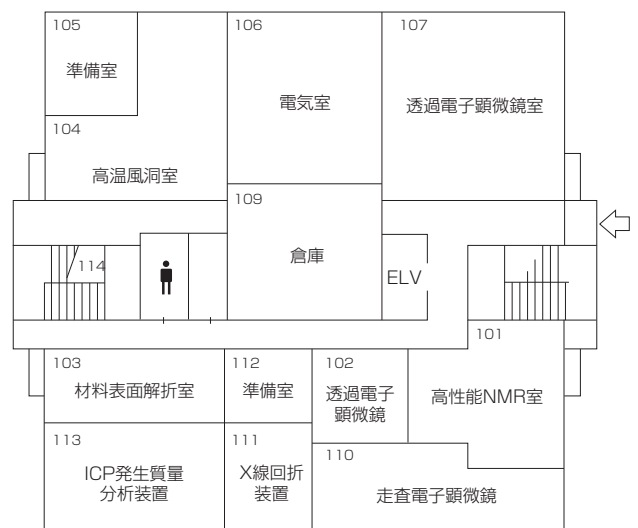
2F



3F

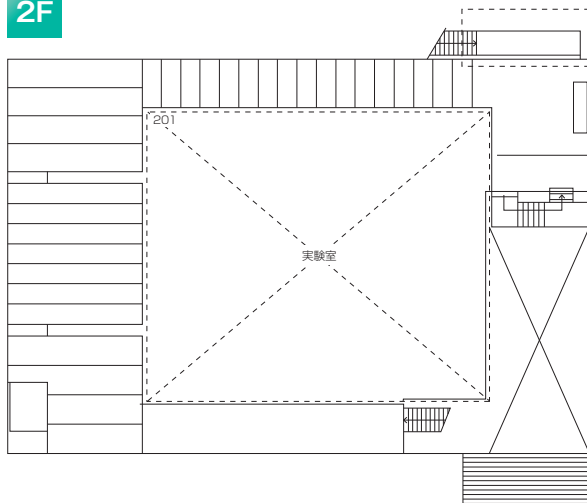


1F

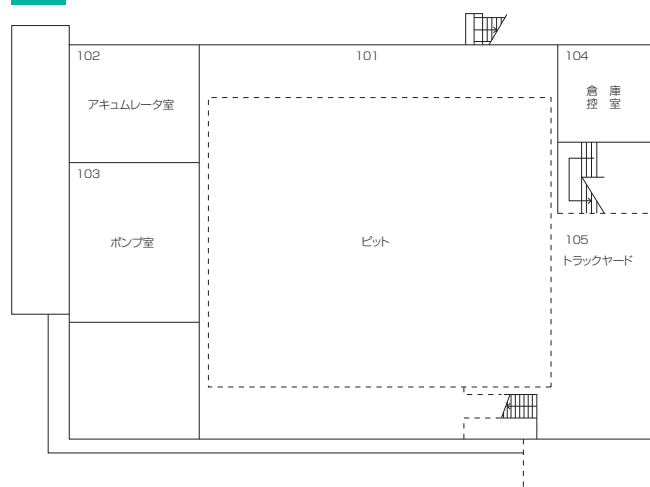


24 耐震実験センター

2F

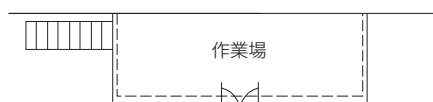


1F

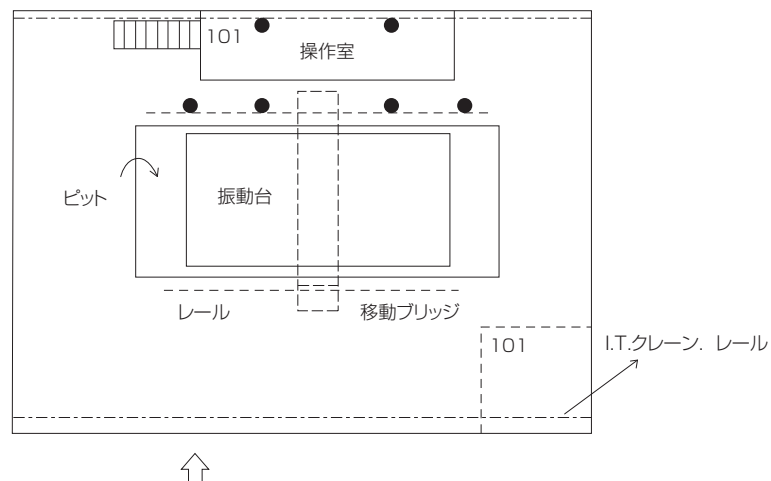


25 振動実験棟 / 社会基盤学科

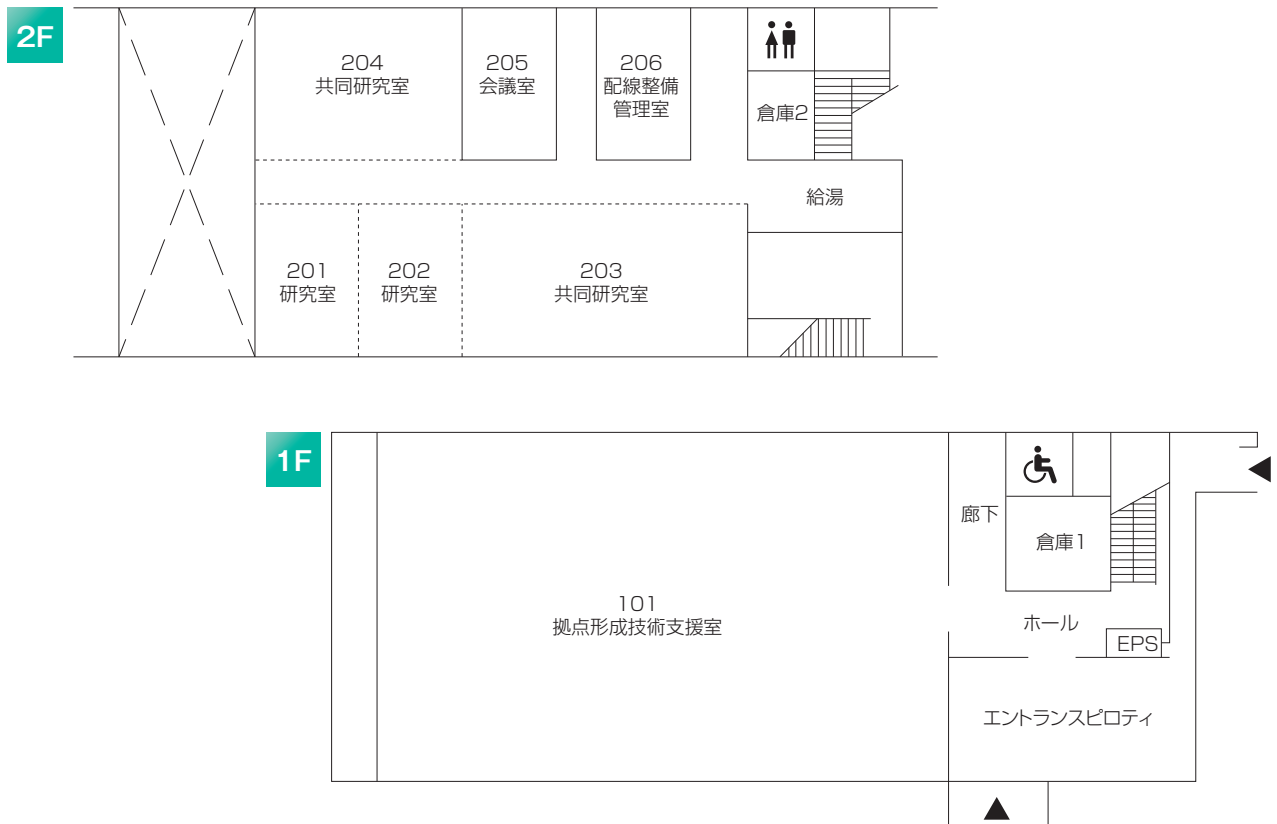
M2F



1F



②⑥ 地域防災研究センター



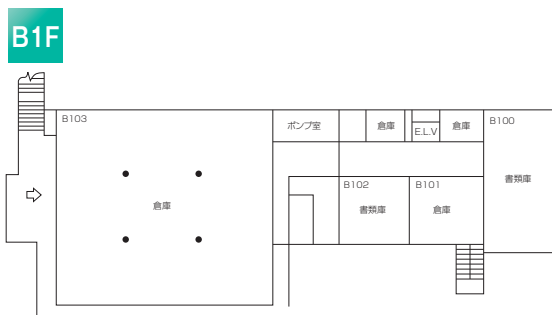
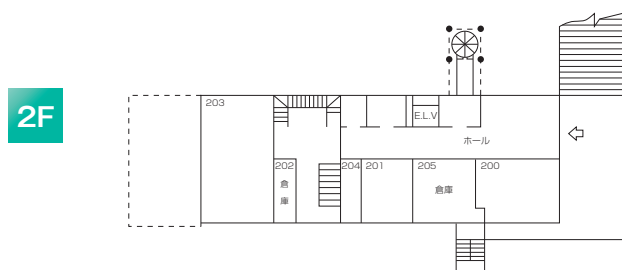
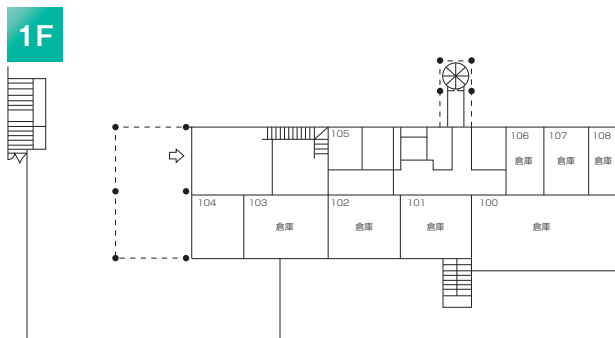
②⑦ エコ電力研究センター



28 本部棟

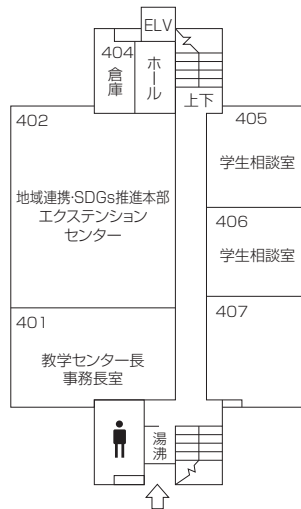


29 第1本部棟

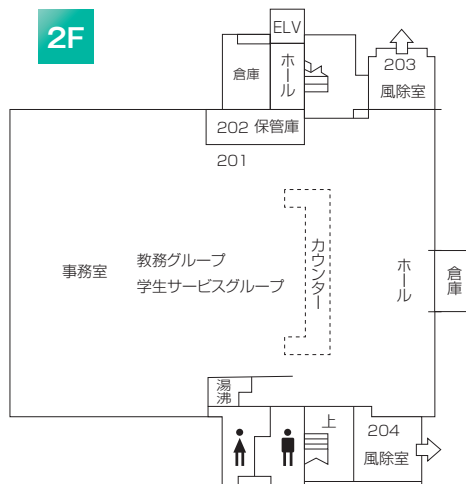


30 第2本部棟

4F



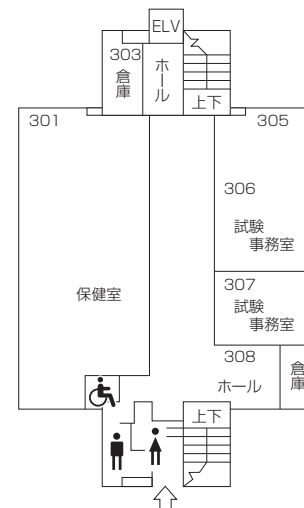
2F



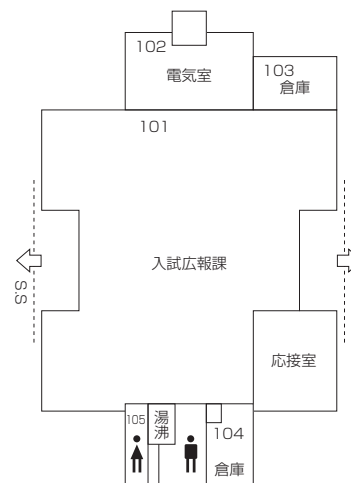
5F



3F



1F



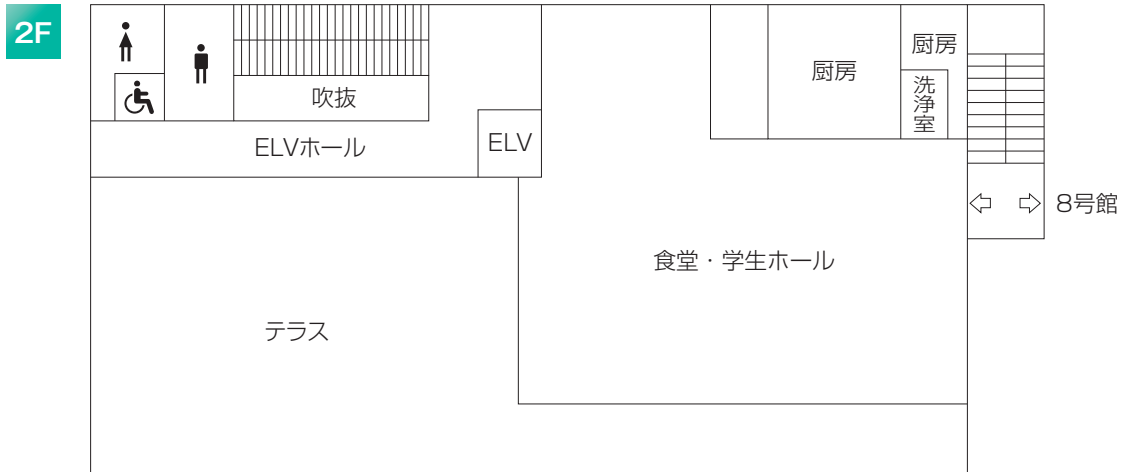
31 愛和会館



32 AITプラザ

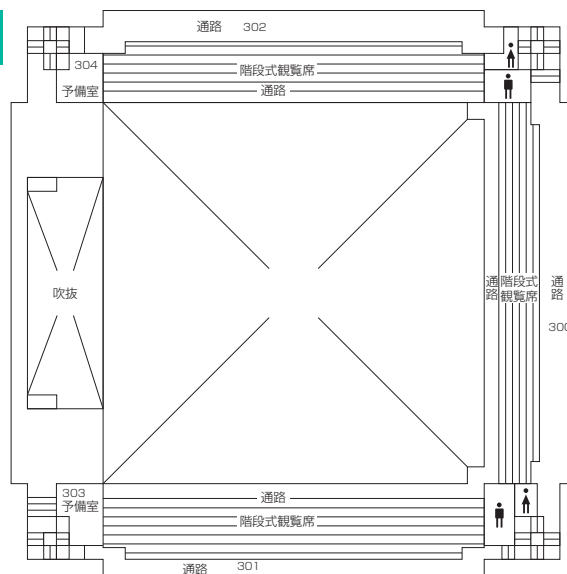


③ セントラルテラス

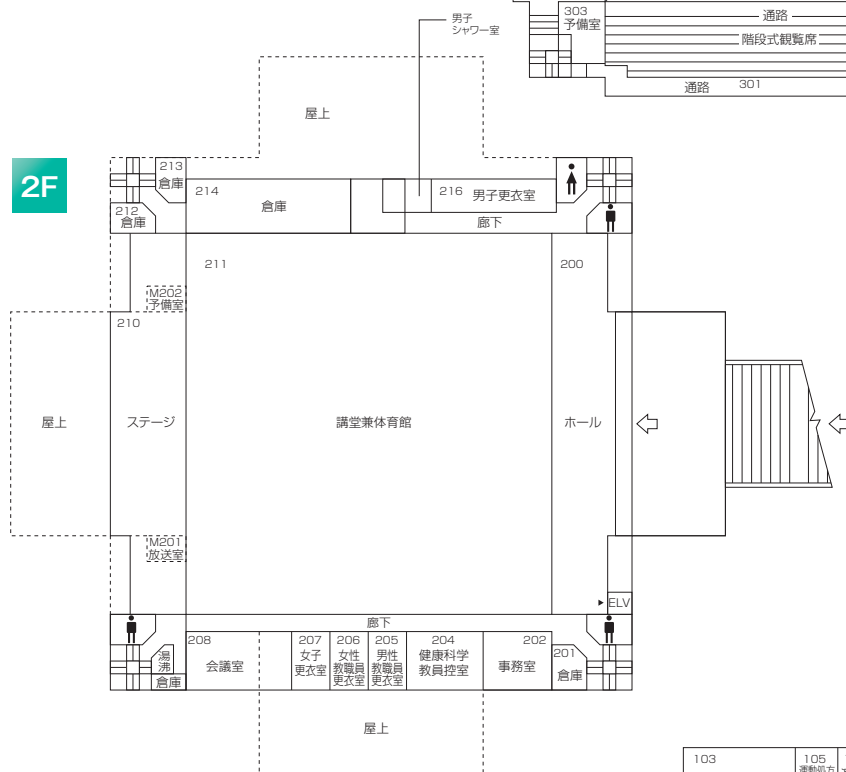


34 鉦徳館 (講堂兼体育館)

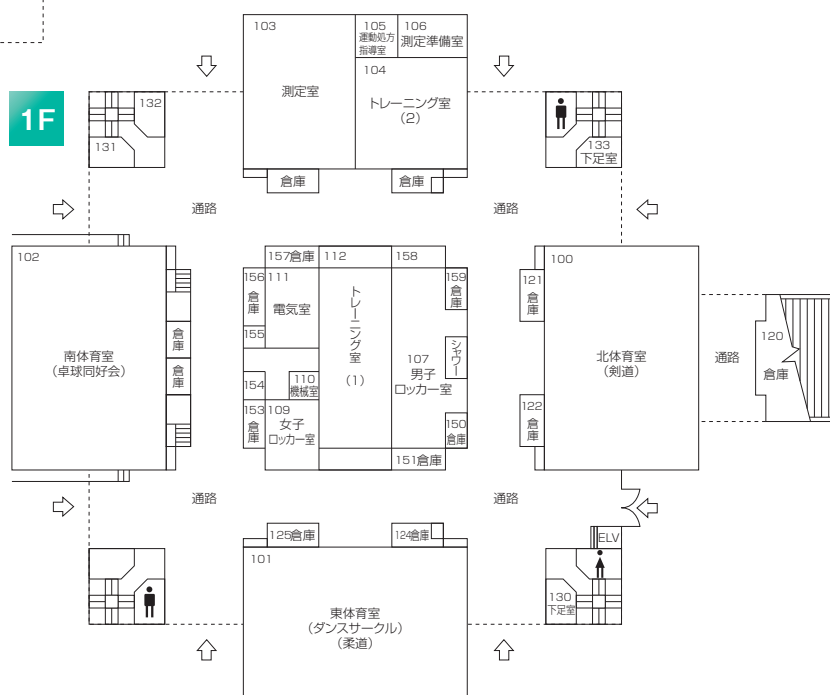
3F



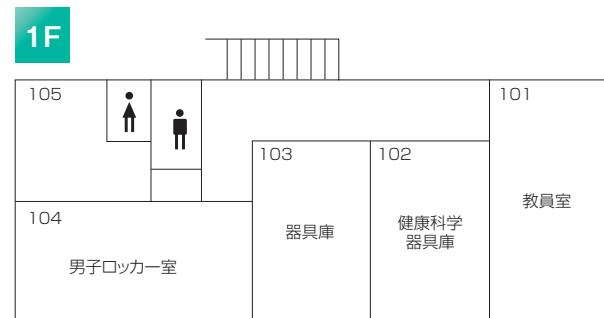
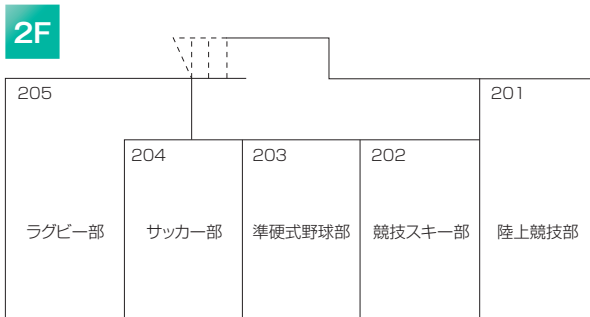
2F



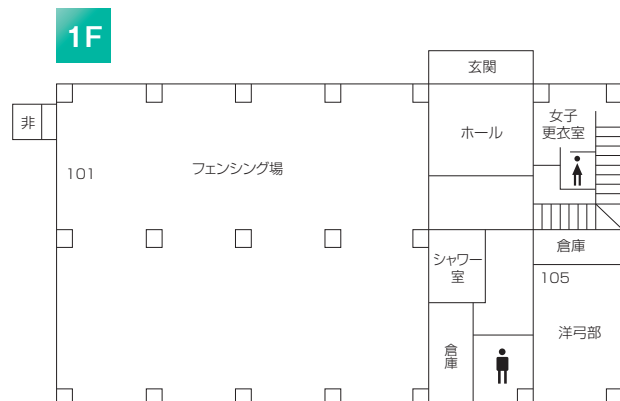
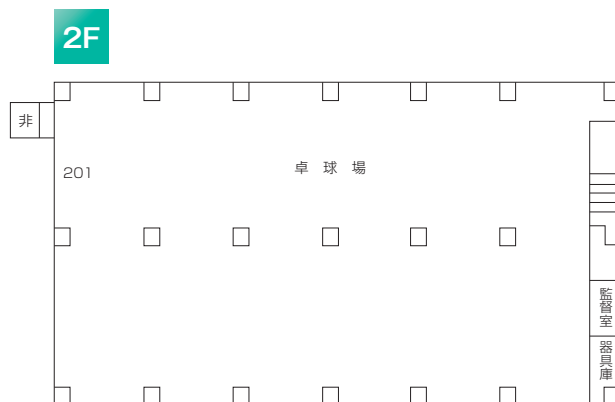
1F



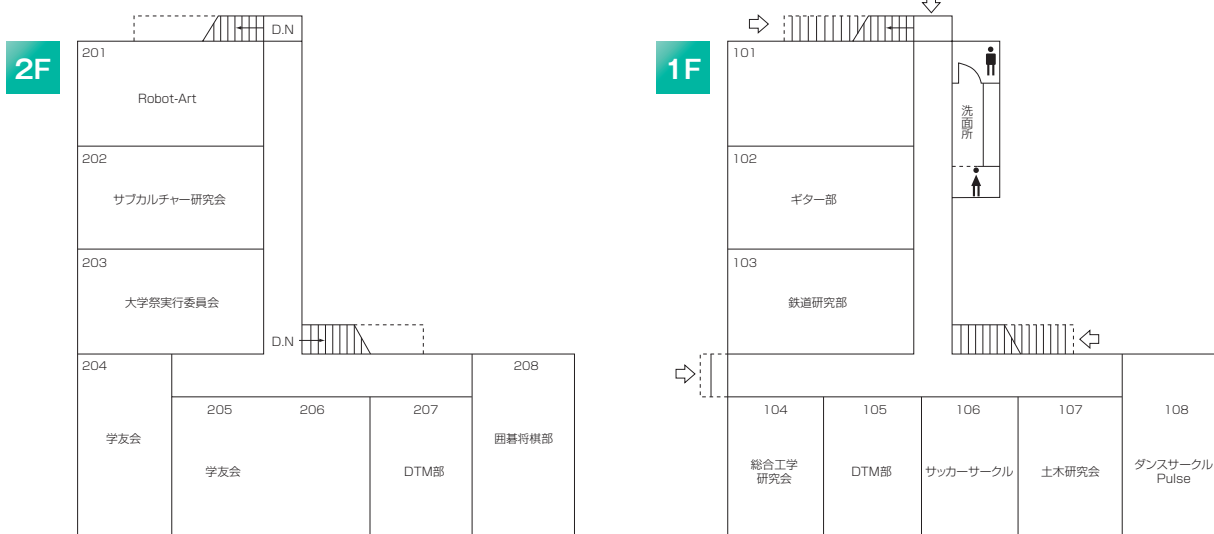
③⑤ 総合運動場管理棟



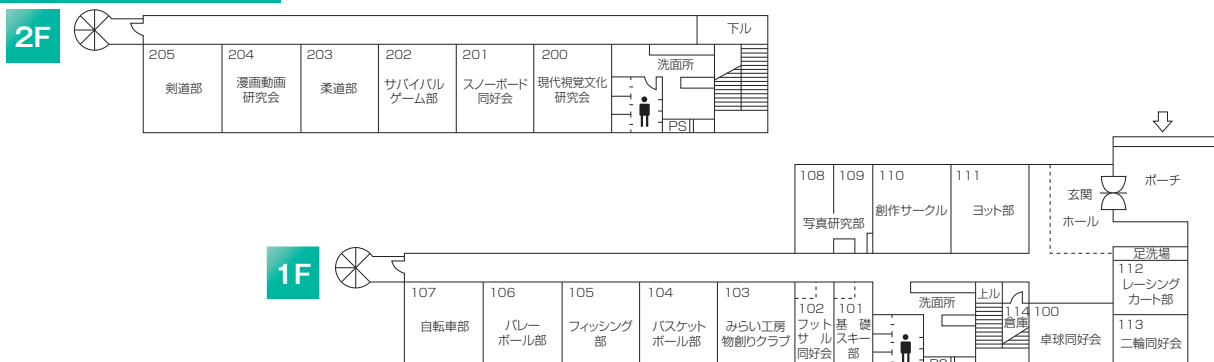
③⑥ 小体育館



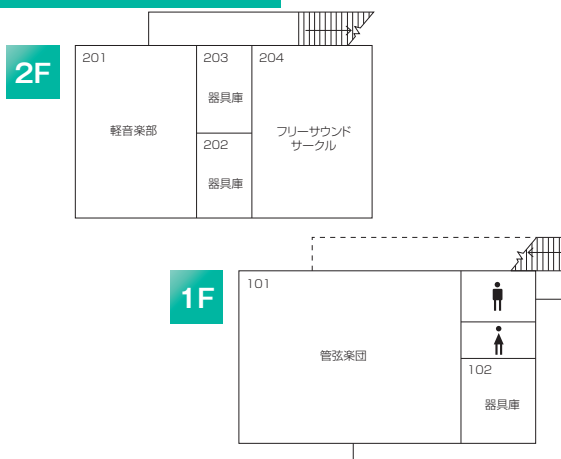
③ 第3クラブハウス



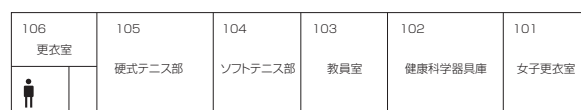
④ 第4クラブハウス



⑤ 第5クラブハウス



④ 庭球場管理ハウス

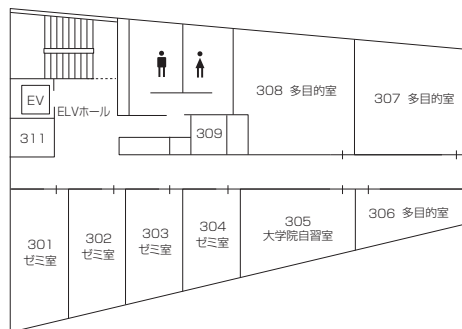


自由ヶ丘キャンパス（本館）

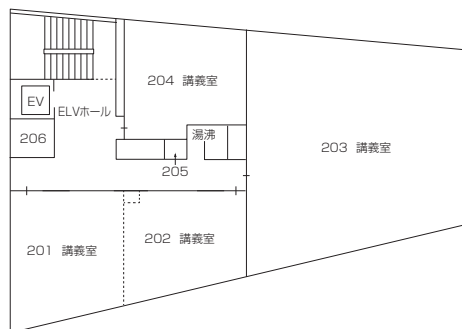


自由ヶ丘キャンパス（別館）

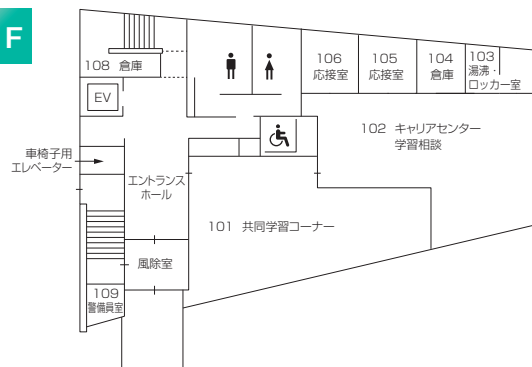
3F



2F

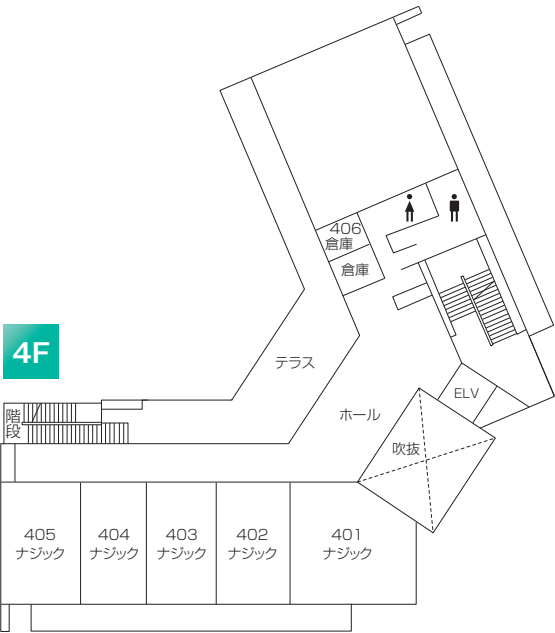


1F

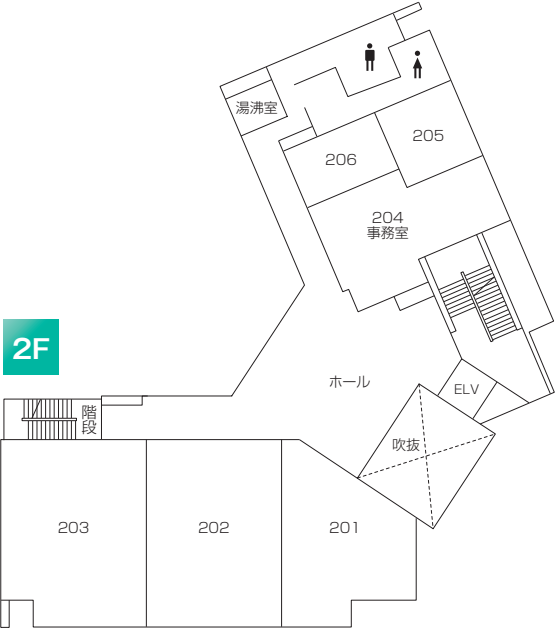


●●●●● 本山キャンパス ●●●●●

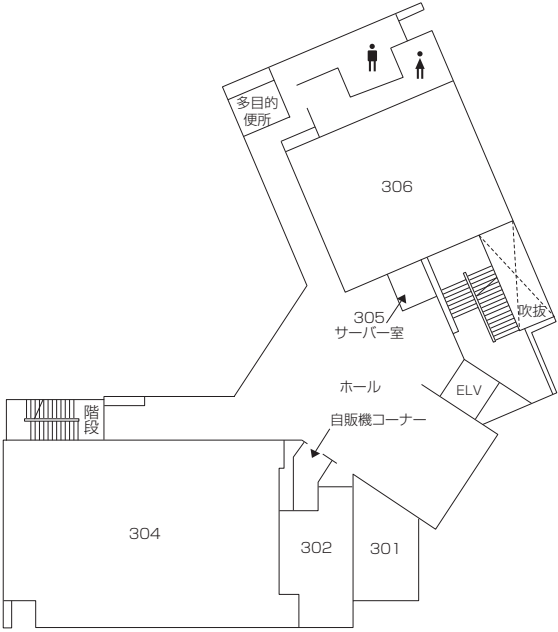
4F



2F



3F



1F



沿 革

大正元年 9 月	創 設
大正元年12月	名古屋電気学校
昭和24年 4 月	名古屋電気高等学校
昭和29年 4 月	名古屋電気短期大学開学
昭和34年 4 月	名古屋電気大学開学。電気工学科設置
昭和35年 4 月	愛知工業大学と改称。電子工学科、応用化学科を設置
昭和37年 4 月	機械工学科、経営工学科を設置
昭和38年 4 月	工学部第2部を開設し、電気工学科、機械工学科を設置
昭和39年12月	西加茂郡猿投町八草(現在の豊田市八草町)に校地購入。八千草台と命名し、大学移転拡充計画着手
昭和40年 4 月	工学部第1部に土木工学科設置
昭和40年 7 月	名古屋電気短期大学を愛知工業大学短期大学部と改称
昭和41年 4 月	大学院工学研究科修士課程を開設し、電気工学専攻、応用化学専攻を設置 工学部第1部の入学定員を220名から450名に改めた
昭和41年10月	八千草台に1号館(教養棟)、学生寮3号棟が竣工し、第1部1年次の授業を同校舎で実施
昭和42年 4 月	学生寮2号棟、本部棟竣工。第1部1年次、2年次の授業を八千草台において実施
昭和43年 4 月	工学部第1部に建築学科設置、工学部第1部の入学定員を450名から530名に改めた。八千草台に2号館(土木工学科、建築学科棟)、本部棟、学寮1号棟・寮食堂が竣工。1、2年次生のほか経営工学科、土木工学科を移転
昭和44年 7 月	八千草台に3号館(応用化学棟)竣工、応用化学科を移転
昭和45年 7 月	八千草台に4号館(経営工学科棟)竣工
昭和47年 3 月	八千草台に5号館(電気工学、電子工学棟)竣工、両学科を移転
昭和47年10月	第二食堂竣工
昭和48年 3 月	八千草台に1号館(教養棟)別館、6号館(機械工学科棟)、機械実習工場が竣工。機械工学科を移転
昭和48年 4 月	大学院工学研究科修士課程に土木工学専攻を設置 専攻科に経営工学専攻を設置 工学部1部の入学定員を530名から560名に変更
昭和49年 4 月	八千草台に第2部電気工学科、機械工学科を移転、4号館(経営工学科棟)別館竣工
昭和50年 4 月	工学部第1部の入学定員を560名から640名に変更
昭和51年 4 月	大学院工学研究科修士課程に機械工学専攻および建築学専攻を設置。工学部第1部に建築工学科を設置 工学部第1部の入学定員を640名から960名に変更
昭和52年 1 月	鉦徳館(講堂兼体育館)竣工
昭和53年 4 月	7号館(土木・建築・建築工学科棟)竣工
5 月	計算センター竣工
8 月	第2本部棟竣工 愛知工業大学短期大学部廃止
昭和56年 3 月	3号館(応用化学棟)増築
9 月	計算センター増築
10月	国際交流センター開設
12月	第2本部棟増築
昭和58年 4 月	愛和会館竣工
昭和61年11月	総合運動場完成
昭和62年 1 月	8号館(情報通信工学科棟)竣工
昭和63年 3 月	9号館(教養棟新館)竣工
4 月	工学部第1部に情報通信工学科を増設 工学部第1部の入学定員を960名から1,000名に変更
平成2年 4 月	工学部第1部の入学定員を平成2年度から平成10年度の間、1,140名に変更
平成3年 4 月	工学部第1部の入学定員を平成3年度から平成10年度の間、1,220名に変更 工学部第2部の入学定員を平成3年度から平成11年度の間、120名に変更
平成4年 4 月	大学院工学研究科博士課程(後期3年)電気・材料工学専攻、生産・建設工学専攻を設置 大学院工学研究科修士課程5専攻を電気電子工学専攻、材料化学専攻、生産システム工学専攻、建設システム工学専攻の4専攻に改組 工学専攻科(経営工学専攻)を廃止 総合技術研究所を竣工、開所

平成7年3月	10号館(基礎教育系)竣工
平成8年3月	大講義室(基礎教育系)竣工
平成10年4月	工学部第1部に昼夜開講制を導入し、第2部を募集停止 情報教育センター竣工
平成11年3月	耐震実験センター竣工、開所
平成12年3月	11号館(経営情報科学部棟)竣工
4月	経営情報科学部を設置し、経営情報学科、マーケティング情報学科を開設 工学部経営工学科を募集停止
7月	エクステンションセンター開設
平成13年4月	A I Tプラザ竣工
平成15年4月	12号館竣工 工学部第1部を工学部に改称
平成16年4月	工学部8学科を電気学科(電気工学専攻・電子工学専攻・情報通信工学専攻)、応用化学科(応用化学専攻)、機械学科(機械工学専攻・知能機械工学専攻)、都市環境学科(土木工学専攻・建築学専攻・建築環境学専攻)の4学科9専攻に改組、また経営情報科学部2学科を情報科学科(経営情報システム専攻・コンピュータシステム専攻)、マーケティング情報学科(マーケティング情報専攻)の2学科3専攻に改組
平成17年4月	大学院に経営情報科学研究科博士前期課程(経営情報科学専攻・入学定員15名)、博士後期課程(経営情報科学専攻・入学定員3名)開設 大学院工学研究科修士課程を博士前期課程、博士課程(後期3年)を博士後期課程に改称 名古屋市千種区に本山キャンパス竣工 地域防災研究センター竣工、開所 13号館(工学部、経営情報科学部共通棟)竣工
平成17年7月	八千草寮南館竣工
平成18年4月	大学院工学研究科「生産システム工学専攻」を「機械工学専攻」に改称
平成19年2月	新本部棟竣工、法人本部を若水から八草キャンパスへ移転
平成19年3月	エコ電力研究センター開所
平成19年4月	工学部、経営情報科学部昼夜開講制を廃止
平成20年4月	工学部都市環境学科(建築学専攻、建築環境学専攻)を工学部都市環境学科(建築学専攻・建築コース、住居デザインコース)に改組。また、経営情報科学部情報科学科(経営情報システム専攻、コンピュータシステム専攻)、マーケティング情報学科(マーケティング情報専攻)を情報科学科(コンピュータシステム専攻、メディア情報専攻)、経営学科(経営情報専攻、マーケティング専攻、スポーツマネジメント専攻)に改組
平成21年4月	工学部4学科9専攻を電気学科(電気工学専攻、電子情報工学専攻)、応用化学科(応用化学専攻、バイオ環境化学専攻)、機械学科(機械工学専攻、機械創造工学専攻)、都市環境学科(土木工学専攻)、建築学科(建築学専攻、住居デザイン専攻)の5学科9専攻に改組 また、経営情報科学部2学科5専攻を経営学部経営学科(経営情報システム専攻、ビジネスマネジメント専攻、スポーツマネジメント専攻)、情報科学部情報科学科(コンピュータシステム専攻、メディア情報専攻)の2学部2学科5専攻に改組
平成22年4月	名古屋市千種区に自由ヶ丘キャンパス竣工 経営情報科学部情報科学科(経営情報システム専攻)・マーケティング情報学科(マーケティング情報専攻)、経営情報科学部経営学科(経営情報専攻、マーケティング専攻)、経営学部経営学科(経営情報システム専攻、ビジネスマネジメント専攻)の授業を自由ヶ丘キャンパスで開始
平成22年9月	新1号館竣工
平成25年4月	経営学部経営学科(ビジネスマネジメント専攻)を募集停止
平成27年3月	新2号館竣工
平成27年4月	工学部都市環境学科(土木工学専攻)を工学部土木工学科(土木工学専攻、防災土木工学専攻)に改組
平成28年5月	セントラルテラス竣工
平成29年9月	応用化学科バイオ環境化学実験棟竣工
平成30年9月	自由ヶ丘キャンパス別館竣工
令和2年3月	新警備室竣工
令和4年9月	エコ電力研究センター竣工
令和6年1月	14号館竣工
令和6年4月	工学部土木工学科(土木工学専攻・防災土木工学専攻)を社会基盤学科(土木工学専攻・都市デザイン専攻)に名称変更

愛知工業大学学歌

久徳高文 作詞

渡辺宙明 作曲

Moderato

mf



み ず - わ - か - の お か の - ほ と - り し

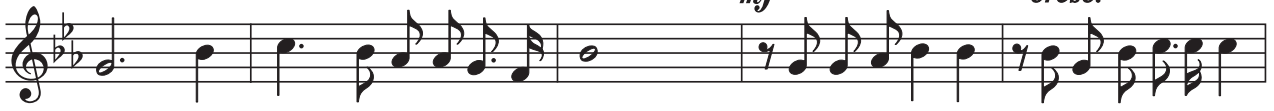
mp



た - い よ - る ま な び の ま ど べ ま ゆ も た か

mf

cresc.



く ひ と み を は な て ば く に は ら の と お き ゆ く て

f



さ や か な る り そ う は か か る あ あ そ ら よ そ ら よ ひ か れ



わ れ ら か け ら む

3

清らなる知恵の泉
くめど尽きぬ深さに溢れ
燃ゆる心静かに涵して
たゆむなきあしたゆうべ
仰ぎ望む真理はきびし
あゝ道よ道よ徹れ
われら進まむ

2

八千草の生命の花
底ごもる力にひらき
友のなさけ豊に薫れり
たづさへて競うここに
あたらしき文化は興る
あゝ風よ風よ騰れ
われら沐みむ

1

瑞若の丘のほとり
慕ひ寄る学びの窓べ
眉も高く瞳を放てば
国原の遠きゆくて
さやかなる理想はかかる
あゝ空よ空よ光れ
われら翔らむ

2025年度行事予定

	月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5	6
4月	7 オリエンテーション	8 オリエンテーション 履修申告開始	9 オリエンテーション	10 ①	11 ①	12	13
	14 ①	15 ①	16 ①履修申告終了	17 ②	18 ②	19	20
	21 ②	22 ②	23 ②	24 ③	25 ③	26	27
	28 ③	29 ③授業実施(昭和の日)	30 ③	1 臨時休業日	2 臨時休業日	3 憲法記念日	4 みどりの日
5月	5 こどもの日	6 振替休日	7 ④	8 ④	9 ④	10	11
	12 ④	13 ④	14 ⑤履修取消開始	15 ⑤	16 ⑤	17	18
	19 ⑤	20 ⑤履修取消終了	21 ⑥	22 ⑥	23 ⑥	24	25
	26 ⑥	27 ⑥	28 ⑦	29 ⑦	30 ⑦	31	1
6月	2 ⑦	3 ⑦	4 ⑧	5 ⑧	6 ⑧	7	8
	9 ⑧	10 ⑧	11 ⑨	12 ⑨	13 ⑨	14	15
	16 ⑨	17 ⑨	18 ⑩	19 ⑩	20 ⑩	21	22
	23 ⑩	24 ⑩	25 ⑪	26 ⑪	27 ⑪	28	29
	30 ⑪	1 ⑪	2 ⑫	3 ⑫	4 ⑫	5	6
7月	7 ⑫	8 ⑫	9 ⑬期末試験時間割 発表	10 ⑬	11 ⑬	12 オープンキャンパス	13 オープンキャンパス
	14 ⑬	15 ⑬	16 ⑭	17 ⑭	18 ⑭	19	20
	21 ⑭授業実施(海の日)	22 ⑭	23 ⑮	24 ⑮	25 ⑮	26	27
	28 ⑮	29 ⑮	30 期末試験	31 期末試験	1 期末試験	2	3
8月	4 期末試験	5 期末試験	6	7	8	9	10
	11 山の日	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22 成績発表・発送 成績説明申請開始	23	24
	25 成績説明申請終了	26	27	28	29	30	31
9月	1	2	3	4	5 卒業判定通知発送	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15 敬老の日	16	17	18 在学生オリエンテーション 履修申告開始	19 秋季卒業式 大学院秋季入学式	20	21
	22 ①	23 秋分の日	24 ①	25 ①	26 ①	27	28
	29 ②	30 ①履修申告終了	1 ②	2 ②	3 ②	4	5
10月	6 ③	7 ②	8 ③	9 大学祭	10 大学祭	11 大学祭	12 大学祭
	13 スポーツの日	14 ③	15 ④	16 ③	17 ③	18	19
	20 ④	21 ④	22 ⑤履修取消開始	23 ④	24 ④	25	26
	27 ⑤	28 ⑤履修取消終了	29 ⑥	30 ⑤	31 駅伝大会	1	2
11月	3 ⑥授業実施(文化の日)	4 ⑥	5 ⑦	6 ⑥	7 ⑤	8	9
	10 ⑦	11 ⑦	12 ⑧	13 創立記念日	14 ⑥	15	16
	17 ⑧	18 ⑧	19 ⑨	20 ⑦	21 ⑦	22	23 勤労感謝の日
	24 ⑨授業実施(振替休日)	25 ⑨	26 ⑩防災訓練	27 ⑧	28 ⑧	29	30
12月	1 ⑩	2 ⑩	3 ⑪	4 ⑨	5 ⑨	6	7
	8 ⑪	9 ⑪	10 ⑫	11 ⑩	12 ⑩	13	14
	15 ⑫	16 ⑫	17 ⑬	18 ⑪	19 ⑪	20	21
	22 ⑬	23 ⑬	24 ⑭	25 ⑫	26	27	28
	29	30	31	1 元日	2	3	4
1月	5	6	7	8 ⑬期末試験時間割 発表	9 ⑫	10	11
	12 成人の日	13 ⑭	14 ⑮	15 ⑭	16 ⑬	17 大学入学共通テスト	18 大学入学共通テスト
	19 ⑭	20 ⑮	21 臨時休業日(名電入試)	22 ⑮	23 ⑭	24	25
	26 入試準備(仮)	27 入試(仮)	28 入試(仮)	29 入試(仮)	30 ⑮	31	1
2月	2 ⑮	3 期末試験	4 期末試験	5 期末試験	6 期末試験	7	8
	9 期末試験	10	11 建国記念の日	12	13	14	15
	16	17	18 成績発表 成績説明申請開始	19 成績説明申請終了	20	21	22
	23 天皇誕生日	24	25	26	27	28	1
3月	2	3	4	5	6 卒業判定通知発送	7	8
	9	10	11 進級判定通知発送	12	13	14	15
	16	17	18	19	20 春分の日	21	22
	23 卒業式	24	25	26	27	28	29
	30	31	1	2	3	4	5

※①～⑮は授業回数

※名電入試によって後期日程は変更される可能性があります。

2025 学 生 便 覧

発行 愛知工業大学 教学センター
学生サービスグループ

〒470-0392 豊田市八草町八千草1247
TEL0565-48-8121(代表)

